

「持続可能な観光地づくり推進事業 住民満足度調査」

調査分析報告書
(単純集計・クロス集計)

令和8年2月

HOKKAIDO TOURISM ORGANIZATION

北海道観光機構

1. 属性集計
2. 単純集計結果
3. クロス集計分析
4. 地域の現状
5. 他の調査データとの比較検証
6. 自由筆記の共通性（共起ネットワーク）
7. 多変量解析

事業の目的：

本道における観光地の魅力向上と観光客の再訪促進を実現するためには、地域全体として観光客を前向きに受け入れる意識やおもてなしの醸成が不可欠である。その基盤として、観光業が地域住民、観光業に従事する従業員、ならびに事業者にとって持続的な恩恵をもたらす産業として成立しているかを把握する必要がある。

本調査では、来訪者を対象とした従来統計・満足度調査に加え、地域住民の意識を把握する「住民満足度調査」、観光業に携わる現場視点を捉える「従業員満足度調査」、経営の観点から現状と課題を把握する「経営者満足度調査」を実施し、観光業の持続可能性と地域との関係性を多角的に明らかにすることを目的とする。

昨年度までと同様に、3種類の満足度を基に総合満足度を算出するとともに、「消費者の旅行行動や価値観」、「観光地・施設との距離」、「観光産業との関わり」、「地域の観光への評価」などを聞いた他の設問とのクロス集計により要因の抽出を行った。

測定後は、広大な領域を有し、地域ごとに産業構造の異なる本道において、以下の視点でエリア分析を行った。

- ①エリア毎、居住地自体の人口規模毎の「満足度の差異」と要因の抽出
- ②人口減少と「満足度」の関係の抽出
- ③地域における「観光産業」の比重と「満足度」の関係の抽出
(居住地の1人あたり観光入込客数、宿泊・飲食サービス業従業者比率)

また、オーバーツーリズム等が満足度に与える影響を抽出するため、京都府で同様の調査を行い、比較データとした。

あわせて、観光業に従事する「経営者」および「従業員」にしても、現状の課題や将来に関する展望などを可視化することを目指す。

事業名：持続可能な観光地づくり推進事業 住民満足度調査

調査機関：北海道新聞社営業局

調査内容：① 消費者属性

② 満足度算出に関する基準設問

③ 満足度に影響を及ぼす「要因」抽出のための各種設問

※設問表は別添

実査期間：令和7年11月14日（金）～ 令和7年11月28日（金）

実査方式：Webアンケート調査

集客対象：北海道内在住の20代以上および比較データとしての京都府内消費者、

集客対策：北海道の地域産品を賞品としたアンケートキャンペーン等の実施

集客手法：＜道内 消費者＞

集客実績 (A) 道新メールマガジン会員（約24万人）への一斉メール送信 サンプル数 6,003人（重複・エラー回答削除後）

(B) 楽天インサイト社パネルへのアンケート調査 サンプル数 1,000人

＜京都府内 消費者＞

(C) 楽天インサイト社パネルへのアンケート調査 サンプル数 550人

周辺調査：以下、オープンデータから取得

(ア) 直近25年の人口増減率（令和2年度 国勢調査を基準とした）

(イ) 市町村別の宿泊施設・飲食業事業所での就業者数

統計手法：道内調査は道新メールマガジン会員・楽天インサイト合計7,003人（重複回答削除後）の回答データを、ウェイトバック集計を用いて振興局単位で年齢・性別が人口比に準拠した3,000人の母集団に調整し、分析対象とした。

令和7年1月の住民基本台帳年齢階級別人口（外国人を除く）の20歳以上を基準とし、20歳以上の人口4,316,504人に対し、信頼水準95%、許容誤差5%で必要とされるサンプル数は384サンプル。

本調査における3,000人のサンプル数はそれを超える。

分析手法：単純集計・クロス集計分析・AI解析（クラスター分析・要因分析）

■ウェイトバック集計とは

調査において重要な属性の割合を調査対象の母集団に合わせるための手法。回答率が調査の質に影響を与えるアンケート集計で主に用いられる。

【例】男性100人、女性200人の集団に対してアンケート調査を実施したが、何らかの理由で回答者は男性60人、女性40人であった。
調査結果では、本来33%である男性の回答が60%と過半数を占める一方、本来67%存在する女性の回答が40%と少なくなっているため、このままでは結果の解釈が難しい。

【ウェイトバック作業】

女性の回答者数に2を掛けて（男性60、女性120）ウェイトバックし、本来の割合（男性33%：女性67%）に戻す。
それに加えて、n数を全体の母数（男性100人＋女性200人＝300人）に戻すため、すべての回答者数に対して300/180を掛ける。

以上の作業により、アンケート結果の解釈を回答率の影響を加味せずに行うことが可能になる。

■本調査でウェイトバック集計を用いる理由

北海道観光に対する考え方や態度は居住地域（振興局）、性別、年代によって異なることが想定される。

一方、サンプルの取得状況は母集団（全道20歳以上人口【外国人を除く】）の分布に対し以下の偏りを残しているため、調査結果を母集団の分布に近づけることで、より正確な調査結果の解釈が可能になると考えられる。

- ・サンプルの振興局別割合は石狩振興局が56.69%となっており、母集団の割合（46.39%）より多い。
- ・サンプルの男女比（男性54.30%：女性45.70%）は、母集団の男女比（男性46.63%：女性53.37%）に対し男性がやや多い。
- ・サンプルの年代は50代（24.15%、母集団16.76%）、60代（34.16%、母集団15.65%）が母集団より多い一方、20代（3.57%、全道9.96%）などが少ない。

上記のような母集団との割合の差異をウェイトバックにより補正し、本調査のサンプル（n=3,000）の比率が全道の20歳以上日本人の振興局・年代・性別の人口割合と一致するようにする。（ウェイトバック結果を次のページに示す）

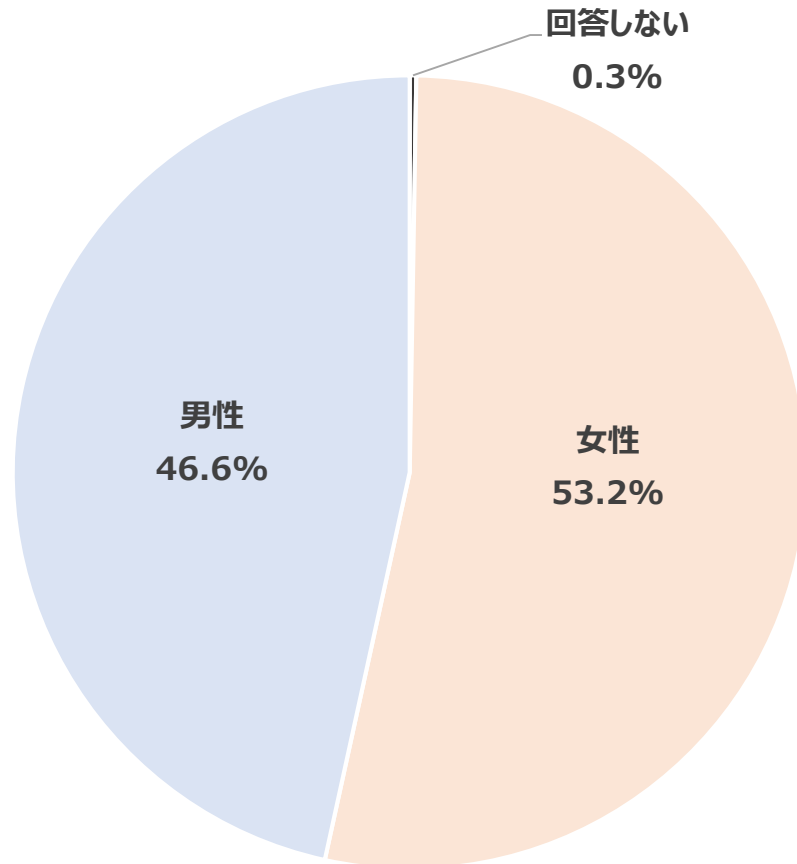
分析サンプル3,000件の内訳

3,000サンプル (ウェイトバック値)	20代			30代			40代			50代			60代			70代以上			ウェイトバック値		
	ウェイトバック値		住民基本台帳	ウェイトバック値		住民基本台帳	ウェイトバック値		住民基本台帳	ウェイトバック値		住民基本台帳	ウェイトバック値		住民基本台帳	ウェイトバック値		住民基本台帳	総計	構成比	住民基本台帳
	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比			
空知総合振興局	12	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	20	0.7%	0.7%	25	0.8%	0.8%	27	0.9%	0.9%	62	2.1%	2.0%	160	5.3%	5.3%
男性	6	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	10	0.3%	0.3%	12	0.4%	0.4%	13	0.4%	0.4%	25	0.8%	0.8%	74	2.5%	2.5%
女性	5	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	10	0.3%	0.3%	13	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	37	1.2%	1.2%	86	2.9%	2.8%
石狩振興局	160	5.3%	5.3%	178	5.9%	5.9%	228	7.6%	7.5%	250	8.3%	8.3%	212	7.1%	7.0%	384	12.8%	12.7%	1,412	47.1%	46.8%
男性	79	2.6%	2.6%	88	2.9%	2.9%	110	3.7%	3.7%	120	4.0%	4.0%	100	3.3%	3.3%	154	5.1%	5.1%	652	21.7%	21.7%
女性	80	2.7%	2.7%	91	3.0%	3.0%	116	3.9%	3.9%	129	4.3%	4.3%	111	3.7%	3.7%	227	7.6%	7.6%	755	25.2%	25.1%
後志総合振興局	9	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	15	0.5%	0.5%	19	0.6%	0.6%	18	0.6%	0.6%	42	1.4%	1.4%	113	3.8%	3.7%
男性	5	0.2%	0.2%	5	0.2%	0.2%	8	0.3%	0.3%	9	0.3%	0.3%	9	0.3%	0.3%	16	0.5%	0.5%	52	1.7%	1.7%
女性	4	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	9	0.3%	0.3%	9	0.3%	0.3%	26	0.9%	0.9%	61	2.0%	2.0%
胆振総合振興局	19	0.6%	0.6%	23	0.8%	0.8%	32	1.1%	1.1%	37	1.2%	1.2%	33	1.1%	1.1%	74	2.5%	2.4%	217	7.2%	7.2%
男性	11	0.4%	0.4%	12	0.4%	0.4%	16	0.5%	0.5%	18	0.6%	0.6%	16	0.5%	0.5%	30	1.0%	1.0%	103	3.4%	3.4%
女性	9	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	15	0.5%	0.5%	18	0.6%	0.6%	17	0.6%	0.6%	43	1.4%	1.4%	113	3.8%	3.8%
日高振興局	1	0.0%	0.1%	3	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	12	0.4%	0.4%	33	1.1%	1.2%
男性		0.0%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	15	0.5%	0.6%
女性	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	7	0.2%	0.2%	18	0.6%	0.6%
渡島総合振興局	17	0.6%	0.6%	21	0.7%	0.7%	31	1.0%	1.0%	37	1.2%	1.2%	36	1.2%	1.2%	76	2.5%	2.5%	218	7.3%	7.2%
男性	9	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	15	0.5%	0.5%	18	0.6%	0.6%	16	0.5%	0.5%	30	1.0%	1.0%	99	3.3%	3.3%
女性	8	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	15	0.5%	0.5%	19	0.6%	0.6%	19	0.6%	0.6%	46	1.5%	1.5%	119	4.0%	3.9%
檜山振興局	1	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	8	0.3%	0.3%	17	0.6%	0.6%
男性		0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	8	0.3%	0.3%
女性	1	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	9	0.3%	0.3%
上川総合振興局	24	0.8%	0.8%	28	0.9%	0.9%	40	1.3%	1.3%	46	1.5%	1.5%	43	1.4%	1.4%	94	3.1%	3.1%	275	9.2%	9.1%
男性	12	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	20	0.7%	0.7%	22	0.7%	0.7%	20	0.7%	0.7%	38	1.3%	1.3%	127	4.2%	4.2%
女性	12	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	20	0.7%	0.7%	24	0.8%	0.8%	23	0.8%	0.8%	56	1.9%	1.9%	148	4.9%	4.9%
留萌振興局	1	0.0%	0.1%	1	0.0%	0.1%	3	0.1%	0.1%	4	0.1%	0.1%	4	0.1%	0.1%	9	0.3%	0.3%	22	0.7%	0.8%
男性		0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	4	0.1%	0.1%	10	0.3%	0.4%
女性	1	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	6	0.2%	0.2%	11	0.4%	0.4%
宗谷総合振興局	1	0.0%	0.1%	3	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	5	0.2%	0.4%	25	0.8%	1.1%
男性		0.0%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	15	0.5%	0.6%
女性	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%		0.0%	0.2%	10	0.3%	0.6%
オホーツク総合振興局	13	0.4%	0.4%	15	0.5%	0.5%	22	0.7%	0.7%	25	0.8%	0.8%	25	0.8%	0.8%	53	1.8%	1.8%	153	5.1%	5.1%
男性	8	0.3%	0.2%	8	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	13	0.4%	0.4%	12	0.4%	0.4%	22	0.7%	0.7%	73	2.4%	2.4%
女性	6	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	10	0.3%	0.3%	12	0.4%	0.4%	13	0.4%	0.4%	31	1.0%	1.0%	80	2.7%	2.7%
十勝総合振興局	18	0.6%	0.6%	22	0.7%	0.7%	28	0.9%	0.9%	32	1.1%	1.1%	30	1.0%	1.0%	59	2.0%	2.0%	190	6.3%	6.3%
男性	10	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	16	0.5%	0.5%	15	0.5%	0.5%	24	0.8%	0.8%	90	3.0%	3.0%
女性	9	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	14	0.5%	0.5%	16	0.5%	0.5%	15	0.5%	0.5%	35	1.2%	1.2%	100	3.3%	3.3%
釧路総合振興局	11	0.4%	0.4%	13	0.4%	0.4%	18	0.6%	0.6%	21	0.7%	0.7%	21	0.7%	0.7%	42	1.4%	1.4%	126	4.2%	4.2%
男性	6	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	9	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	17	0.6%	0.6%	59	2.0%	2.0%
女性	5	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	9	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	11	0.4%	0.4%	25	0.8%	0.8%	67	2.2%	2.2%
根室振興局	4	0.1%	0.1%	4	0.1%	0.1%	6	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	12	0.4%	0.4%	39	1.3%	1.3%
男性	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	19	0.6%	0.6%
女性	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	7	0.2%	0.2%	20	0.7%	0.7%
総計	291	9.7%	9.9%	337	11.2%	11.2%	454	15.1%	15.1%	517	17.2%	17.1%	470	15.7%	15.6%	932	31.1%	31.1%	3,000	100.0%	100.0%

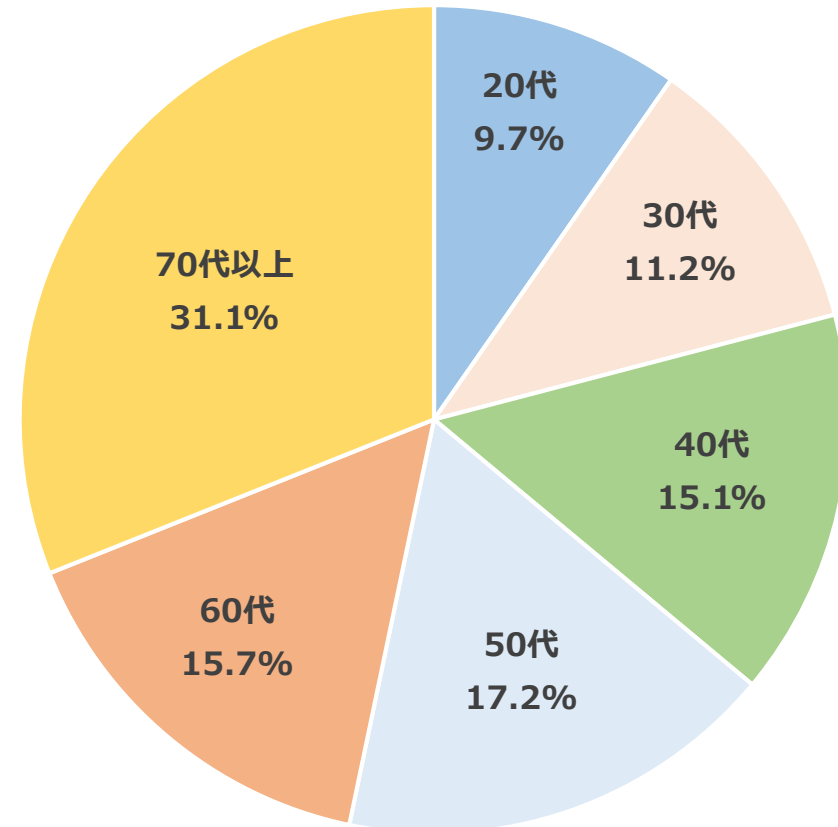
※ウェイトバック値は小数点以下を含むため、各項目の詳細は合計と一致しないことがある。
※各振興局の男女計には、それぞれ「性別：回答しない」を選択した回答者（ウェイトバック後総計11サンプル）のウェイトバック値を含む。

1 属性集計

性別



年代



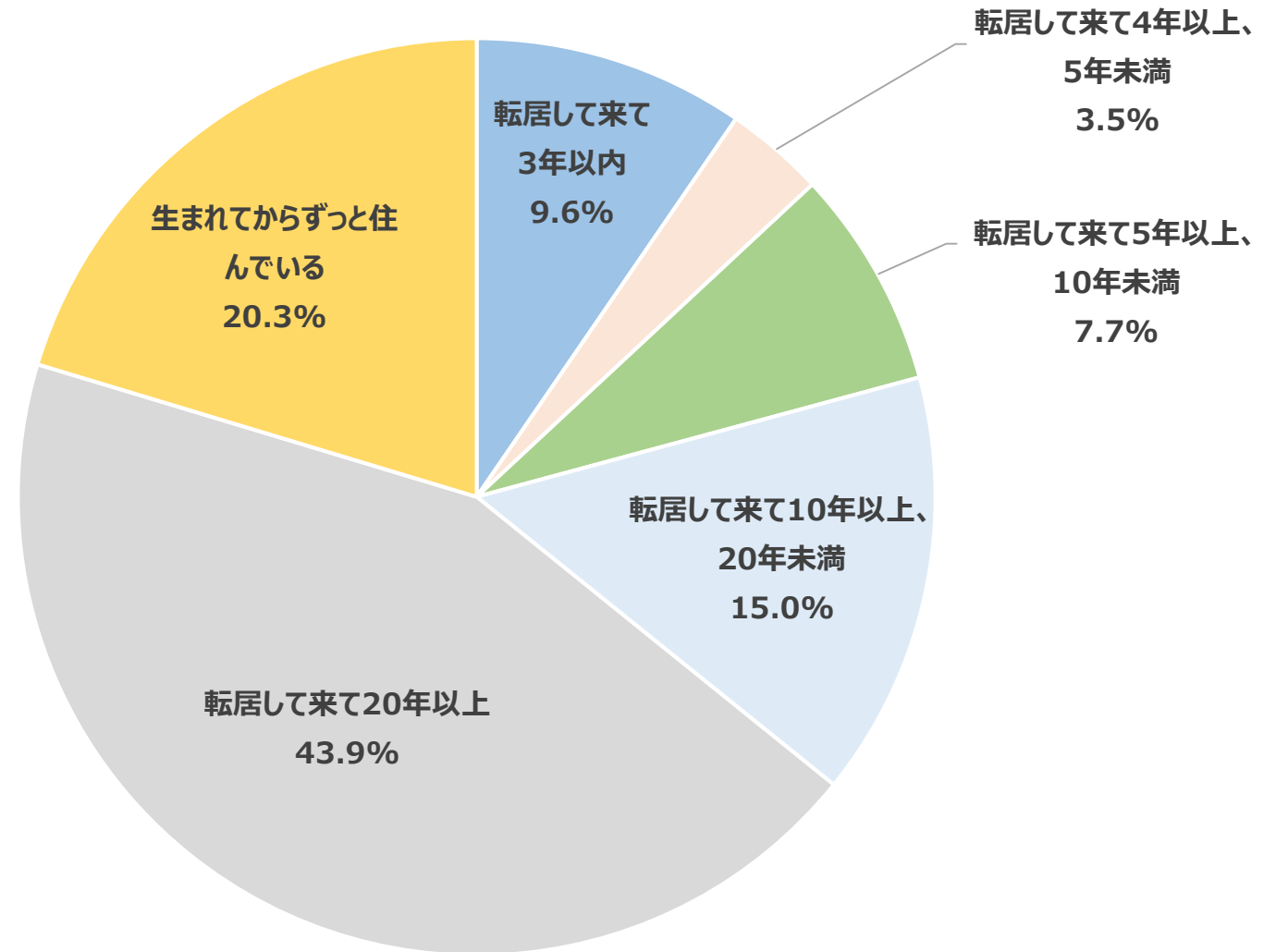
居住自治体

市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比
札幌市	1,210	40.3%	新ひだか町	14	0.5%	大空町	6	0.2%	当麻町	3	0.1%	浜頓別町	2	0.1%	新篠津村	1	0.0%	剣淵町	1	0.0%
旭川市	205	6.8%	深川市	13	0.4%	森町	6	0.2%	佐呂間町	3	0.1%	浜中町	2	0.1%	喜茂別町	1	0.0%	松前町	1	0.0%
函館市	162	5.4%	美唄市	13	0.4%	新得町	5	0.2%	夕張市	3	0.1%	鶴居村	2	0.1%	上砂川町	1	0.0%	苫前町	1	0.0%
釧路市	102	3.4%	砂川市	12	0.4%	足寄町	5	0.2%	長万部町	3	0.1%	羅臼町	2	0.1%	標津町	1	0.0%	福島町	1	0.0%
帯広市	99	3.3%	遠軽町	12	0.4%	南幌町	5	0.2%	中札内村	3	0.1%	増毛町	2	0.1%	豊浦町	1	0.0%	新十津川町	1	0.0%
苫小牧市	98	3.3%	富良野市	11	0.4%	枝幸町	5	0.2%	由仁町	3	0.1%	鹿部町	2	0.1%	小清水町	1	0.0%	厚沢部町	1	0.0%
小樽市	78	2.6%	白老町	11	0.4%	上富良野町	5	0.2%	豊頃町	3	0.1%	浦幌町	2	0.1%	美深町	1	0.0%	上ノ国町	1	0.0%
江別市	70	2.3%	稚内市	11	0.4%	留萌市	5	0.2%	池田町	3	0.1%	鹿追町	2	0.1%	安平町	1	0.0%	浦臼町	0	0.0%
北見市	68	2.3%	中標津町	11	0.4%	倶知安町	4	0.1%	今金町	3	0.1%	鷹栖町	2	0.1%	奈井江町	1	0.0%	利尻町	0	0.0%
岩見沢市	56	1.9%	釧路町	10	0.3%	羽幌町	4	0.1%	弟子屈町	2	0.1%	仁木町	2	0.1%	妹背牛町	1	0.0%	留寿都村	0	0.0%
室蘭市	51	1.7%	士別市	9	0.3%	東神楽町	4	0.1%	津別町	2	0.1%	西興部村	2	0.1%	月形町	1	0.0%	古平町	0	0.0%
北広島市	43	1.4%	芽室町	9	0.3%	浦河町	4	0.1%	様似町	2	0.1%	遠別町	2	0.1%	大樹町	1	0.0%	真狩村	0	0.0%
千歳市	41	1.4%	美幌町	8	0.3%	三笠市	4	0.1%	清里町	2	0.1%	厚真町	2	0.1%	木古内町	1	0.0%	雨竜町	0	0.0%
音更町	29	1.0%	日高町	8	0.3%	赤平市	4	0.1%	秩父別町	2	0.1%	泊村	2	0.1%	滝上町	1	0.0%	神恵内村	0	0.0%
恵庭市	27	0.9%	長沼町	8	0.3%	本別町	4	0.1%	厚岸町	2	0.1%	愛別町	2	0.1%	寿都町	1	0.0%	乙部町	0	0.0%
登別市	25	0.8%	紋別市	7	0.2%	湧別町	4	0.1%	豊富町	2	0.1%	共和町	2	0.1%	雄武町	1	0.0%	上士幌町	0	0.0%
伊達市	24	0.8%	岩内町	7	0.2%	清水町	4	0.1%	洞爺湖町	2	0.1%	天塩町	1	0.0%	訓子府町	1	0.0%	比布町	0	0.0%
北斗市	20	0.7%	八雲町	7	0.2%	美瑛町	3	0.1%	蘭越町	2	0.1%	中富良野町	1	0.0%	更別村	1	0.0%	中頓別町	0	0.0%
網走市	20	0.7%	初山別村	7	0.2%	芦別市	3	0.1%	白糠町	2	0.1%	幌延町	1	0.0%	積丹町	1	0.0%	沼田町	0	0.0%
石狩市	19	0.6%	別海町	6	0.2%	余市町	3	0.1%	平取町	2	0.1%	南富良野町	1	0.0%	新冠町	1	0.0%	歌志内市	0	0.0%
根室市	19	0.6%	斜里町	6	0.2%	黒松内町	3	0.1%	むかわ町	2	0.1%	下川町	1	0.0%	礼文町	1	0.0%	赤井川村	0	0.0%
幕別町	18	0.6%	東川町	6	0.2%	せたな町	3	0.1%	和寒町	2	0.1%	知内町	1	0.0%	広尾町	1	0.0%	総計	3,000	100.0%
滝川市	18	0.6%	奥尻町	6	0.2%	置戸町	3	0.1%	上川町	2	0.1%	興部町	1	0.0%	二セコ町	1	0.0%			
名寄市	15	0.5%	栗山町	6	0.2%	江差町	3	0.1%	京極町	2	0.1%	猿払村	1	0.0%	島牧村	1	0.0%			
七飯町	15	0.5%	当別町	6	0.2%	標茶町	3	0.1%	北竜町	2	0.1%	士幌町	1	0.0%	陸別町	1	0.0%			

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

お住いの自治体での居住期間

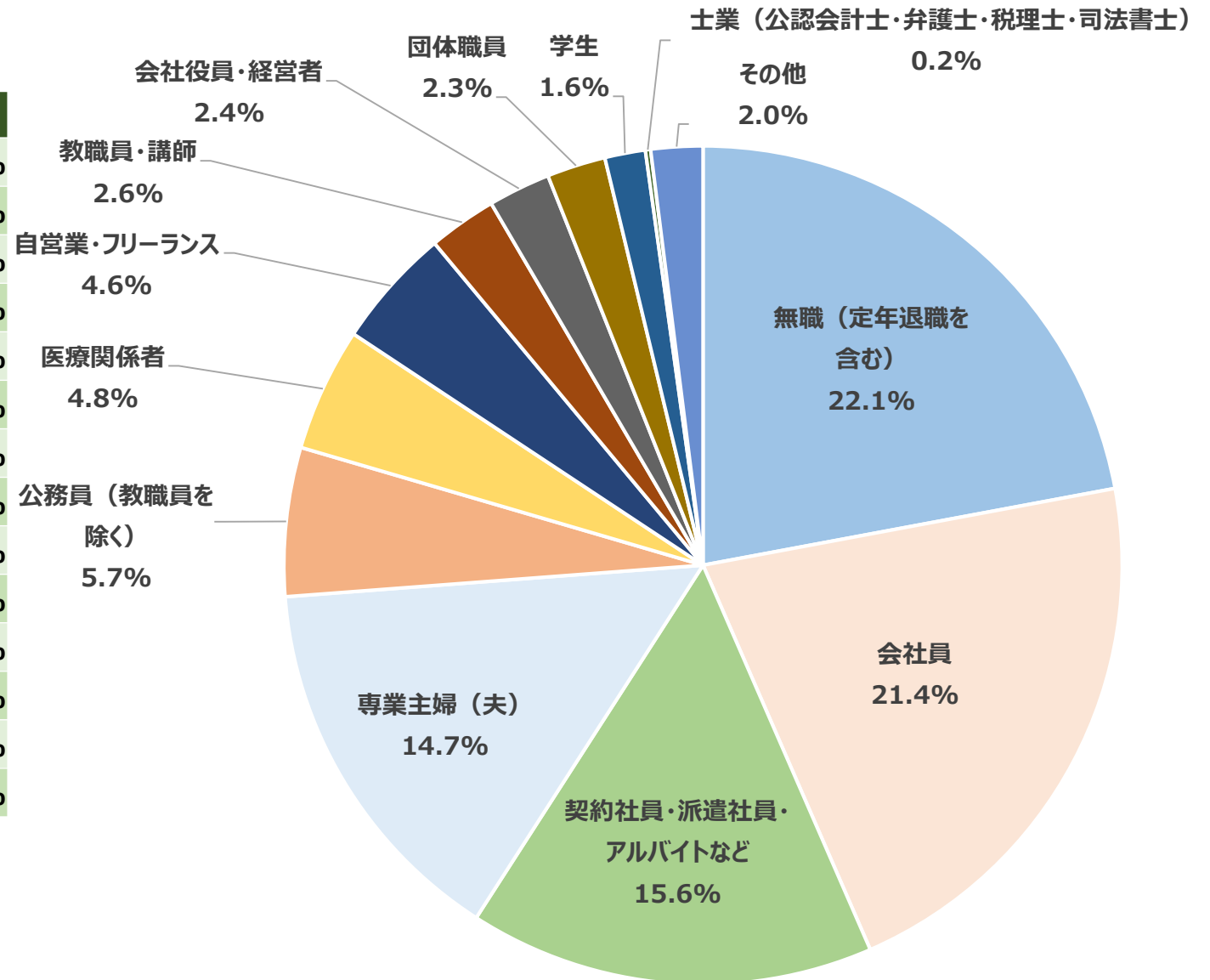
	人数	構成比
転居して来て3年以内	287	9.6%
転居して来て4年以上、5年未満	105	3.5%
転居して来て5年以上、10年未満	232	7.7%
転居して来て10年以上、20年未満	450	15.0%
転居して来て20年以上	1,316	43.9%
生まれてからずっと住んでいる	610	20.3%
総計	3,000	100.0%



※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

職種

	人数	構成比
無職（定年退職を含む）	662	22.1%
会社員	642	21.4%
契約社員・派遣社員・アルバイトなど	469	15.6%
専業主婦（夫）	441	14.7%
公務員（教職員を除く）	172	5.7%
医療関係者	143	4.8%
自営業・フリーランス	139	4.6%
教職員・講師	79	2.6%
会社役員・経営者	72	2.4%
団体職員	68	2.3%
学生	47	1.6%
士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士）	6	0.2%
その他	60	2.0%
総計	3,000	100.0%



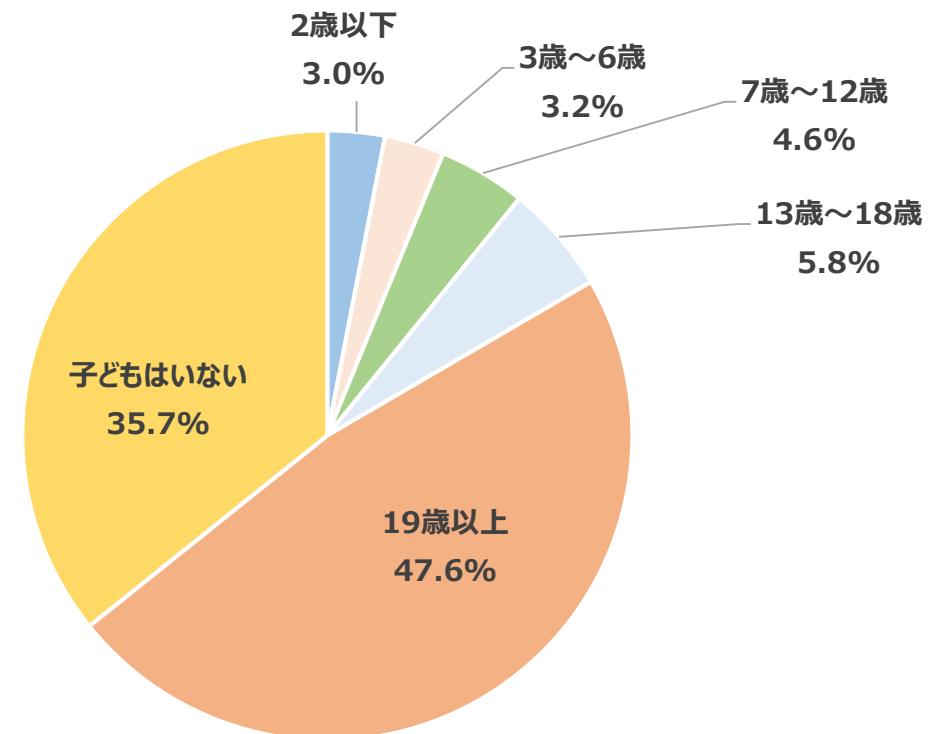
※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

業種

	人数	構成比
医療・福祉業	351	11.7%
公務	205	6.8%
卸売業・小売業	198	6.6%
教育・学習支援業	163	5.4%
製造業	131	4.4%
建設業（土木・工事業を含む）	115	3.8%
運輸業・郵便業	95	3.2%
宿泊業・飲食サービス業	82	2.7%
金融業・保険業	79	2.6%
情報通信業	73	2.4%
農業・林業	65	2.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	42	1.4%
不動産業・物品賃貸業	37	1.2%
複合サービス事業	35	1.2%
学術研究・専門技術サービス業	31	1.0%
漁業（水産養殖業を含む）	16	0.5%
鉱業（採石業、砂利採取業を含む）	2	0.1%
無回答	133	4.4%
その他	1,148	38.3%
総計	3,000	100.0%

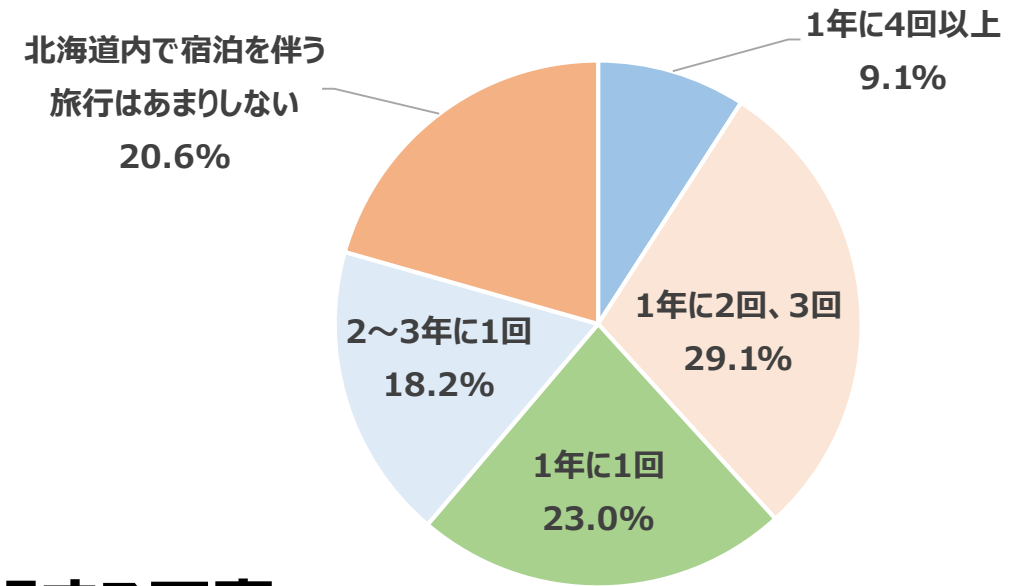
末子の年齢

	人数	構成比
2歳以下	91	3.0%
3歳～6歳	93	3.1%
7歳～12歳	143	4.8%
13歳～18歳	177	5.9%
19歳以上	1,384	46.1%
子どもはいない	1,111	37.0%
総計	3,000	100.0%

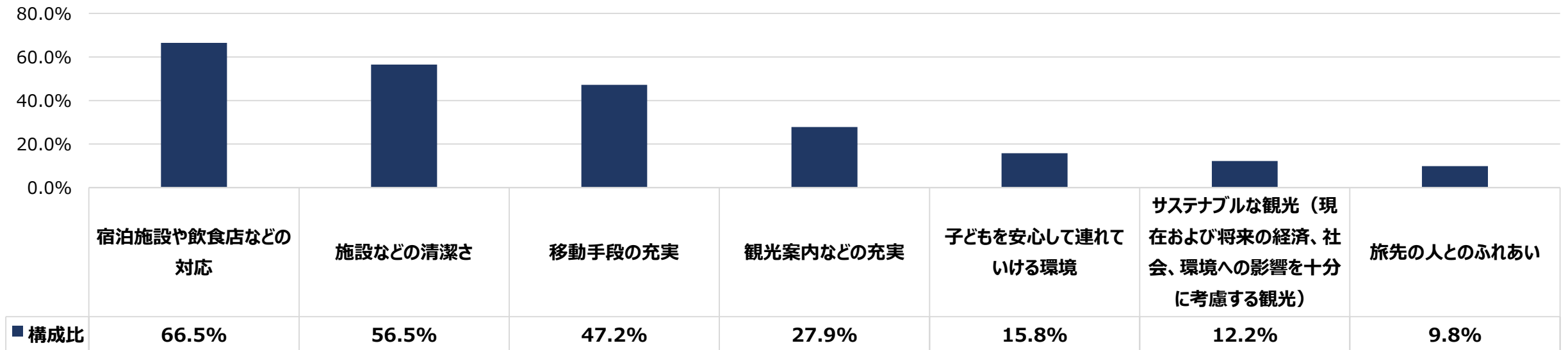


北海道内での宿泊を伴う旅行に行く頻度

	人数	構成比
1年に4回以上	274	9.1%
1年に2回、3回	874	29.1%
1年に1回	689	23.0%
2～3年に1回	546	18.2%
北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない	618	20.6%
総計	3,000	100.0%



旅先で重要視する要素



※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

1-2 総合満足度の算出

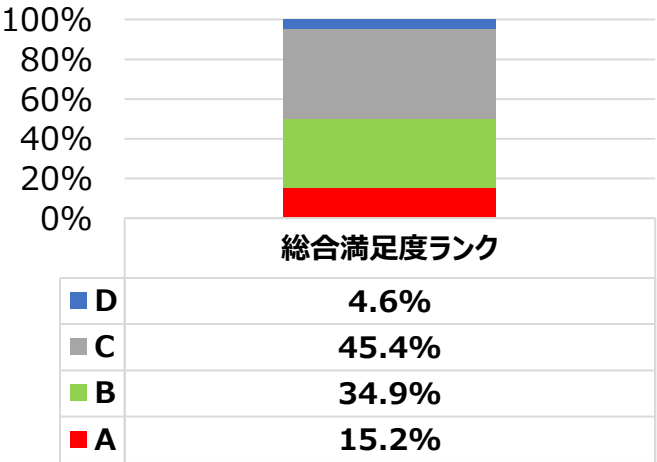
満足度	点数配分	設問	選択肢	回答比率	回答数	採点	最高得点	最低得点
居住地満足度	100	13. お住まいの地域に、愛着や誇りを感じますか（単一回答）	とても感じる	25.0%	751	100	100	-100
			感じる	46.4%	1,391	50		
			どちらともいえない	21.4%	643	0		
			あまり感じない	4.8%	144	-50		
			感じない	2.4%	71	-100		
社会的満足度	100	18. 親類・友人・知人などに、お住まいの地域の観光をお薦めしたいですか（単一回答）	とてもお薦めしたい	13.2%	397	50	50	-50
			お薦めしたい	45.3%	1,359	25		
			どちらともいえない	22.1%	663	0		
			あまりお薦めしたくない	15.0%	450	-25		
			お薦めしたくない	4.4%	131	-50		
	50	20. 観光客と関わりを持ちたいと思いますか（単一回答）	観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい	2.9%	86	50	50	-50
			困っていそうなときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい	24.1%	724	25		
			自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい	57.9%	1,736	-25		
経済的満足度	100	22. お住まいの府県や市町村への観光客来訪があなた自身にもたらす影響について、あてはまるものをすべてお選びください。（いくつでも）	観光客の来店で売上が増加して、給与などへの好影響があった	3.0%	89	5	25	-25
			新規出店が増加するなど、買い物環境が向上した	4.9%	147	5		
			街並みが美しくなる、まちに活気が出るなど、生活環境が向上した	9.0%	269	5		
			観光客と接することで、交流が促進されて、交友関係が広がった	3.9%	118	5		
			公共交通機関や施設が充実して、利便性が向上した	4.5%	134	5		
			観光地・施設などやその周辺地域が混雑して、迷惑を感じた	16.6%	497	-5		
			公共交通機関が混雑して、迷惑を感じた	17.5%	525	-5		
			道路が渋滞して、迷惑を感じた	12.1%	362	-5		
			宿泊施設が近隣にできて、良くない影響（騒音・ゴミ・車両の出入りなど）によって、迷惑を感じた	4.5%	135	-5		
			観光客のマナー違反（ゴミのポイ捨て・食べ歩き・道に広がっての歩行など）によって、迷惑を感じた	22.0%	660	-5		
			該当するものはない	48.8%	1,464	0		
			その他	1.5%	45	0		
		23. あなたが考える「観光が地域にもたらす影響」について、あてはまるものをすべてお選びください。（いくつでも）	観光客が買い物、宿泊することで地域経済が活性化して、雇用が促進される	53.2%	1,596	5	25	-25
			公共交通機関の利用が増加して、列車・バスの本数の維持や増便につながる	22.3%	668	5		
			税収が増加して、行政サービスの向上に役立つ	27.5%	826	5		
			地域の文化や伝統、自然景観の情報が広く発信されて、その保全や維持につながる	20.7%	622	5		
			観光客が訪れることで、地域が活性化する	46.8%	1,403	5		
			観光地・施設などやその周辺地域が混雑して、迷惑を感じる人がある	27.4%	821	-5		
			公共交通機関が混雑して、迷惑を感じる人がある	25.7%	772	-5		
			道路が渋滞して、迷惑を感じる人がある	20.1%	602	-5		
			宿泊施設が近隣にできて、良くない影響（騒音・ゴミ・車両の出入りなど）によって、迷惑を感じる人がある	15.6%	468	-5		
			観光客のマナー違反（ゴミのポイ捨て・食べ歩き・道に広がっての歩行など）によって、迷惑を感じる人がある	36.6%	1,098	-5		
			該当するものはない	10.9%	326	0		
			その他	1.3%	38	0		
	50	24. 地域の経済発展に、観光が重要な役割を果たしていると思いますか。	とても思う	21.7%	651	50	50	-50
			思う	51.0%	1,529	25		
			どちらともいえない	19.5%	586	0		
			あまり思わない	5.1%	152	-25		
			思わない	2.7%	82	-50		

回答者毎に、左記の基準設問に対し、回答内容から採点を行った上で、各満足度ごとに回答者全体からの「偏差値」を算出した。

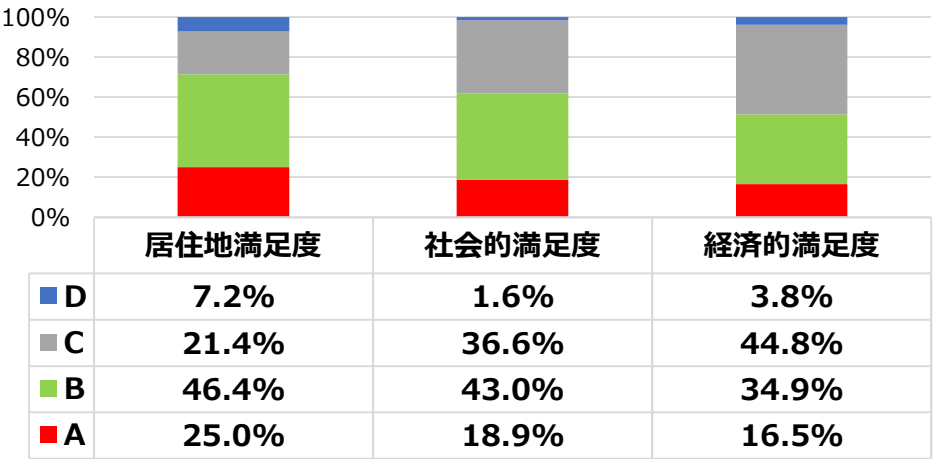
総合満足度の算出は全ての基準設問への回答の積算値から偏差値を算出した。

※上記「回答数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。

総合満足度構成比



各満足度毎の構成比



	A		B		C		D	
	偏差値60以上		偏差値50以上60未満		偏差値30以上50未満		偏差値30未満	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
居住地満足度	751	25.0%	1,391	46.4%	643	21.4%	215	7.2%
社会的満足度	566	18.9%	1,289	43.0%	1,099	36.6%	47	1.6%
経済的満足度	496	16.5%	1,046	34.9%	1,345	44.8%	113	3.8%
総合満足度	455	15.2%	1,046	34.9%	1,361	45.4%	138	4.6%

算出した偏差値から、各満足度ごとに以下A～Dの4ランクへの分類を行い、分析の指標とした。

- ◎ランクA 偏差値60以上
- ◎ランクB 偏差値50以上、60未満
- ◎ランクC 偏差値30以上、50未満
- ◎ランクD 偏差値30未満

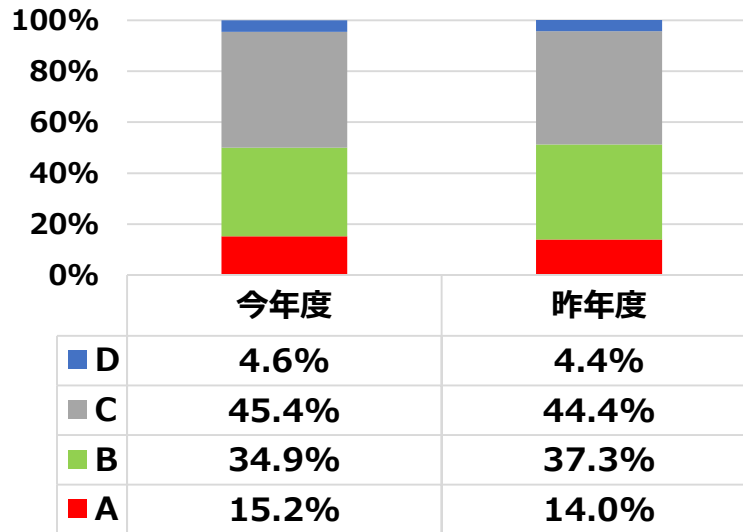
本道における課題が「社会的満足度」にあることが分かる。

(※別項にて、各満足度について「京都府」データとの差異比較、および差異の抽出を行った)

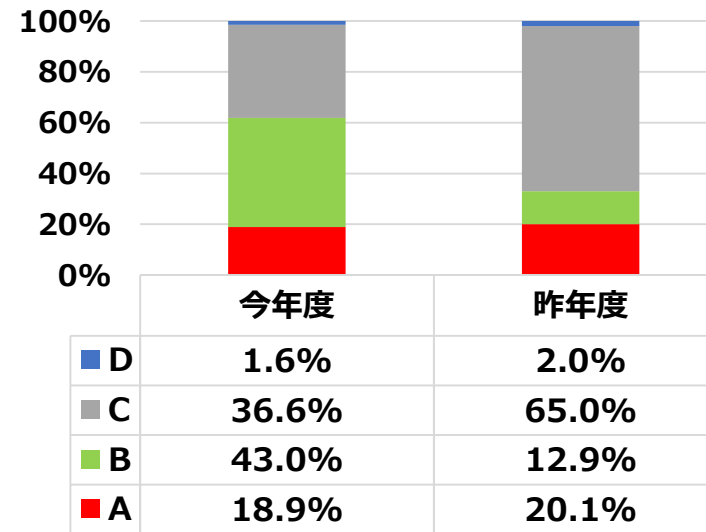
※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。

1-3 北海道における総合満足度 2/2

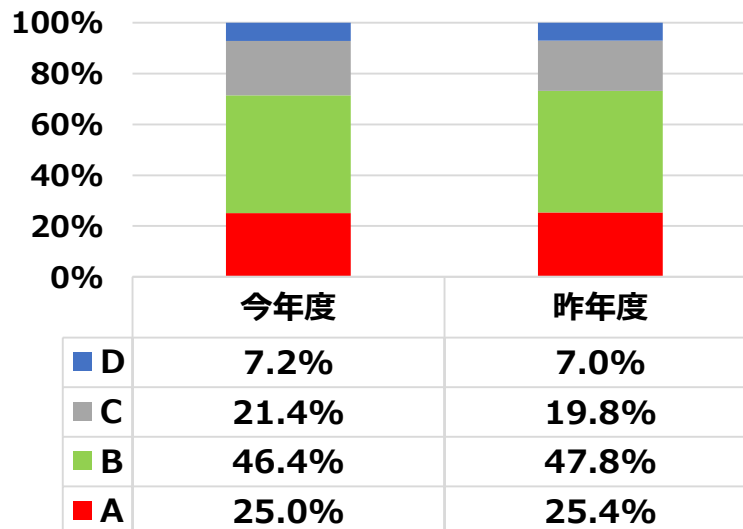
総合満足度構成比



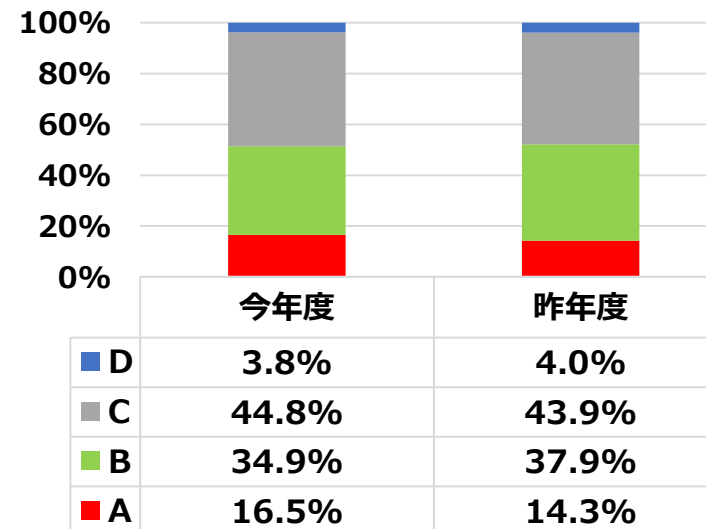
社会的満足度構成比



居住地満足度構成比



経済的満足度構成比



前ページの満足度を、昨年度調査で算出した満足度と比較した。

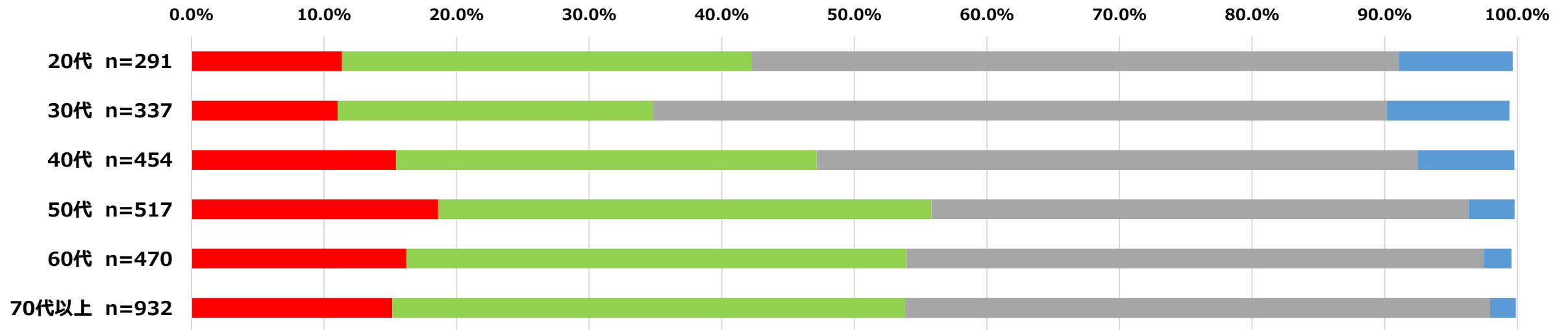
「社会的満足度」については、構成要素である「親類・友人・知人などに、お住まいの地域の観光をお勧めしたいですか？」が5段階評価から10段階評価に変更されたことでBランクの割合が昨年より大きく上昇している。特に、「お勧めしたい」（6点～8点）の層が増えている。

それ以外の点では昨年度調査と大きな変化はみられない。

■ 年代（総合満足度）

総合満足度×年代

n = 3,000



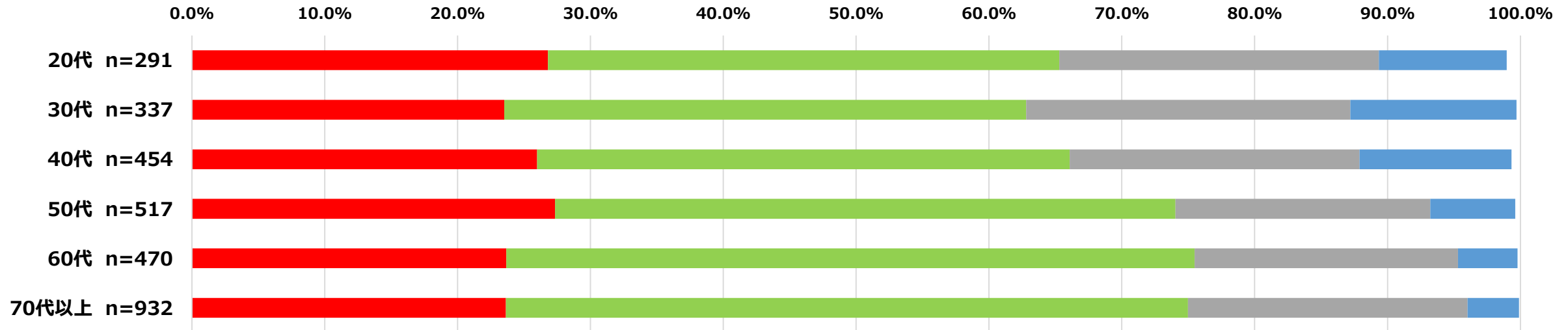
	70代以上 n=932	60代 n=470	50代 n=517	40代 n=454	30代 n=337	20代 n=291
■ A	15.1%	16.2%	18.6%	15.4%	11.0%	11.3%
■ B	38.7%	37.7%	37.2%	31.7%	23.8%	30.9%
■ C	44.1%	43.5%	40.5%	45.4%	55.4%	48.8%
■ D	1.9%	2.1%	3.5%	7.3%	9.2%	8.6%

Aランク・Bランクの合計は40代までは50%未満である一方、40代以上のすべての年代で50%以上である。
 中高年者のほうが観光への全体的な満足度が高いことがわかる。
 Dランクの割合も20代～40代で6%以上と高めになっているが、50代以降では1～3%台と低い。

■ 年代（居住地満足度）

居住地満足度×年代

n = 3,000



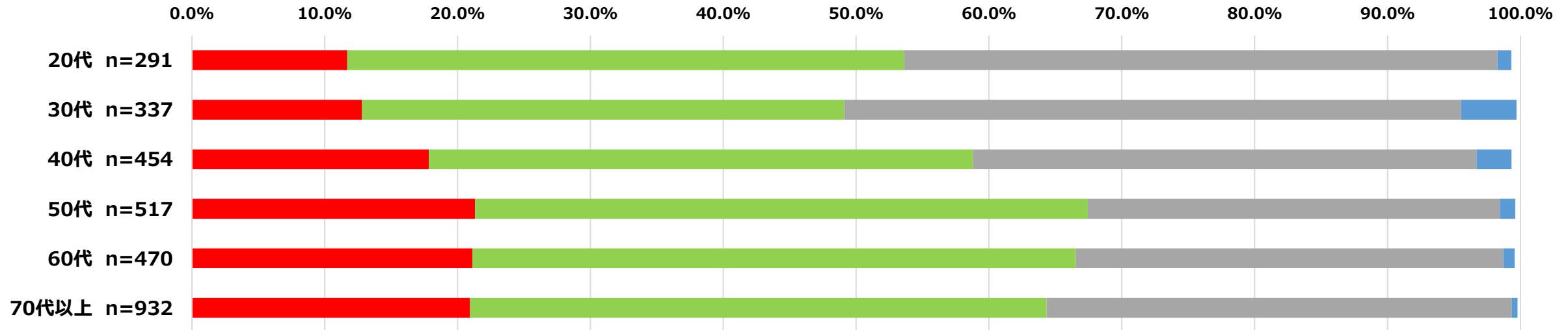
	70代以上 n=932	60代 n=470	50代 n=517	40代 n=454	30代 n=337	20代 n=291
■ A	23.6%	23.7%	27.3%	26.0%	23.5%	26.8%
■ B	51.3%	51.8%	46.7%	40.1%	39.3%	38.5%
■ C	21.1%	19.8%	19.2%	21.8%	24.4%	24.1%
■ D	3.9%	4.5%	6.4%	11.5%	12.5%	9.6%

居住地満足度のAランク・Bランク合計は50代以上で70%以上だが、40代以下では60%台にとどまる。
40代以下ではDランクの割合も10%以上と高くなっている。

■ 年代（社会的満足度）

社会的満足度×年代

n = 3,000



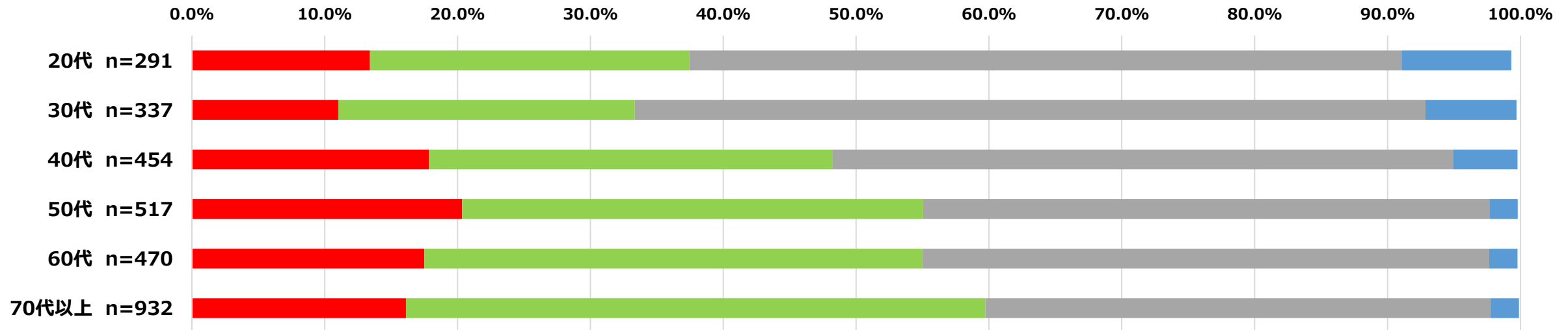
	70代以上 n=932	60代 n=470	50代 n=517	40代 n=454	30代 n=337	20代 n=291
■ A	20.9%	21.1%	21.3%	17.8%	12.8%	11.7%
■ B	43.4%	45.4%	46.1%	41.0%	36.3%	41.9%
■ C	35.0%	32.2%	31.0%	37.9%	46.4%	44.7%
■ D	0.4%	0.9%	1.2%	2.6%	4.2%	1.0%

社会的満足度のAランク・Bランク合計の割合は、50代以上で60%を超えている一方、40代以下では60%未満である。
また、Aランクの割合は20代、30代で10%台前半と低い。

■ 年代（経済的満足度）

経済的満足度×年代

n = 3,000



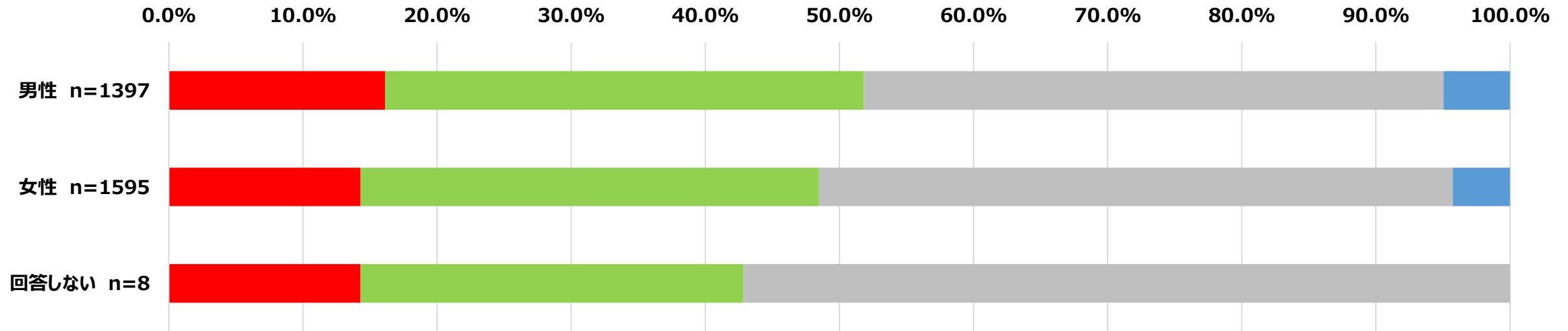
	70代以上 n=932	60代 n=470	50代 n=517	40代 n=454	30代 n=337	20代 n=291
■ A	16.1%	17.5%	20.3%	17.8%	11.0%	13.4%
■ B	43.6%	37.5%	34.7%	30.4%	22.3%	24.1%
■ C	38.0%	42.6%	42.6%	46.7%	59.5%	53.6%
■ D	2.1%	2.1%	2.1%	4.8%	6.8%	8.2%

経済的満足度のAランク・Bランクの合計は50代以上で50%を超えているが、30代以下では30%台にとどまっている。
Dランクの割合は20代が最も高く、年代が上がるほど下がる傾向にある。

■ 性別（総合満足度）

総合満足度×性別

n = 3,000



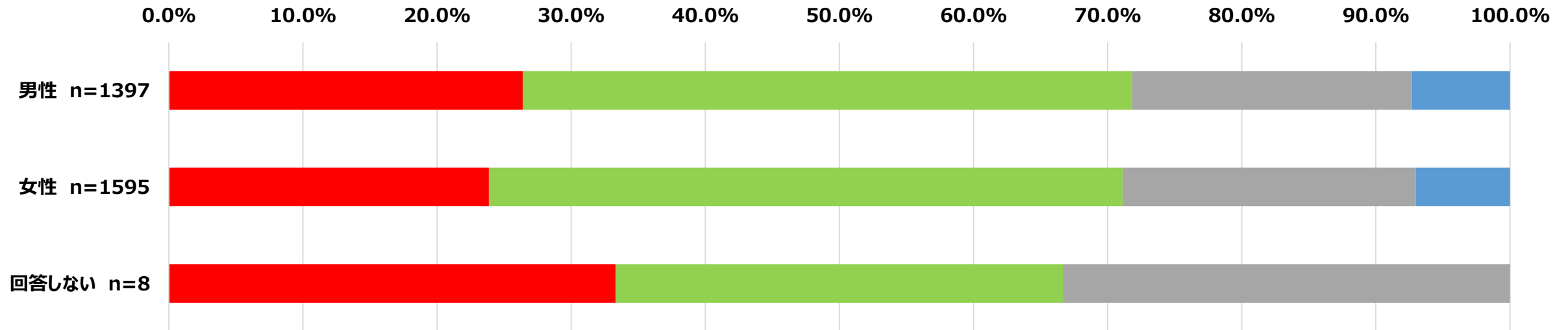
	回答しない n=8	女性 n=1595	男性 n=1397
■ A	14.3%	14.3%	16.1%
■ B	28.6%	34.2%	35.7%
■ C	57.1%	47.2%	43.2%
■ D	0.0%	4.3%	4.9%

Aランク・Bランクの合計割合は男性（51.8%）が女性（48.5%）と比べてわずかに高い。

■ 性別（居住地満足度）

居住地満足度×性別

n = 3,000



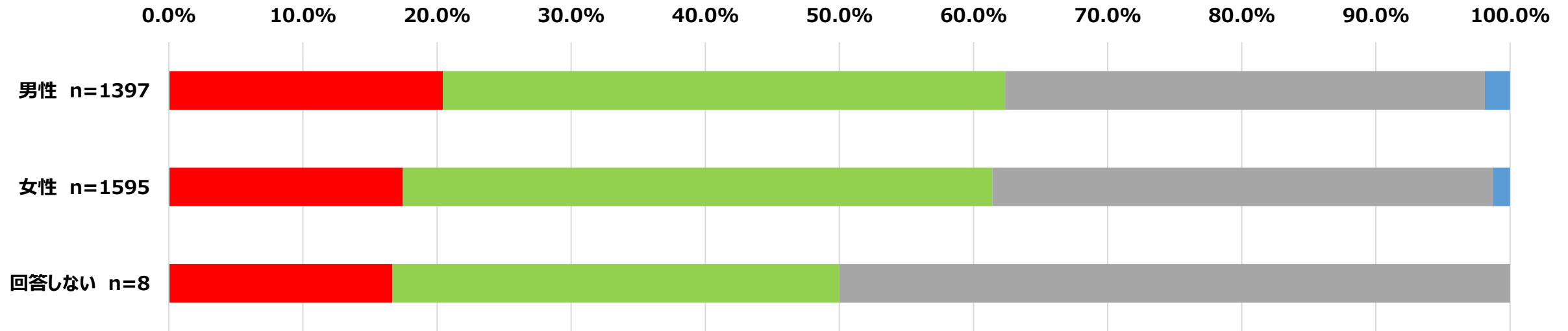
	回答しない n=8	女性 n=1595	男性 n=1397
■ A	33.3%	23.9%	26.4%
■ B	33.3%	47.3%	45.4%
■ C	33.3%	21.8%	20.9%
■ D	0.0%	7.0%	7.3%

Aランク・Bランクの割合は男性（71.8%）がわずかに女性（71.2%）より高い。

■ 性別（社会的満足度）

社会的満足度×性別

n = 3,000



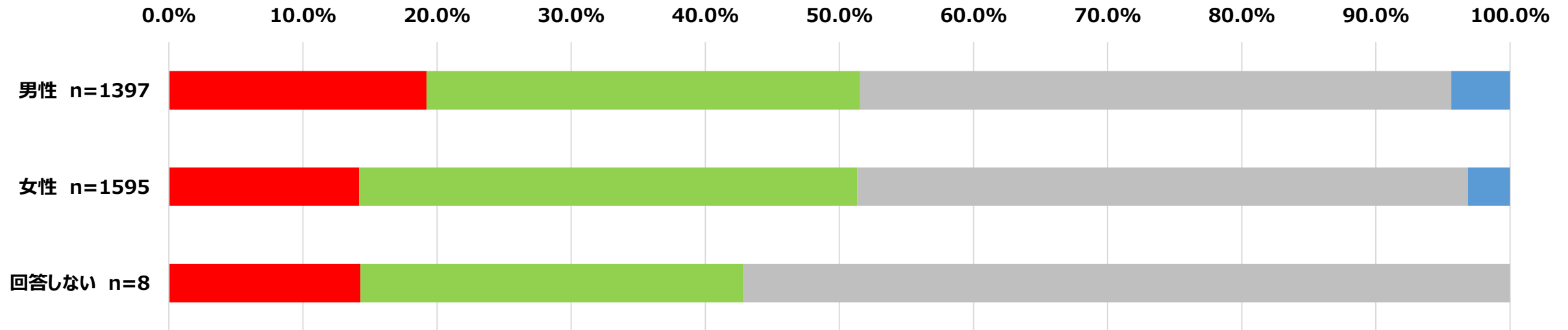
	回答しない n=8	女性 n=1595	男性 n=1397
A	16.7%	17.5%	20.4%
B	33.3%	43.9%	41.9%
C	50.0%	37.4%	35.8%
D	0.0%	1.3%	1.9%

Aランクの割合は男性（20.4%）が女性（17.5%）よりわずかに高い。

■ 性別（経済的満足度）

経済的満足度×性別

n = 3,000



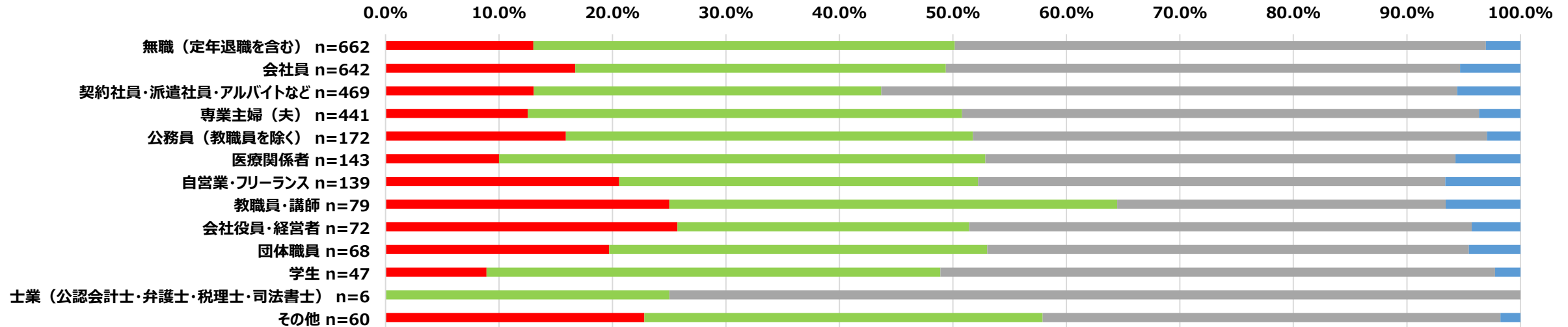
	回答しない n=8	女性 n=1595	男性 n=1397
■ A	14.3%	14.2%	19.2%
■ B	28.6%	37.2%	32.3%
■ C	57.1%	45.5%	44.1%
■ D	0.0%	3.1%	4.4%

Aランクの割合は男性（19.2%）が女性（14.2%）より高いが、Aランク・Bランクの合計は男性51.5%、女性51.4%でほぼ変わらない。

■ 職業（総合満足度）

総合満足度×職業

n = 3,000



	その他 n=60	士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士） n=6	学生 n=47	団体職員 n=68	会社役員・経営者 n=72	教職員・講師 n=79	自営業・フリーランス n=139	医療関係者 n=143	公務員（教職員を除く） n=172	専業主婦（夫） n=441	契約社員・派遣社員・アルバイトなど n=469	会社員 n=642	無職（定年退職を含む） n=662
■ A	22.8%	0.0%	8.9%	19.7%	25.7%	25.0%	20.6%	10.0%	15.9%	12.5%	13.1%	16.7%	13.0%
■ B	35.1%	25.0%	40.0%	33.3%	25.7%	39.5%	31.6%	42.9%	35.9%	38.3%	30.6%	32.7%	37.1%
■ C	40.4%	75.0%	48.9%	42.4%	44.3%	28.9%	41.2%	41.4%	45.3%	45.6%	50.7%	45.3%	46.8%
■ D	1.8%	0.0%	2.2%	4.5%	4.3%	6.6%	6.6%	5.7%	2.9%	3.6%	5.6%	5.3%	3.0%

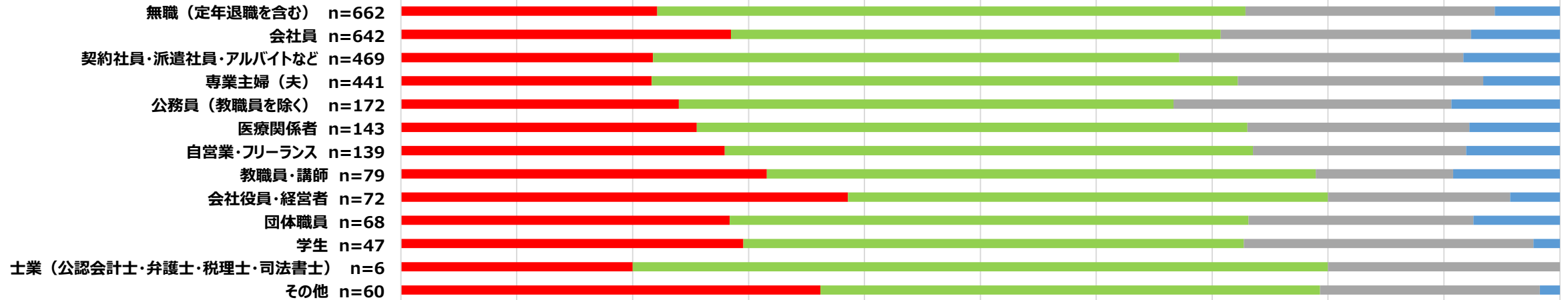
Aランク・Bランクの合計の割合は、「教職員・講師」（64.5%）が突出して高い。
一方、「学生」のAランク割合は10%未満と突出して低い。

■ 職業（居住地満足度）

居住地満足度×職業

n = 3,000

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



	その他 n=60	士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士） n=6	学生 n=47	団体職員 n=68	会社役員・経営者 n=72	教職員・講師 n=79	自営業・フリーランス n=139	医療関係者 n=143	公務員（教職員を除く） n=172	専業主婦（夫） n=441	契約社員・派遣社員・アルバイトなど n=469	会社員 n=642	無職（定年退職を含む） n=662
■ A	36.2%	20.0%	29.5%	28.4%	38.6%	31.6%	27.9%	25.5%	24.0%	21.6%	21.7%	28.5%	22.1%
■ B	43.1%	60.0%	43.2%	44.8%	41.4%	47.4%	45.6%	47.5%	42.7%	50.6%	45.4%	42.3%	50.8%
■ C	19.0%	20.0%	25.0%	19.4%	15.7%	11.8%	18.4%	19.1%	24.0%	21.2%	24.5%	21.6%	21.5%
■ D	1.7%	0.0%	2.3%	7.5%	4.3%	9.2%	8.1%	7.8%	9.4%	6.6%	8.3%	7.7%	5.6%

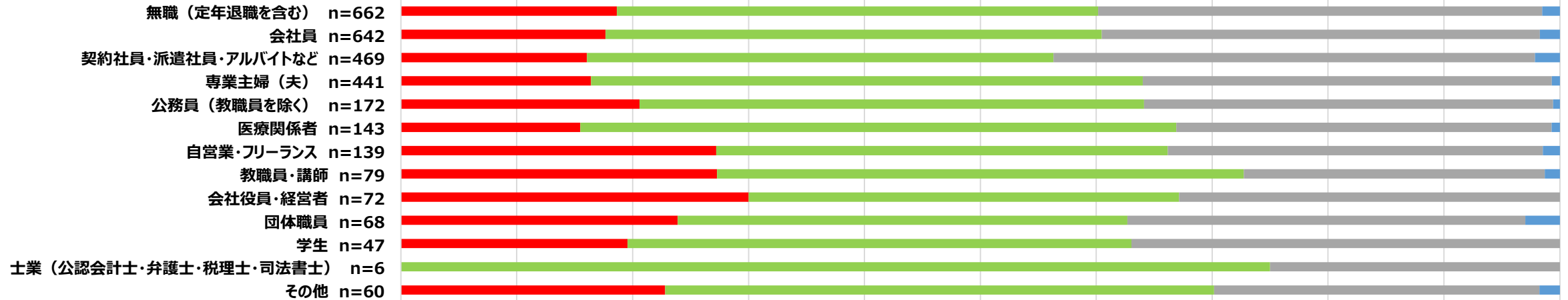
Aランクの割合は「会社役員・経営者」（38.6%）で最も高く、「その他」を除くと「教職員・講師」（31.6%）、「学生」（29.5%）、「会社員」（28.5%）が次ぐ。

■ 職業（社会的満足度）

社会的満足度×職業

n = 3,000

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



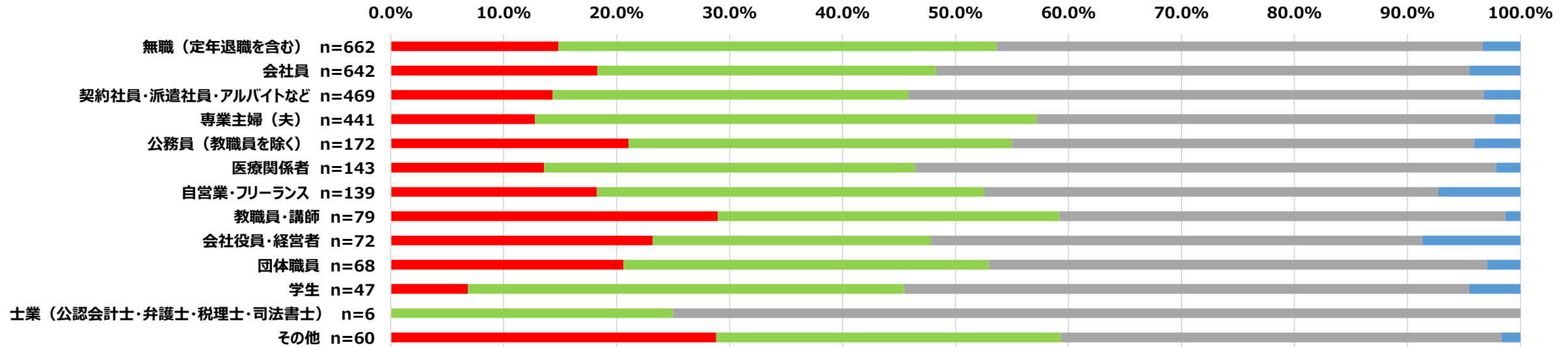
	その他 n=60	士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士） n=6	学生 n=47	団体職員 n=68	会社役員・経営者 n=72	教職員・講師 n=79	自営業・フリーランス n=139	医療関係者 n=143	公務員（教職員を除く） n=172	専業主婦（夫） n=441	契約社員・派遣社員・アルバイトなど n=469	会社員 n=642	無職（定年退職を含む） n=662
■ A	22.8%	0.0%	19.6%	23.9%	30.0%	27.3%	27.2%	15.5%	20.6%	16.4%	16.1%	17.7%	18.6%
■ B	47.4%	75.0%	43.5%	38.8%	37.1%	45.5%	39.0%	51.4%	43.5%	47.6%	40.3%	42.8%	41.5%
■ C	28.1%	25.0%	37.0%	34.3%	32.9%	26.0%	32.4%	32.4%	35.3%	35.3%	41.5%	37.8%	38.3%
■ D	1.8%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	1.3%	1.5%	0.7%	0.6%	0.7%	2.1%	1.7%	1.5%

Aランク・Bランクの合計は、n数は少ないながら「士業」（75.0%）、次いで「教職員・講師」（72.8%）など。

■ 職業（経済的満足度）

経済的満足度×職業

n = 3,000



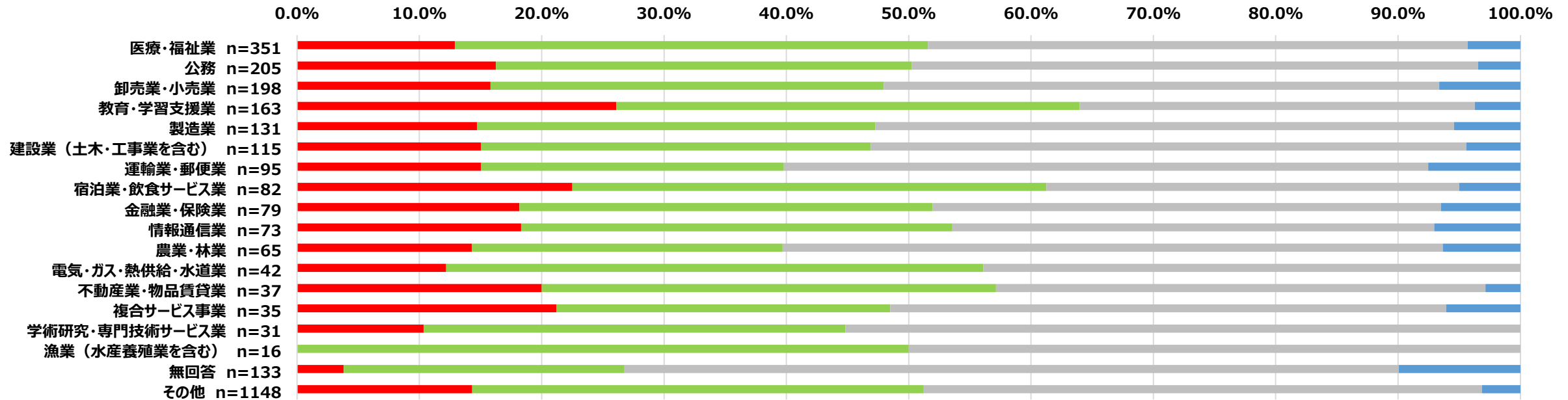
	その他 n=60	士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士） n=6	学生 n=47	団体職員 n=68	会社役員・経営者 n=72	教職員・講師 n=79	自営業・フリーランス n=139	医療関係者 n=143	公務員（教職員を除く） n=172	専業主婦（夫） n=441	契約社員・派遣社員・アルバイトなど n=469	会社員 n=642	無職（定年退職を含む） n=662
■ A	28.8%	0.0%	6.8%	20.6%	23.2%	28.9%	18.2%	13.6%	21.1%	12.8%	14.3%	18.3%	14.8%
■ B	30.5%	25.0%	38.6%	32.4%	24.6%	30.3%	34.3%	32.9%	33.9%	44.4%	31.5%	30.0%	38.8%
■ C	39.0%	75.0%	50.0%	44.1%	43.5%	39.5%	40.1%	51.4%	40.9%	40.5%	51.0%	47.2%	43.0%
■ D	1.7%	0.0%	4.5%	2.9%	8.7%	1.3%	7.3%	2.1%	4.1%	2.3%	3.2%	4.5%	3.3%

Aランクの割合が高いのは、「教職員・講師」（28.9%）、「会社役員・経営者」（23.2%）、「公務員（教職員を除く）」（21.1%）など。一方、「学生」はAランクの割合が6.8%と最も低い。

■ 業種（総合満足度）

総合満足度×業種

n = 3,000



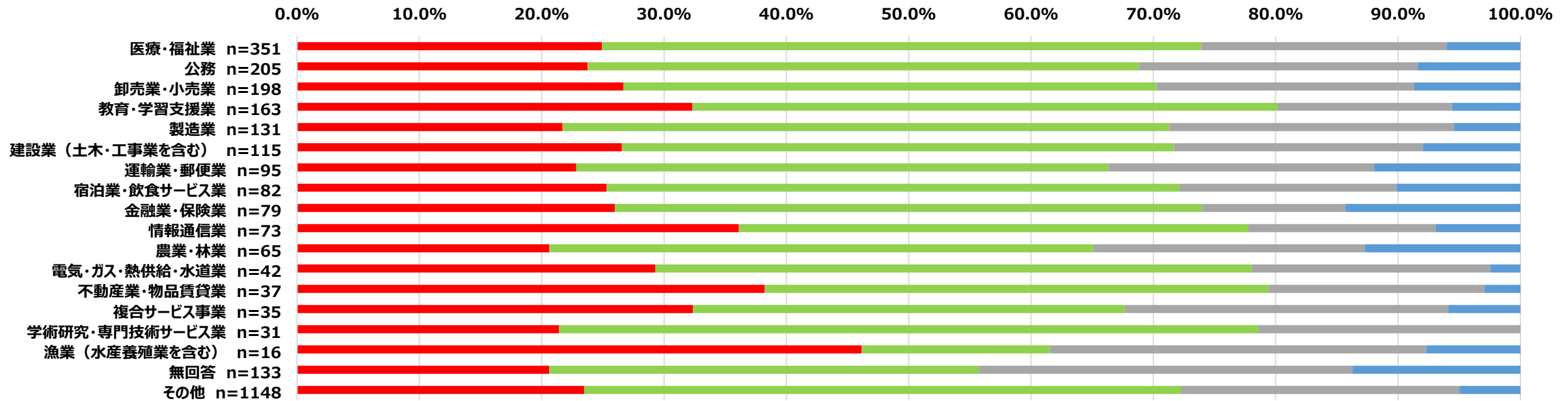
	その他 n=1148	無回答 n=133	漁業（水産 養殖業を 含む） n=16	学術研究・ 専門技術 サービス業 n=31	複合サービス 事業 n=35	不動産業・ 物品賃貸業 n=37	電気・ガス・ 熱供給・水 道業 n=42	農業・林業 n=65	情報通信業 n=73	金融業・保 険業 n=79	宿泊業・飲 食サービス業 n=82	運輸業・郵 便業 n=95	建設業（土 木・工事業 を含む） n=115	製造業 n=131	教育・学習 支援業 n=163	卸売業・小 売業 n=198	公務 n=205	医療・福祉 業 n=351
■ A	14.3%	3.8%	0.0%	10.3%	21.2%	20.0%	12.2%	14.3%	18.3%	18.2%	22.5%	15.1%	15.0%	14.7%	26.1%	15.8%	16.3%	12.9%
■ B	36.9%	22.9%	50.0%	34.5%	27.3%	37.1%	43.9%	25.4%	35.2%	33.8%	38.8%	24.7%	31.9%	32.6%	37.9%	32.1%	34.0%	38.7%
■ C	45.6%	63.4%	50.0%	55.2%	45.5%	40.0%	43.9%	54.0%	39.4%	41.6%	33.8%	52.7%	48.7%	47.3%	32.3%	45.4%	46.3%	44.1%
■ D	3.1%	9.9%	0.0%	0.0%	6.1%	2.9%	0.0%	6.3%	7.0%	6.5%	5.0%	7.5%	4.4%	5.4%	3.7%	6.6%	3.4%	4.3%

Aランク・Bランクの合計割合は、「教育・学習支援業」が64.0%で最も高く、次いで「宿泊業・飲食サービス業」の61.3%が高い。

■ 業種（居住地満足度）

居住地満足度×業種

n = 3,000



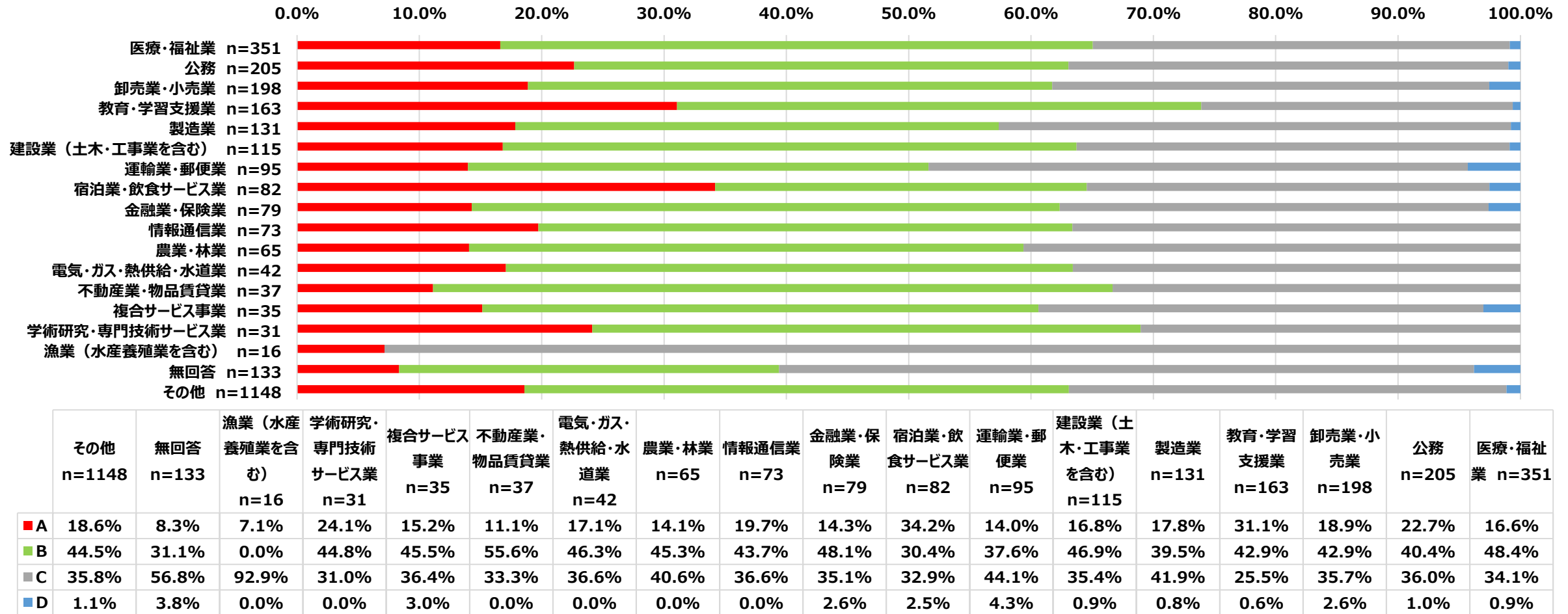
	その他 n=1148	無回答 n=133	漁業（水産 養殖業を含 む） n=16	学術研究・ 専門技術 サービス業 n=31	複合サービス 事業 n=35	不動産業・ 物品賃貸業 n=37	電気・ガス・ 熱供給・水 道業 n=42	農業・林業 n=65	情報通信業 n=73	金融業・保 険業 n=79	宿泊業・飲 食サービス業 n=82	運輸業・郵 便業 n=95	建設業（土 木・工事業 を含む） n=115	製造業 n=131	教育・学習 支援業 n=163	卸売業・小 売業 n=198	公務 n=205	医療・福祉 業 n=351
■ A	23.5%	20.6%	46.2%	21.4%	32.4%	38.2%	29.3%	20.6%	36.1%	26.0%	25.3%	22.8%	26.5%	21.7%	32.3%	26.7%	23.8%	24.9%
■ B	48.8%	35.1%	15.4%	57.1%	35.3%	41.2%	48.8%	44.4%	41.7%	48.1%	46.8%	43.5%	45.1%	49.6%	47.8%	43.6%	45.0%	49.0%
■ C	22.8%	30.5%	30.8%	21.4%	26.5%	17.6%	19.5%	22.2%	15.3%	11.7%	17.7%	21.7%	20.4%	23.3%	14.3%	21.0%	22.8%	20.1%
■ D	5.0%	13.7%	7.7%	0.0%	5.9%	2.9%	2.4%	12.7%	6.9%	14.3%	10.1%	12.0%	8.0%	5.4%	5.6%	8.7%	8.4%	6.0%

Aランクの割合が高いのは「漁業（水産養殖業を含む）」（46.2%）、「不動産業・物品賃貸業」（38.2%）、「情報通信業」（36.1%）など。

■ 業種（社会的満足度）

社会的満足度×業種

n = 3,000

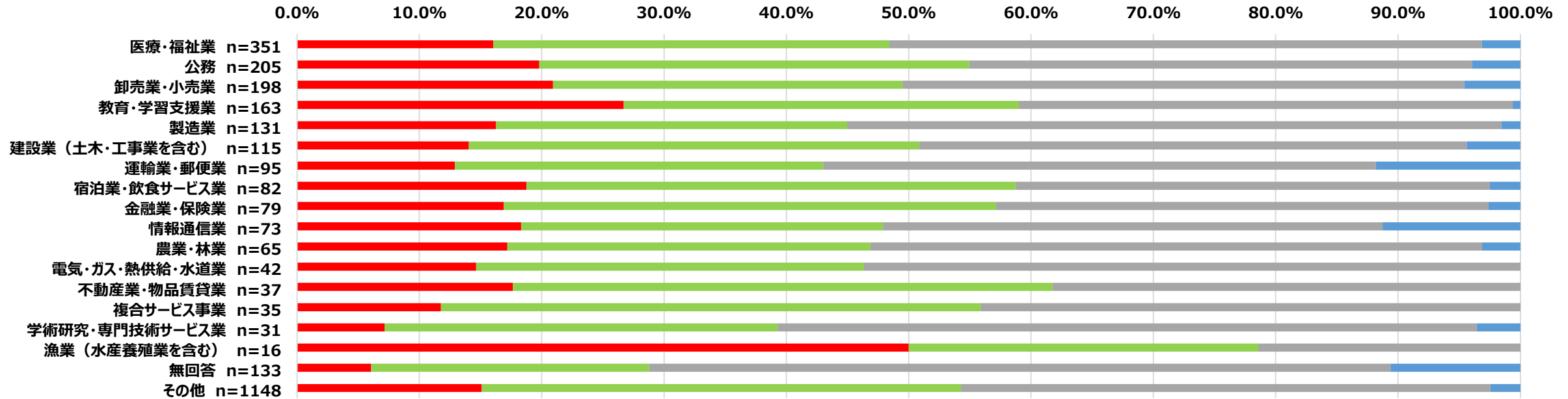


Aランク・Bランクの合計は、「教育・学習支援業」（74.0%）で突出して高い。

■ 業種（経済的満足度）

経済的満足度×業種

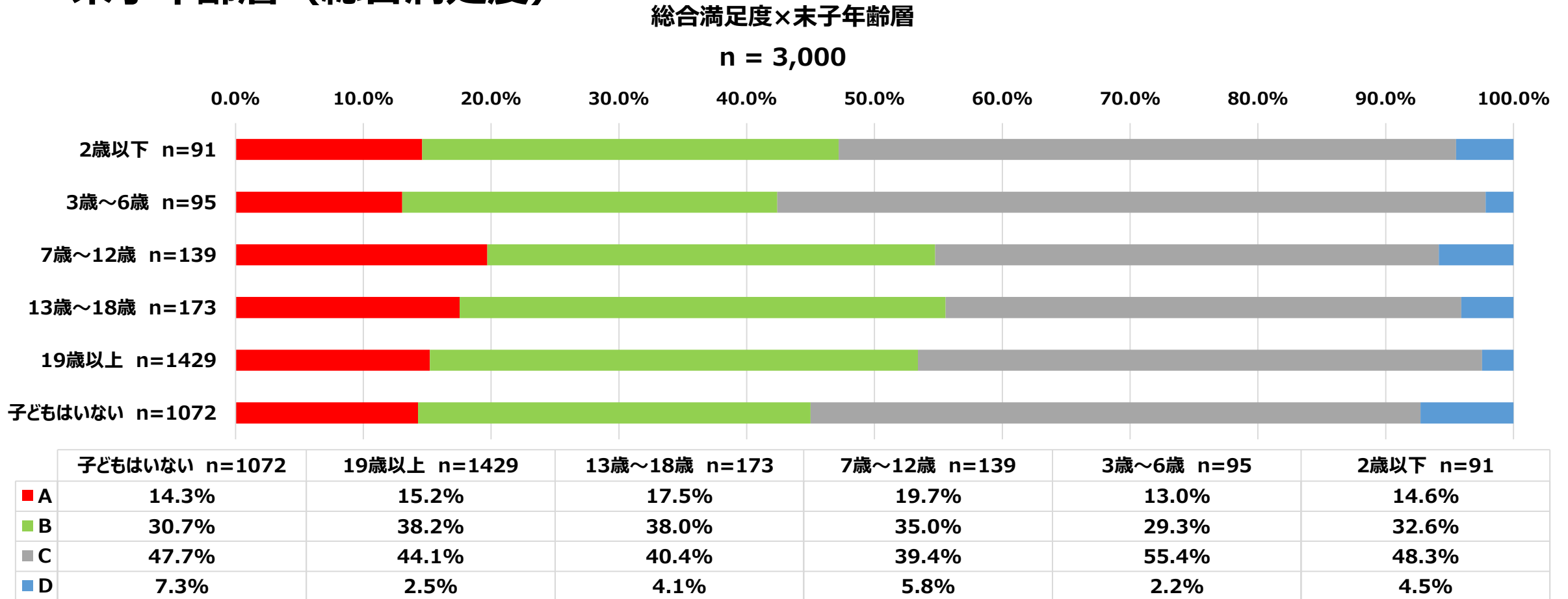
n = 3,000



	その他 n=1148	無回答 n=133	漁業（水産 養殖業を 含む） n=16	学術研究・ 専門技術 サービス業 n=31	複合サービス 事業 n=35	不動産業・ 物品賃貸業 n=37	電気・ガス・ 熱供給・水 道業 n=42	農業・林業 n=65	情報通信業 n=73	金融業・保 険業 n=79	宿泊業・飲 食サービス業 n=82	運輸業・郵 便業 n=95	建設業（土 木・工事業 を含む） n=115	製造業 n=131	教育・学習 支援業 n=163	卸売業・小 売業 n=198	公務 n=205	医療・福祉 業 n=351
■ A	15.1%	6.1%	50.0%	7.1%	11.8%	17.6%	14.6%	17.2%	18.3%	16.9%	18.8%	12.9%	14.0%	16.3%	26.7%	20.9%	19.8%	16.0%
■ B	39.2%	22.7%	28.6%	32.1%	44.1%	44.1%	31.7%	29.7%	29.6%	40.3%	40.0%	30.1%	36.8%	28.7%	32.3%	28.6%	35.1%	32.4%
■ C	43.3%	60.6%	21.4%	57.1%	44.1%	38.2%	53.7%	50.0%	40.8%	40.3%	38.8%	45.2%	44.7%	53.5%	40.4%	45.9%	41.1%	48.4%
■ D	2.4%	10.6%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	11.3%	2.6%	2.5%	11.8%	4.4%	1.6%	0.6%	4.6%	4.0%	3.2%

Aランクの割合は「漁業」（50.0%）が突出して高く、次いで「教育・学習支援業」（26.7%）などが高い。

■ 末子年齢層（総合満足度）

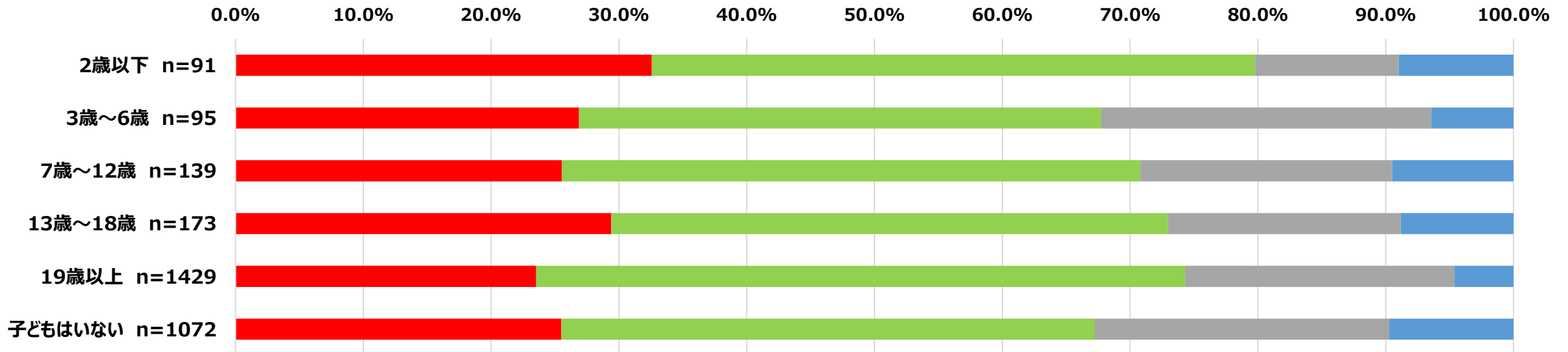


Aランク・Bランクの合計割合は、「13歳～18歳」（55.5%）が最も高い一方、「3歳～6歳」（42.3%）で最も低い。
末子年齢が7歳以上の層ではAランク・Bランクの合計割合が50%を超えるが、7歳未満、あるいは「子どもはいない」層では50%未満となっている。

■ 末子年齢層（居住地満足度）

居住地満足度×末子年齢層

n = 3,000



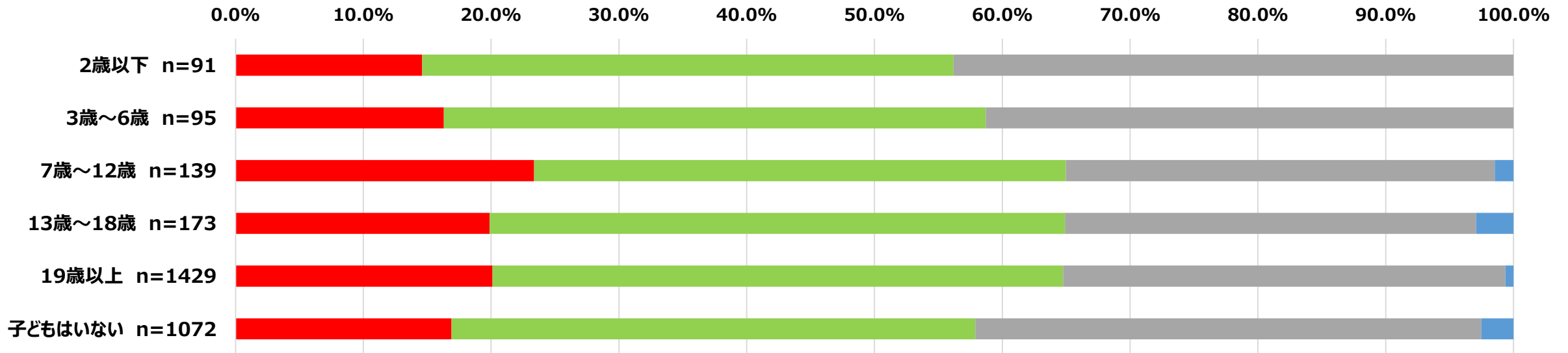
	子どもはいない n=1072	19歳以上 n=1429	13歳～18歳 n=173	7歳～12歳 n=139	3歳～6歳 n=95	2歳以下 n=91
■ A	25.5%	23.5%	29.4%	25.5%	26.9%	32.6%
■ B	41.7%	50.8%	43.5%	45.3%	40.9%	47.2%
■ C	23.1%	21.1%	18.2%	19.7%	25.8%	11.2%
■ D	9.7%	4.6%	8.8%	9.5%	6.5%	9.0%

Aランク・Bランクの合計割合は「2歳以下」で79.8%と最も高く、「子どもはいない」で67.2%と最も低い。

■ 末子年齢層（社会的満足度）

社会的満足度×末子年齢層

n = 3,000



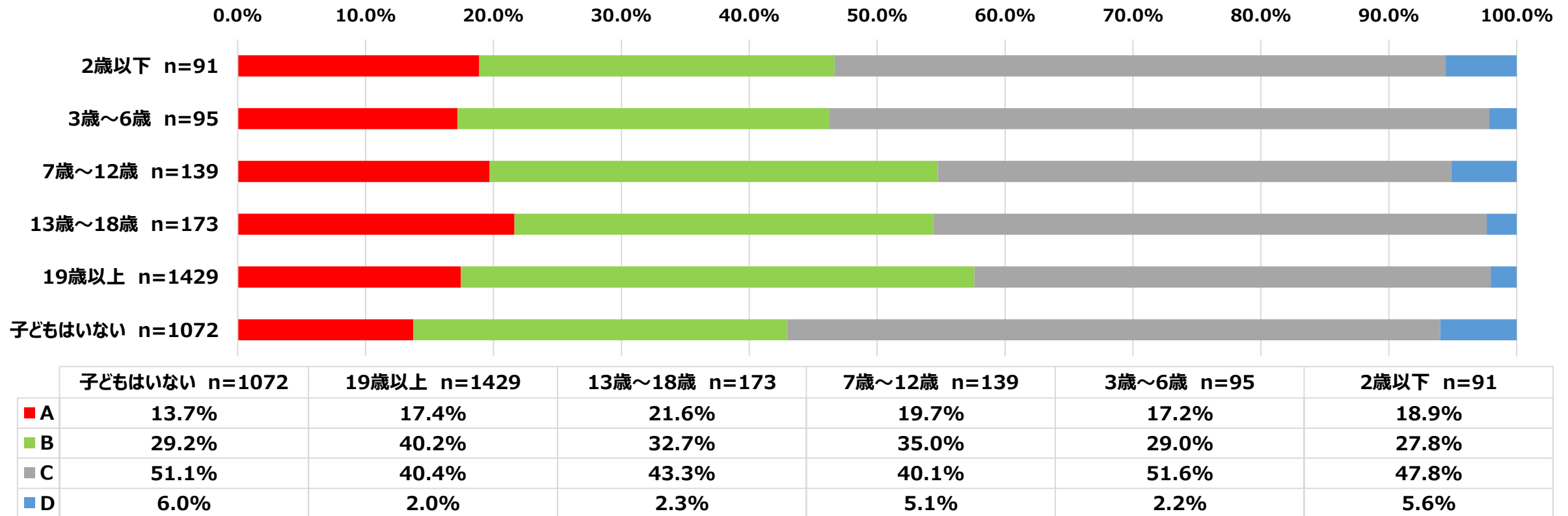
	子どもはいない n=1072	19歳以上 n=1429	13歳～18歳 n=173	7歳～12歳 n=139	3歳～6歳 n=95	2歳以下 n=91
■ A	16.9%	20.1%	19.9%	23.4%	16.3%	14.6%
■ B	41.0%	44.6%	45.0%	41.6%	42.4%	41.6%
■ C	39.6%	34.6%	32.2%	33.6%	41.3%	43.8%
■ D	2.5%	0.6%	2.9%	1.5%	0.0%	0.0%

Aランク・Bランクの合計割合は、末子年齢が7歳以上の層では60%以上だが、7歳未満、または「子どもはいない」層では60%未満となり分かれている。

■ 末子年齢層（経済的満足度）

経済的満足度×末子年齢層

n = 3,000

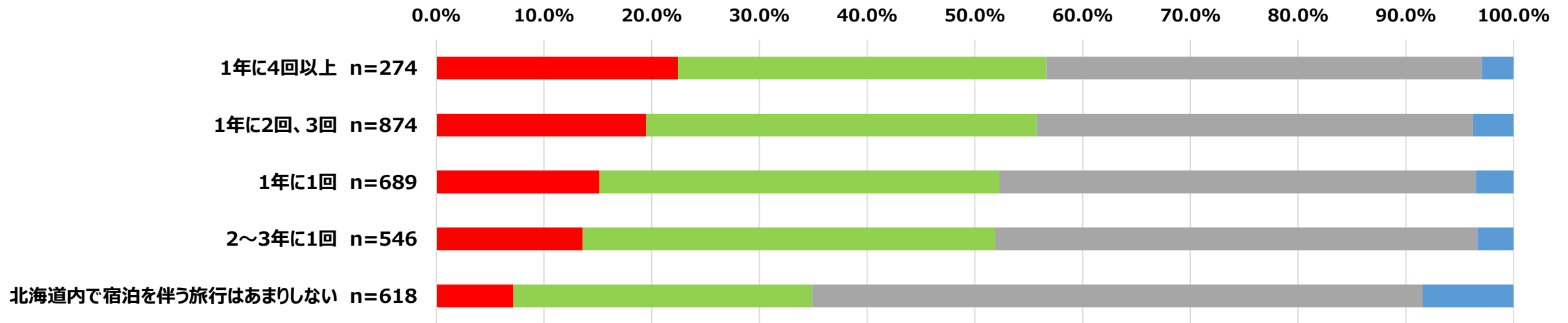


Aランク・Bランクの合計割合は、末子年齢が7歳以上の層では50%以上だが、7歳未満、または「子どもはいない」層では50%未満となり分かれている。

■ 道内宿泊旅行頻度（総合満足度）

総合満足度×道内宿泊旅行頻度

n = 3,000



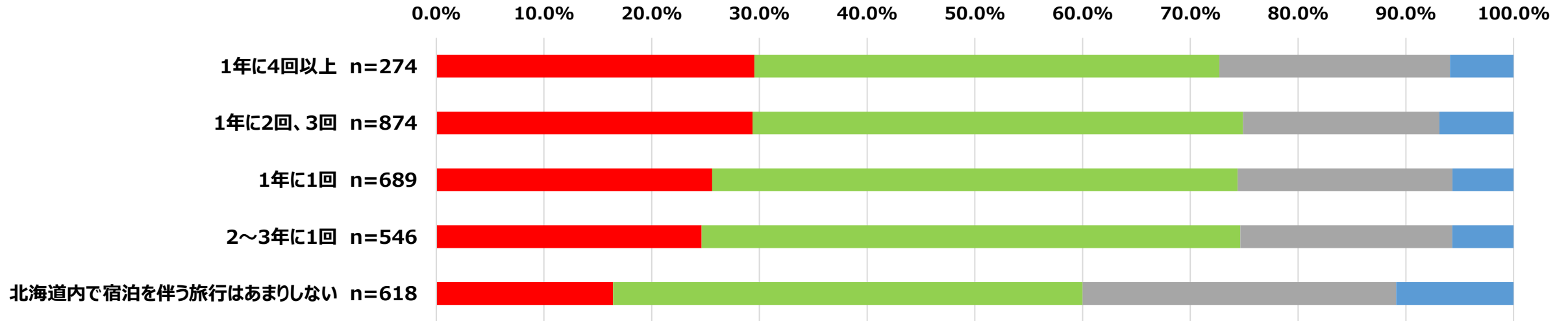
	北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない n=618	2〜3年に1回 n=546	1年に1回 n=689	1年に2回、3回 n=874	1年に4回以上 n=274
■ A	7.1%	13.6%	15.1%	19.5%	22.4%
■ B	27.8%	38.2%	37.1%	36.2%	34.2%
■ C	56.7%	44.9%	44.3%	40.5%	40.4%
■ D	8.4%	3.3%	3.5%	3.8%	2.9%

Aランクの割合は「1年に4回以上」が22.4%と最も高い。Aランクの割合は旅行頻度に強く比例している。

■ 道内宿泊旅行頻度（居住地満足度）

居住地満足度×道内宿泊旅行頻度

n = 3,000



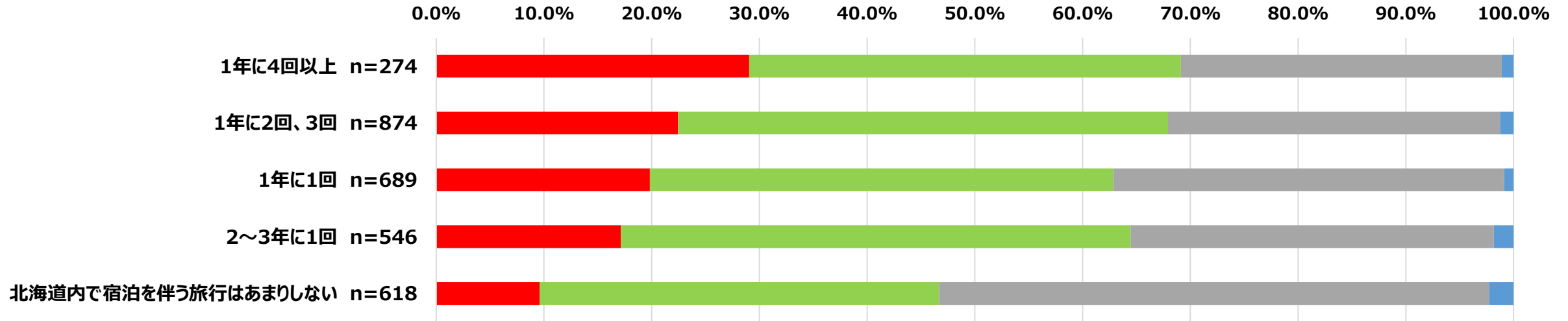
	北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない n=618	2～3年に1回 n=546	1年に1回 n=689	1年に2回、3回 n=874	1年に4回以上 n=274
■ A	16.4%	24.6%	25.6%	29.4%	29.5%
■ B	43.6%	50.0%	48.8%	45.5%	43.2%
■ C	29.1%	19.7%	19.9%	18.2%	21.4%
■ D	10.9%	5.7%	5.7%	6.9%	5.9%

Aランク・Bランクの合計は、「宿泊を伴う旅行はあまりしない」層では60.0%と突出して低い。

■ 道内宿泊旅行頻度（社会的満足度）

社会的満足度×道内宿泊旅行頻度

n = 3,000



	北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない n=618	2～3年に1回 n=546	1年に1回 n=689	1年に2回、3回 n=874	1年に4回以上 n=274
■ A	9.6%	17.1%	19.8%	22.5%	29.0%
■ B	37.1%	47.3%	43.0%	45.5%	40.1%
■ C	51.1%	33.7%	36.3%	30.8%	29.8%
■ D	2.3%	1.8%	0.9%	1.3%	1.1%

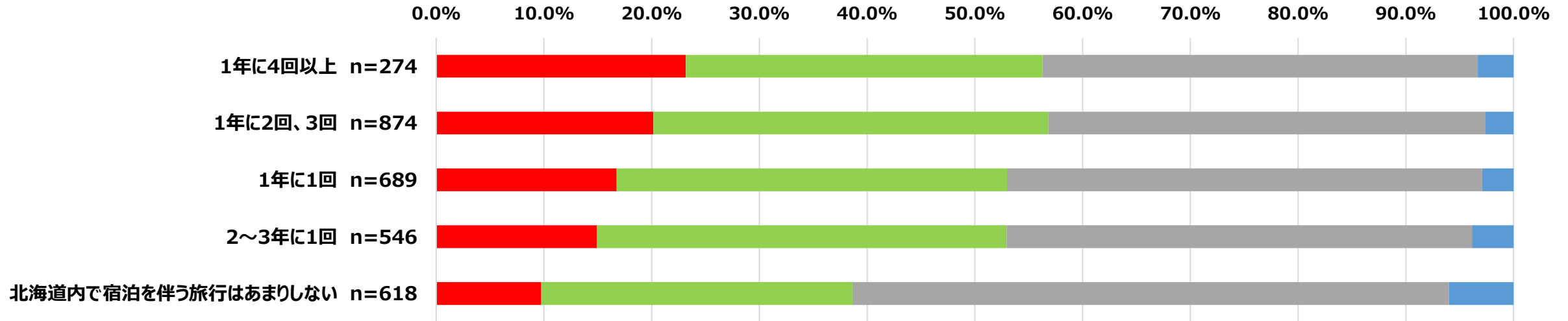
総合満足度とほぼ同じ傾向がみられる。

Aランクの割合は「1年に4回以上」が29.0%と最も高く、旅行頻度が下がるに従って低くなる。

■ 道内宿泊旅行頻度（経済的満足度）

経済的満足度×道内宿泊旅行頻度

n = 3,000

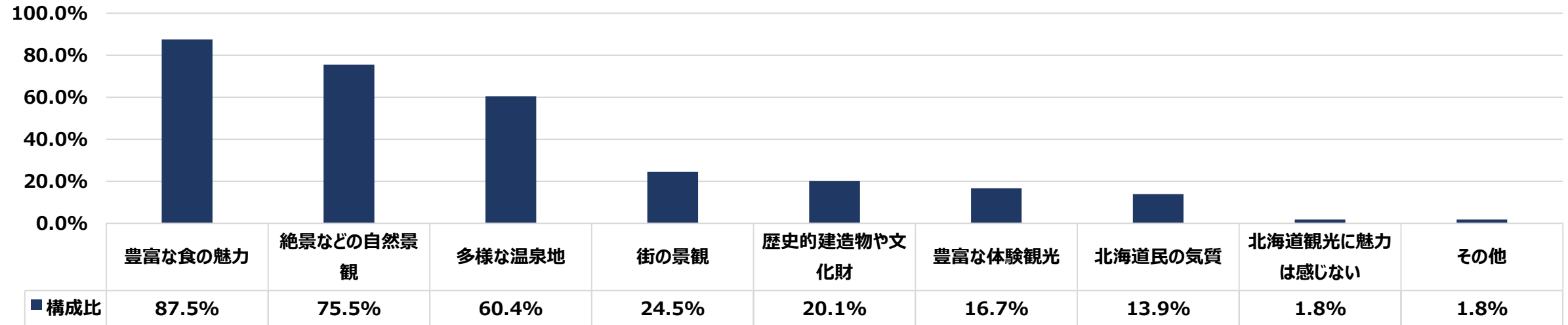


	北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない n=618	2～3年に1回 n=546	1年に1回 n=689	1年に2回、3回 n=874	1年に4回以上 n=274
■ A	9.7%	14.9%	16.7%	20.2%	23.2%
■ B	28.9%	38.1%	36.2%	36.7%	33.1%
■ C	55.4%	43.2%	44.1%	40.5%	40.4%
■ D	6.0%	3.9%	2.9%	2.6%	3.3%

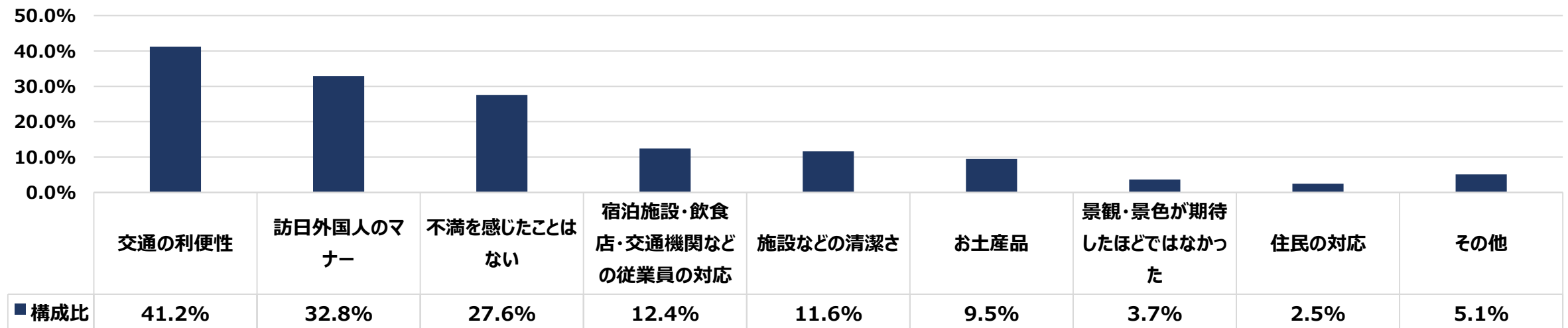
居住地満足度と同じく、Aランク・Bランクの合計割合は「宿泊を伴う旅行はあまりしない」層が38.6%と突出して低くなっている。

2 単純集計結果

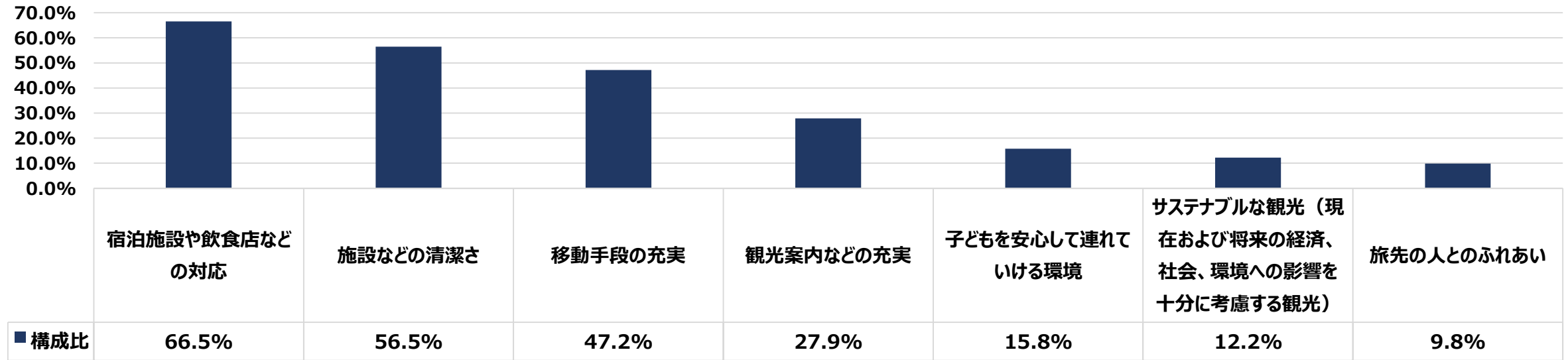
北海道観光の魅力



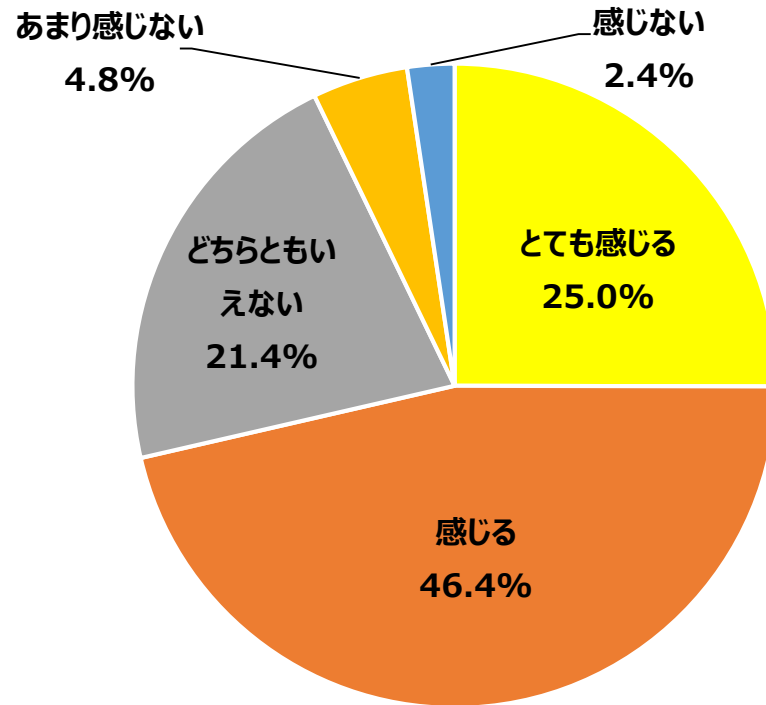
北海道内を観光して不満を感じたこと



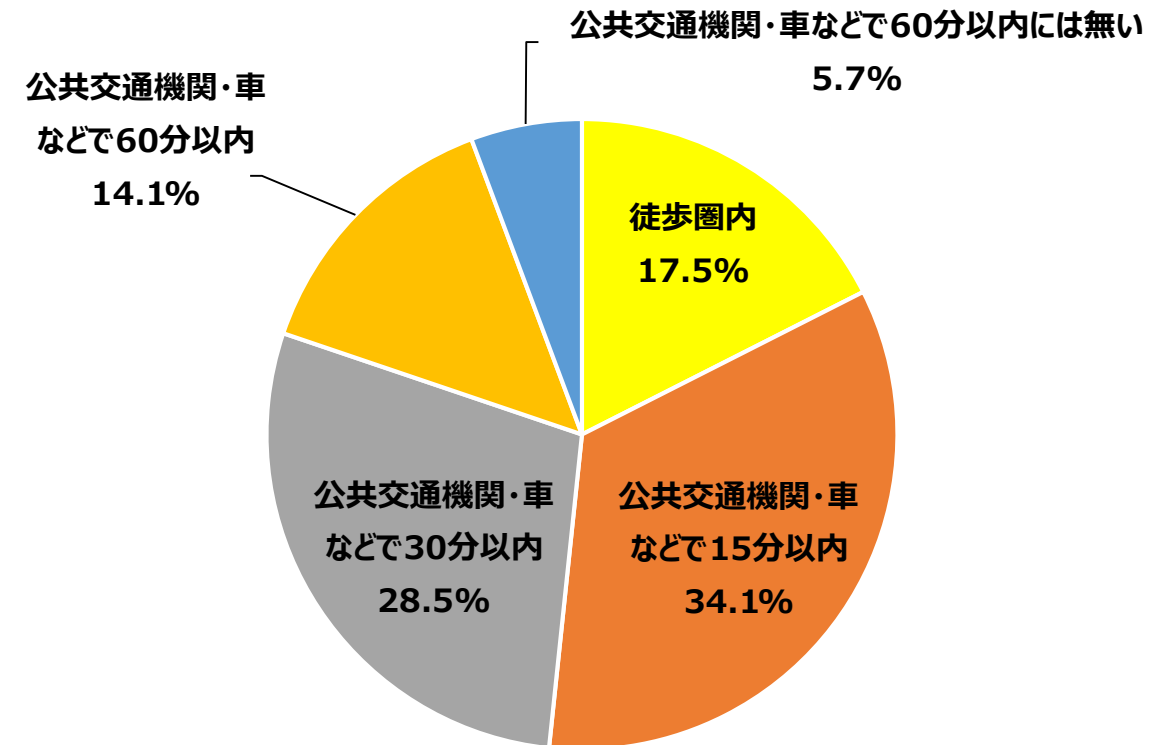
旅先で重要視する要素



お住まいの地域に愛着や誇りを感じますか



お住まいから一番近い観光スポットや施設までの距離

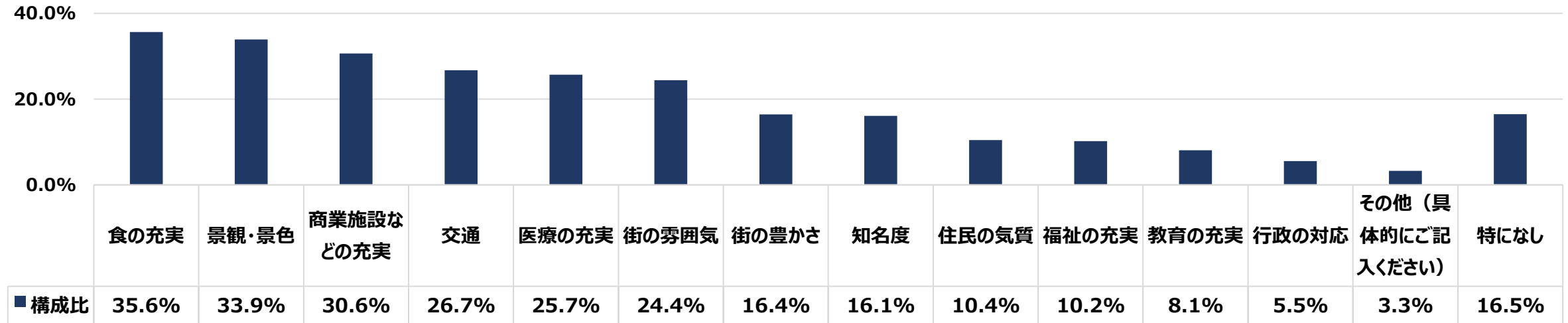


	人数	構成比
とても感じる	751	25.0%
感じる	1,391	46.4%
どちらともいえない	643	21.4%
あまり感じない	144	4.8%
感じない	71	2.4%
総計	3,000	100.0%

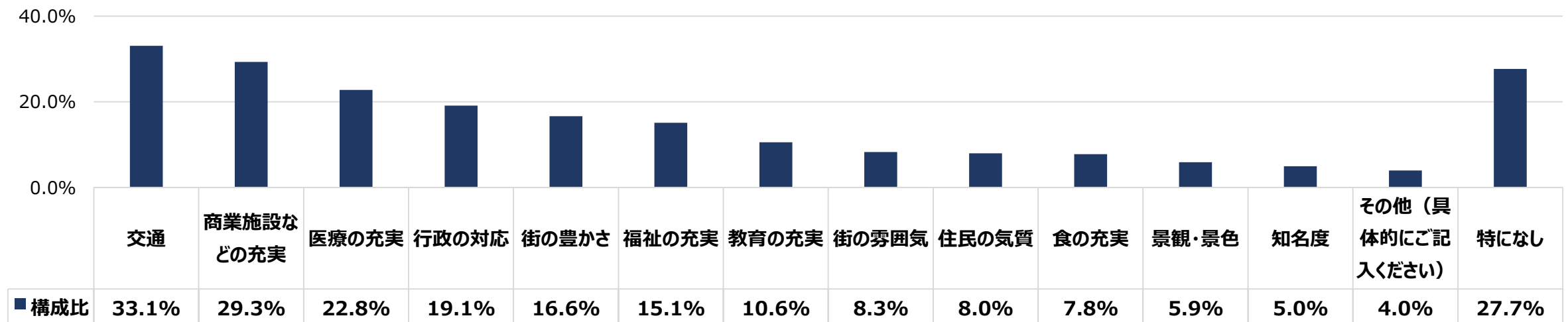
	人数	構成比
徒歩圏内	526	17.5%
公共交通機関・車などで15分以内	1,024	34.1%
公共交通機関・車などで30分以内	856	28.5%
公共交通機関・車などで60分以内	423	14.1%
公共交通機関・車などで60分以内には無い	171	5.7%
総計	3,000	100.0%

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

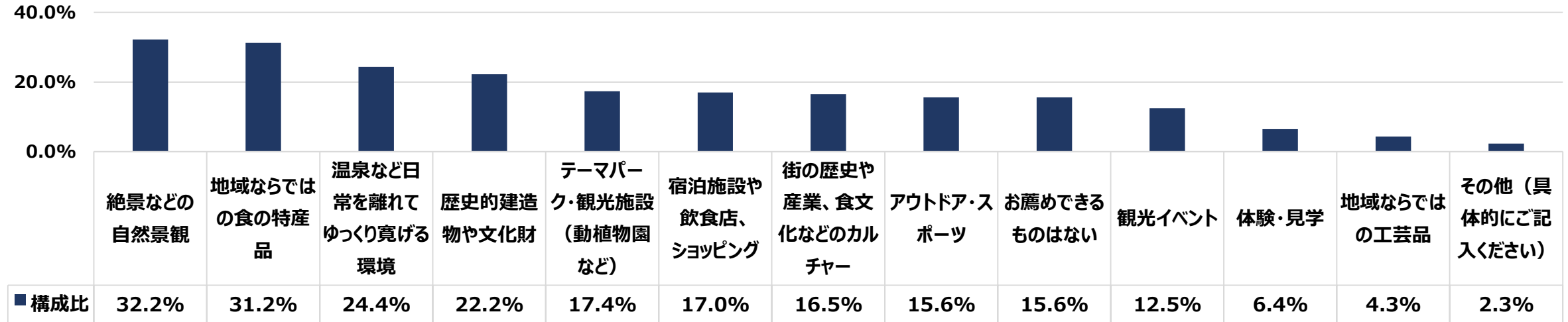
お住まいの地域に「満足」しているポイント



お住まいの地域に「不満」を感じているポイント



お住まいの市町村や近隣で、観光客にお薦めできるもの

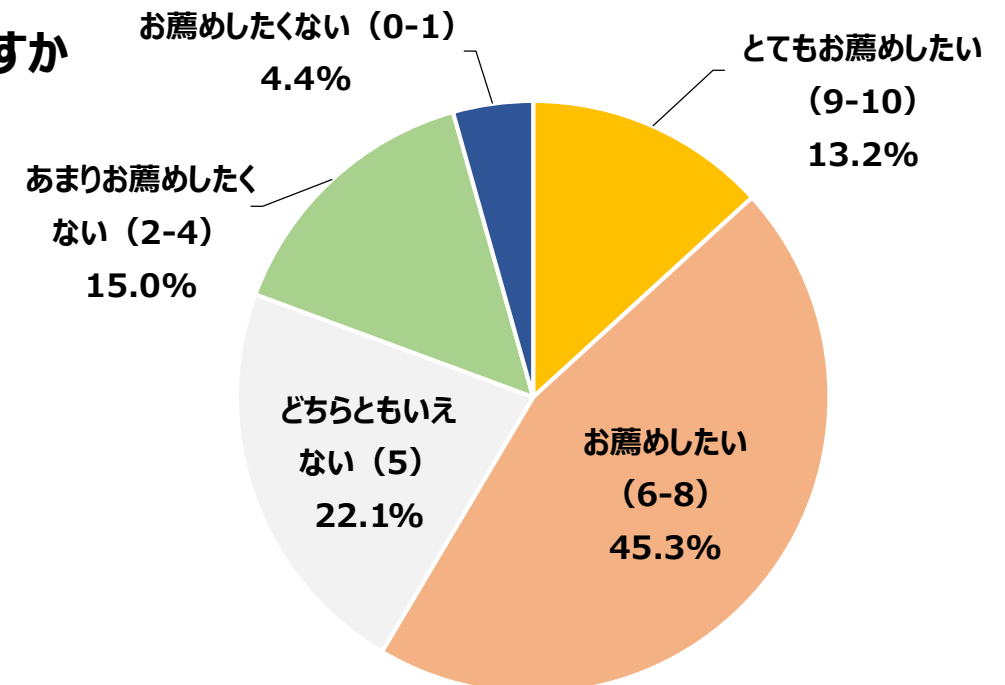


親類・友人・知人などに、お住まいの地域の観光をお薦めしたいですか

	人数	構成比
とてもお薦めしたい (9-10)	397	13.2%
お薦めしたい (6-8)	1,359	45.3%
どちらともいえない (5)	663	22.1%
あまりお薦めしたくない (2-4)	450	15.0%
お薦めしたくない (0-1)	131	4.4%
総計	3,000	100.0%

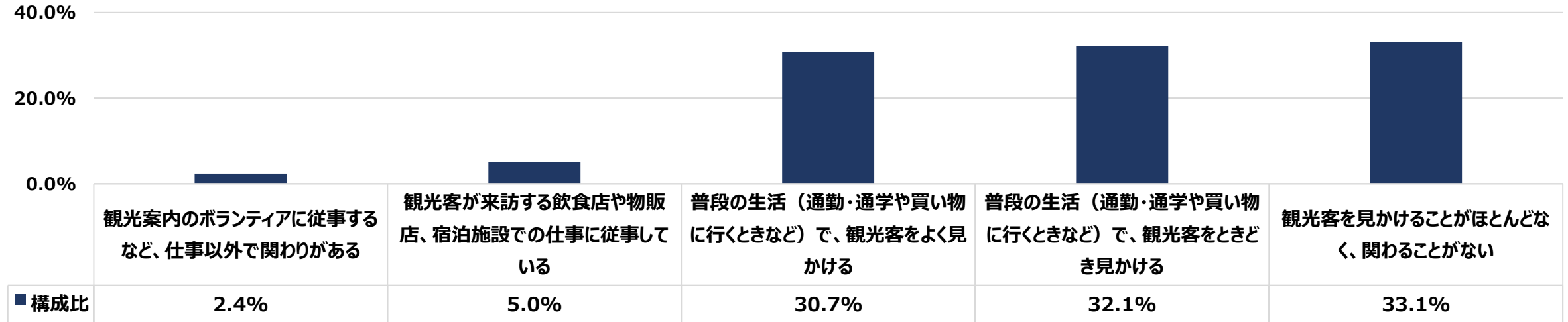
	構成比	人数
推奨者 (9-10)	13.2%	397
中立者 (7-8)	34.4%	1,031
批判者 (0-6)	52.4%	1,573
総計	100.0%	3,000

・NPS (Net Promoter Score)
 = 推奨者割合 - 批判者割合
 = 13.2% - 52.4%
 = -39.2



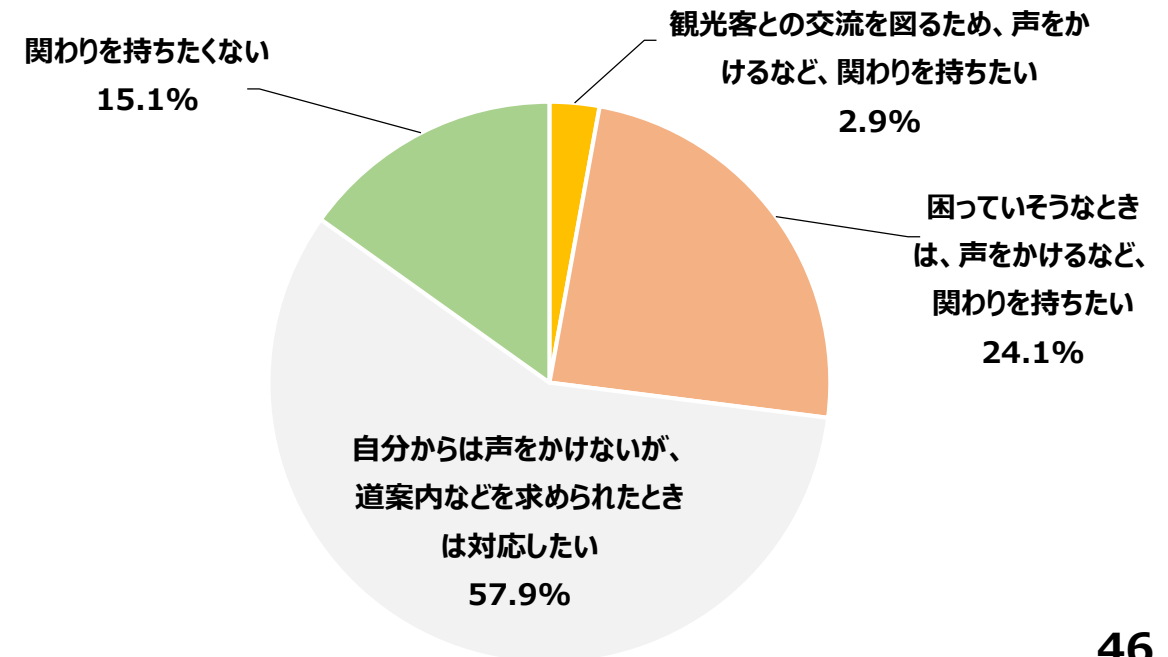
※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

普段、観光客との関わりはありますか



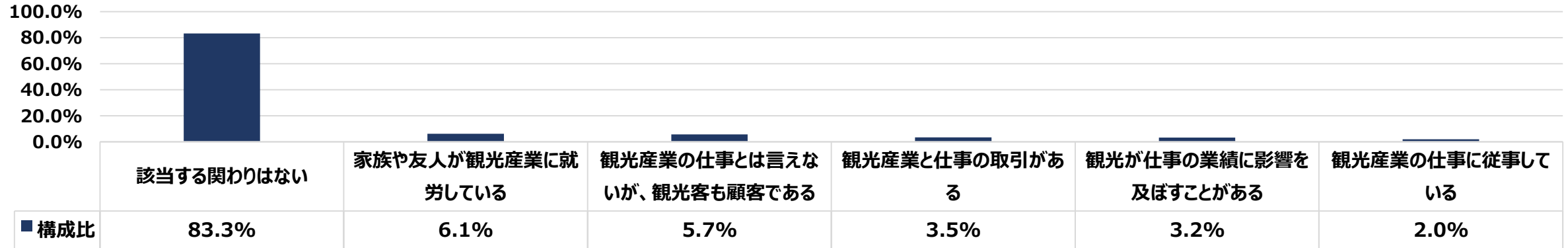
観光客と関わりを持ちたいと思いますか

	人数	構成比
観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい	86	2.9%
困っていそうなときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい	724	24.1%
自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい	1,736	57.9%
関わりを持ちたくない	454	15.1%
総計	3,000	100.0%

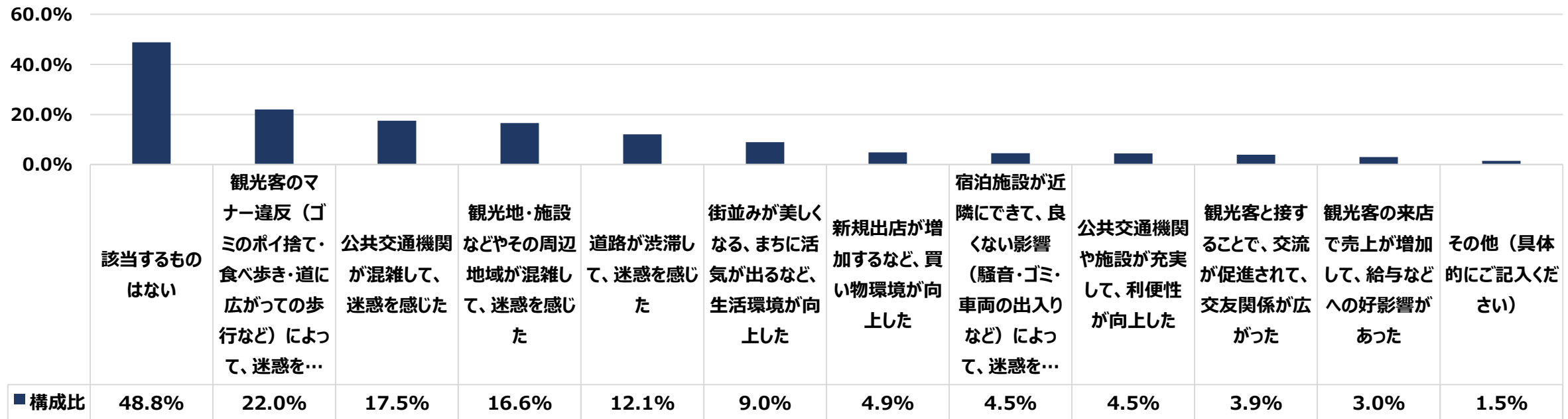


※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

観光産業との関わりはありますか

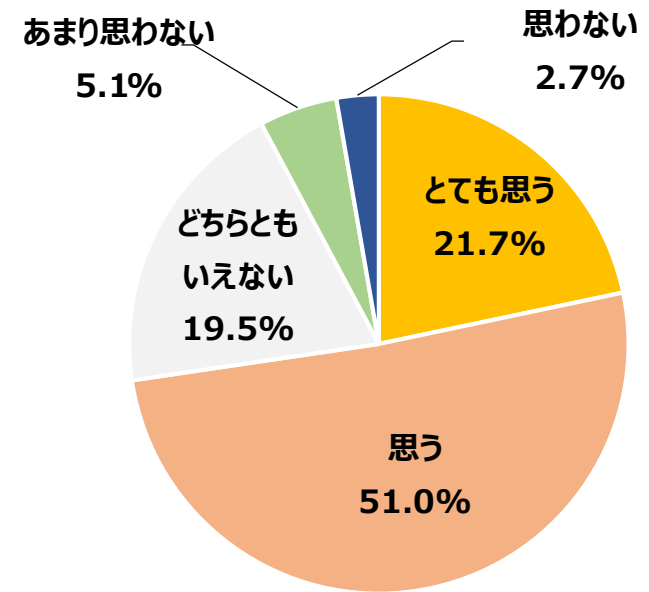


あなたが考える「観光が自身にもたらす影響」



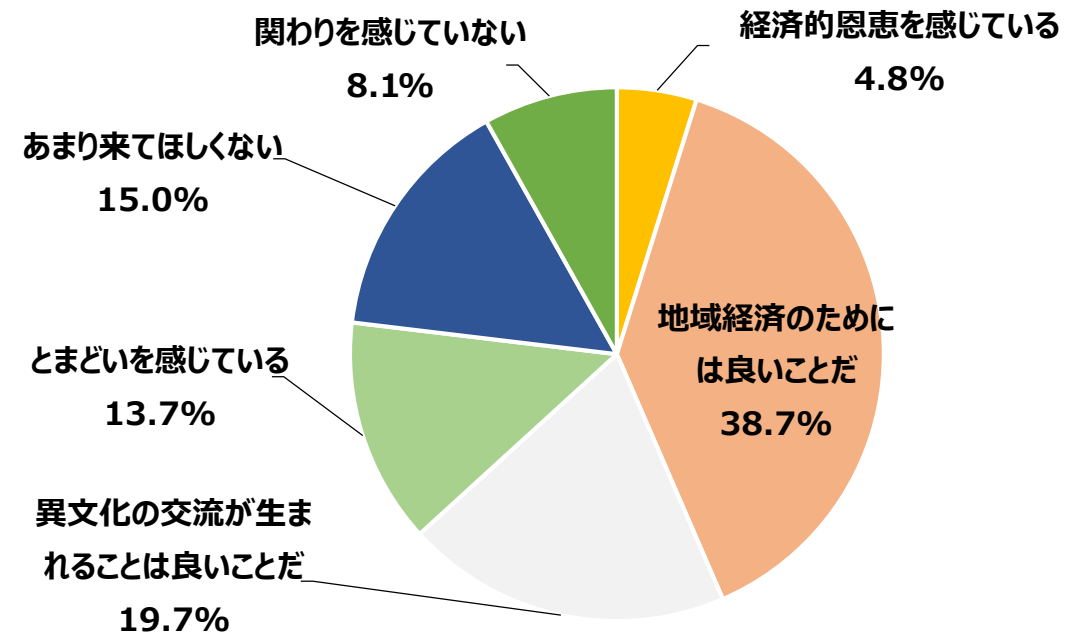
地域の経済発展に、観光が重要な役割を果たしていると思いますか

	人数	構成比
とても思う	651	21.7%
思う	1,529	51.0%
どちらともいえない	586	19.5%
あまり思わない	152	5.1%
思わない	82	2.7%
総計	3,000	100.0%



訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じていますか

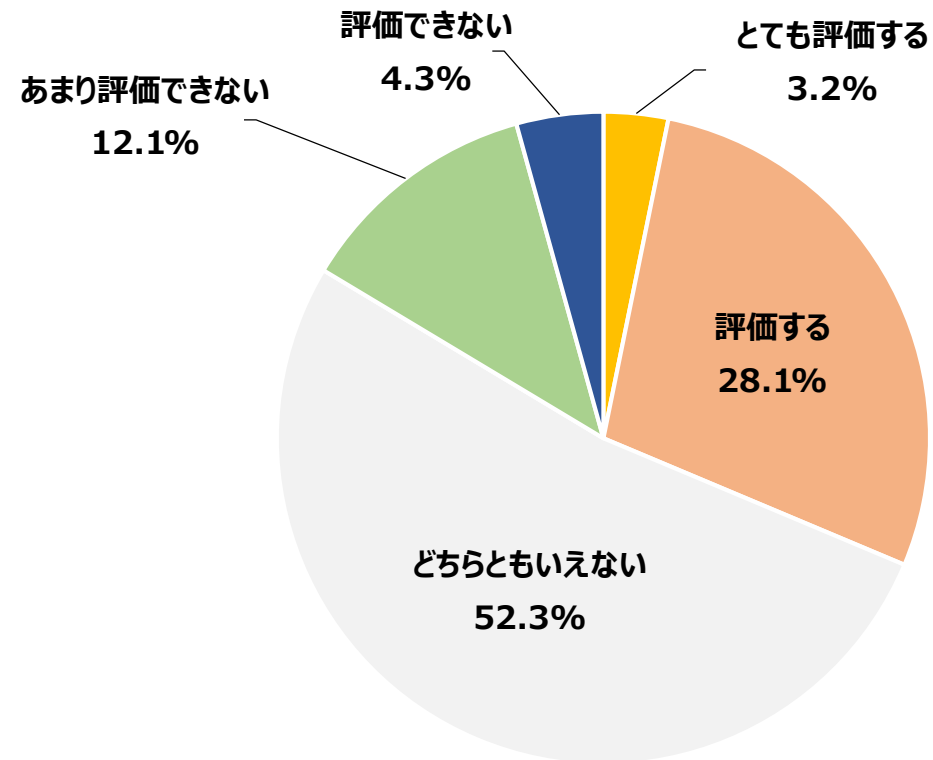
	人数	構成比
経済的恩恵を感じている	145	4.8%
地域経済のためには良いことだ	1,160	38.7%
異文化の交流が生まれることは良いことだ	592	19.7%
とまどいを感じている	410	13.7%
あまり来てほしくない	449	15.0%
関わりを感じていない	244	8.1%
総計	3,000	100.0%



※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

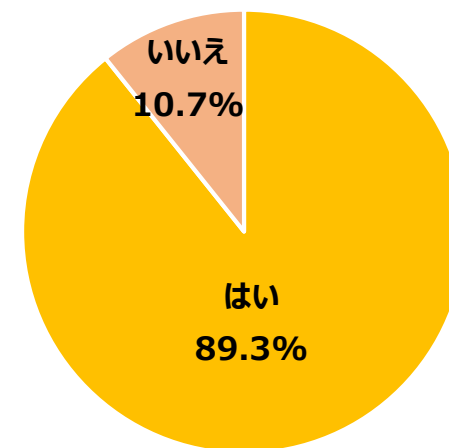
観光に関する地域の行政や観光協会、経済界の取り組みについて、あなたの評価を教えてください

	人数	構成比
とても評価する	96	3.2%
評価する	844	28.1%
どちらともいえない	1,568	52.3%
あまり評価できない	363	12.1%
評価できない	129	4.3%
総計	3,000	100.0%



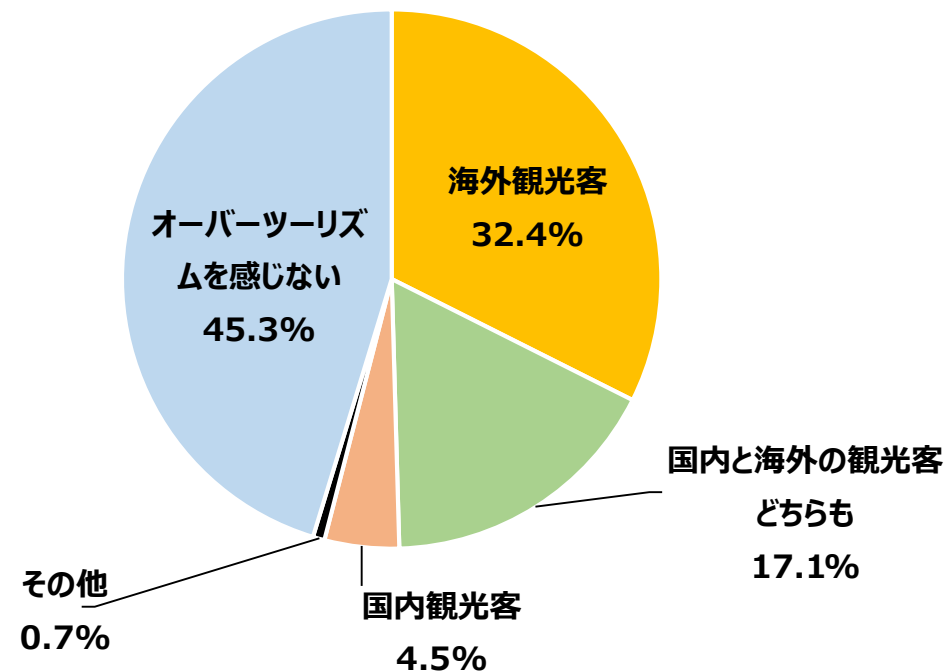
あなたは、「オーバーツーリズム」という言葉を知っていましたか

	人数	構成比
はい	2,678	89.3%
いいえ	322	10.7%
総計	3,000	100.0%



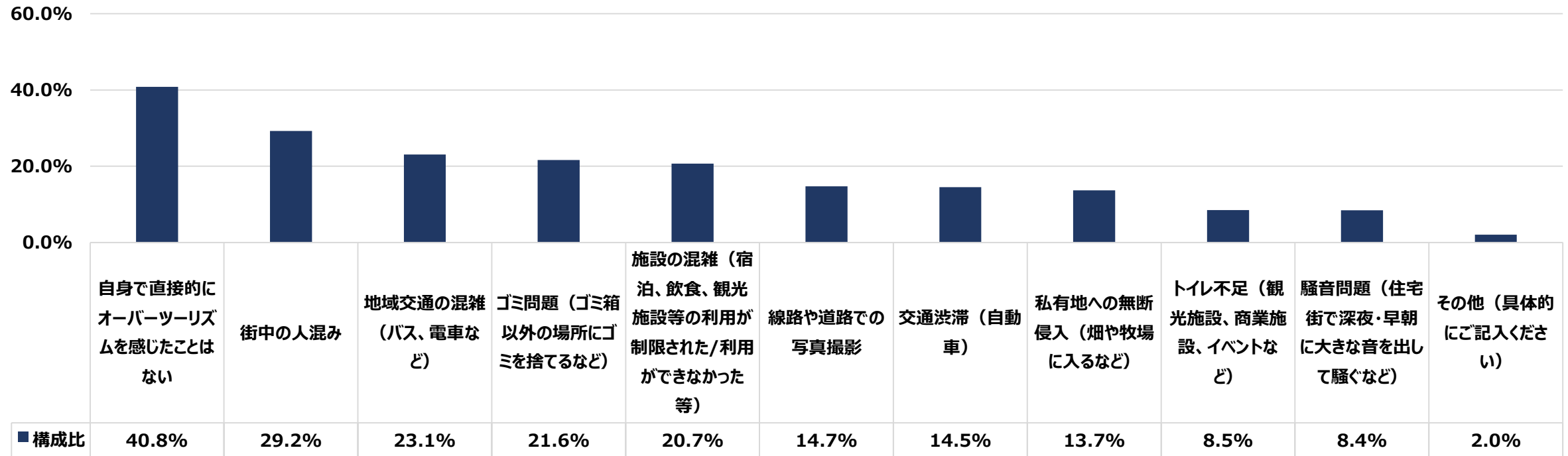
お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は、国内または海外どちらの観光客によるものですか

	人数	構成比
海外観光客	972	32.4%
国内と海外の観光客どちらも	514	17.1%
国内観光客	134	4.5%
その他	21	0.7%
オーバーツーリズムを感じない	1,358	45.3%
総計	3,000	100.0%



※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

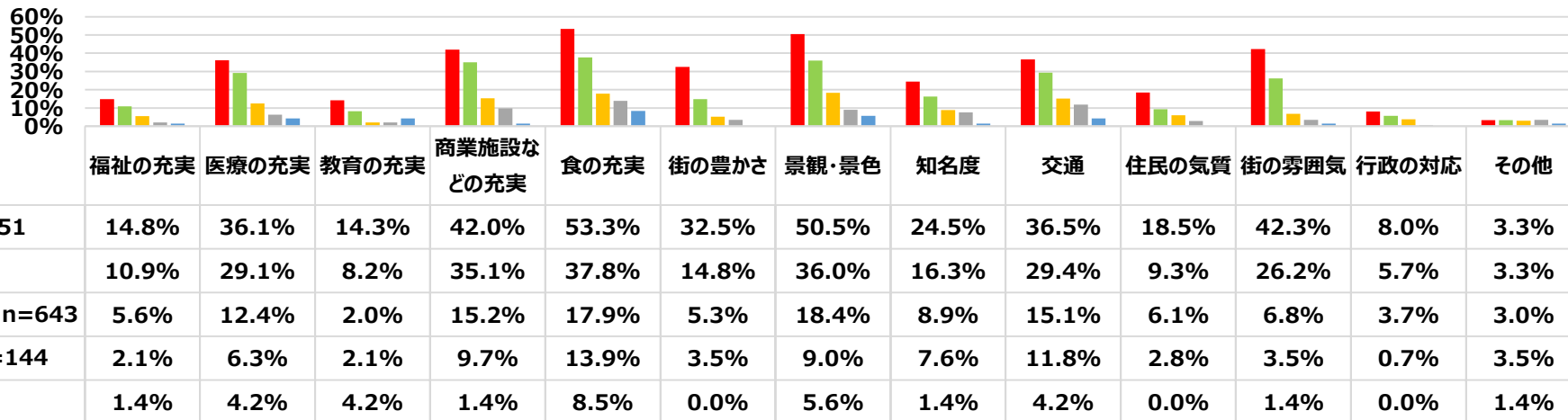
お住まいの地域で、あなたが体験した「オーバーツーリズム」



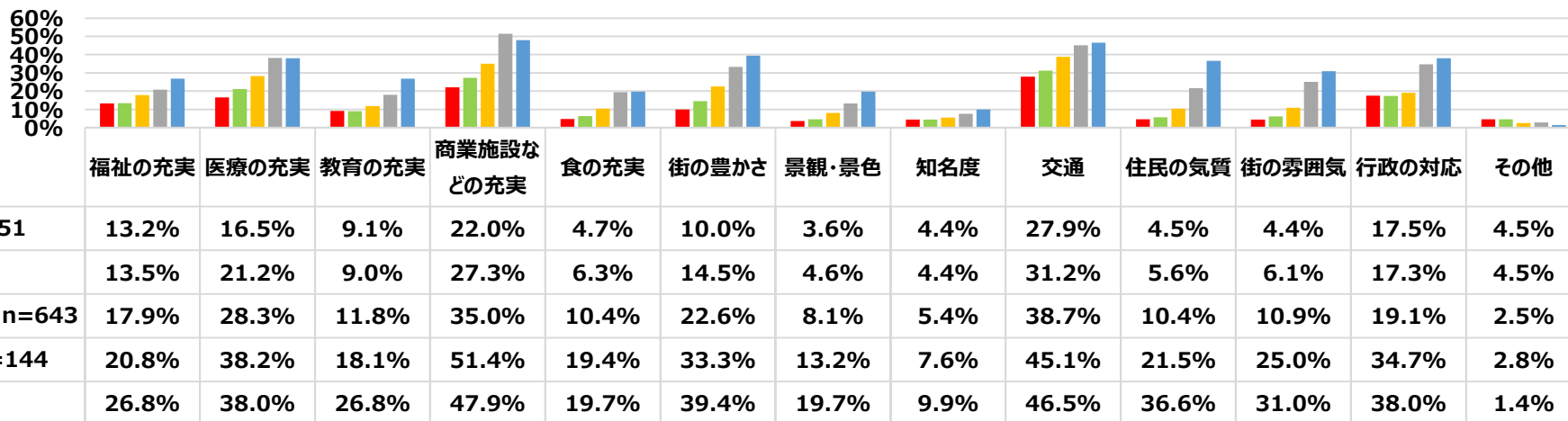
3 クロス集計分析

3-1 満足度形成要因の抽出①居住地満足度

居住地への愛着心×お住まいの地域の「満足」ポイント
(居住地への愛着心 回答者数比) n=3,000



居住地への愛着心×お住まいの地域の「不満」ポイント
(居住地への愛着心 回答者数比) n=3,000



居住地への「愛着・誇り」を示す居住地満足度の形成要因の抽出を目的に、「居住地への愛着や誇りを感じるか」への回答内容と、地域への「満足ポイント（複数回答）」「不満ポイント（複数回答）」とでクロス集計分析を行った。

分母は「居住地への愛着心」の回答者数。

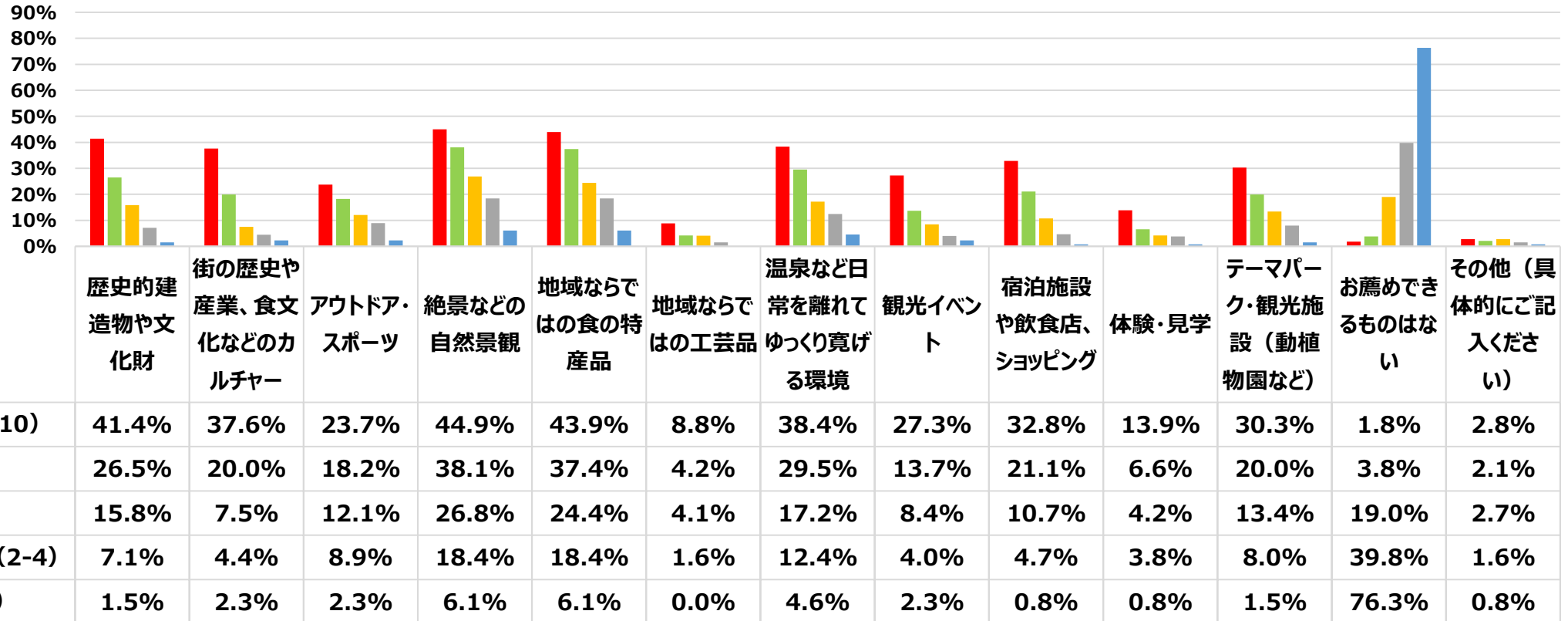
「満足」ポイントでは、居住地への愛着・誇りを「とても感じる」と回答した層で、「食の充実」「景観・景色」「街の雰囲気」「商業施設などの充実」などが高くなっている。

一方、「不満」ポイントで、愛着・誇りを「感じない」の回答者で「商業施設などの充実」「交通」など「生活利便性」に直結する要因が高くなっている。

3-2 満足度形成要因の抽出②社会的満足度 1/4

お住まいの地域の観光をお薦めしたいか×お住まいの地域周辺で観光客にお薦めできるもの（MA）

（お住まいの地域の観光をお薦めしたいか 回答者数比） n=3,000

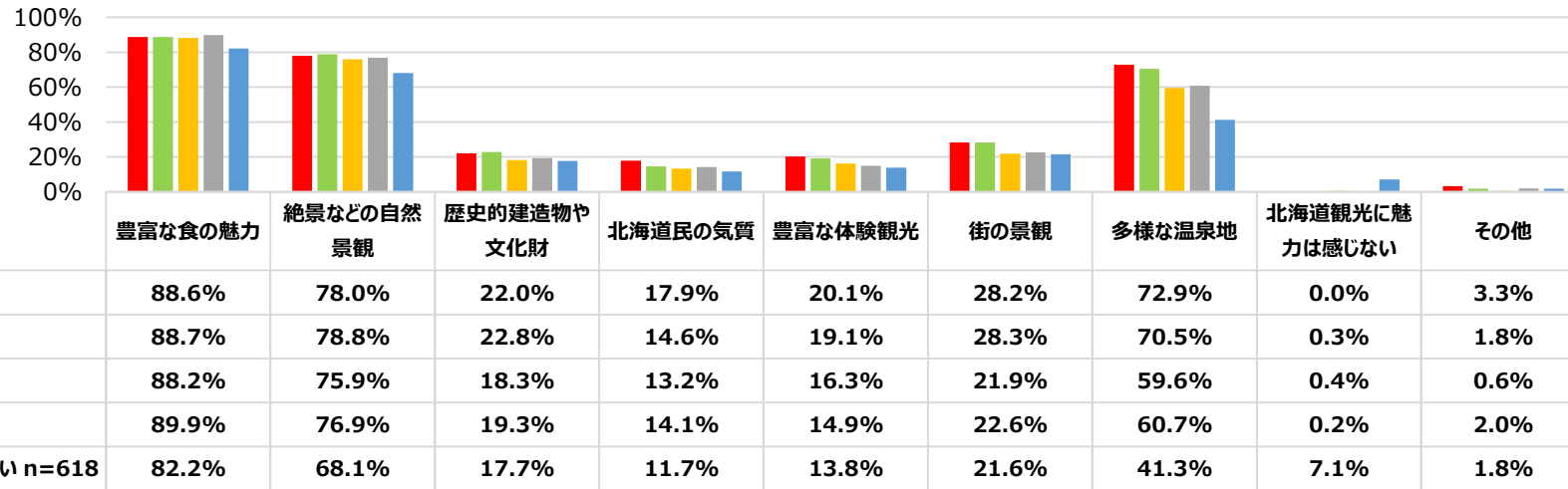


社会的満足度の構成要素である「居住地域の観光推奨度（お住まいの地域の観光をお薦めしたいか）」の要因を探るため、「お住まいの地域周辺で観光客にお薦めできるもの（複数回答）」とのクロス集計分析を行った。分母は「居住地域の観光推奨度」。「とてもお薦めしたい」と回答した層では、「絶景などの自然景観」「地域ならではの食の特産品」「歴史的建造物や文化財」が40%を超え上位3回答を占めた。

3-2 満足度形成要因の抽出②社会的満足度 2/4

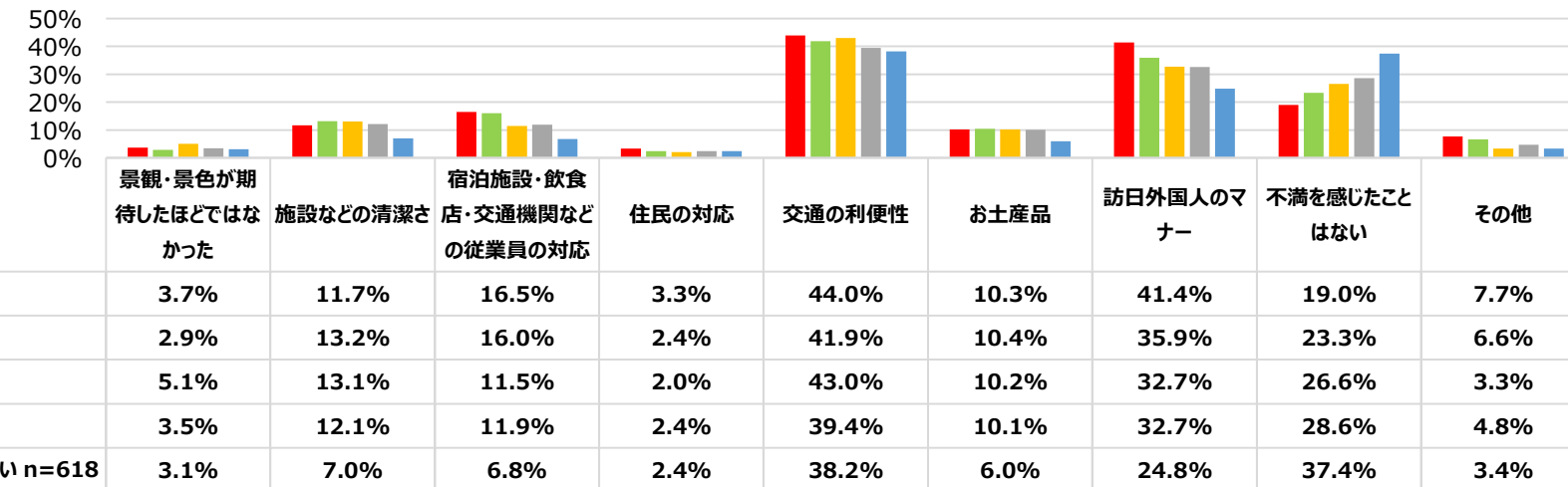
道内で宿泊旅行する頻度×北海道観光の魅力（MA）

（道内宿泊旅行頻度 回答者数比） n=3,000



道内で宿泊旅行する頻度×北海道観光で不満を感じたこと（MA）

（道内宿泊旅行頻度 回答者数比） n=3,000



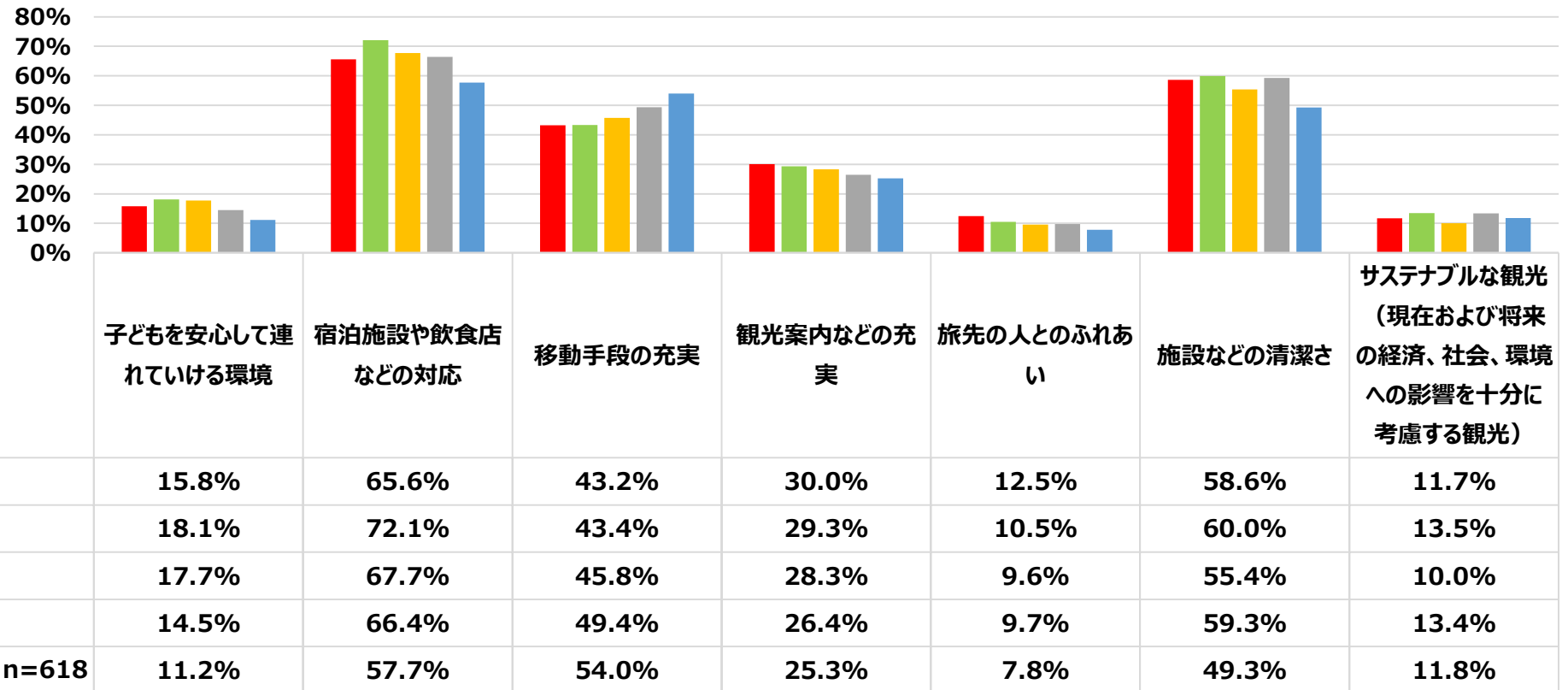
社会的満足度に「個人の道内宿泊旅行頻度（習慣）」が影響を及ぼしているとの仮説の下、「道内宿泊旅行頻度」と「北海道観光の魅力（複数回答）」、「北海道観光で不満を感じたこと（複数回答）」のクロス集計分析を行った。分母は「道内宿泊旅行頻度」の回答者数。

「北海道観光の魅力」では、「多様な温泉地」と回答した割合が特に旅行頻度に比例している。

一方、「北海道観光で不満を感じたこと」では、「訪日外国人のマナー」「宿泊施設などの従業員の対応」と回答した割合が旅行頻度と比例している。また、「不満を感じたことはない」と回答した割合は旅行をしない層ほど高い。

3-2 満足度形成要因の抽出②社会的満足度 3/4

道内で宿泊旅行する頻度×旅で重要視する要素（MA）
（道内宿泊旅行頻度 回答者数比） n=3,000

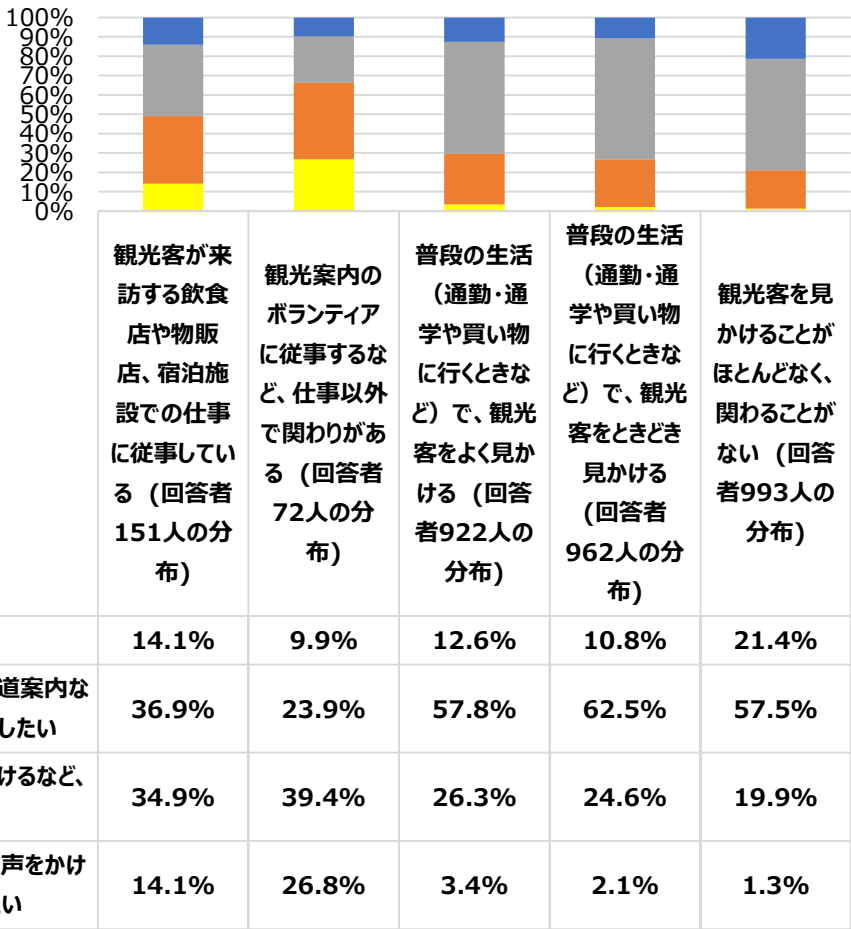


同様に、道内宿泊旅行頻度ごとの「旅で重要視する要素（複数回答）」を確認した。

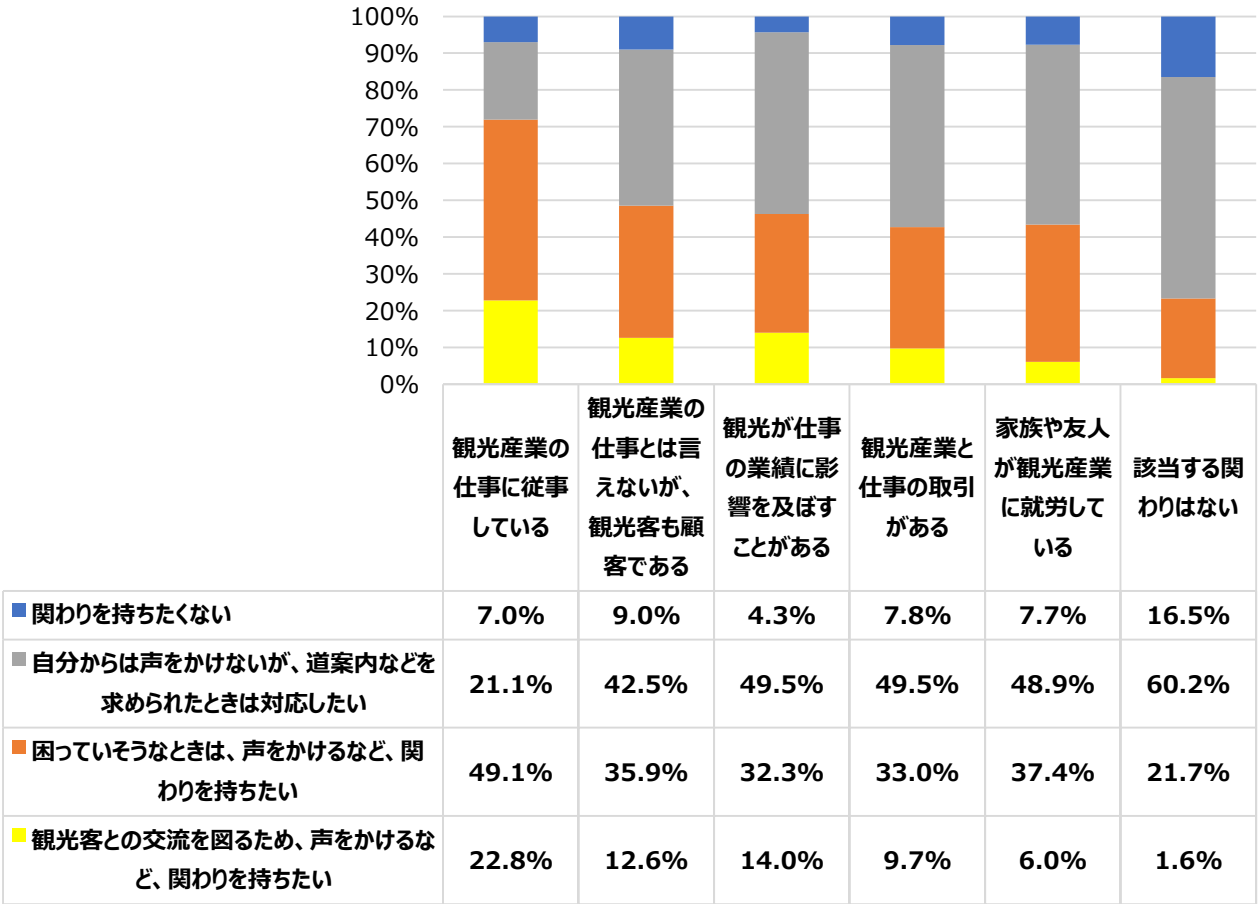
「移動手段の充実」は、旅行頻度が低い層で回答率が高い。

「子どもを安心して連れていける環境」「宿泊施設や飲食店などの対応」、「施設などの清潔さ」「サステナブルな観光」は「1年に2回、3回」の層が最も高い。

観光客との関わり意向×観光客との関わり（MA）
（観光客との関わり 回答者数比）



観光客との関わり意向×観光産業との関わり（MA）
（観光産業との関わり 回答者数比）

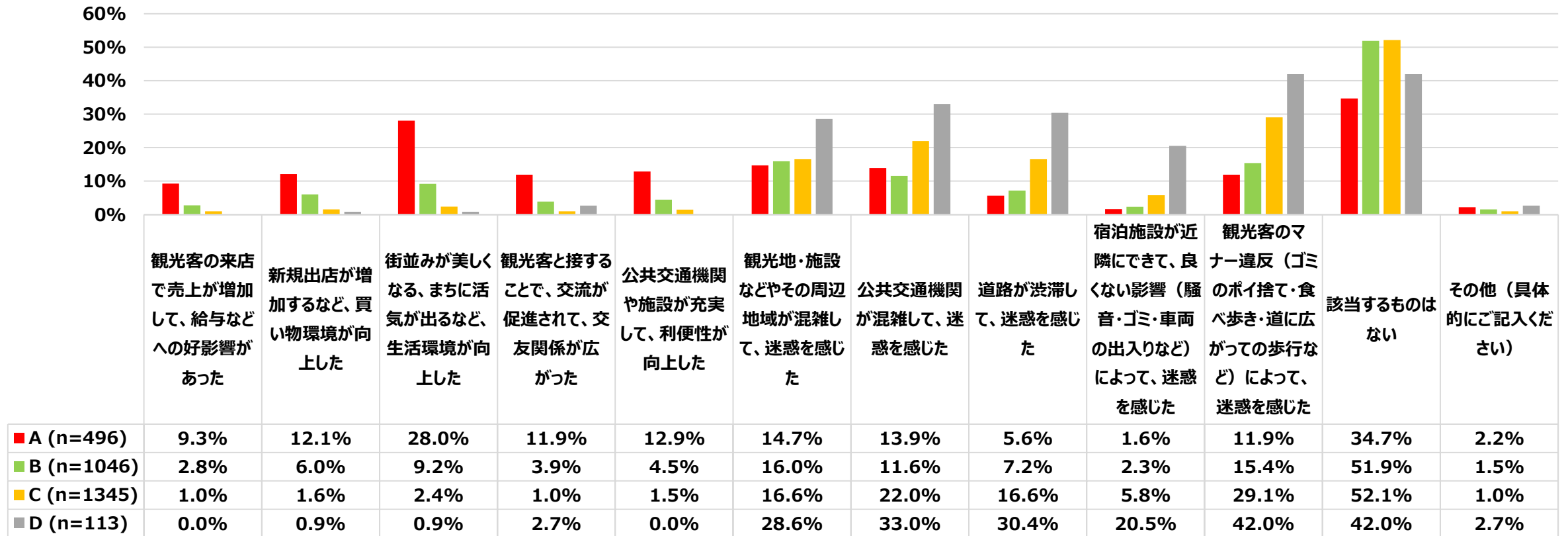


社会的満足度の構成要素である「観光客との関わり意向」について、影響を及ぼし得る要因として「観光客との関わり」と「観光産業との関わり」の影響を見た。観光産業や観光客と関わる仕事、またはボランティアなどで観光客と関わる層で、関わり意向が強い傾向が明確に表れている。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-3 満足度形成要因の抽出③経済的満足度 1/3

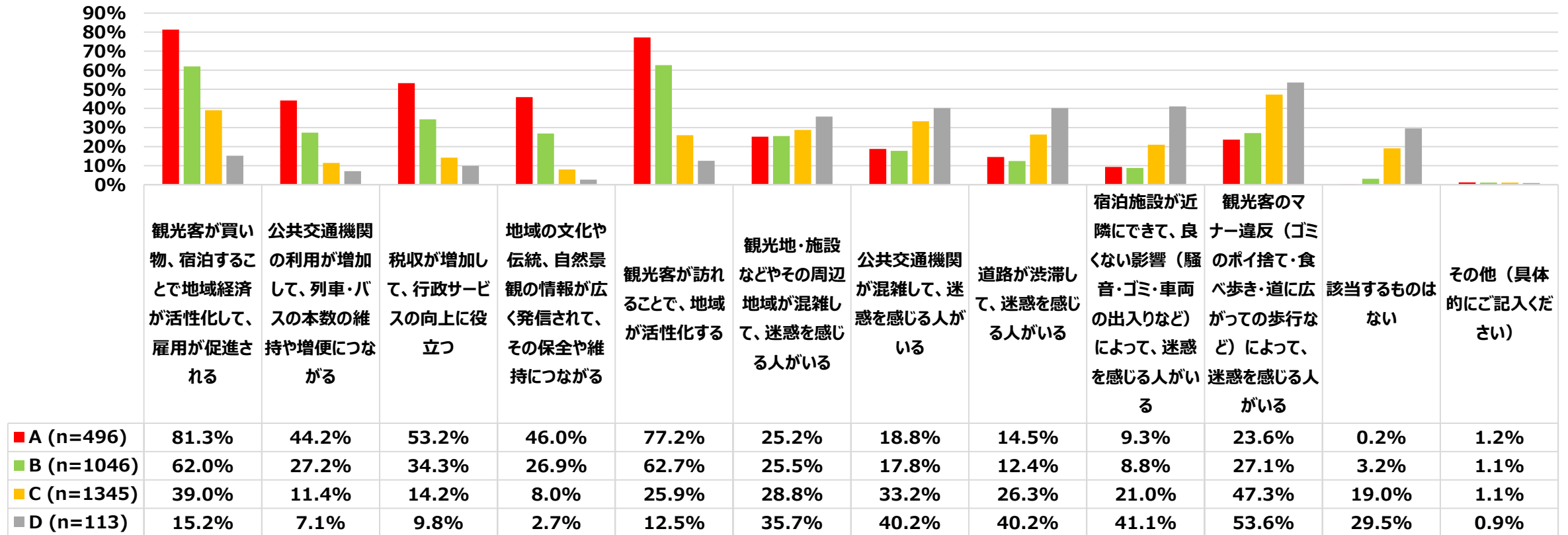
経済的満足度×観光の自身への影響（MA）
（経済的満足度 回答者数比） n=3,000



経済的満足度の構成要因検証のため、「観光の自身への影響」を経済的満足度のランク毎に見た。
経済的満足度Aの回答者では「町並みが美しくなる、まちに活気が出るなど生活環境の向上」と回答した割合が最も高い。
一方、経済的満足度Dの回答者では、「観光客のマナー違反」「観光地周辺や公共交通機関、道路の混雑・迷惑」などのオーバーツーリズムに関する回答が多くなっている。

3-3 満足度形成要因の抽出③経済的満足度 2/3

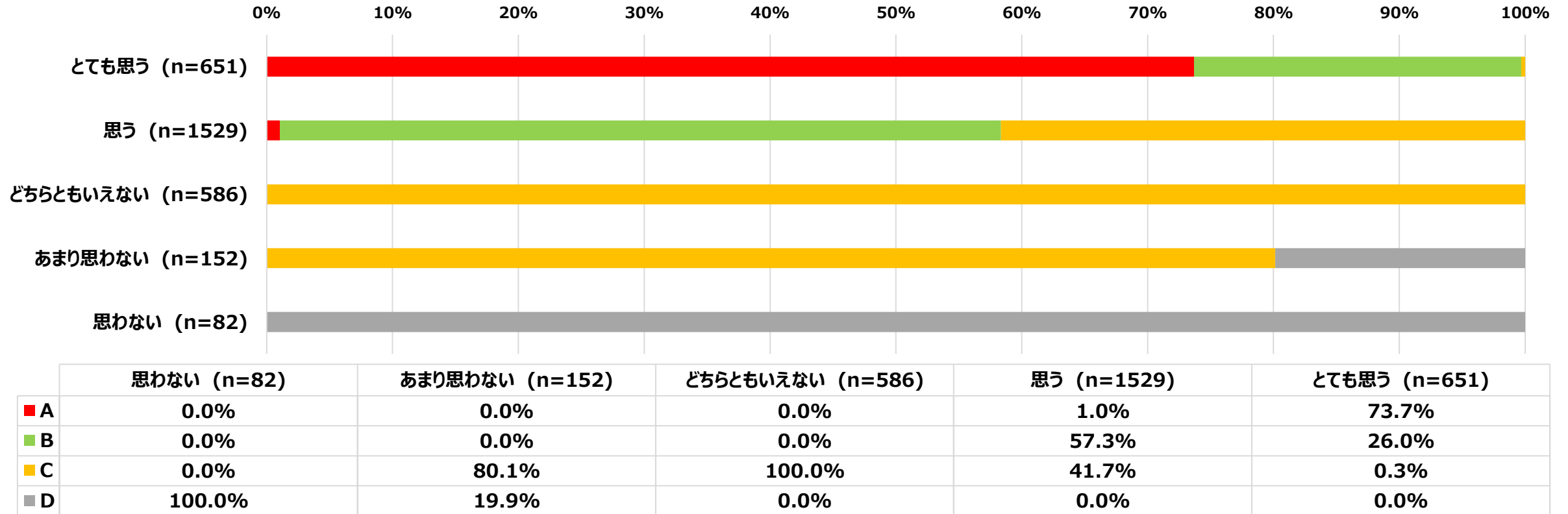
経済的満足度×観光の地域への影響（MA）
（経済的満足度 回答者数比） n=3,000



同様に「観光の地域への影響」を「経済的満足度」のランク毎に見た。
Aランクでは特に「雇用が促進される」「地域が活性化する」と回答した割合が高い一方、Dランクでは「マナー違反」「混雑」などの負の影響を回答した層がそれぞれ3～5割存在する。

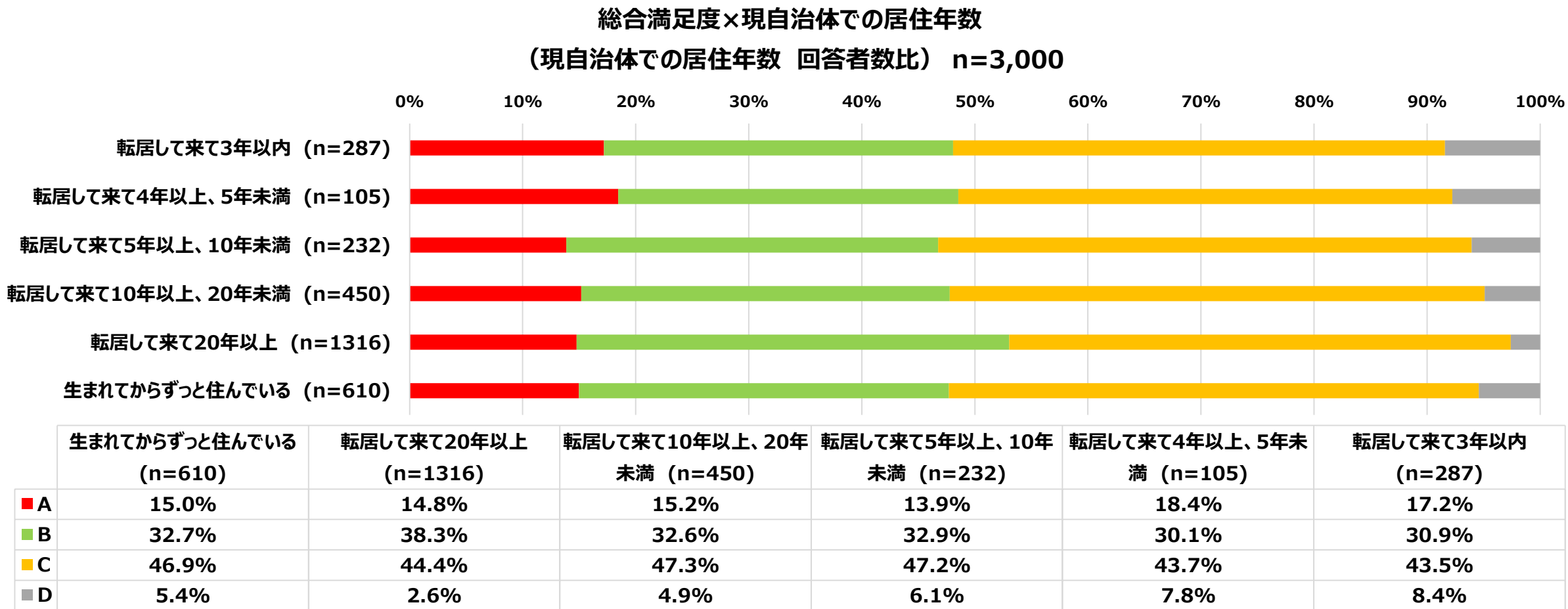
3-3 満足度形成要因の抽出③経済的満足度 3/3

経済的満足度×観光の地域経済への重要度
(観光の地域経済への重要度 回答者数比) n=3,000



経済的満足度の構成要因検証のため、「観光の地域経済への重要度」の回答者に対する経済的満足度ランクの構成比を見た。
経済的満足度Aランクの回答者は「とても思う」が73.7%と約4分の3を占める。
一方、もっとも数の多い「思う」と回答した層ではBランク、Cランクがそれぞれ半数程度を占め、Aランクは1.0%と少ない。

3-4 各満足度への影響要因の抽出①居住年数 1/4

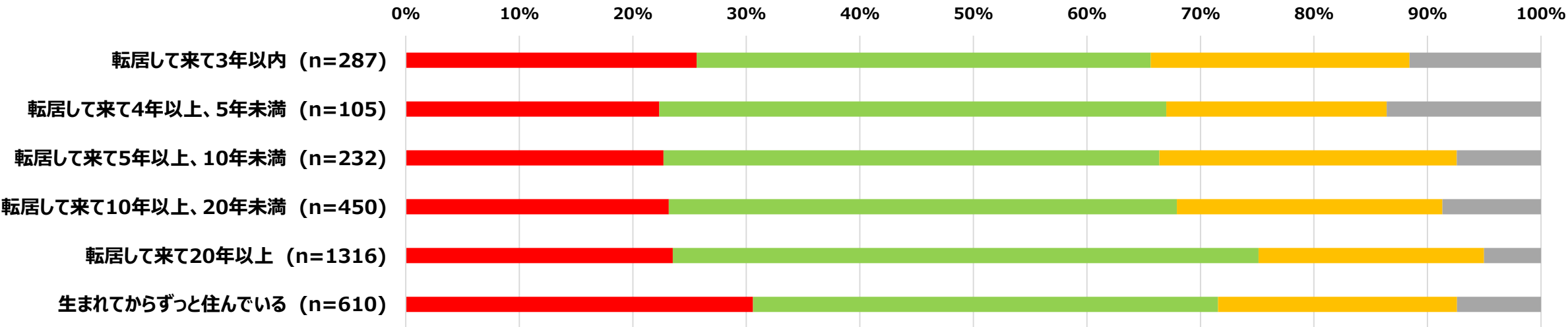


現自治体での居住年数と総合満足度の関係を見た。

Aランク・Bランクの合計は「転居してきて20年以上」の層で53.1%と最も高いが、総じて居住年数と総合満足度の比例関係はみられない。

3-4 各満足度への影響要因の抽出①居住年数 2/4

居住地満足度×現自治体での居住年数
(現自治体での居住年数 回答者数比) n=3,000



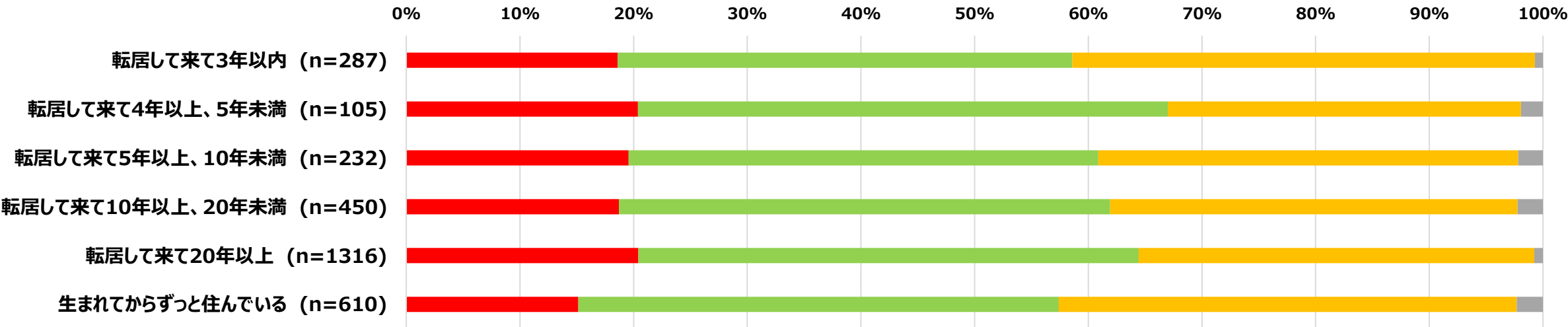
	生まれてからずっと住んでいる (n=610)	転居して来て20年以上 (n=1316)	転居して来て10年以上、20年 未満 (n=450)	転居して来て5年以上、10年 未満 (n=232)	転居して来て4年以上、5年未 満 (n=105)	転居して来て3年以内 (n=287)
■ A	30.6%	23.5%	23.2%	22.7%	22.3%	25.6%
■ B	41.0%	51.6%	44.8%	43.7%	44.7%	40.0%
■ C	21.1%	19.9%	23.4%	26.2%	19.4%	22.8%
■ D	7.4%	5.0%	8.7%	7.4%	13.6%	11.6%

現自治体での居住年数と居住地満足度の関係を見た。
「生まれてからずっと住んでいる」層でAランクの比率が30%以上となり最も高い。一方、次いでAランクの割合が高いのは「3年以内」である。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-4 各満足度への影響要因の抽出①居住年数 3/4

社会的満足度×現自治体での居住年数
(現自治体での居住年数 回答者数比) n=3,000



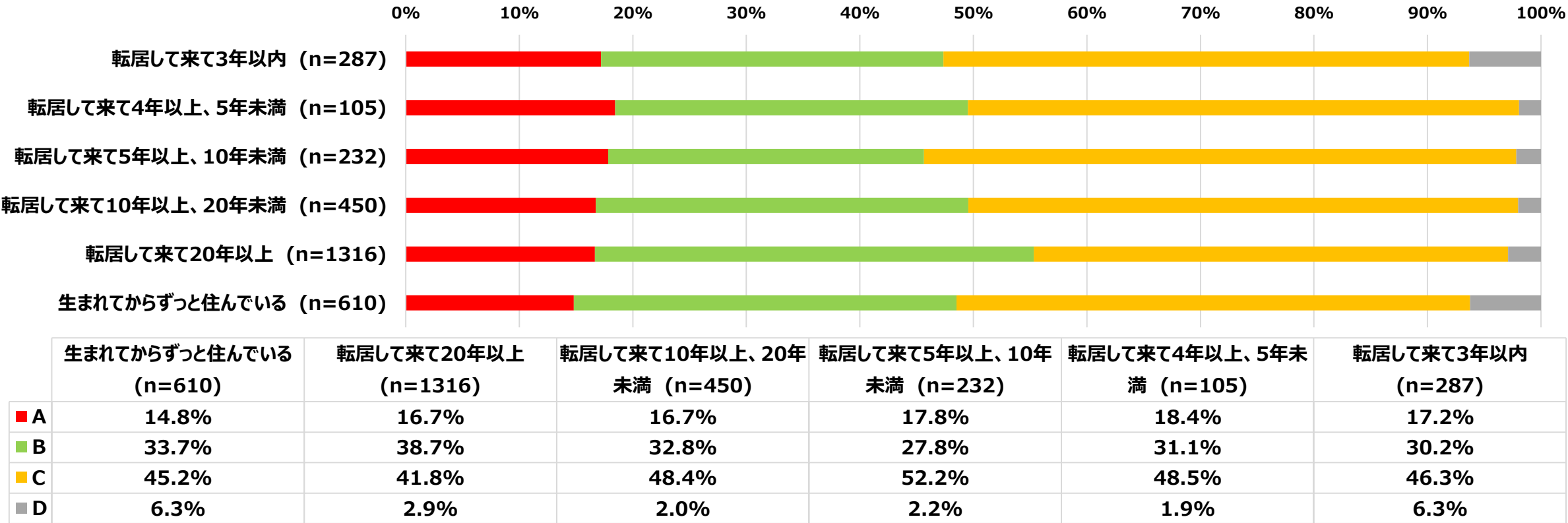
	生まれてからずっと住んでいる (n=610)	転居して来て20年以上 (n=1316)	転居して来て10年以上、20年 未満 (n=450)	転居して来て5年以上、10年 未満 (n=232)	転居して来て4年以上、5年未 満 (n=105)	転居して来て3年以内 (n=287)
A	15.1%	20.4%	18.7%	19.6%	20.4%	18.6%
B	42.3%	44.0%	43.2%	41.3%	46.6%	40.0%
C	40.3%	34.8%	35.9%	37.0%	31.1%	40.7%
D	2.3%	0.8%	2.2%	2.2%	1.9%	0.7%

現自治体での居住年数と社会的満足度には明確な比例関係はない。
Aランク・Bランクの合計割合は「転居してきて4年以上、5年未満」が最も高くなっている。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-4 各満足度への影響要因の抽出①居住年数 4/4

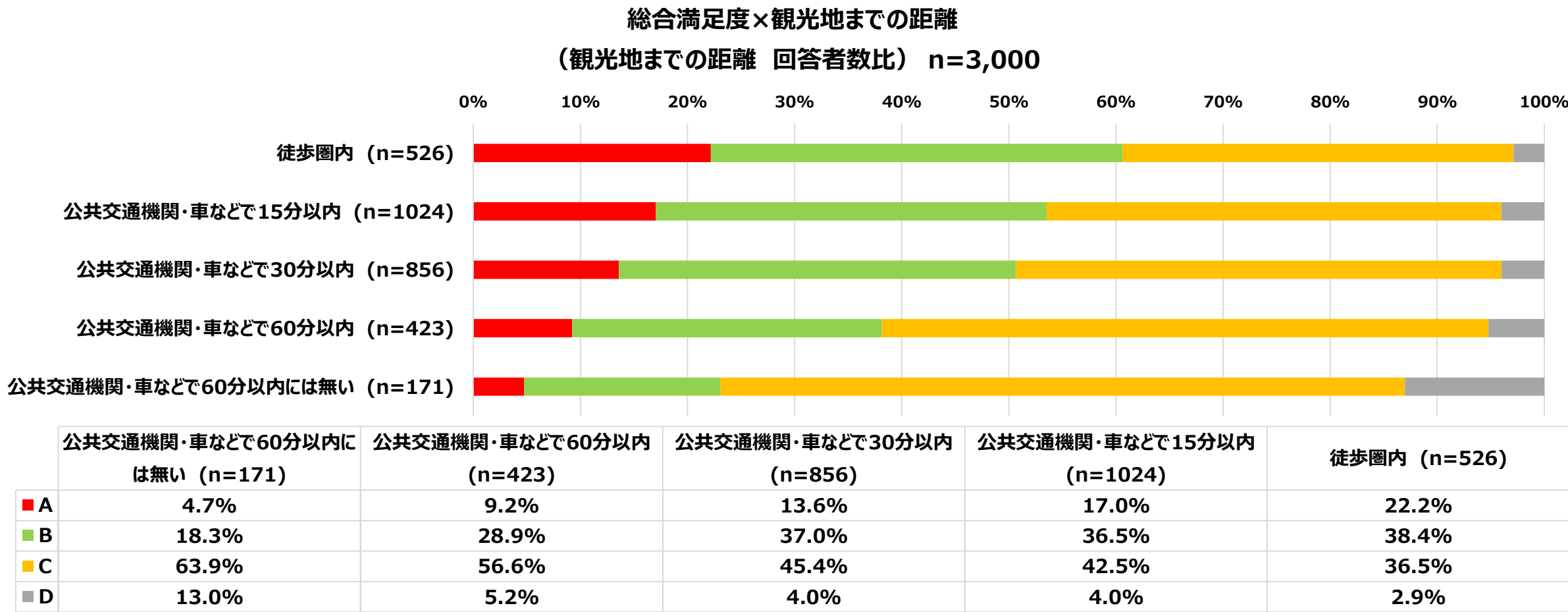
経済的満足度×現自治体での居住年数
 (現自治体での居住年数 回答者数比) n=3,000



経済的満足度に関しても、現自治体での居住年数との間に明確な比例関係はない。
 Aランク・Bランクの合計割合が最も高いのは「転居してきて20年以上」である。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-5 各満足度への影響要因の抽出②観光地・施設との距離 1/4

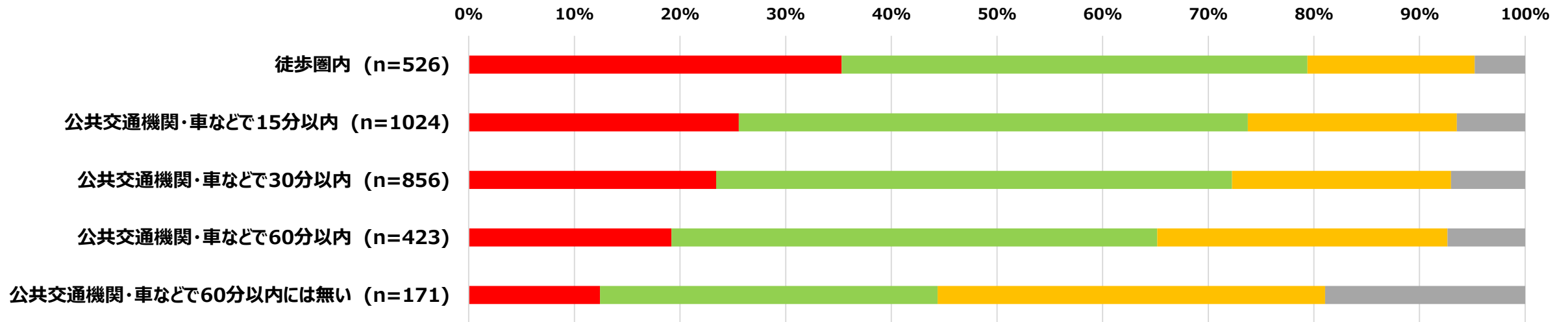


観光地までの距離が近いほど明確に総合満足度Aランク・Bランクの割合が高くなる。
「徒歩圏内」と回答した層の満足度が最も高く、距離が長くなるにしたがって明確に満足度が下がる傾向がみられる。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-5 各満足度への影響要因の抽出②観光地・施設との距離 2/4

居住地満足度×観光地までの距離
(観光地までの距離 回答者数比) n=3,000

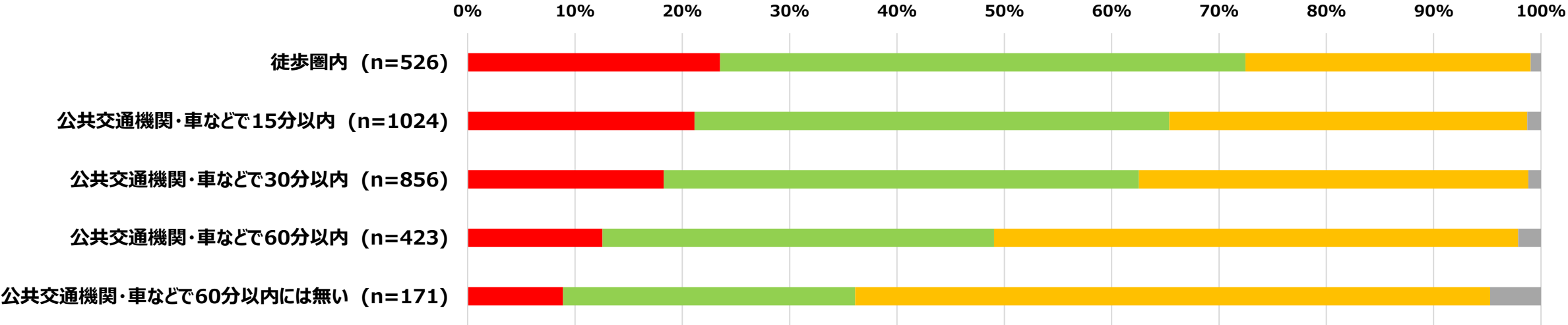


	公共交通機関・車などで60分以内には無い (n=171)	公共交通機関・車などで60分以内 (n=423)	公共交通機関・車などで30分以内 (n=856)	公共交通機関・車などで15分以内 (n=1024)	徒歩圏内 (n=526)
■ A	12.4%	19.2%	23.4%	25.6%	35.3%
■ B	32.0%	46.0%	48.8%	48.2%	44.1%
■ C	36.7%	27.5%	20.7%	19.8%	15.8%
■ D	18.9%	7.3%	7.0%	6.5%	4.8%

総合満足度と同じく、「徒歩圏内」と回答した層の満足度が最も高く、距離が長くなるにしたがって明確に満足度が下がる傾向がみられる。

3-5 各満足度への影響要因の抽出②観光地・施設との距離 3/4

社会的満足度×観光地までの距離
(観光地までの距離 回答者数比) n=3,000



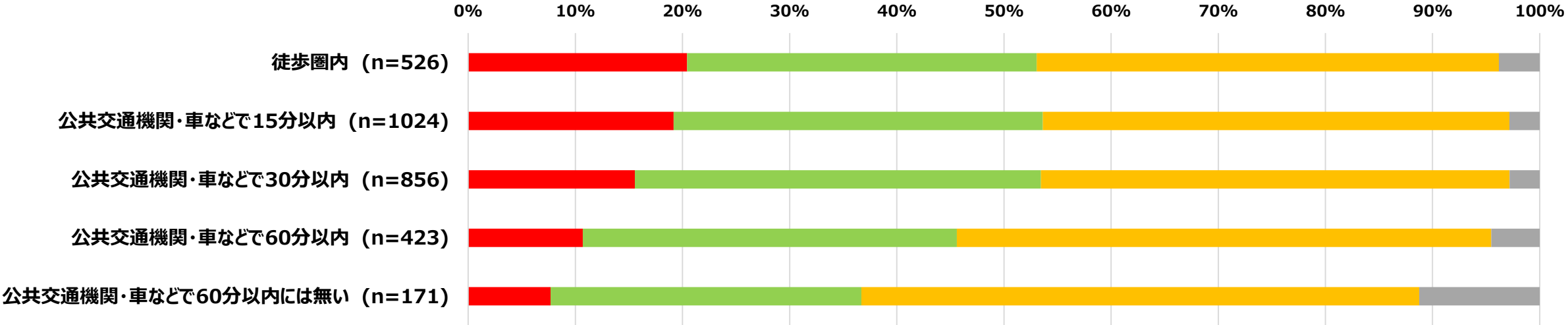
	公共交通機関・車などで60分以内には無い (n=171)	公共交通機関・車などで60分以内 (n=423)	公共交通機関・車などで30分以内 (n=856)	公共交通機関・車などで15分以内 (n=1024)	徒歩圏内 (n=526)
A	8.9%	12.6%	18.3%	21.1%	23.5%
B	27.2%	36.5%	44.3%	44.2%	48.9%
C	59.2%	48.8%	36.3%	33.4%	26.6%
D	4.7%	2.1%	1.2%	1.3%	1.0%

総合満足度と同じく、「徒歩圏内」と回答した層の満足度が最も高く、距離が長くなるにしたがって明確に満足度が下がる傾向がみられる。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-5 各満足度への影響要因の抽出②観光地・施設との距離 4/4

経済的満足度×観光地までの距離
(観光地までの距離 回答者数比) n=3,000



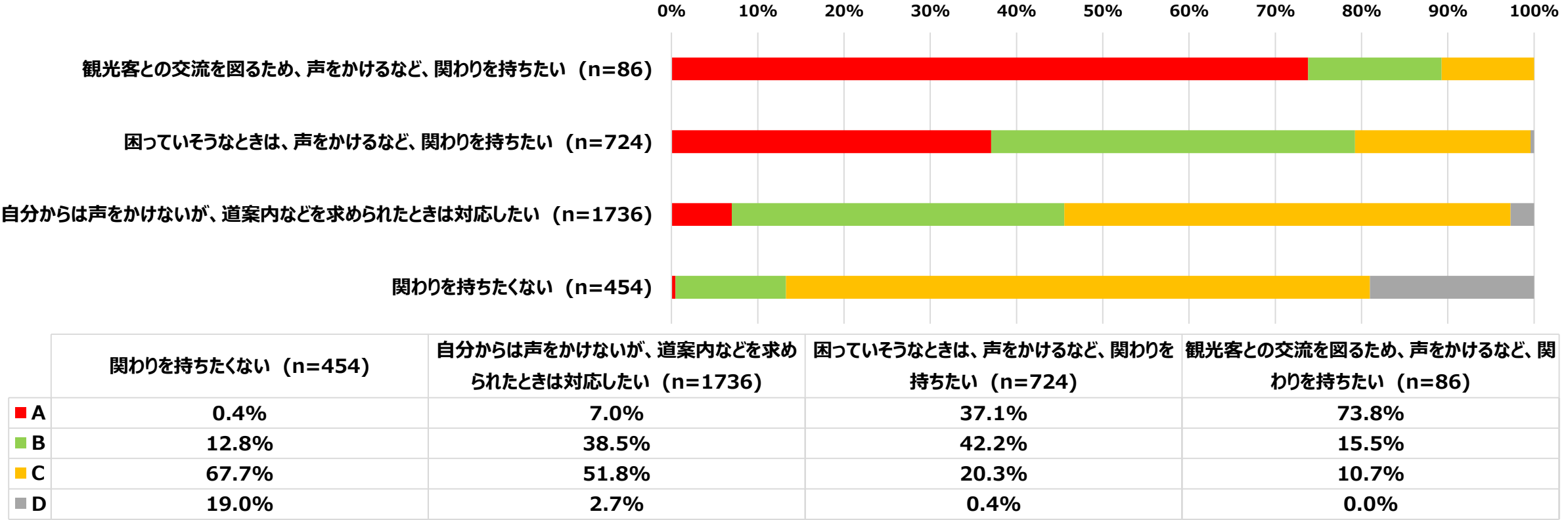
	公共交通機関・車などで60分以内には無い (n=171)	公共交通機関・車などで60分以内 (n=423)	公共交通機関・車などで30分以内 (n=856)	公共交通機関・車などで15分以内 (n=1024)	徒歩圏内 (n=526)
A	7.7%	10.7%	15.6%	19.2%	20.4%
B	29.0%	34.9%	37.9%	34.4%	32.6%
C	52.1%	49.9%	43.7%	43.5%	43.1%
D	11.2%	4.5%	2.8%	2.8%	3.8%

他の満足度と異なり、経済的満足度ではAランク・Bランクの合計が「30分以内」の3カテゴリで50%以上となっており、ほぼ同水準である。経済的満足度に関しては、公共交通機関・車などで30分以内に居住している場合はほぼ変わらない可能性がある。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-6 各満足度への影響要因の抽出③観光客との関わり意向 1/4

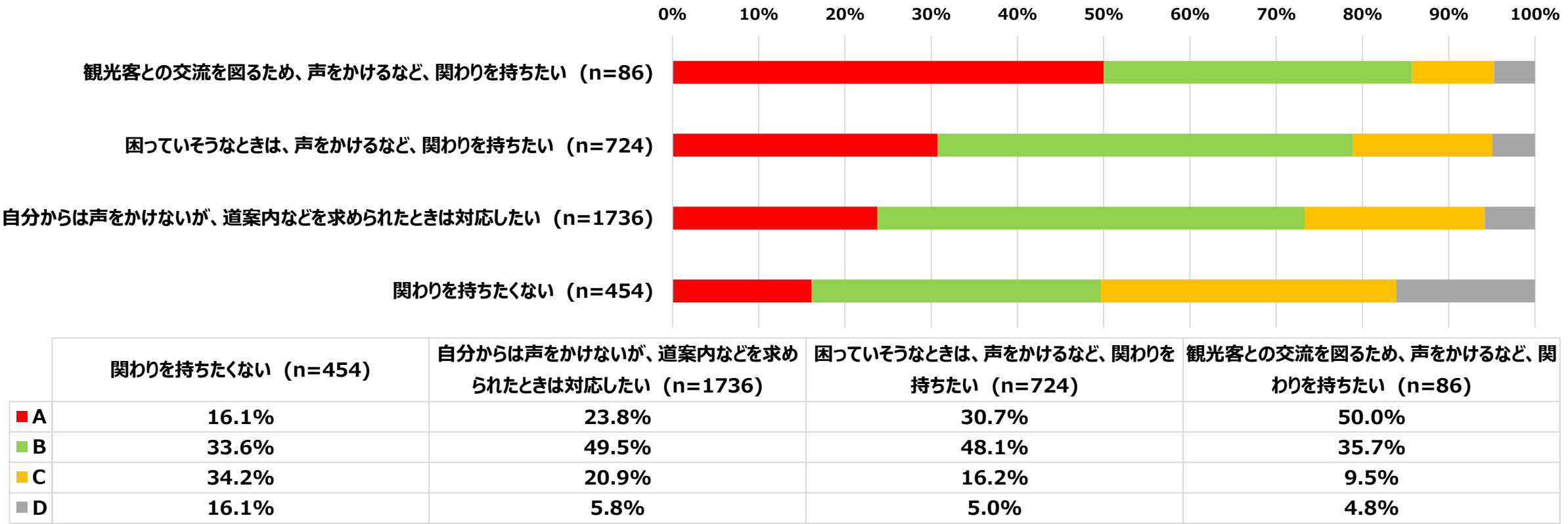
総合満足度×観光客との関わり意向
(観光客との関わり意向 回答者数比) n=3,000



社会的満足度の採点設問である「観光客との関わり意向」から総合満足度を見た。
「観光客との交流を図るため声をかける」層では7割以上がAランクである一方、「関わりを持ちたくない」と回答した層の8割以上がCランクまたはDランクである。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

居住地満足度×観光客との関わり意向
(観光客との関わり意向 回答者数比) n=3,000

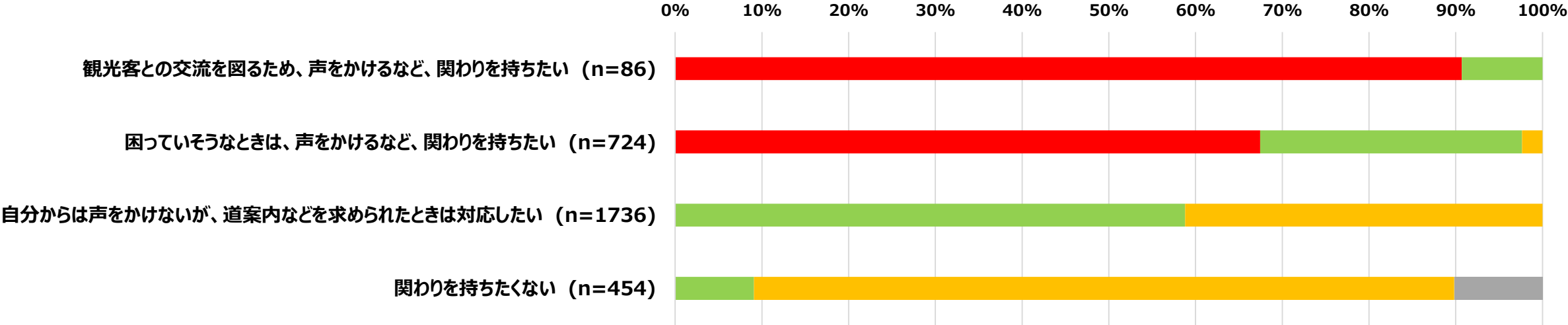


居住地満足度が高いほど「関わりを持ちたい」と回答した割合が高い。
一方で、「関わりを持ちたくない」と回答した層にも居住地満足度Aの回答者が16.1%存在しており、「居住地に誇りや愛着が強いが観光客とは関わりたくない」層の存在がうかがえる。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

社会的満足度×観光客との関わり意向

(観光客との関わり意向 回答者数比) n=3,000

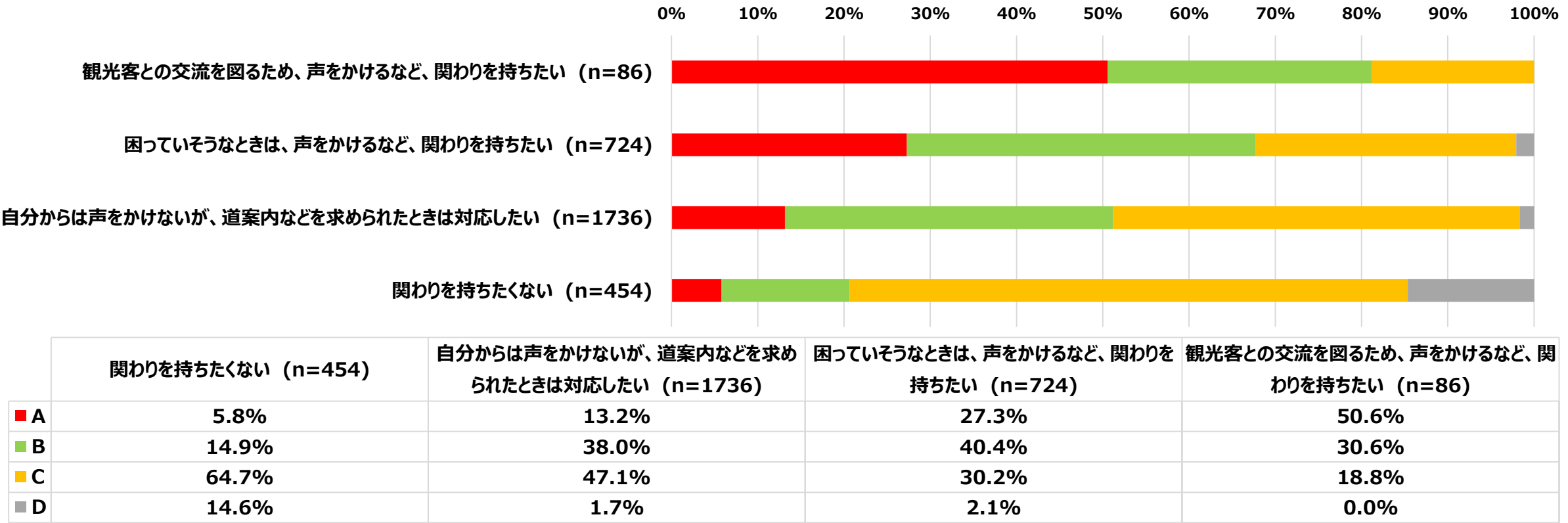


	関わりを持ちたくない (n=454)	自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい (n=1736)	困っていそうなときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=724)	観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=86)
A	0.0%	0.0%	67.5%	90.7%
B	9.1%	58.8%	30.2%	9.3%
C	80.8%	41.2%	2.4%	0.0%
D	10.2%	0.0%	0.0%	0.0%

「観光客との関わり意向」は社会的満足度を算出する基準設問の1つである。
「観光客との交流を図るため関わりを持ちたい」と回答した層の9割以上がAランクである。
「自分からは声をかけないが、道案内を求められたときは対応したい」と回答した層の約6割がBランク、残りはCランクである。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

経済的満足度×観光客との関わり意向
(観光客との関わり意向 回答者数比) n=3,000



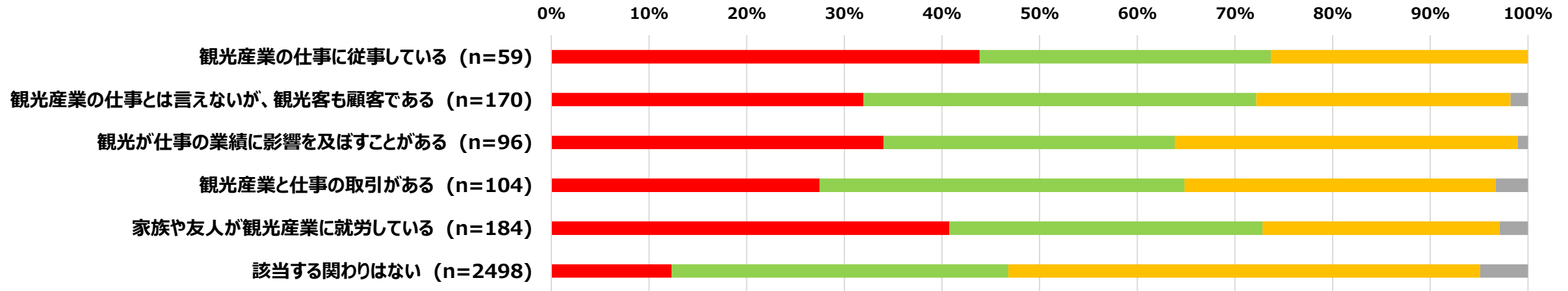
経済的満足度に関しても、「交流を図るため関わりを持ちたい」と回答した層でのAランクの割合が最も高くなっている。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-7 各満足度への影響要因の抽出④観光産業との関わり 1/4

総合満足度×観光産業との関わり

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3,000



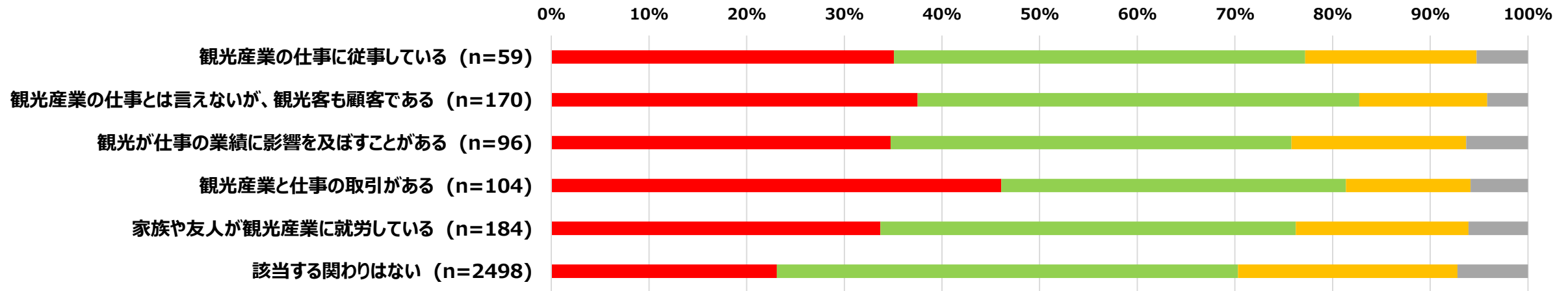
	該当する関わりはない (n=2498)	家族や友人が観光産業に就労 している (n=184)	観光産業と仕事の取引がある (n=104)	観光が仕事の業績に影響を及 ぼすことがある (n=96)	観光産業の仕事とは言えない が、観光客も顧客である (n=170)	観光産業の仕事に従事してい る (n=59)
■ A	12.3%	40.8%	27.5%	34.0%	32.0%	43.9%
■ B	34.5%	32.0%	37.4%	29.8%	40.2%	29.8%
■ C	48.3%	24.3%	31.9%	35.1%	26.0%	26.3%
■ D	4.9%	2.9%	3.3%	1.1%	1.8%	0.0%

「観光産業の仕事に従事している」層は、その他の層に比べて総合満足度のAランクが4割以上と高くなっている。
また、「関わりはない」と回答した層は総合満足度のAランクの割合（12.3%）、Aランク・Bランクの合計割合（46.8%）ともに突出して低い。

3-7 各満足度への影響要因の抽出④観光産業との関わり 2/4

居住地満足度×観光産業との関わり

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3,000



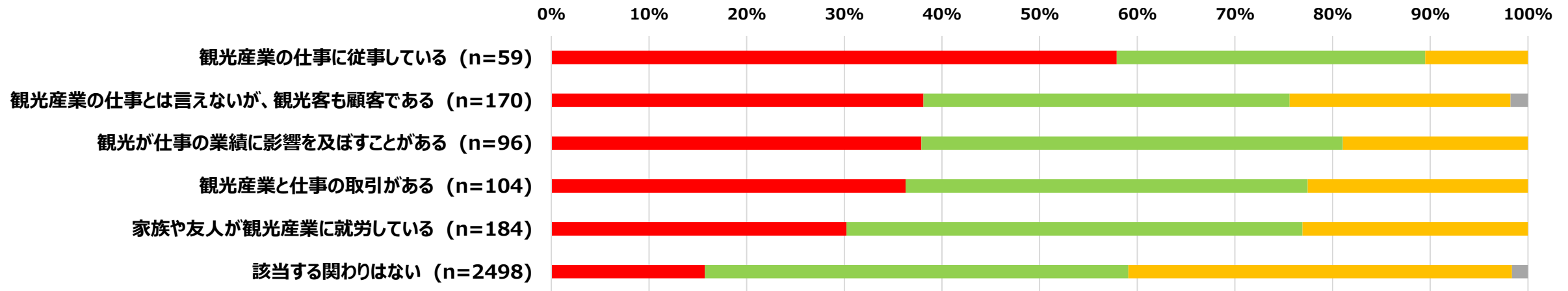
	該当する関わりはない (n=2498)	家族や友人が観光産業に就労 している (n=184)	観光産業と仕事の取引がある (n=104)	観光が仕事の業績に影響を及 ぼすことがある (n=96)	観光産業の仕事とは言えない が、観光客も顧客である (n=170)	観光産業の仕事に従事してい る (n=59)
■ A	23.1%	33.7%	46.1%	34.7%	37.5%	35.1%
■ B	47.2%	42.5%	35.3%	41.1%	45.2%	42.1%
■ C	22.5%	17.7%	12.7%	17.9%	13.1%	17.5%
■ D	7.2%	6.1%	5.9%	6.3%	4.2%	5.3%

居住地満足度では、「観光産業と仕事の取引がある」と回答した層でAランクの割合（46.1%）が最も高い。
また、「観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である」と回答した層でAランク・Bランクの合計割合（82.7%）が最も高い。

3-7 各満足度への影響要因の抽出④観光産業との関わり 3/4

社会的満足度×観光産業との関わり

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3,000



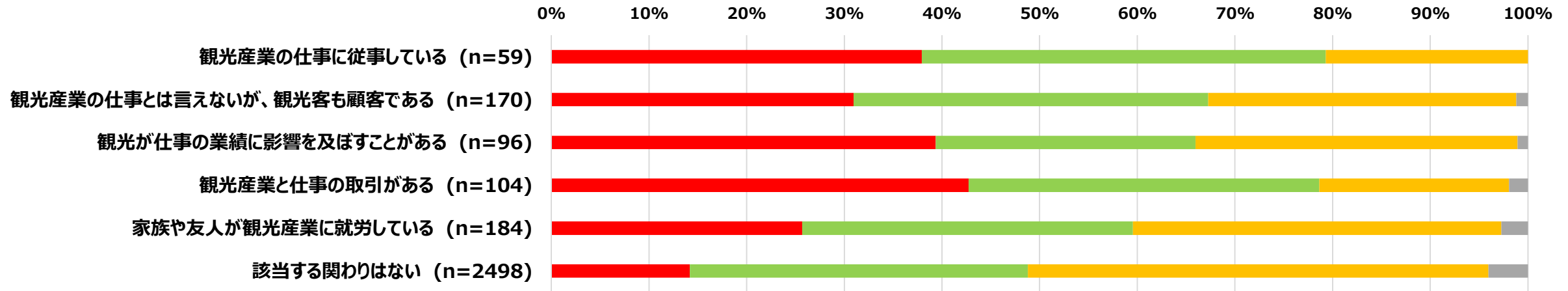
	該当する関わりはない (n=2498)	家族や友人が観光産業に就労 している (n=184)	観光産業と仕事の取引がある (n=104)	観光が仕事の業績に影響を及 ぼすことがある (n=96)	観光産業の仕事とは言えない が、観光客も顧客である (n=170)	観光産業の仕事に従事してい る (n=59)
■ A	15.7%	30.2%	36.3%	37.9%	38.1%	57.9%
■ B	43.4%	46.7%	41.2%	43.2%	37.5%	31.6%
■ C	39.3%	23.1%	22.5%	18.9%	22.6%	10.5%
■ D	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%

「観光産業に従事している」層は社会的満足度Aランクの割合が突出して高い。
一方、「関わりはない」と回答した層は総合満足度のAランク（15.7%）、Aランク・Bランクの合計（59.1%）ともに突出して低い。

3-7 各満足度への影響要因の抽出④観光産業との関わり 4/4

経済的満足度×観光産業との関わり

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3,000

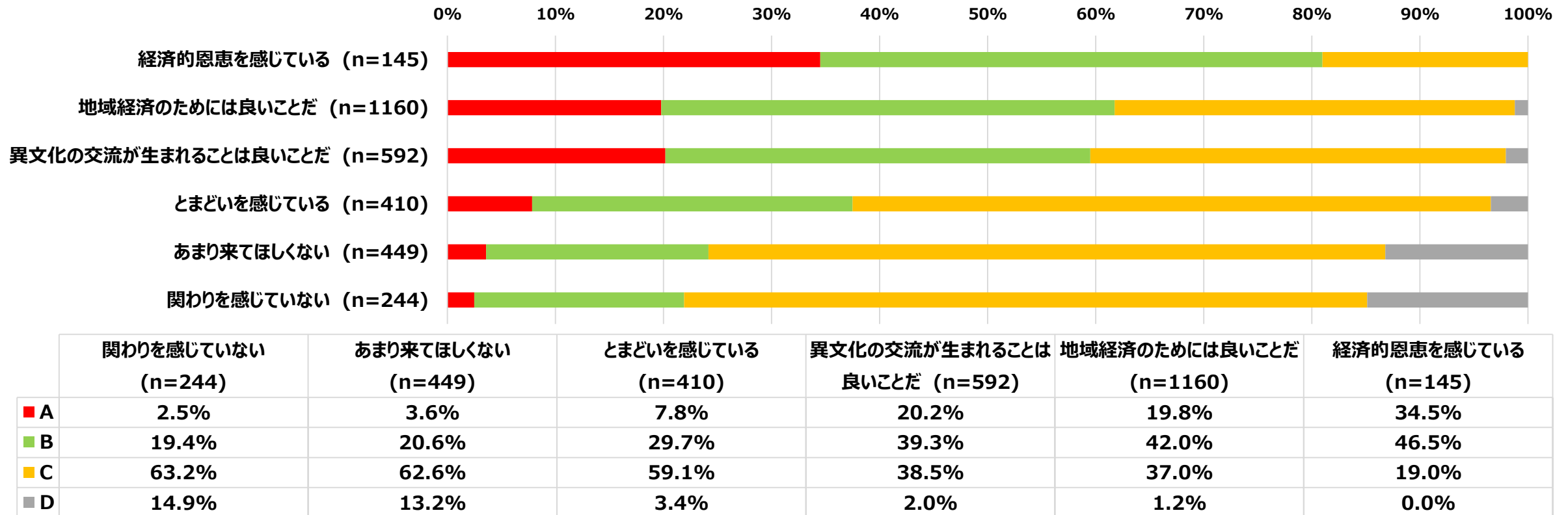


	該当する関わりはない (n=2498)	家族や友人が観光産業に就労 している (n=184)	観光産業と仕事の取引がある (n=104)	観光が仕事の業績に影響を及 ぼすことがある (n=96)	観光産業の仕事とは言えない が、観光客も顧客である (n=170)	観光産業の仕事に従事してい る (n=59)
■ A	14.2%	25.7%	42.7%	39.4%	31.0%	37.9%
■ B	34.6%	33.9%	35.9%	26.6%	36.3%	41.4%
■ C	47.2%	37.7%	19.4%	33.0%	31.5%	20.7%
■ D	4.0%	2.7%	1.9%	1.1%	1.2%	0.0%

経済的満足度のAランク・Bランクの割合は「観光産業の仕事に従事している」層（79.3%）が最も高いが、次いで「観光産業と仕事の取引がある」層（78.6%）も他の層と比較して高くなっている。

3-8 各満足度への影響要因の抽出⑤訪日外国人観光客への評価 1/4

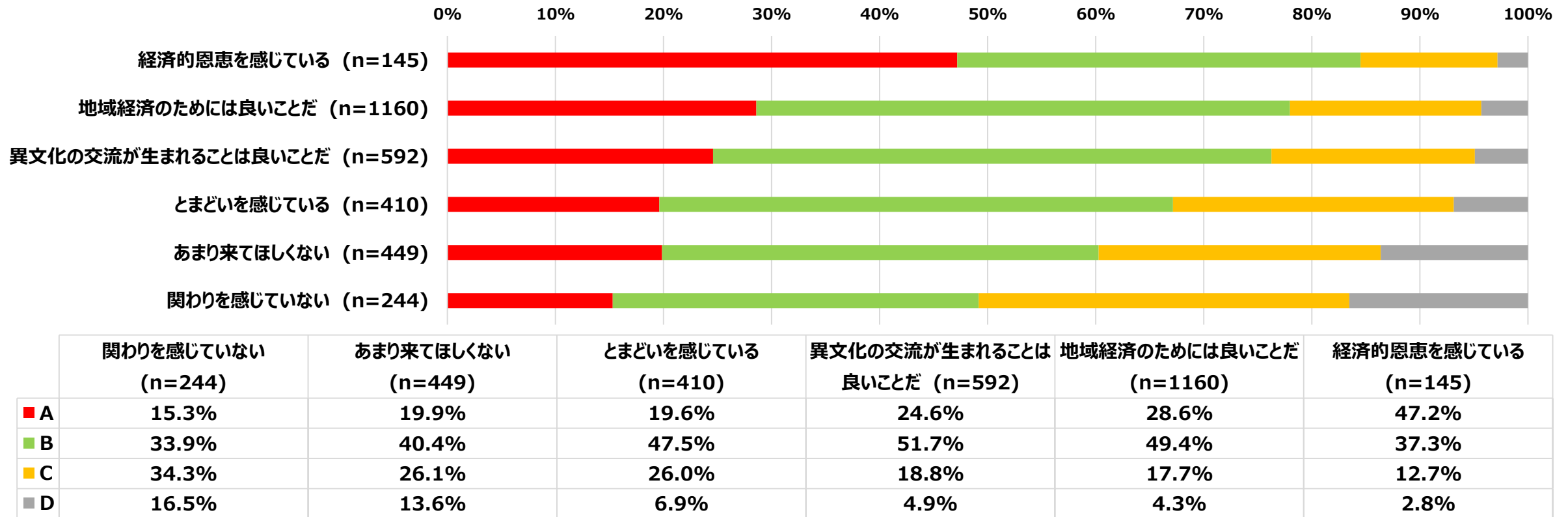
総合満足度×訪日外国人観光客への評価
(訪日外国人観光客への評価 回答者数比) n=3,000



「経済的恩恵を感じている」と回答した層は総合満足度Aランク・Bランクの割合（81.0%）が突出して高く、次いで「地域経済のためには良いことだ」「異文化の交流が生まれることは良いことだ」と回答した層もAランク・Bランクの割合が高い。

3-8 各満足度への影響要因の抽出⑤訪日外国人観光客への評価 2/4

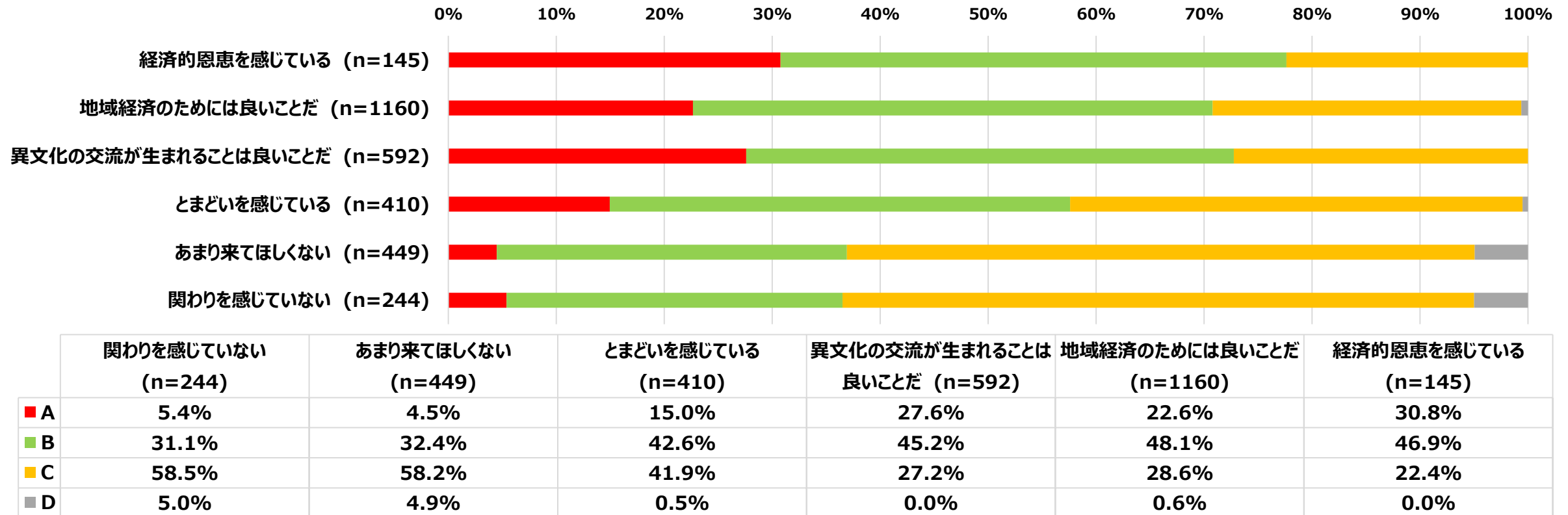
居住地満足度×訪日外国人観光客への評価
(訪日外国人観光客への評価 回答者数比) n=3,000



「経済的恩恵を感じている」と回答した層は居住地満足度のAランクの割合（47.2%）も最も高くなっている。

3-8 各満足度への影響要因の抽出⑤訪日外国人観光客への評価 3/4

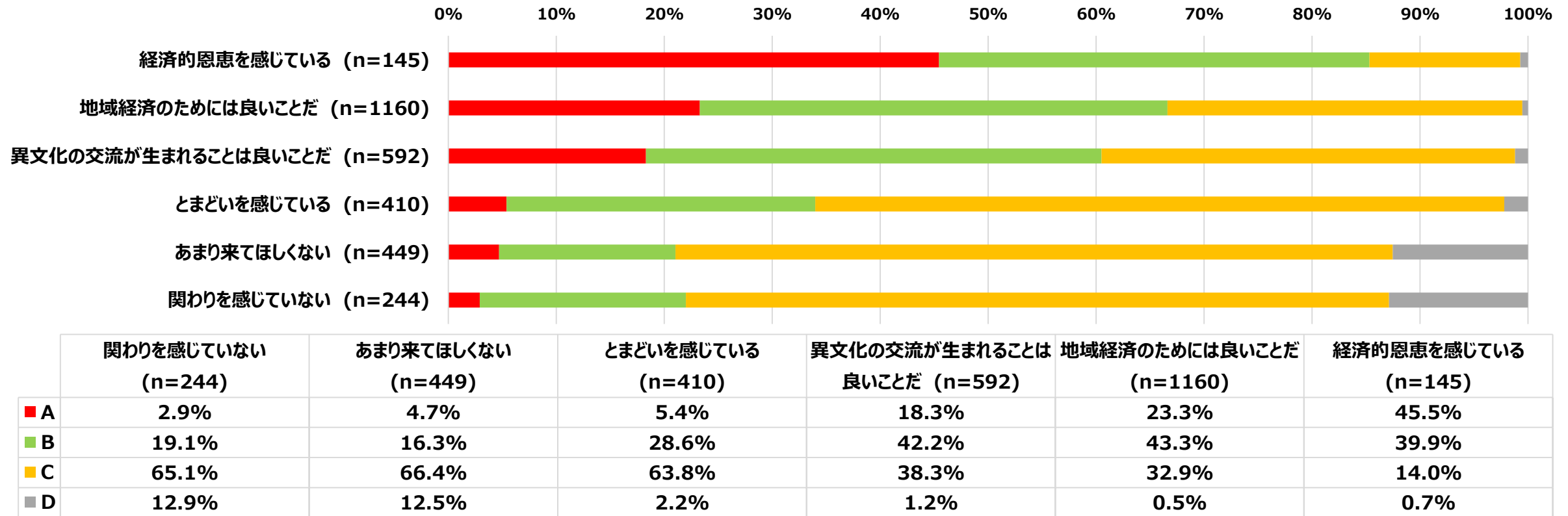
社会的満足度×訪日外国人観光客への評価
(訪日外国人観光客への評価 回答者数比) n=3,000



社会的満足度のAランクの割合も「経済的恩恵を感じている」と回答した層が最も高い（30.8%）が、次いで「異文化の交流が生まれるのは良いことだ」と回答した層も同様に高くなっている（27.6%）。

3-8 各満足度への影響要因の抽出⑤訪日外国人観光客への評価 4/4

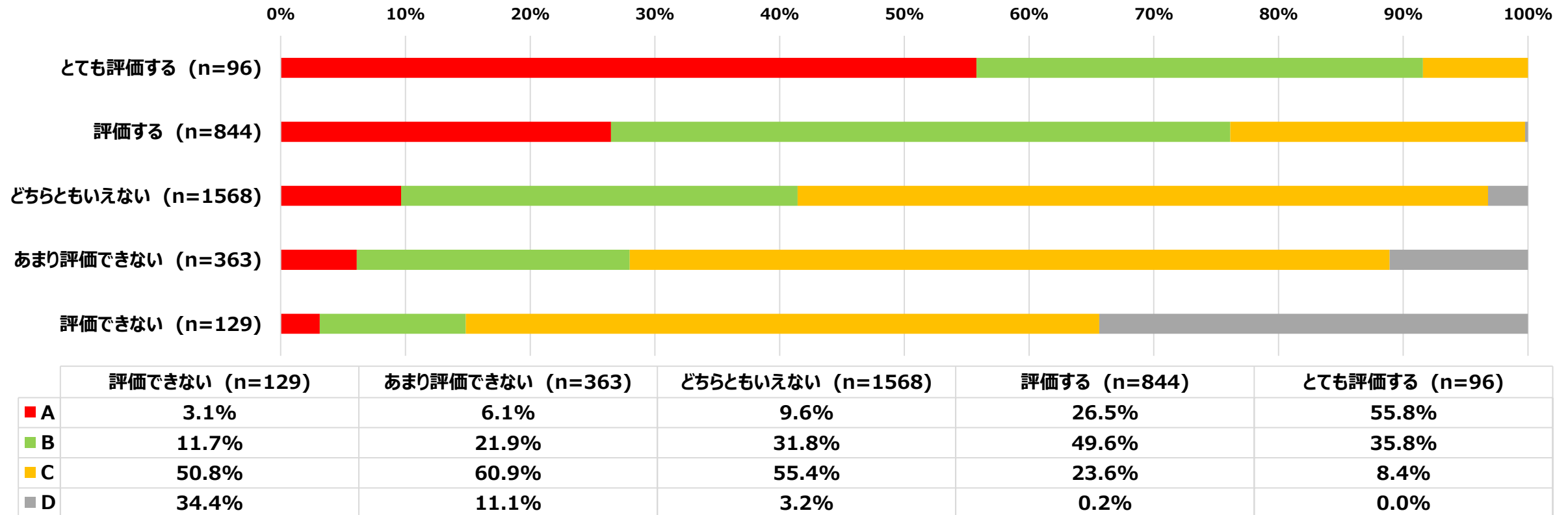
経済的満足度×訪日外国人観光客への評価
(訪日外国人観光客への評価 回答者数比) n=3,000



居住地満足度と同様、経済的満足度のAランクの割合も「経済的恩恵を感じている」と回答した層が最も高い（45.5%）が、次いで「地域経済のためには良いことだ」と回答した層のAランクの割合も高い（23.3%）。

3-9 各満足度への影響要因の抽出⑥地域の観光施策への評価 1/4

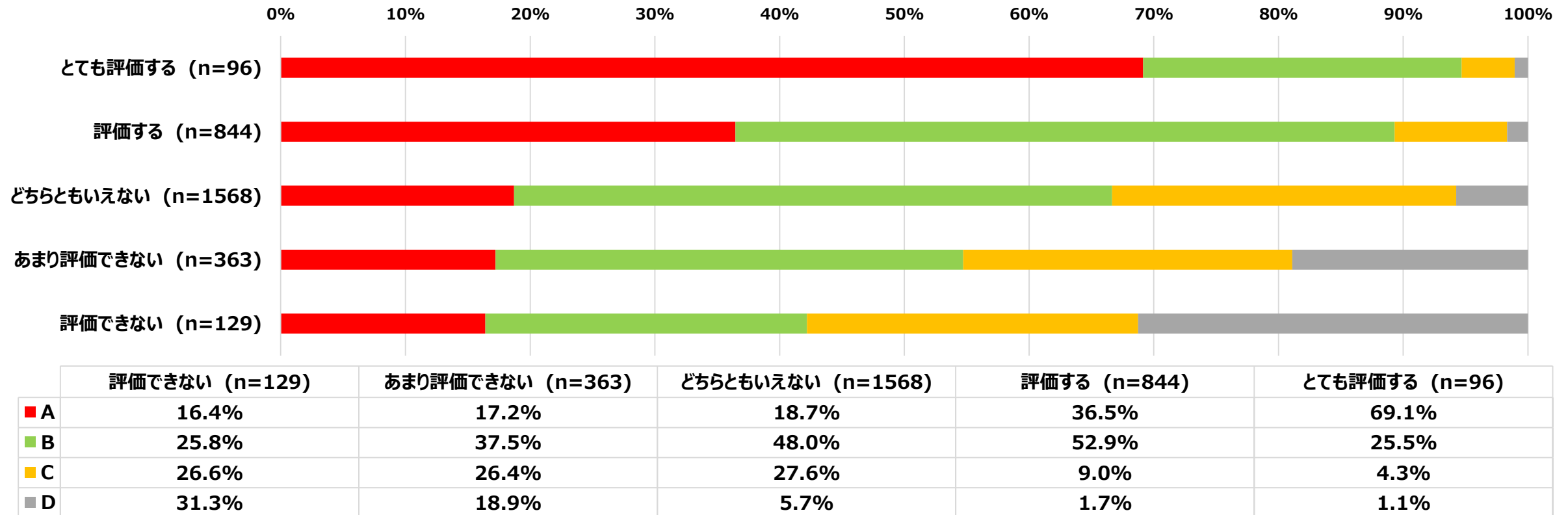
総合満足度×観光施策への評価
(観光施策への評価 回答者数比) n=3,000



「とても評価する」と回答した層は総合満足度のAランクの割合が突出して高い（55.8%）。総合満足度のランクは観光施策への評価に比例していることがわかる。

3-9 各満足度への影響要因の抽出⑥地域の観光施策への評価 2/4

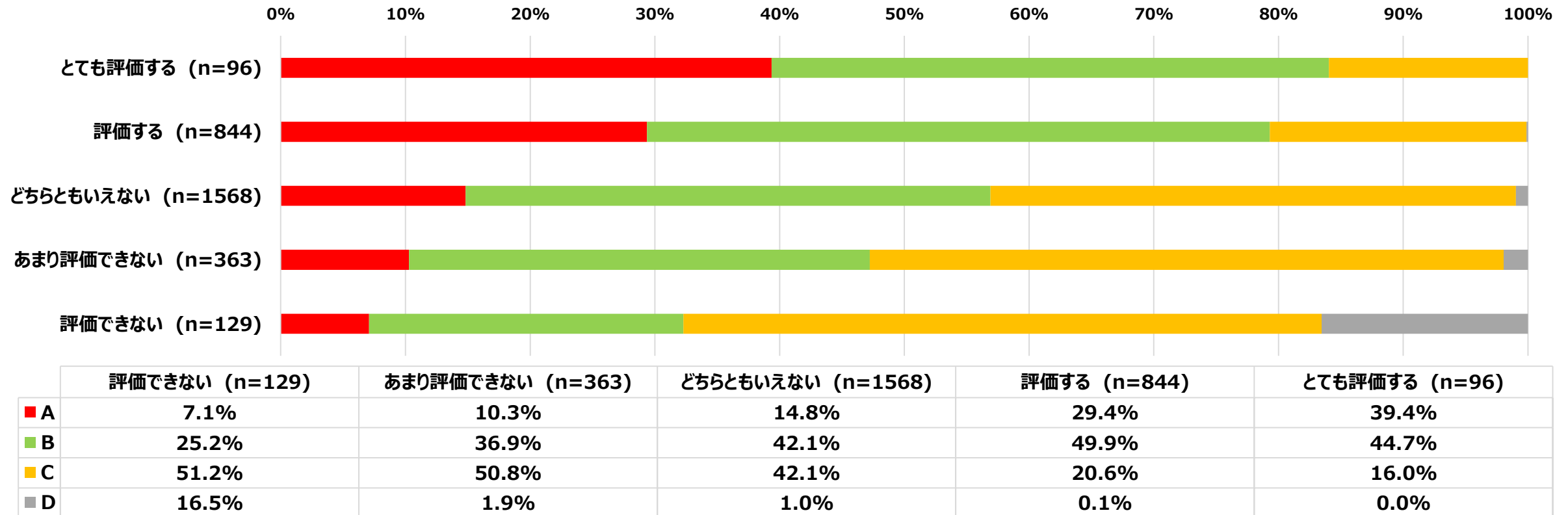
居住地満足度×観光施策への評価
(観光施策への評価 回答者数比) n=3,000



「とても評価する」と回答した層の居住地満足度Aランクの割合（69.1%）は突出して高い。総合満足度と同じく、観光施策への評価が居住地満足度にも比例していることがわかる。

3-9 各満足度への影響要因の抽出⑥地域の観光施策への評価 3/4

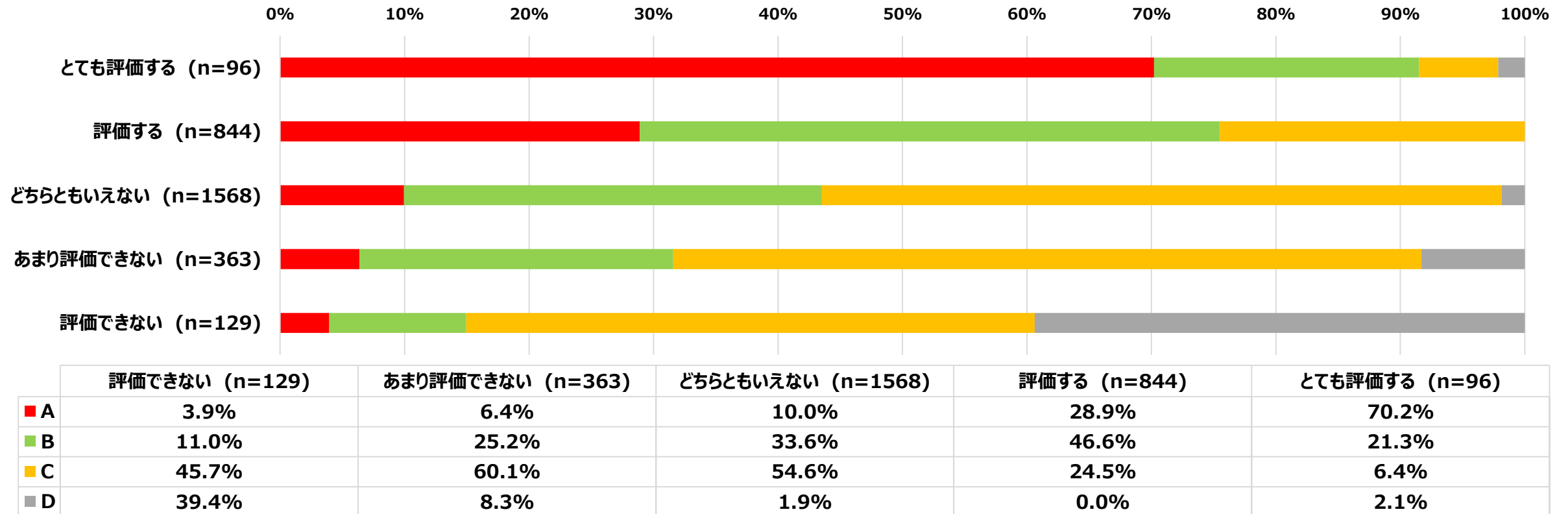
社会的満足度×観光施策への評価
(観光施策への評価 回答者数比) n=3,000



総合満足度とほぼ同じく、社会的満足度のランクは観光施策への評価に強く比例している。

3-9 各満足度への影響要因の抽出⑥地域の観光施策への評価 4/4

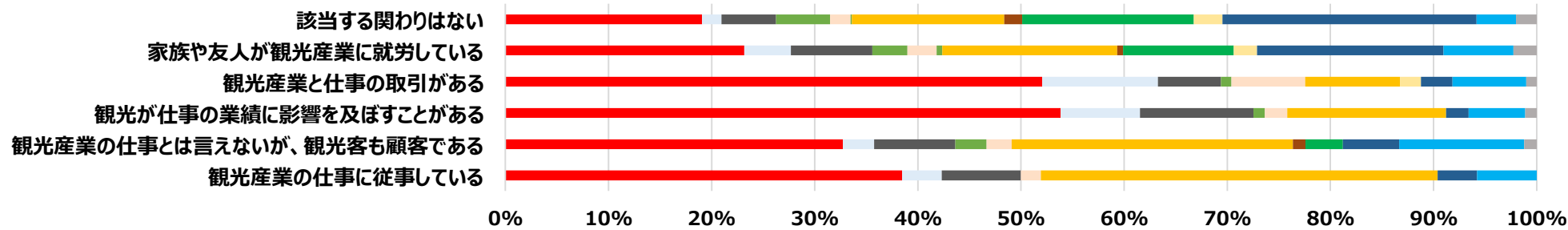
経済的満足度×観光施策への評価
(観光施策への評価 回答者数比) n=3,000



総合満足度とはほぼ同じく、経済的満足度のランクは観光施策への評価に強く比例している。
「とても評価する」と回答した層では、経済的満足度Aランクの割合が70.2%と突出して高い。

3-10 観光産業との関わり（職業比較）

観光産業との関わり【MA】 × 職種
（観光産業との関わり 回答者数比） n=3,000



観光産業との関わり毎に職業構成比を見た。

「観光産業の仕事に従事している」「観光客も顧客である」と回答した中には、「会社員」「契約社員・派遣社員・アルバイト」に加えて、「自営業・フリーランス」も多い。

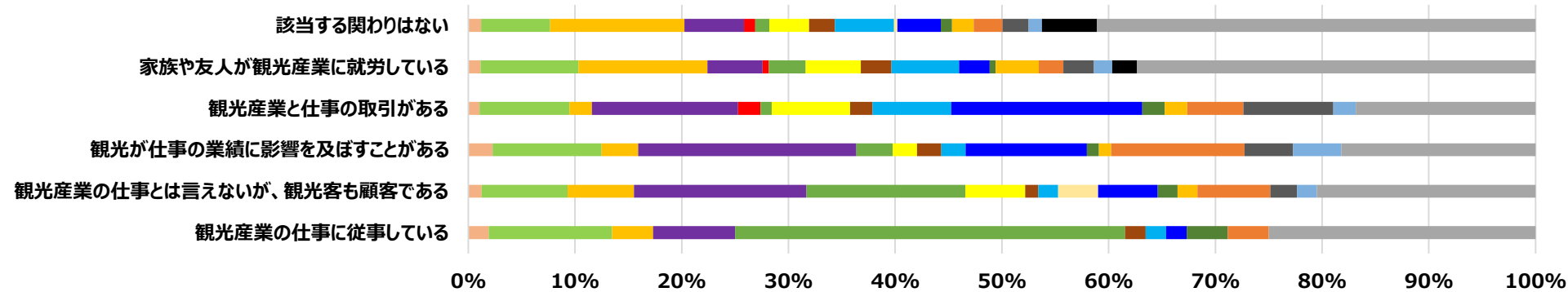
また、「会社役員・経営者」は「観光産業と仕事の取引がある」「観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある」と回答した人数に占める割合が他の項目と比較して高い。

	観光産業の仕事に従事している	観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である	観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある	観光産業と仕事の取引がある	家族や友人が観光産業に就労している	該当する関わりはない
■ 会社員	38.5%	32.7%	53.8%	52.0%	23.2%	19.1%
■ 会社役員・経営者	3.8%	3.0%	7.7%	11.2%	4.5%	1.9%
■ 公務員（教職員を除く）	7.7%	7.9%	11.0%	6.1%	7.9%	5.3%
■ 医療関係者	0.0%	3.0%	1.1%	1.0%	3.4%	5.2%
■ 団体職員	1.9%	2.4%	2.2%	7.1%	2.8%	2.0%
■ 士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.1%
■ 契約社員・派遣社員・アルバイトなど	38.5%	27.3%	15.4%	9.2%	16.9%	14.8%
■ 学生	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.6%	1.7%
■ 専業主婦（夫）	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	10.7%	16.7%
■ 教職員・講師	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	2.3%	2.8%
■ 無職（定年退職を含む）	3.8%	5.5%	2.2%	3.1%	18.1%	24.6%
■ 自営業・フリーランス	5.8%	12.1%	5.5%	7.1%	6.8%	3.8%
■ その他	0.0%	1.2%	1.1%	1.0%	2.3%	2.0%

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-11 観光産業との関わり（業種比較）

観光産業との関わり【MA】×業種
（観光産業との関わり 回答者数比） n=3,000



観光産業との関わり毎に業種構成比を見た。

「観光産業の仕事に従事している」と回答した層の36.5%が「宿泊業・飲食サービス業」であり、「その他」「無回答」を除くと次いで「卸売業・小売業」「公務」などの割合が高い。

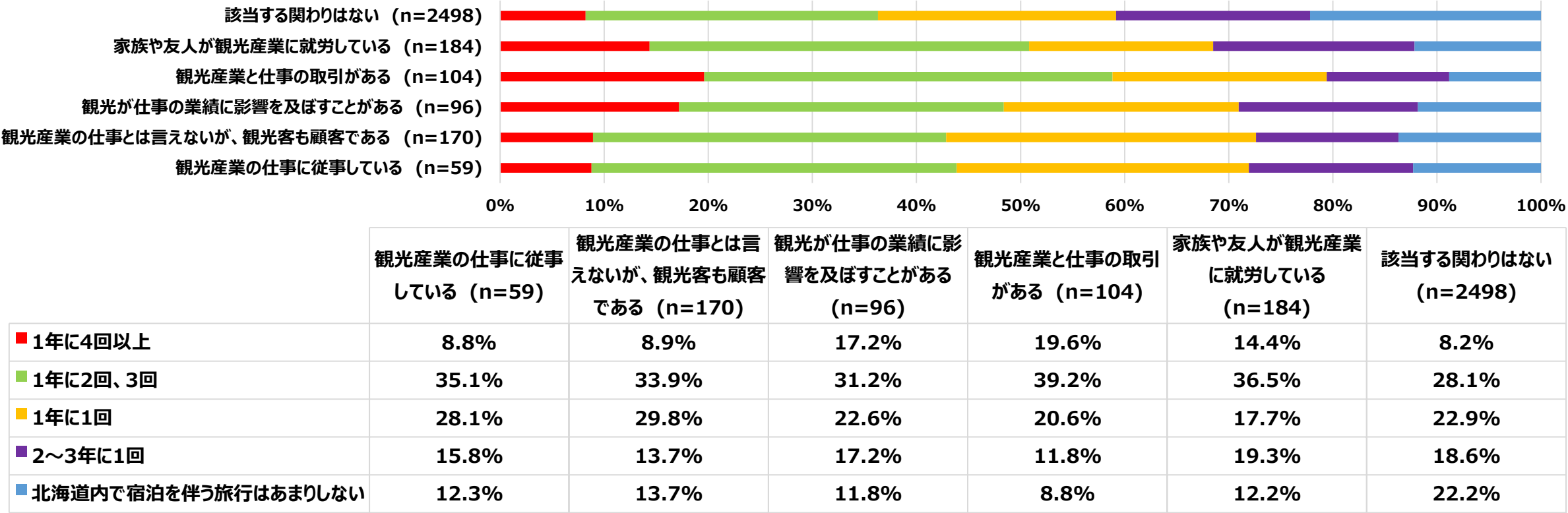
また、「観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である」と答えた層では、「卸売業・小売業」の割合が最も高い。

加えて、「観光産業と仕事の取引がある」「観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある」と回答した層では、「製造業」や「運輸業・郵便業」の割合も高い。

※左記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-12 観光産業との関わり（影響要素） 1/3

観光産業との関わり【MA】 × 道内宿泊旅行頻度
（観光産業との関わり 回答者数比） n=3,000

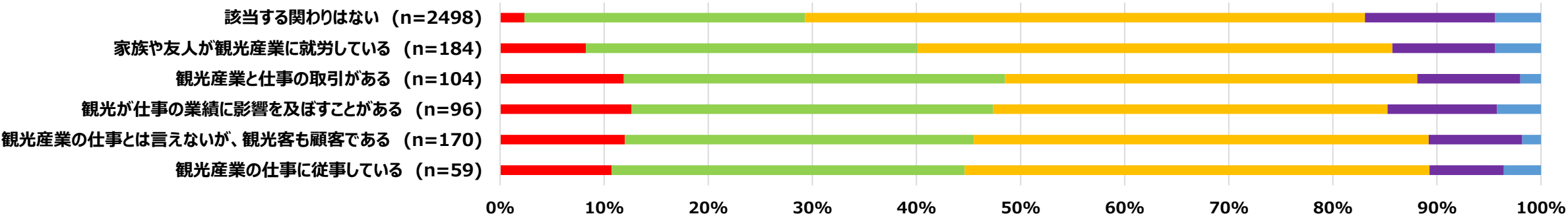


「観光産業と仕事の取引がある」と回答した層は、「1年に4回以上」（19.6%）「1年に2回、3回」（39.2%）と回答した割合がそれぞれ最も高い。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-12 観光産業との関わり（影響要素） 2/3

観光産業との関わり【MA】 × 地域の観光施策への評価
（観光産業との関わり 回答者数比） n=3,000



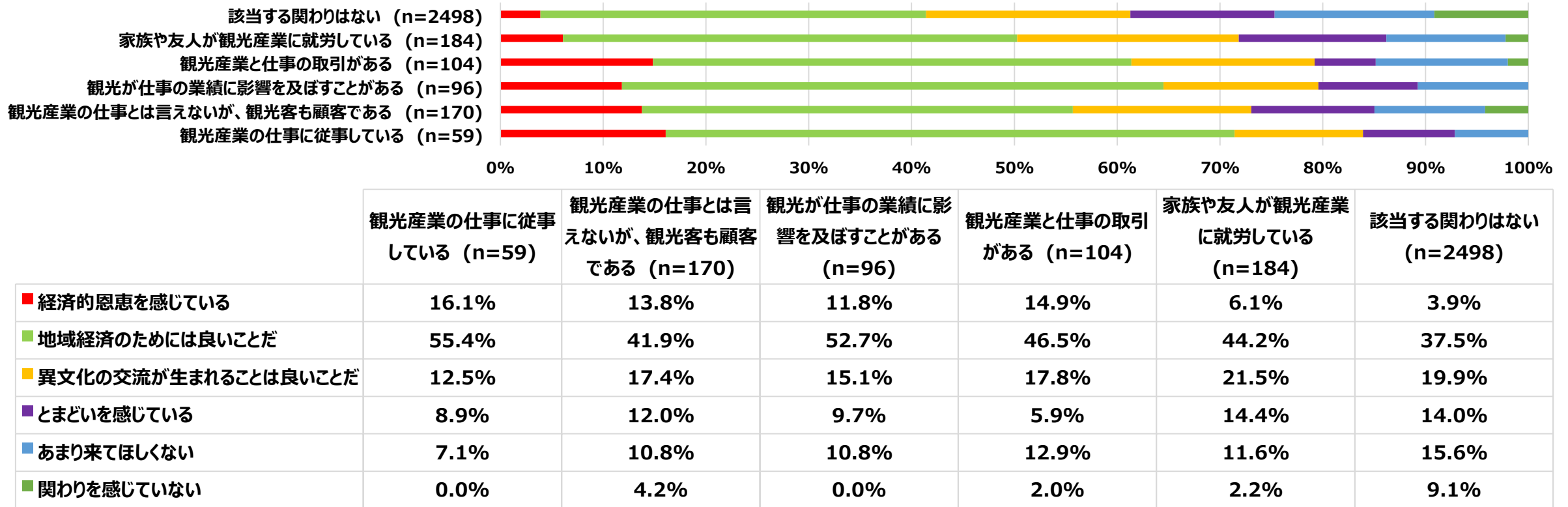
	観光産業の仕事に従事している (n=59)	観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である (n=170)	観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある (n=96)	観光産業と仕事の取引がある (n=104)	家族や友人が観光産業に就労している (n=184)	該当する関わりはない (n=2498)
とても評価する	10.7%	12.0%	12.6%	11.9%	8.2%	2.3%
評価する	33.9%	33.5%	34.7%	36.6%	31.9%	27.0%
どちらともいえない	44.6%	43.7%	37.9%	39.6%	45.6%	53.8%
あまり評価できない	7.1%	9.0%	10.5%	9.9%	9.9%	12.5%
評価できない	3.6%	1.8%	4.2%	2.0%	4.4%	4.4%

「該当する関わりはない」と回答した層では、「とても評価する」（2.3%）「評価する」（27.0%）の割合がいずれも最も低い。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-12 観光産業との関わり（影響要素） 3/3

観光産業との関わり【MA】 × 訪日外国人観光客への評価
（観光産業との関わり 回答者数比） n=3,000



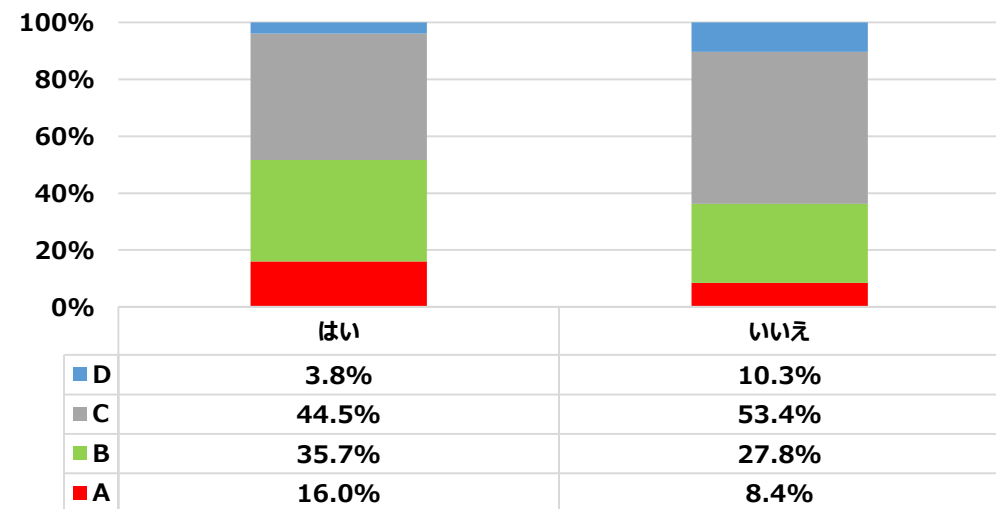
「経済的恩恵を感じている」と回答した割合は「観光産業の仕事に従事している」（16.1％）層が最も高い。
一方、「異文化の交流が生まれるのはいいことだ」と回答した割合は、「家族や友人が観光産業に就労している」（21.5％）が最も高く、次いで「該当する関わりはない」（19.9％）となっている。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

3-13 オーバーツーリズムへの認知度

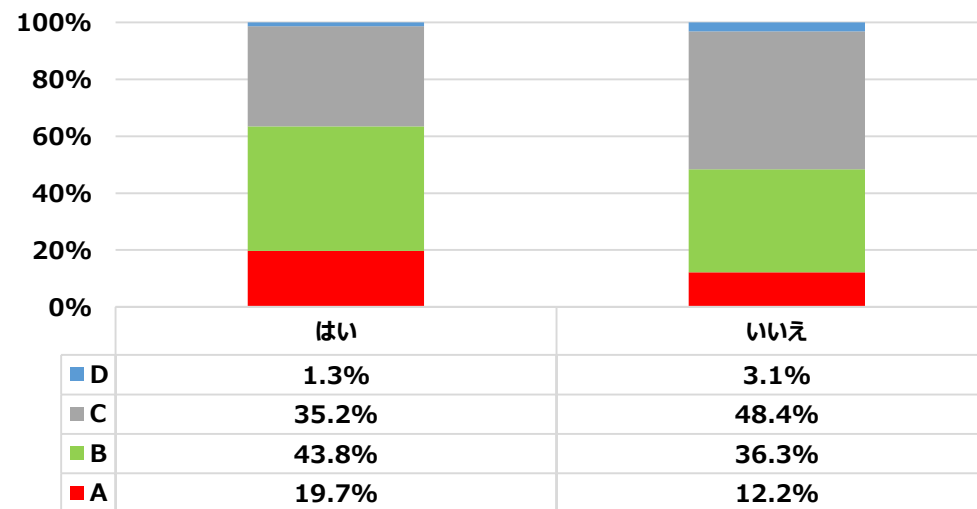
「オーバーツーリズム」への認知度 × 総合満足度

n=3,000



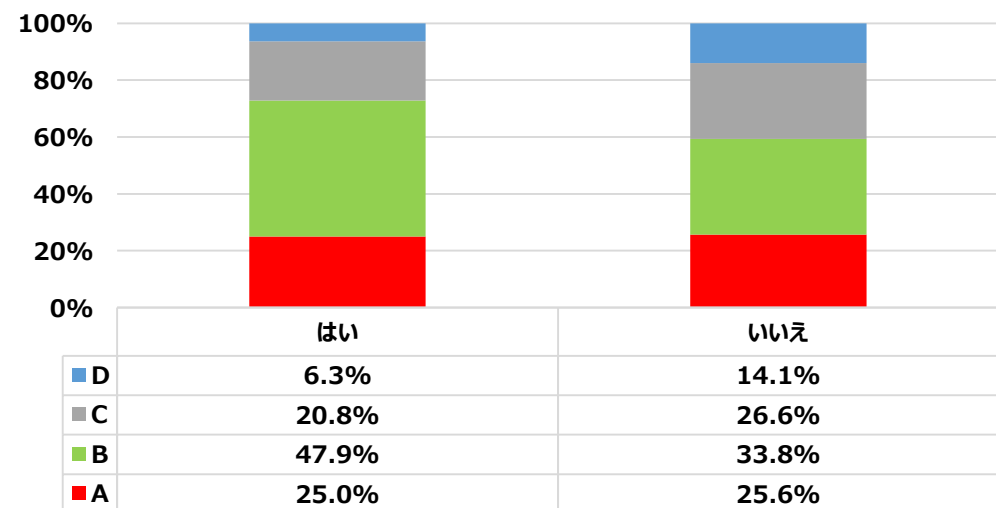
「オーバーツーリズム」への認知度 × 社会的満足度

n=3,000



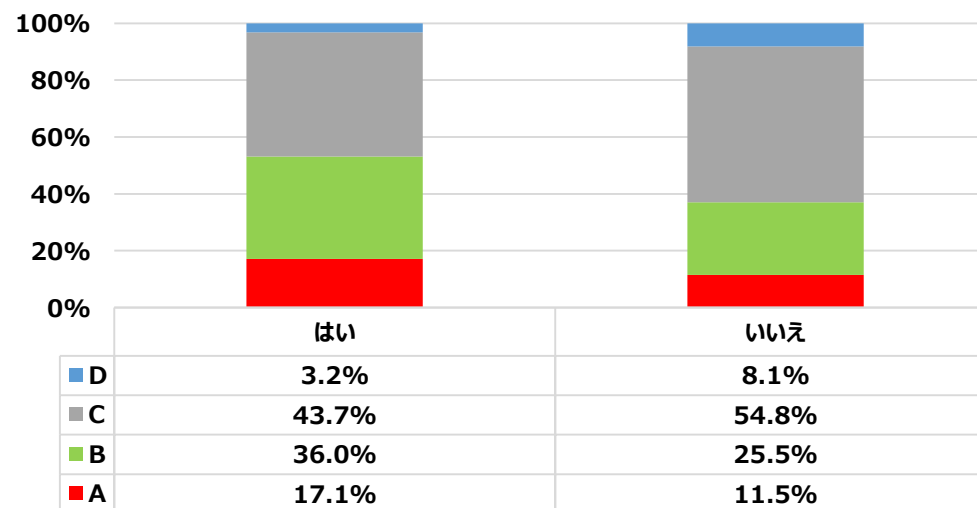
「オーバーツーリズム」への認知度 × 居住地満足度

n=3,000



「オーバーツーリズム」への認知度 × 経済的満足度

n=3,000

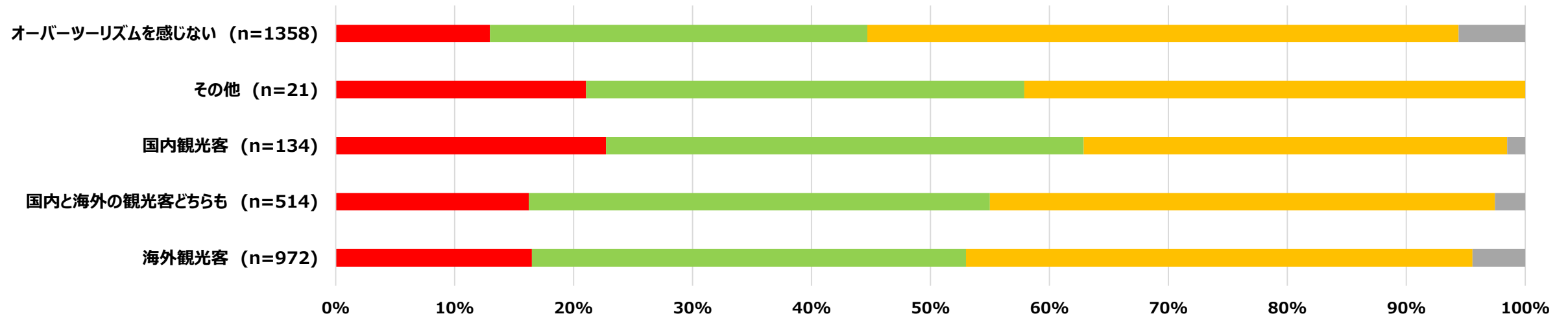


どの満足度種別でも、Aランク、Bランクでは「オーバーツーリズム」という言葉を知っている割合がやや高い。
一方、Dランクでは「オーバーツーリズム」という言葉を知らないと回答した割合のほうが高い。

観光への意識の高さがそのまま「オーバーツーリズム」への認知に繋がっていると考えられる。

3-14 オーバーツーリズムにつながる観光客タイプ 1/4

「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ × 総合満足度
 (「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ 回答者数比) n=3,000

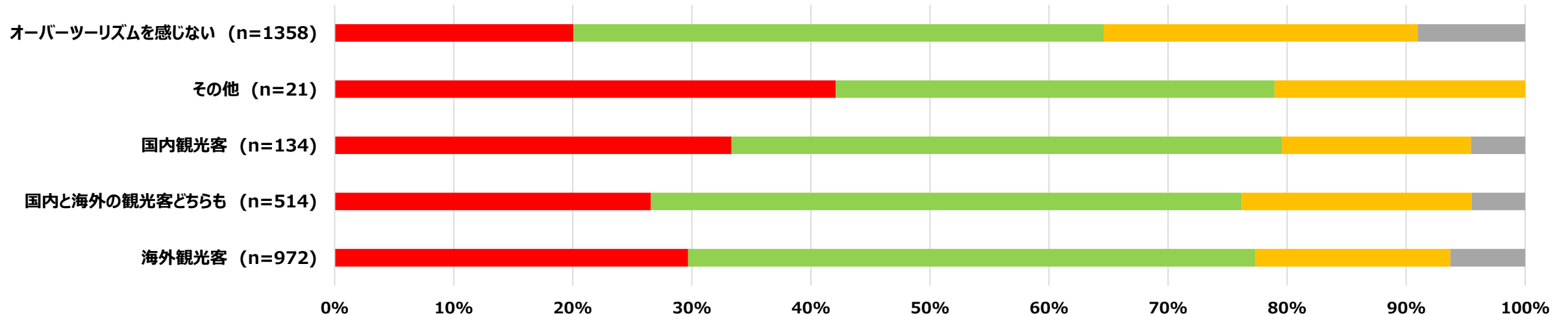


	海外観光客 (n=972)	国内と海外の観光客どちらも (n=514)	国内観光客 (n=134)	その他 (n=21)	オーバーツーリズムを感じない (n=1358)
■ A	16.5%	16.2%	22.7%	21.1%	13.0%
■ B	36.5%	38.7%	40.2%	36.8%	31.7%
■ C	42.6%	42.5%	35.6%	42.1%	49.7%
■ D	4.4%	2.5%	1.5%	0.0%	5.6%

「海外観光客」と回答した層より、「国内観光客」と回答した層の総合満足度Aランクの割合が高い。
 一方で、「オーバーツーリズムを感じない」の回答の内訳にはCランク、Dランクの割合が高くなっている。

3-14 オーバーツーリズムにつながる観光客タイプ 2/4

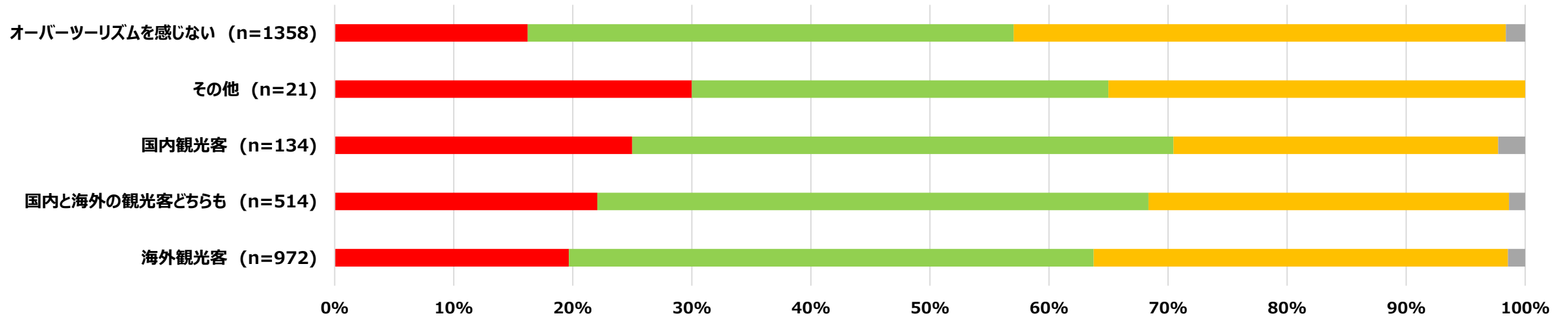
「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ × 居住地満足度
 (「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ 回答者数比) n=3,000



居住地満足度でも総合満足度と同じ傾向がみられる。「オーバーツーリズムを感じない」と回答した層は、Aランクの割合が最も低く、C・Dランクの合計割合がオーバーツーリズムを感じる層と比較して高い。

3-14 オーバーツーリズムにつながる観光客タイプ 3/4

「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ × 社会的満足度
 (「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ 回答者数比) n=3,000

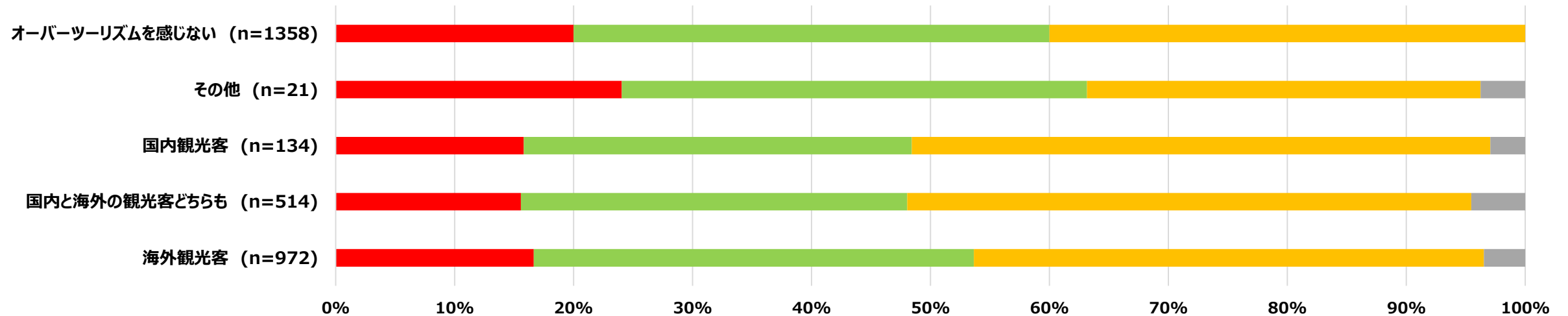


	海外観光客 (n=972)	国内と海外の観光客どちらも (n=514)	国内観光客 (n=134)	その他 (n=21)	オーバーツーリズムを感じない (n=1358)
■ A	19.7%	22.1%	25.0%	30.0%	16.2%
■ B	44.1%	46.3%	45.5%	35.0%	40.8%
■ C	34.8%	30.3%	27.3%	35.0%	41.3%
■ D	1.4%	1.4%	2.3%	0.0%	1.6%

総合満足度同様、社会的満足度ランクも「オーバーツーリズムを感じない」と回答した層のCランク、Dランクの割合が高い。

3-14 オーバーツーリズムにつながる観光客タイプ 4/4

「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ × 経済的満足度
 (「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ 回答者数比) n=3,000

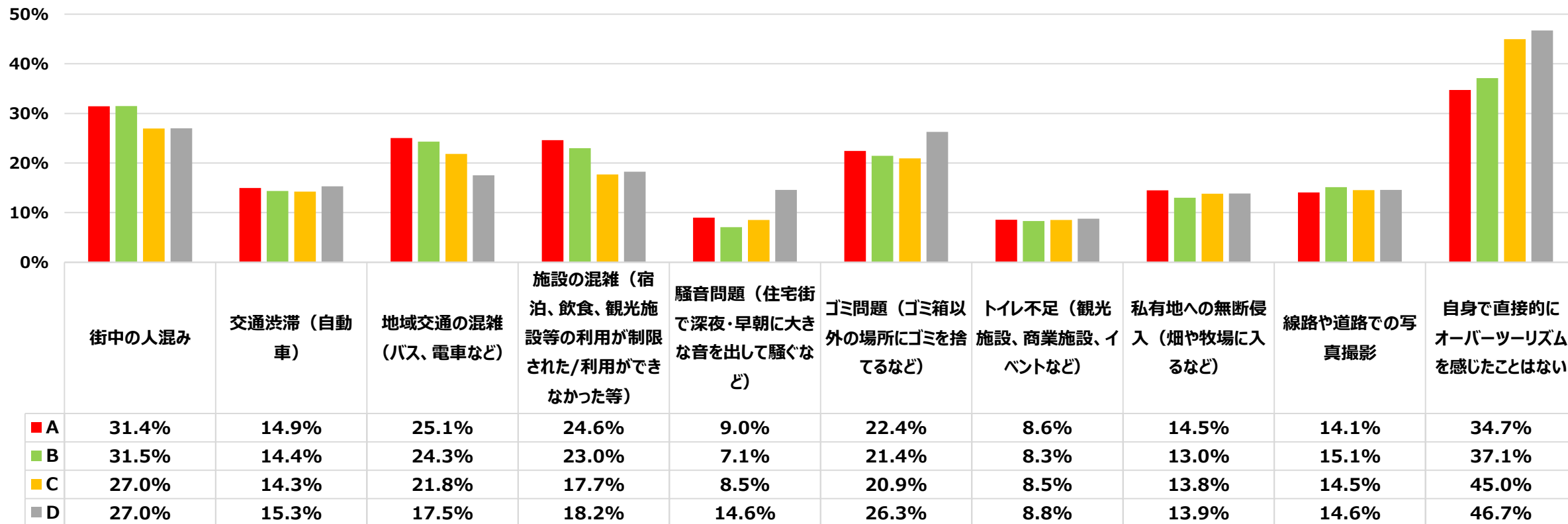


	海外観光客 (n=972)	国内と海外の観光客どちらも (n=514)	国内観光客 (n=134)	その他 (n=21)	オーバーツーリズムを感じない (n=1358)
■ A	16.7%	15.6%	15.8%	24.1%	20.0%
■ B	37.0%	32.5%	32.6%	39.1%	40.0%
■ C	42.9%	47.4%	48.6%	33.1%	40.0%
■ D	3.5%	4.5%	2.9%	3.8%	0.0%

経済的満足度では、「国内観光客」「国内と海外の観光客どちらも」と回答した層でC・Dランクの合計割合が高くなっており、居住地満足度、社会的満足度と異なる傾向がみられる。

3-15 見聞きしたオーバーツーリズム 1/4

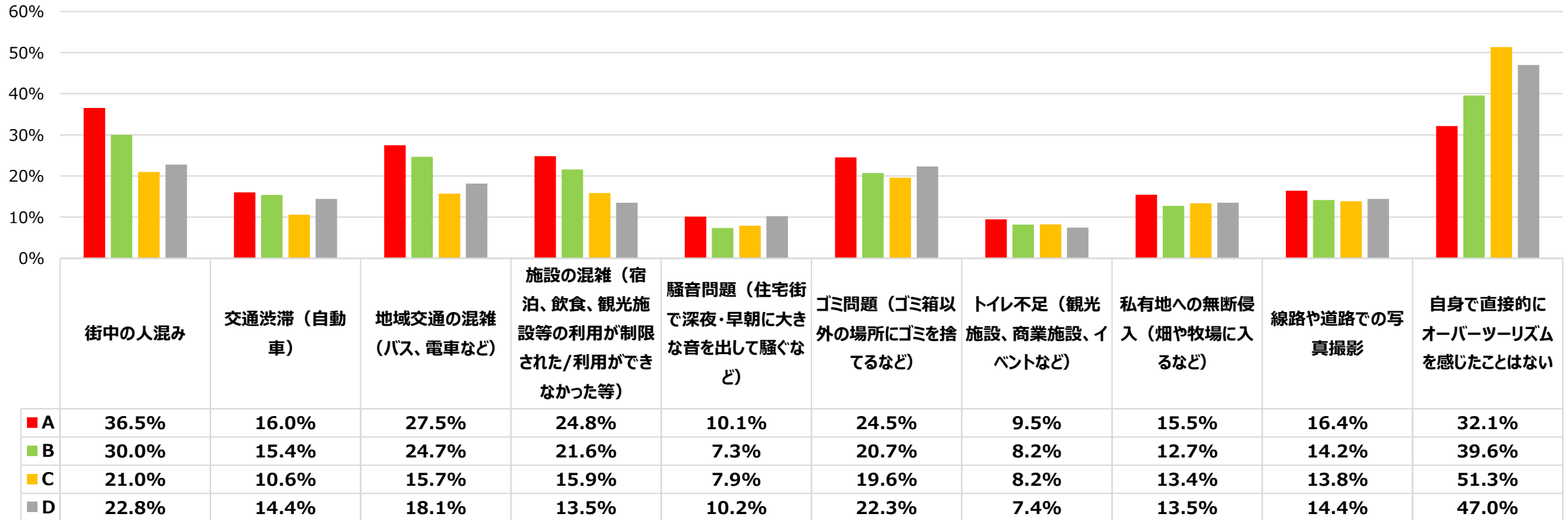
見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 総合満足度
(総合満足度回答者数比) n=3,000



総合満足度ランクが低いほど「オーバーツーリズムを感じたことはない」という回答の割合が高い。
また、Dランクでは「騒音問題」「ゴミ問題」と回答した割合が他のランクよりも高い。
一方、「地域交通の混雑」「施設の混雑」ではAランクの回答割合が最も高い。

3-15 見聞きしたオーバーツーリズム 2/4

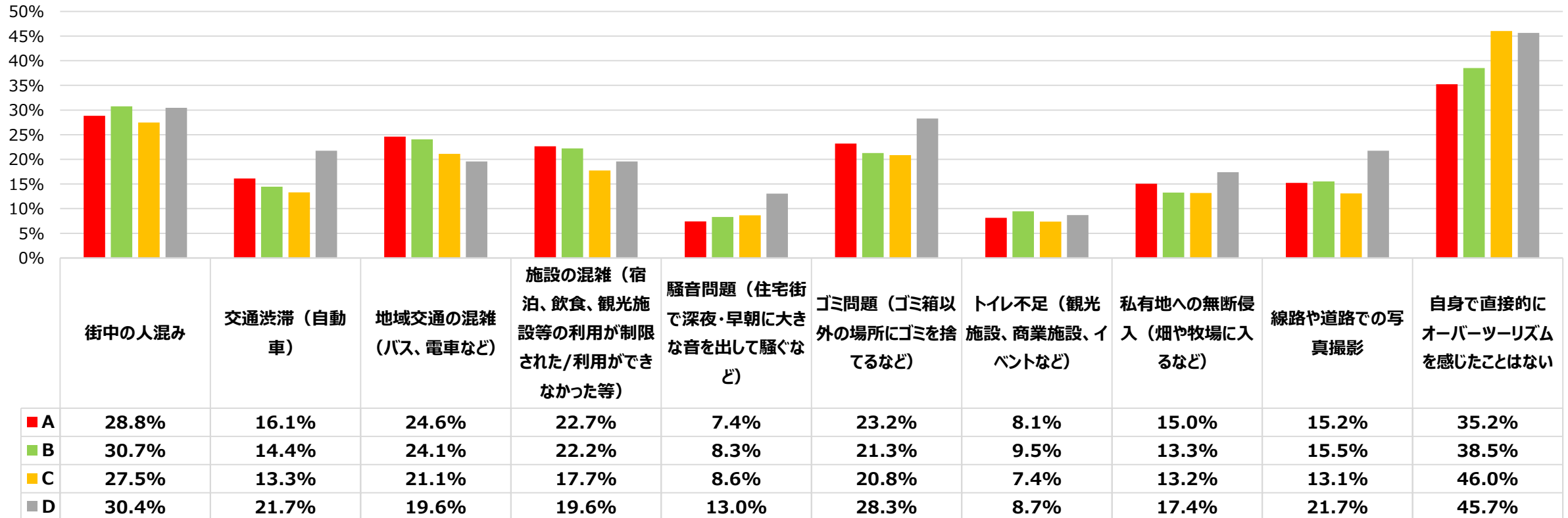
見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 居住地満足度
(居住地満足度回答者数比) n=3,000



居住地満足度では総合満足度と異なり、「ゴミ問題」「騒音問題」「トイレ不足」「私有地への無断侵入」「線路や道路での写真撮影」などでも、Aランクの回答者の回答割合が他のランクより高くなっている。

3-15 見聞きしたオーバーツーリズム 3/4

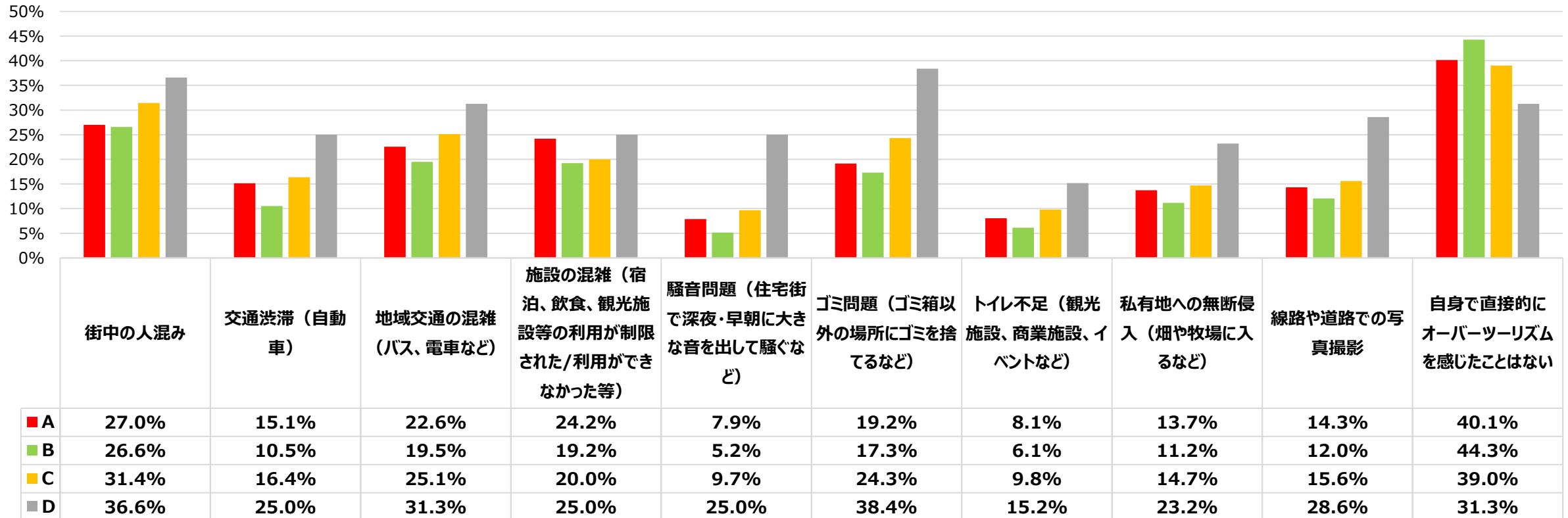
見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 社会的満足度
(社会的満足度回答者数比) n=3,000



社会的満足度でも総合満足度とほぼ同じ傾向だが、「交通渋滞(自動車)」でDランクの回答者の回答割合が他のランクより高くなっている。

3-15 見聞きしたオーバーツーリズム 4/4

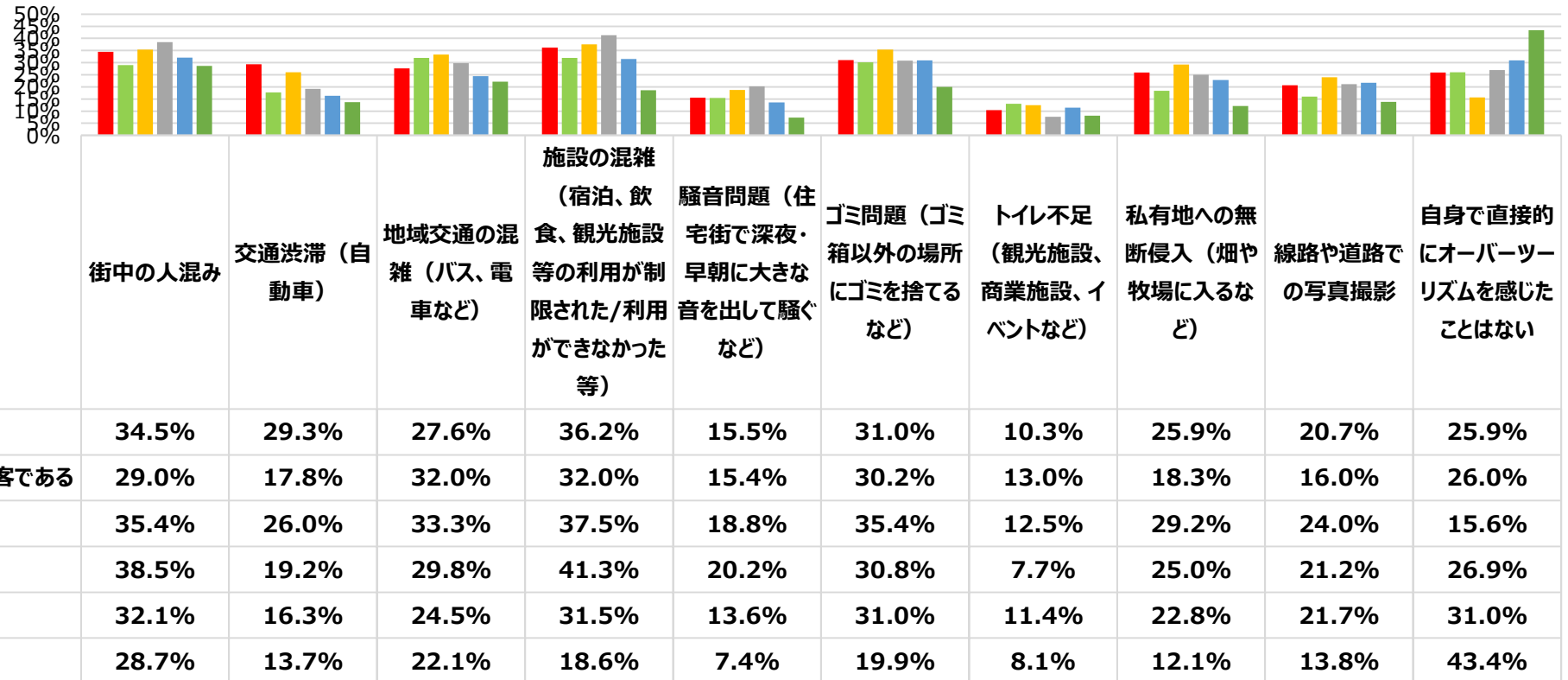
見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 経済的満足度
(経済的満足度回答者数比) n=3,000



他の満足度と傾向が明確に異なり、経済的満足度ではどのネガティブな項目もDランクの回答者が回答した割合が最も高い。
また、「オーバーツーリズムを感じない」と回答した割合も、Aランク・BランクのほうがCランク・Dランクより高い。
観光の経済的メリットを意識している層は、観光客の存在をオーバーツーリズムと結び付けることが比較的少ないと考えられる。

見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 観光業界との関わり

(観光業界との関わり回答者数比) n=3,000



観光業界との関わりとオーバーツーリズムの認識について確認した。

観光業界に「関わりがない」層では「オーバーツーリズムを感じたことはない」と回答した割合が顕著に高い。

「観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある」とした層では、「地域交通の混雑」「ゴミ問題」「私有地への無断侵入」と回答した割合が他の層より高い。

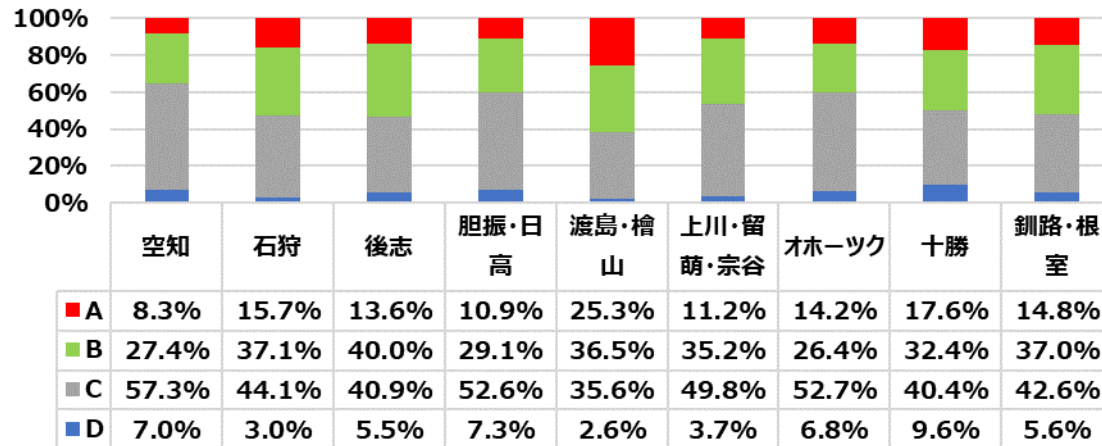
直接観光客を顧客としている層に比べて、観光客と直接接していないが仕事上の利害関係がある層はオーバーツーリズムにやや敏感な傾向があると考えられる。

4 地域の現状

4-1 満足度構成比 1/2

総合満足度

n=3,000

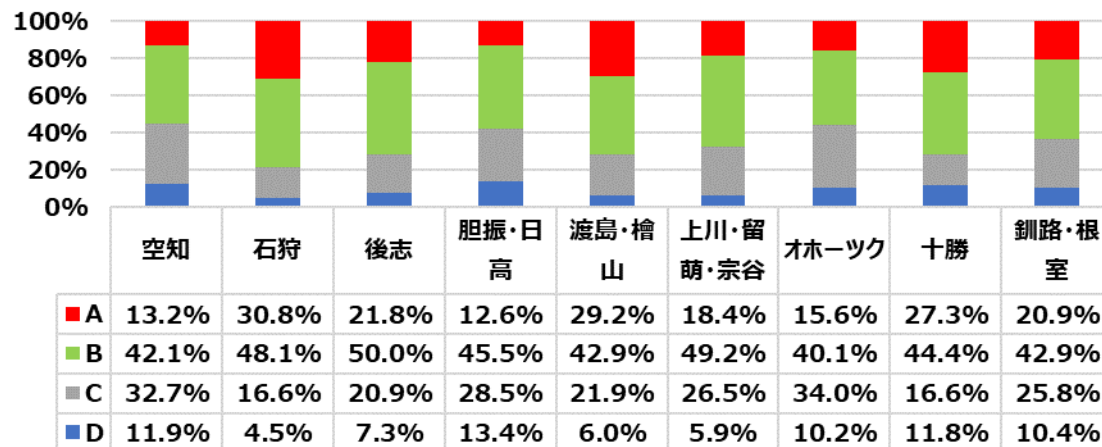


地域ごとに各満足度および、その構成要因の分析を行った。
以降の分析におけるn数（分母）は以下のとおり。

エリア	人数	構成比
空知	160	5.3%
石狩	1,418	47.3%
後志	112	3.7%
胆振・日高	248	8.3%
渡島・檜山	235	7.8%
上川・留萌・宗谷	323	10.8%
オホーツク	149	5.0%
十勝	189	6.3%
釧路・根室	165	5.5%
計	3,000	100.0%

居住地満足度

n=3,000



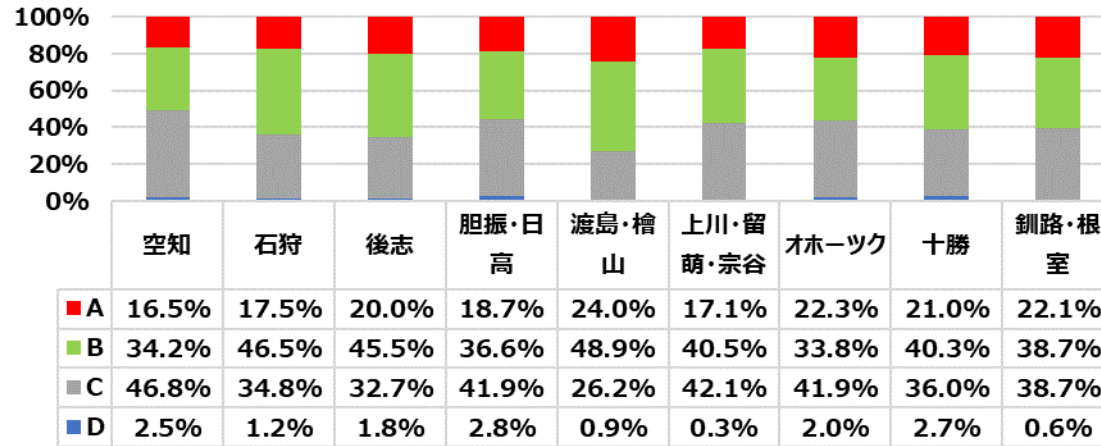
総合満足度Aランクの割合は「渡島・檜山」が25.3%と最も高い一方、「空知」が8.3%と最も低い。
CランクとDランクの合計割合は、「空知」が64.3%で最も高い。

居住地満足度Aランクの割合は「石狩」が30.8%と最も高く、「渡島・檜山」「十勝」も次いで高い。一方、Cランク・Dランクの合計割合は「空知」がもっとも高く、「オホーツク」が次ぐ。

4-1 満足度構成比 2/2

社会的満足度

n=3,000



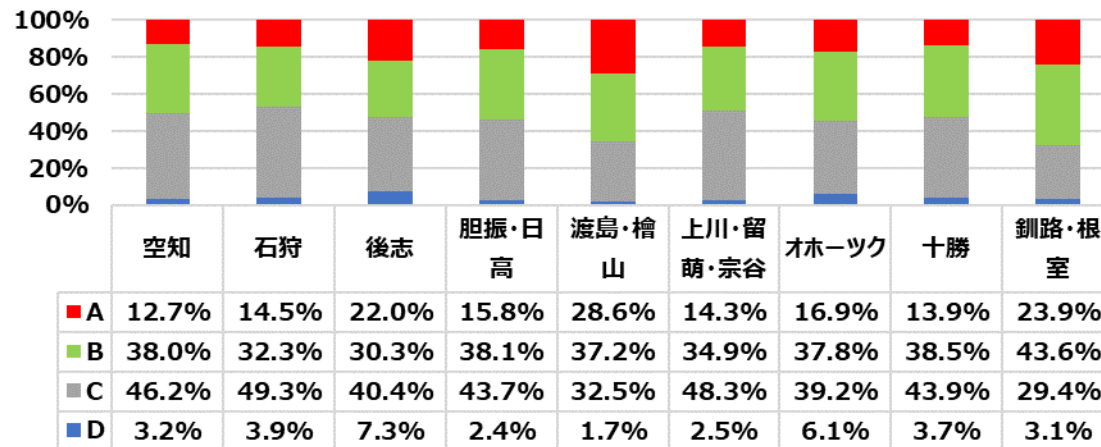
社会的満足度Aランクの割合も「渡島・檜山」が24.0%と最も高く、「オホーツク」「釧路・根室」が次ぐ。一方、CランクとDランクの合計割合は「空知」が最も高く、「胆振・日高」が次ぐ。

経済的満足度Aランクの割合も「渡島・檜山」が28.6%で最も高く、「釧路・根室」「後志」が次ぐ。一方、CランクとDランクの合計割合は「石狩」が53.2%、「上川・留萌・宗谷」が50.8%、「空知」が49.4%で高い。

「石狩」は居住地満足度ではAランクの割合が最も高かったが、社会的満足度、経済的満足度ではともにAランクの割合が他地域より低くなっている。

経済的満足度

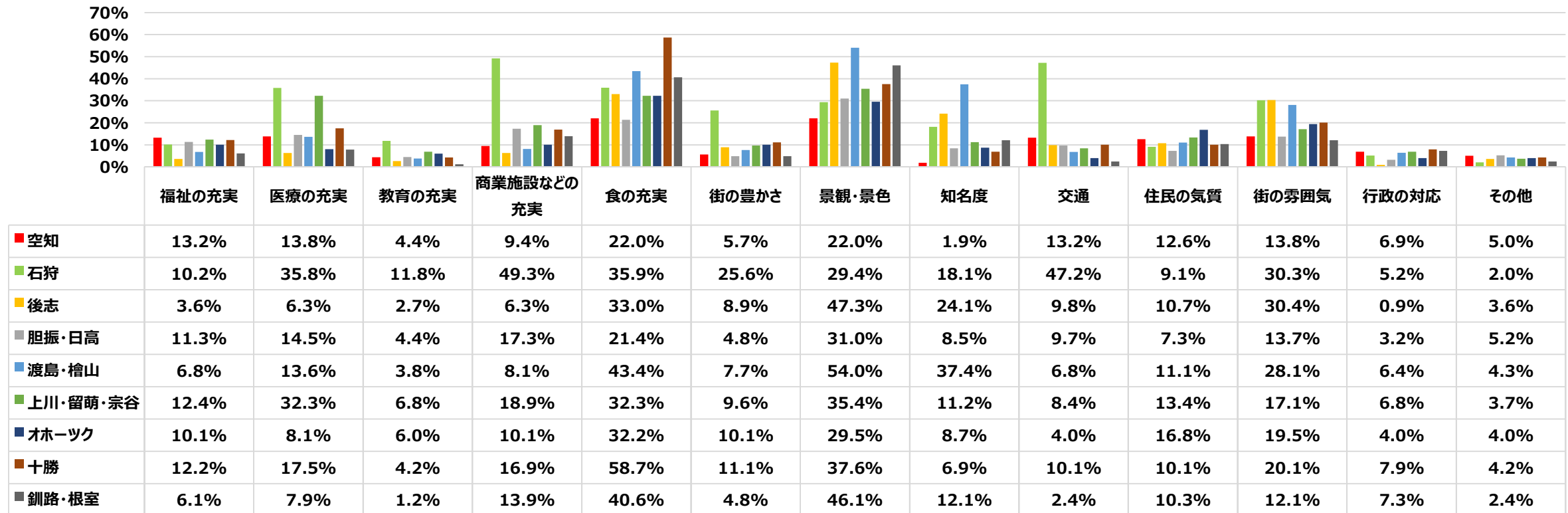
n=3,000



4-2 居住地満足度の形成要因 1/3

お住まいの地域の「満足」ポイント

n=3,000

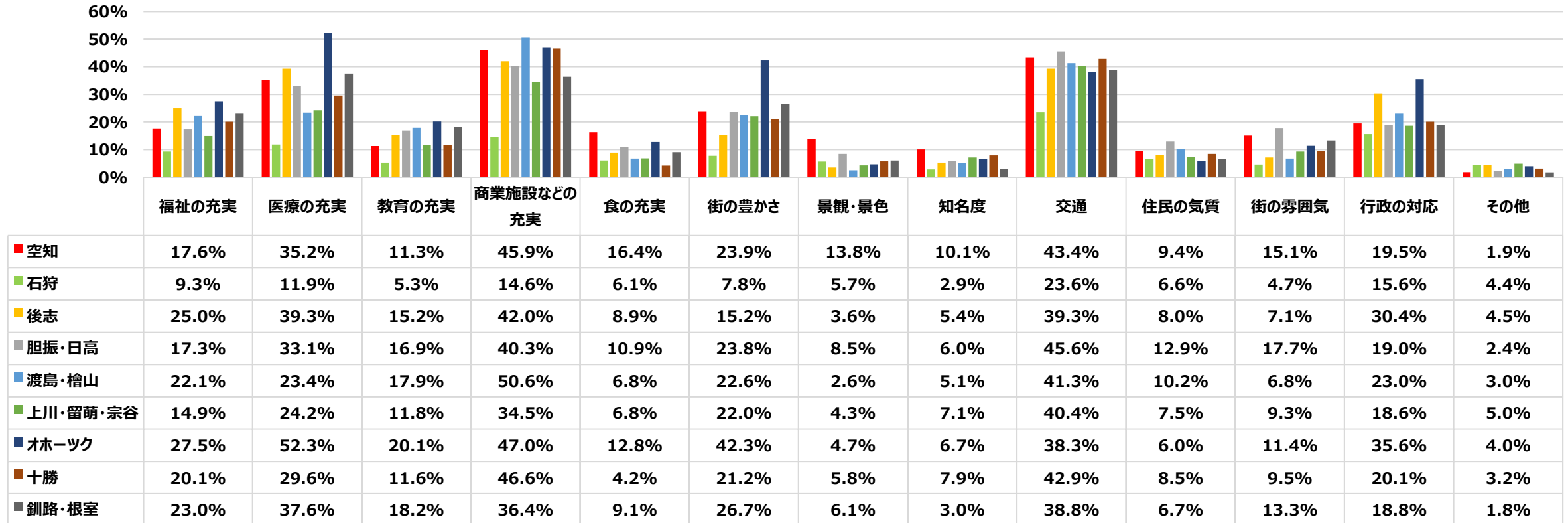


「商業施設などの充実」「交通」「医療の充実」「教育の充実」「街の豊かさ」の満足度では「石狩」が突出して高い。
 一方、「景観・景色」では「渡島・檜山」が最も高く、「後志」「釧路・根室」が次ぐ。
 また、「食の充実」では「十勝」が最も高く、「知名度」では「渡島・檜山」が最も高くなっている。

4-2 居住地満足度の形成要因 2/3

お住まいの地域の「不満」ポイント

n=3,000

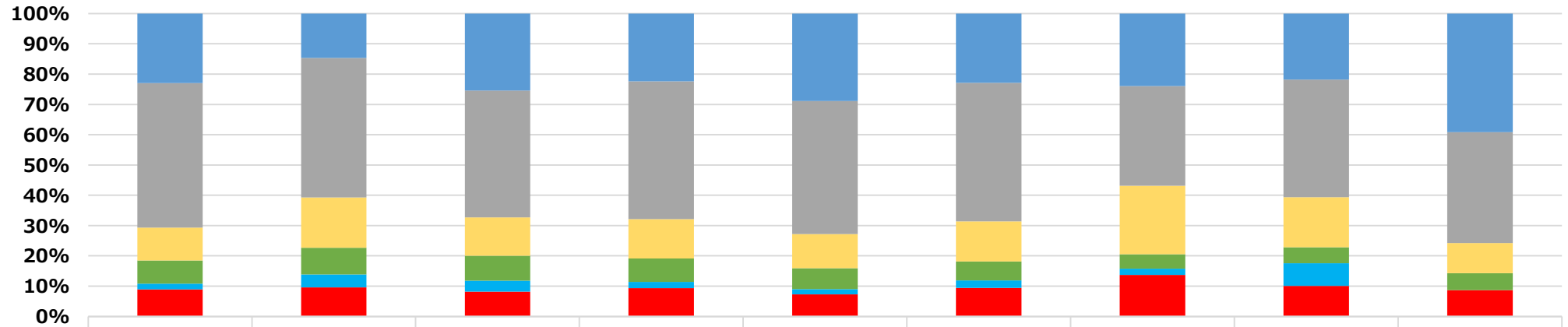


不満ポイントを見ると、「医療の充実」「街の豊かさ」「行政の対応」では「オホーツク」が最も高くなっている。
また、「街の雰囲気」では「胆振・日高」が、「食の充実」「景観・景色」では「空知」がそれぞれ最も高くなっている。
「石狩」はほとんどの項目で不満度が低くなっている。

4-2 居住地満足度の形成要因 3/3

居住年数

n=3,000



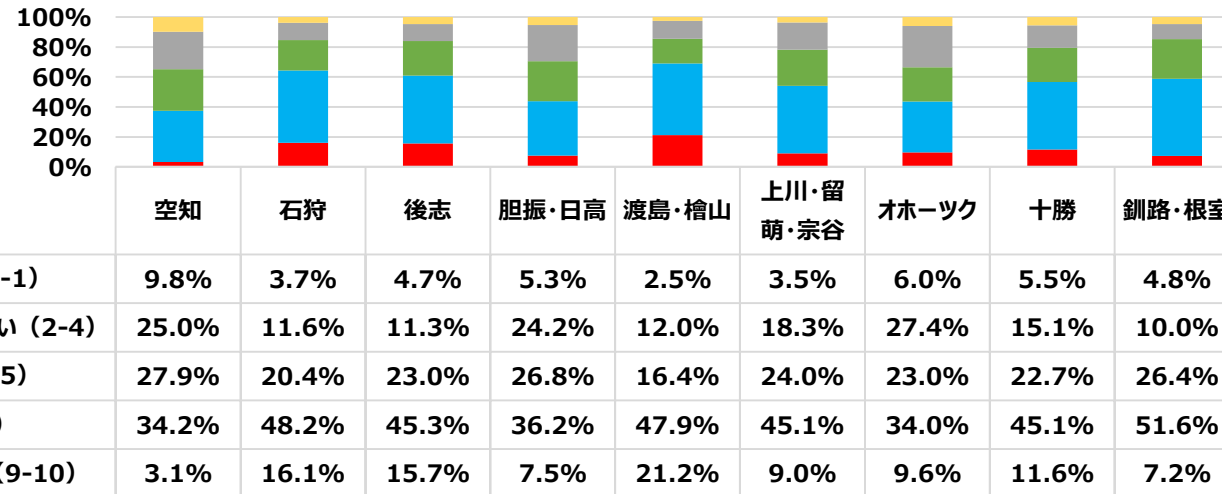
■ 生まれてからずっと住んでいる	22.9%	14.6%	25.5%	22.4%	28.9%	22.9%	24.0%	21.8%	39.1%
■ 転居して来て20年以上	47.8%	46.1%	41.8%	45.5%	44.0%	45.8%	32.9%	38.8%	36.6%
■ 転居して来て10年以上、20年未満	10.8%	16.6%	12.7%	13.0%	11.2%	13.2%	22.6%	16.5%	9.9%
■ 転居して来て5年以上、10年未満	7.6%	8.8%	8.2%	7.7%	6.9%	6.3%	4.8%	5.3%	5.6%
■ 転居して来て4年以上、5年未満	1.9%	4.2%	3.6%	2.0%	1.7%	2.5%	2.1%	7.4%	0.0%
■ 転居して来て3年以内	8.9%	9.6%	8.2%	9.3%	7.3%	9.4%	13.7%	10.1%	8.7%

「生まれてからずっと住んでいる」割合は「釧路・根室」が39.1%と最も高く、「石狩」の14.6%が最も低い。

4-3 社会的満足度の形成要因 1/3

社会的満足度（地域の観光のお勧め度）

n=3,000

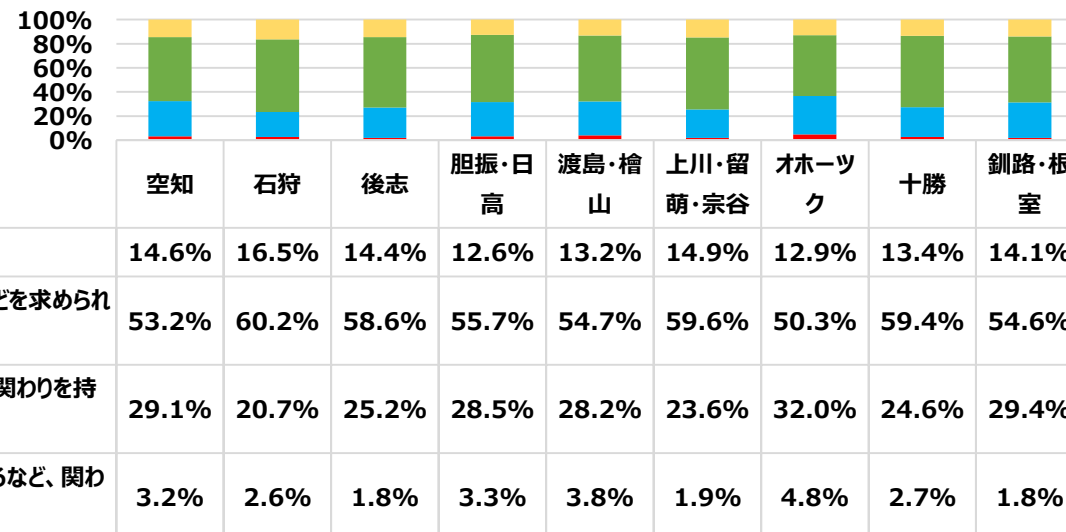


地域の観光のお勧め度では、「とてもお薦めしたい」と回答した割合は「渡島・檜山」「石狩」「後志」が高く、「空知」「釧路・根室」「胆振・日高」で低くなっている。

「観光客との関わり意向」に関しては、「交流を図るため声をかける」と答えた回答者の割合は「オホーツク」4.8%が最も高く、「後志」「釧路・根室」1.8%が最も低いなど、上記の観光お勧め度の傾向とは必ずしも一致していない。

社会的満足度（観光客と関わりを持ちたいか）

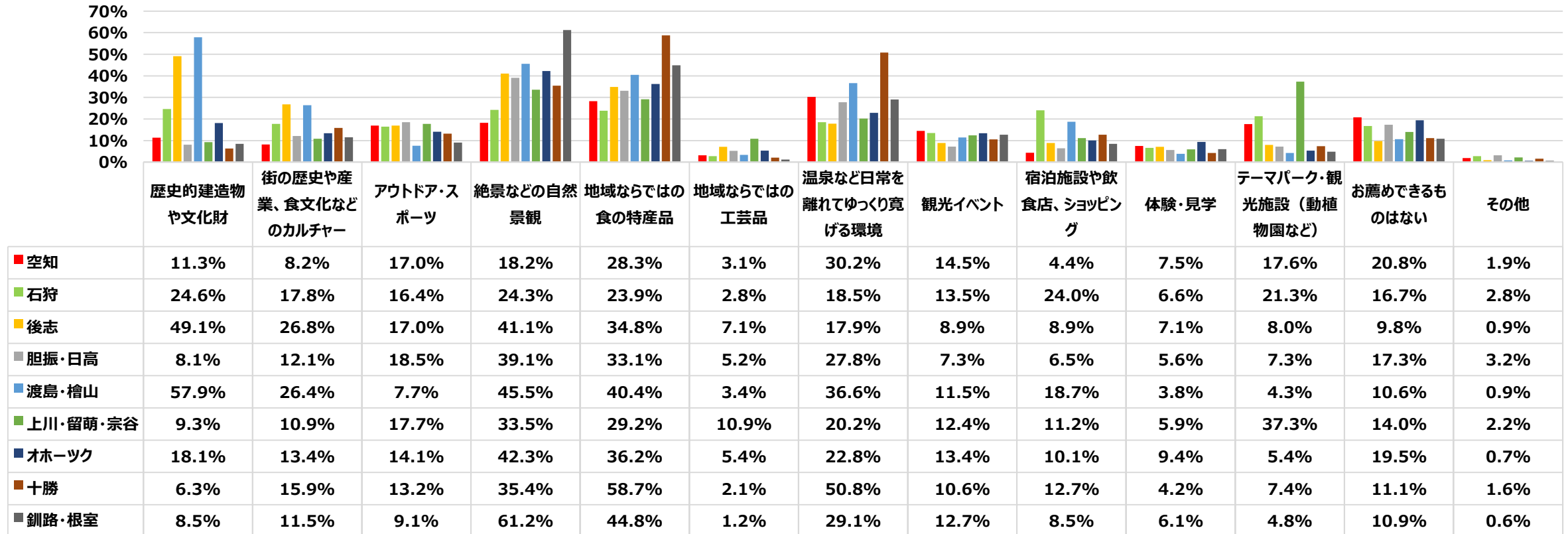
n=3,000



4-3 社会的満足度の形成要因 2/3

お住まいの地域周辺でお薦めできるもの

n=3,000

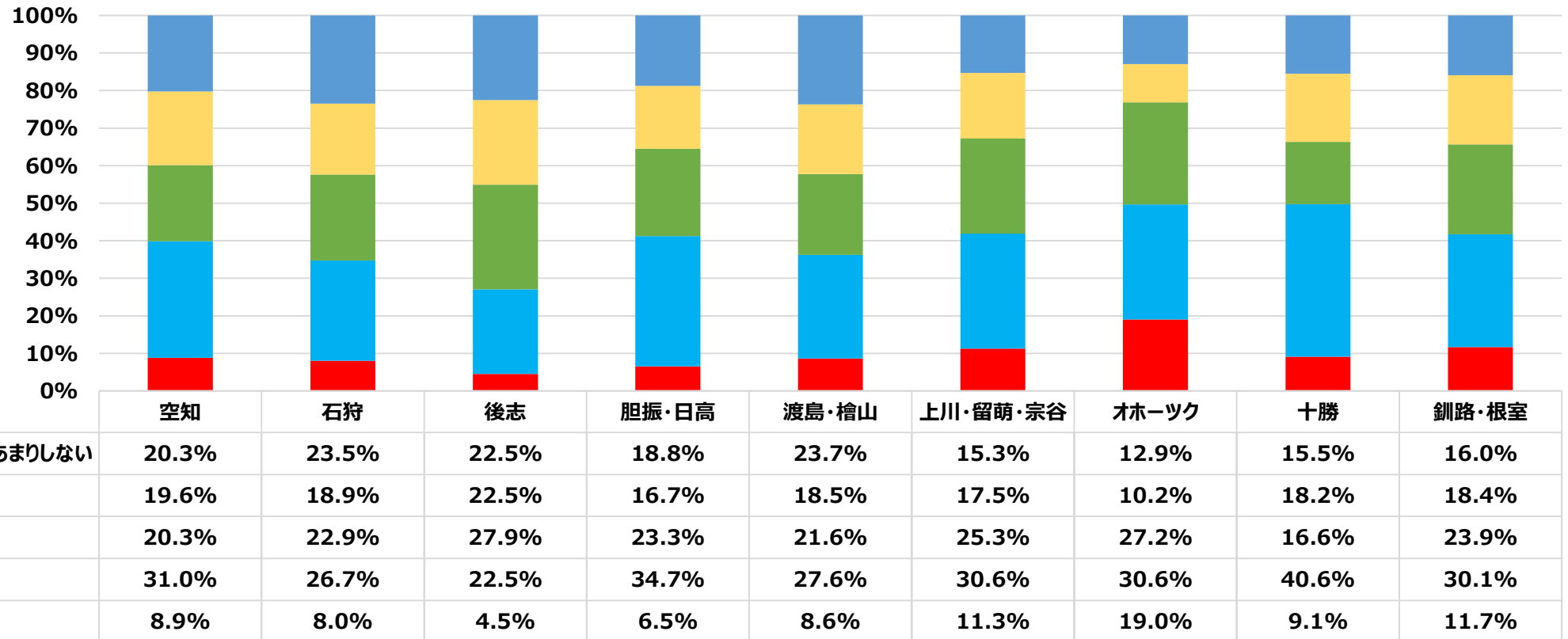


「絶景などの自然景観」は「釧路・根室」、「地域ならではの食の特産品」「温泉など日常を離れてゆっくり寛げる環境」では「十勝」、「テーマパーク・観光施設」では「上川・留萌・宗谷」、「歴史的建造物や文化財」は「渡島・檜山」が最も高い。

4-3 社会的満足度の形成要因 3/3

宿泊を伴う旅行頻度

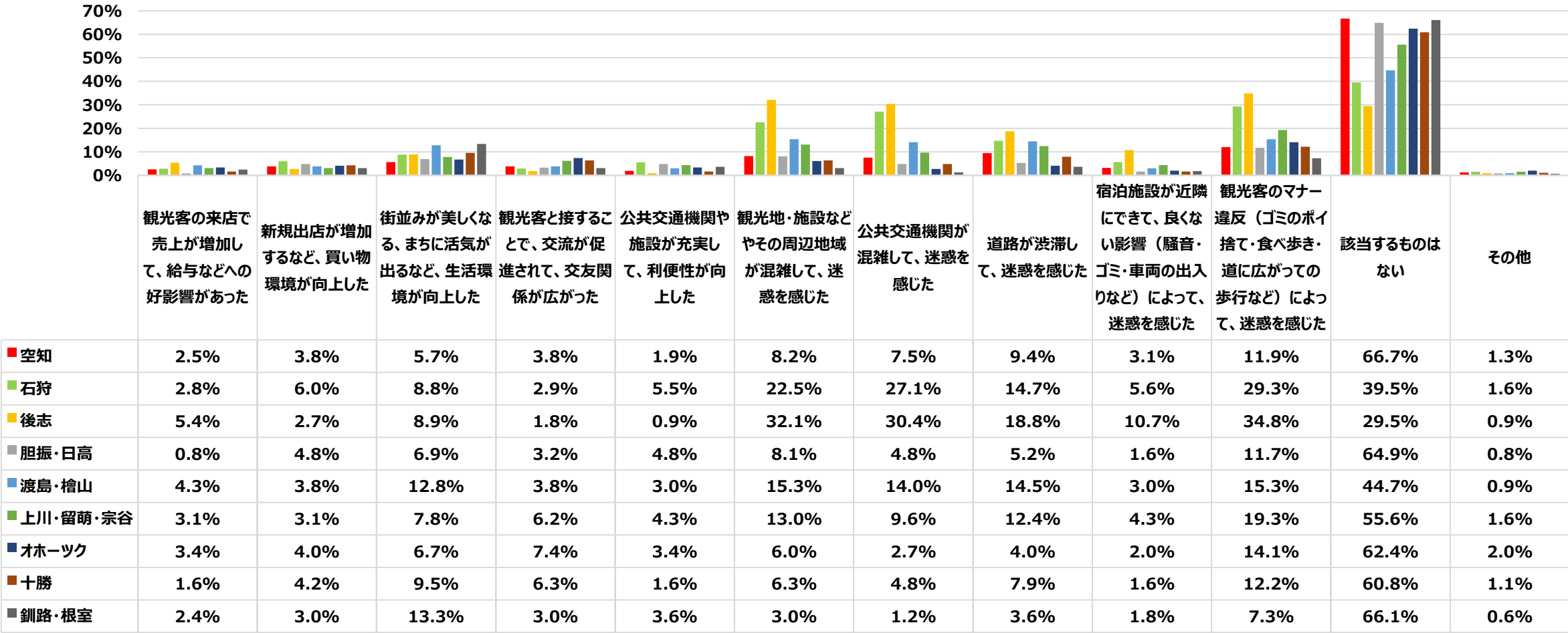
n=3,000



「1年に4回以上」宿泊旅行を行う回答者の割合は「オホーツク」「釧路・根室」「上川・留萌・宗谷」が高く、「後志」が最も低い。

4-4 経済的満足度の形成要因 1/3

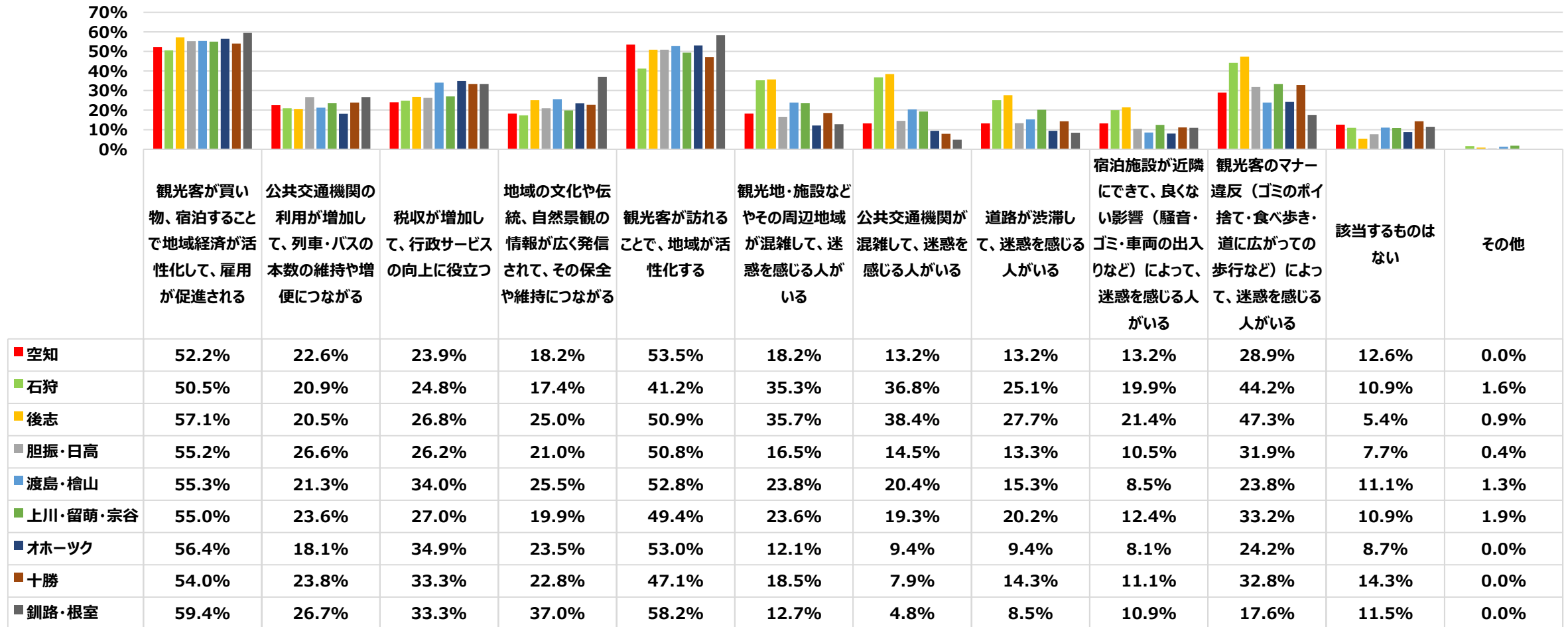
経済的満足度（観光の自身への影響） n=3,000



自身への影響で「該当するものはない」と回答した割合は、「空知」「釧路・根室」「胆振・日高」で高く、「後志」「石狩」で低い。
一方、「後志」「石狩」では、混雑や観光客のマナーによる迷惑を感じる回答者の割合が全エリアで最も高い。
ほとんどの振興局で好影響より負の影響を上げる回答者が多い傾向がある。

4-4 経済的満足度の形成要因 2/3

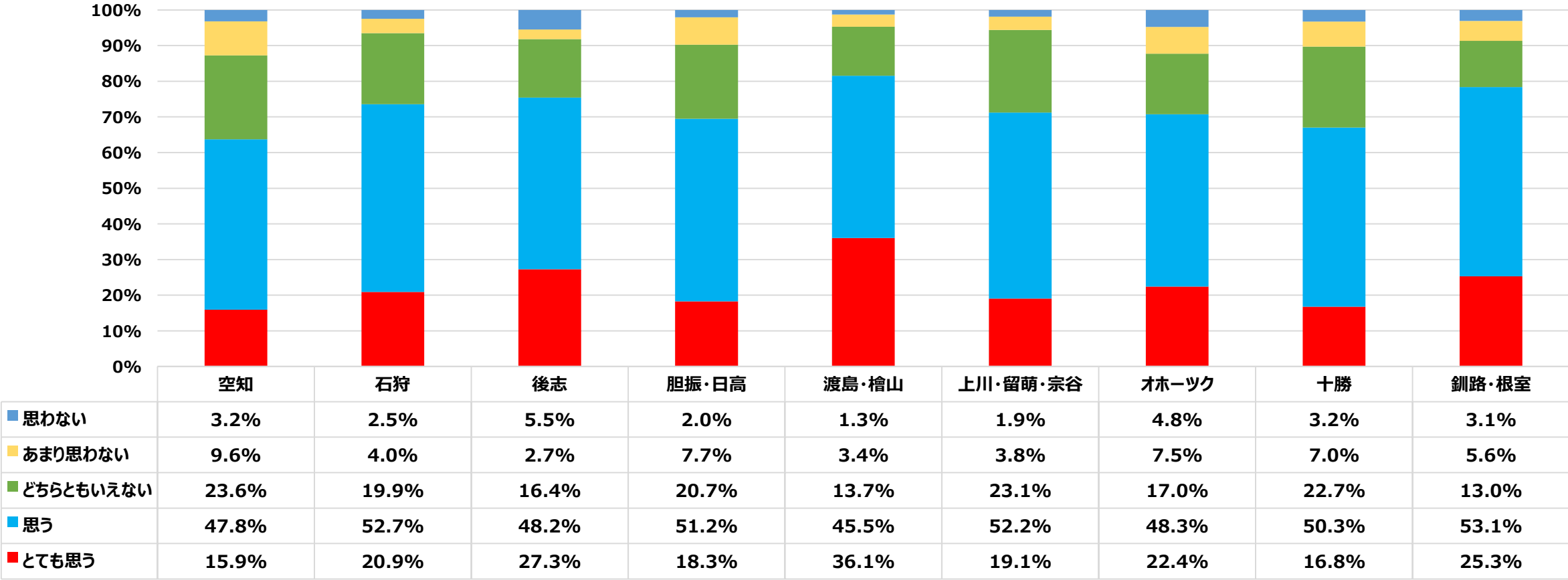
経済的満足度（観光の地域への影響） n=3,000



「地域の文化や伝統、自然景観の情報が広く発信されて、その保全や維持につながる」と回答した層は「釧路・根室」で特に多い。
一方、「混雑」「観光客のマナー」で迷惑を感じる人がいると回答した割合は「後志」「石狩」で特に高い。

観光の地域経済への役割

n=3,000

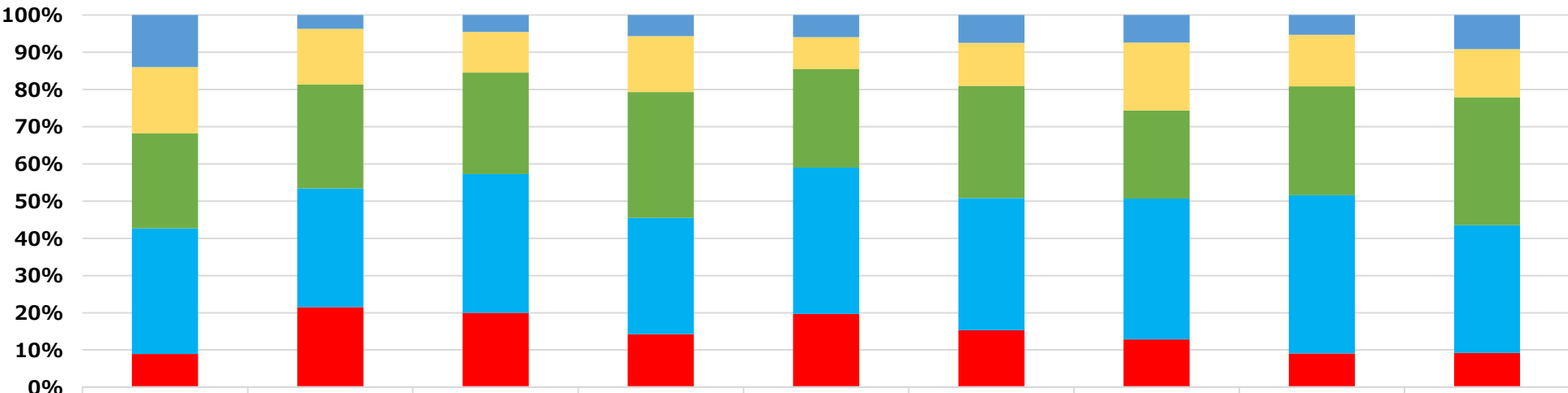


経済的満足度の構成要素として、「観光の地域経済への役割」の意識をエリア毎に見た。
「とても思う」「思う」の合計は「渡島・檜山」（81.6％）が最も高く、次いで「釧路・根室」（78.4％）も高い。

4-5 その他の要因抽出 1/4

観光地・観光関連施設までの距離

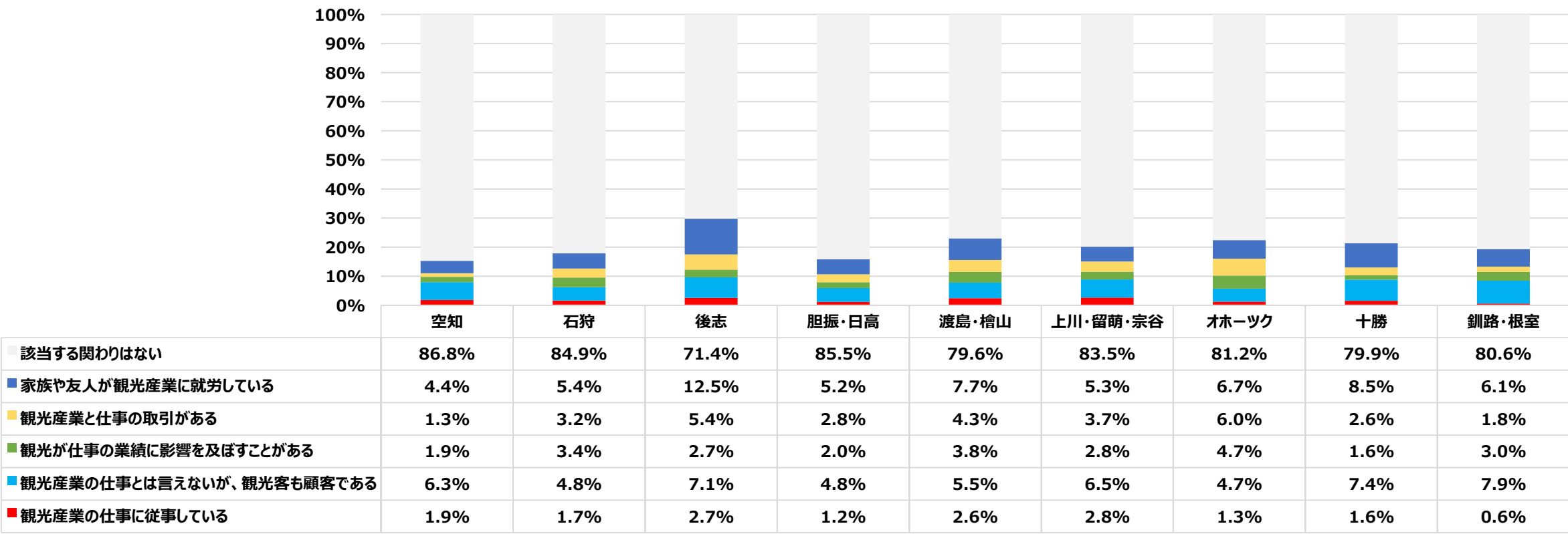
n=3,000



	空知	石狩	後志	胆振・日高	渡島・檜山	上川・留萌・宗谷	オホーツク	十勝	釧路・根室
公共交通機関・車などで60分以内には無い	14.0%	3.7%	4.5%	5.7%	6.0%	7.5%	7.4%	5.3%	9.2%
公共交通機関・車などで60分以内	17.8%	14.9%	10.9%	15.0%	8.5%	11.5%	18.2%	13.8%	12.9%
公共交通機関・車などで30分以内	25.5%	27.9%	27.3%	33.7%	26.5%	30.2%	23.6%	29.3%	34.4%
公共交通機関・車などで15分以内	33.8%	31.9%	37.3%	31.3%	39.3%	35.5%	37.8%	42.6%	34.4%
徒歩圏内	8.9%	21.5%	20.0%	14.2%	19.7%	15.3%	12.8%	9.0%	9.2%

観光地まで「徒歩圏内」と答えた回答者の割合は「石狩」「後志」「渡島・檜山」の3エリアで高い。
一方、「空知」では公共交通機関・車で60分以内にはないと答えた回答者の割合が14.0%と高い。

観光産業との関わり MA
n=3,000

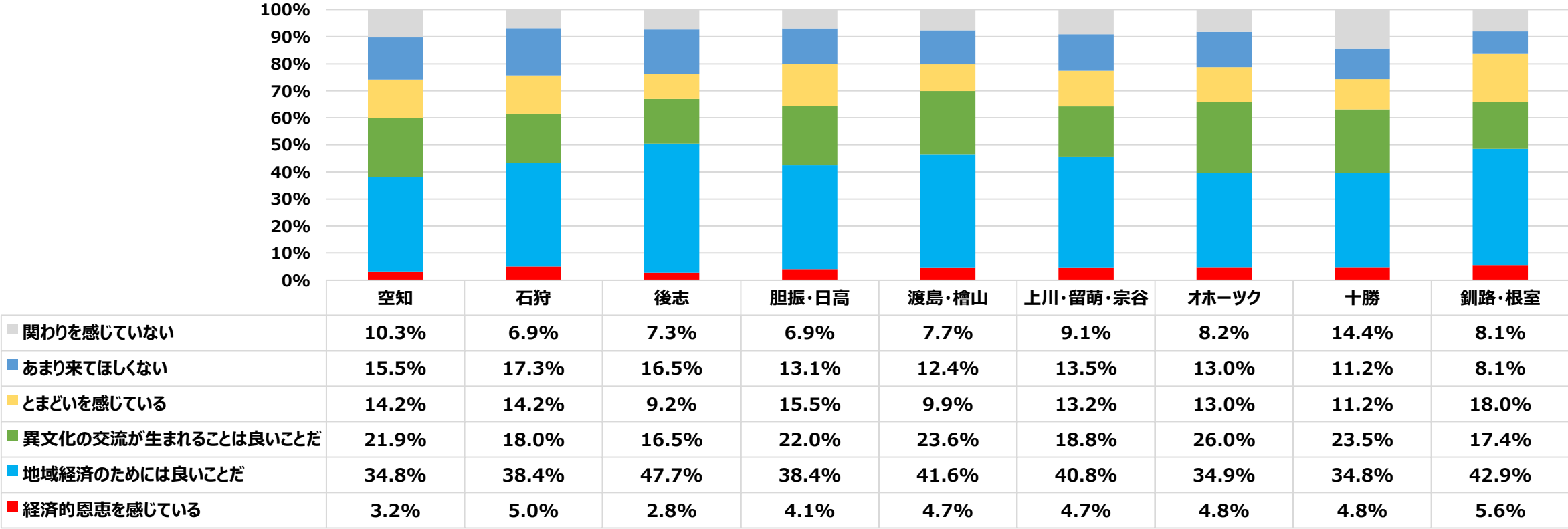


「後志」では「該当する関わりはない」を選んだ回答者の割合が71.4%と突出して低く、かつ「家族や友人が観光産業に就労している」と回答した割合が12.5%と突出して高い。

4-5 その他の要因抽出 3/4

訪日外国人観光客増への意識

n=3,000

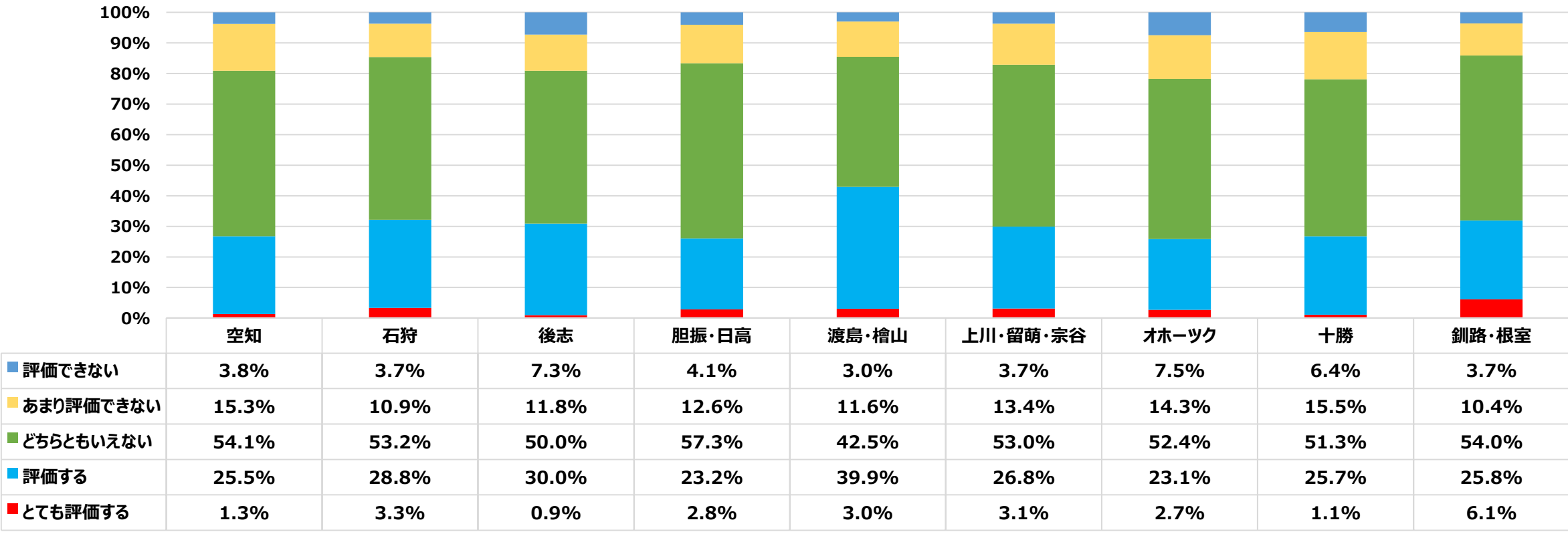


「地域経済のためには良いことだ」と答えた回答者の割合は「後志」（47.7％）で最も高く、次いで「釧路・根室」（42.9％）などが高い。
一方、「あまり来てほしくない」と答えた回答者の割合は「石狩」（17.3％）が最も高く、次いで「後志」（16.5％）が高い。

4-5 その他の要因抽出 4/4

地域の観光への取り組みへの評価

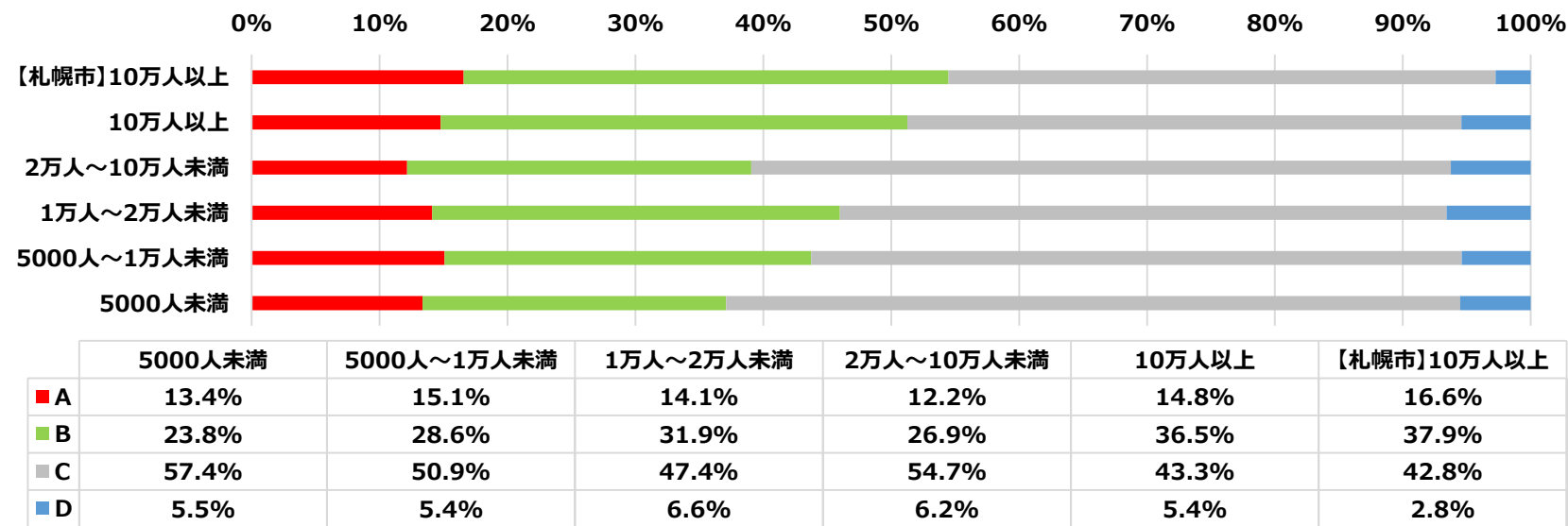
n=3,000



「とても評価する」「評価する」の合計は「渡島・檜山」が42.9%と突出して高い。
一方、「あまり評価できない」「評価できない」の合計は「十勝」（21.9%）が最も高い。

4-6 人口規模での比較 1/2

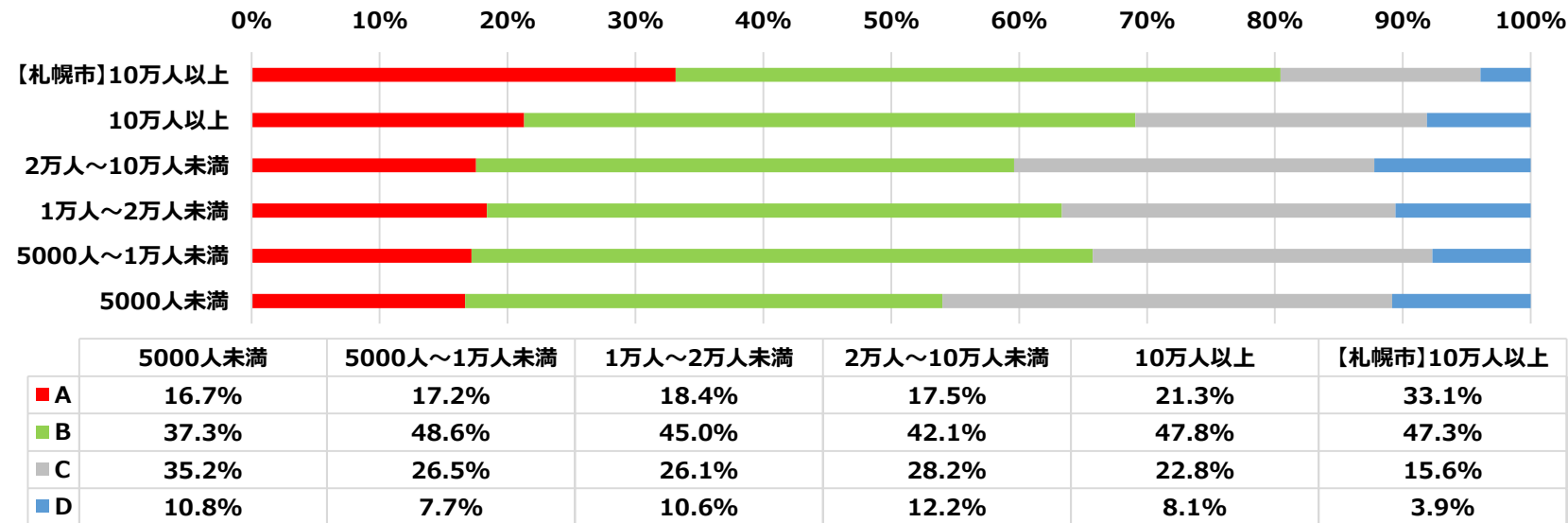
人口規模×総合満足度



居住自治体の人口規模ごとに各満足度および、その構成要因の分析を行った。以降の分析におけるn数（分母）は下記のとおり。

居住自治体人口規模	人数	構成比
【札幌市】10万人以上	1,210	40.3%
10万人以上	882	29.4%
2万人～10万人未満	203	6.8%
1万人～2万人未満	462	15.4%
5000人～1万人未満	118	3.9%
5000人未満	125	4.2%
総計	3,000	100.0%

人口規模×居住地満足度



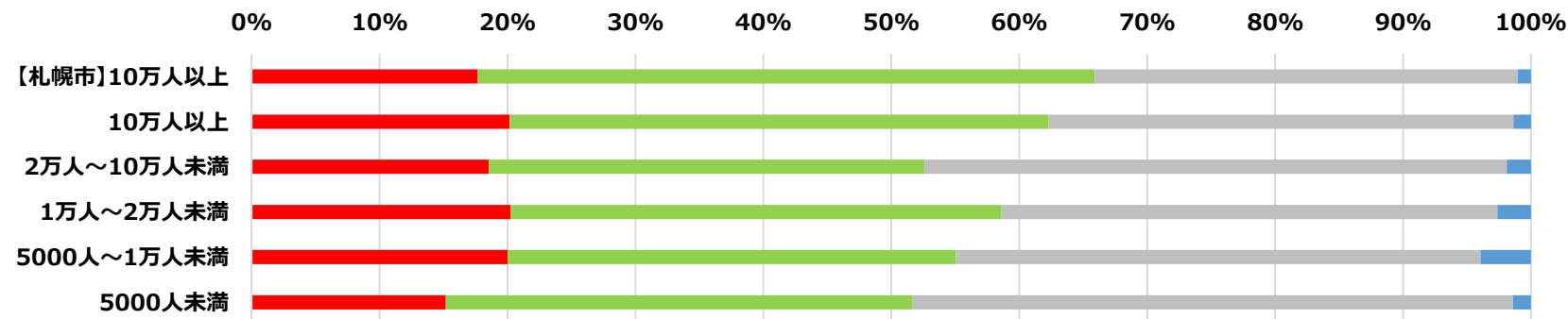
総合満足度・居住地満足度ともに、Aランク・Bランクの合計割合は人口規模に比例している。これらの傾向は昨年度の調査とほぼ同じ。

人口規模が大きいほど総合満足度が高い傾向にある。
また、「札幌市」は居住地満足度が特に高く、Aランク・Bランクの合計が8割を超えている。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

4-6 人口規模での比較 2/2

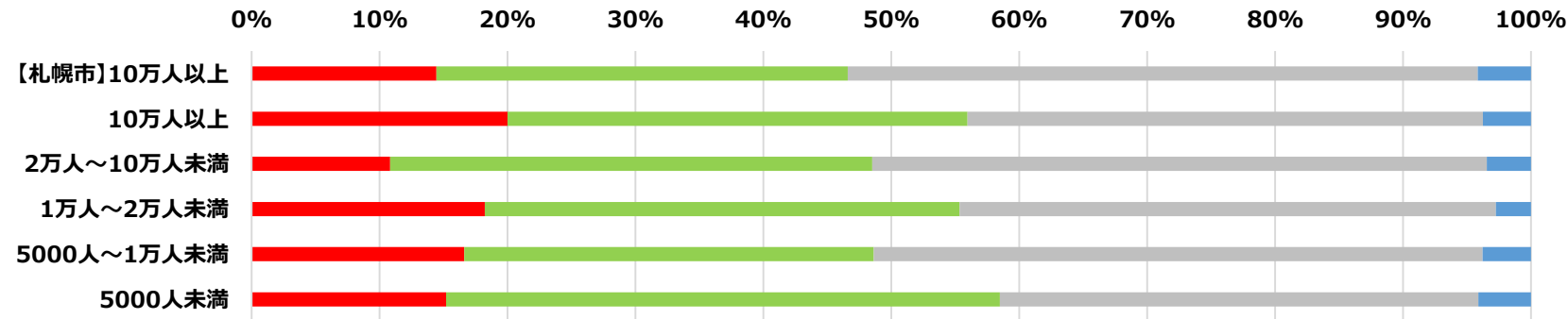
人口規模×社会的満足度



社会的満足度に関しても、総合満足度、居住地満足度と同様人口規模に比例する傾向が表れている。

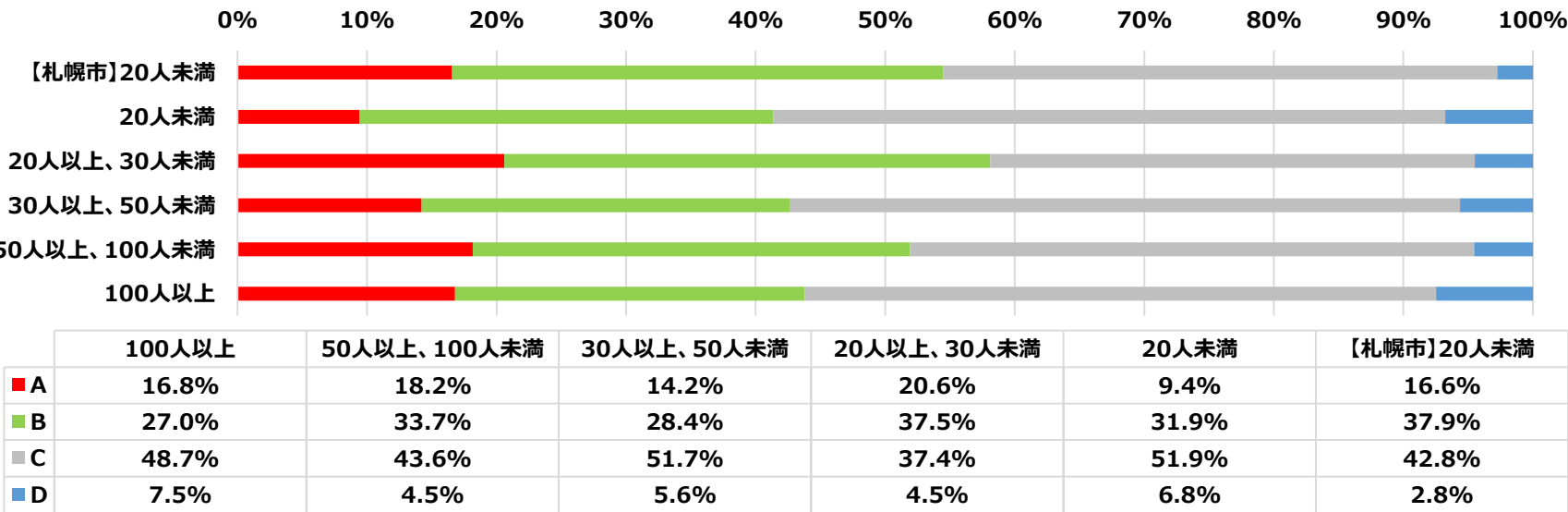
一方で、経済的満足度に関しては市町村人口との比例関係がほぼみられない。Aランク・Bランクの合計割合が最も高いのは「人口5000人未満」の市町村である一方、「札幌市」でAランク・Bランクの合計割合が最も低い。

人口規模×経済的満足度

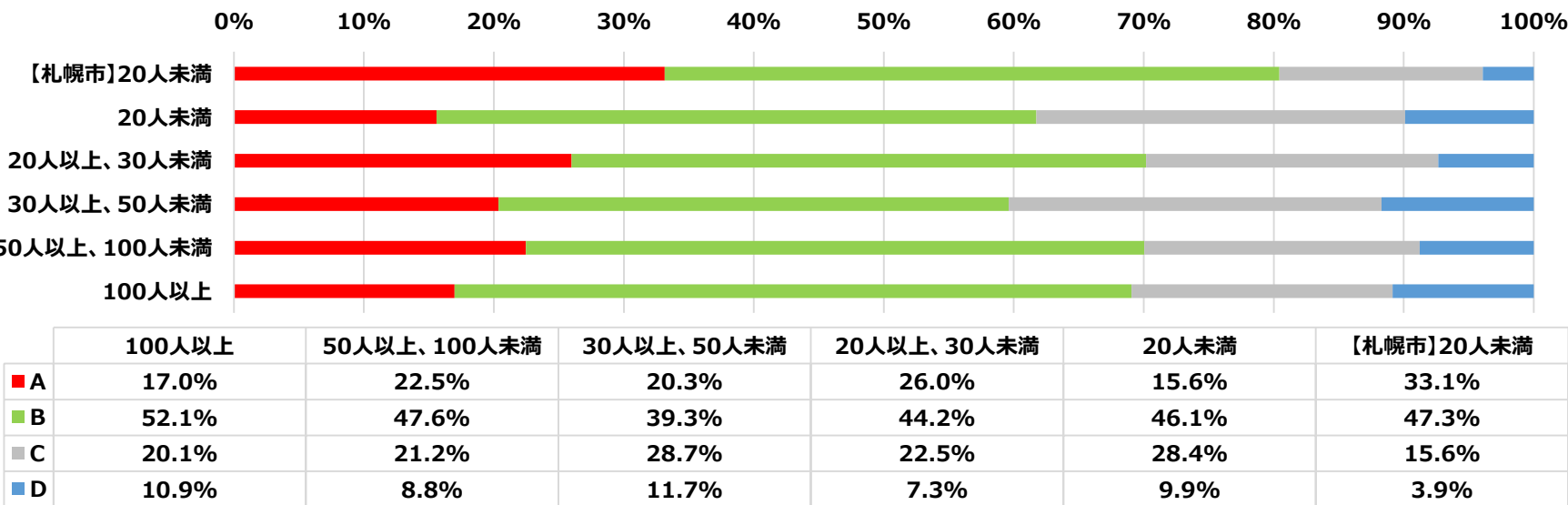


4-7 住民1人あたり観光入込客数での比較 1/3

住民1人当たり観光客入込総数×総合満足度



住民1人当たり観光客入込総数×居住地満足度



「観光客との接触濃度」の影響を見るため、「住民1人あたり観光入込客数」ごとに自治体を分類し、居住者毎の意識の違いを見た。以降の分析におけるn数（分母）は下記のとおり。

住民1人あたり観光入込客数	人数	構成比
【札幌市】20人未満	1,210	40.3%
20人未満	819	27.3%
20人以上、30人未満	374	12.5%
30人以上、50人未満	164	5.5%
50人以上、100人未満	325	10.8%
100人以上	108	3.6%
総計	3,000	100.0%

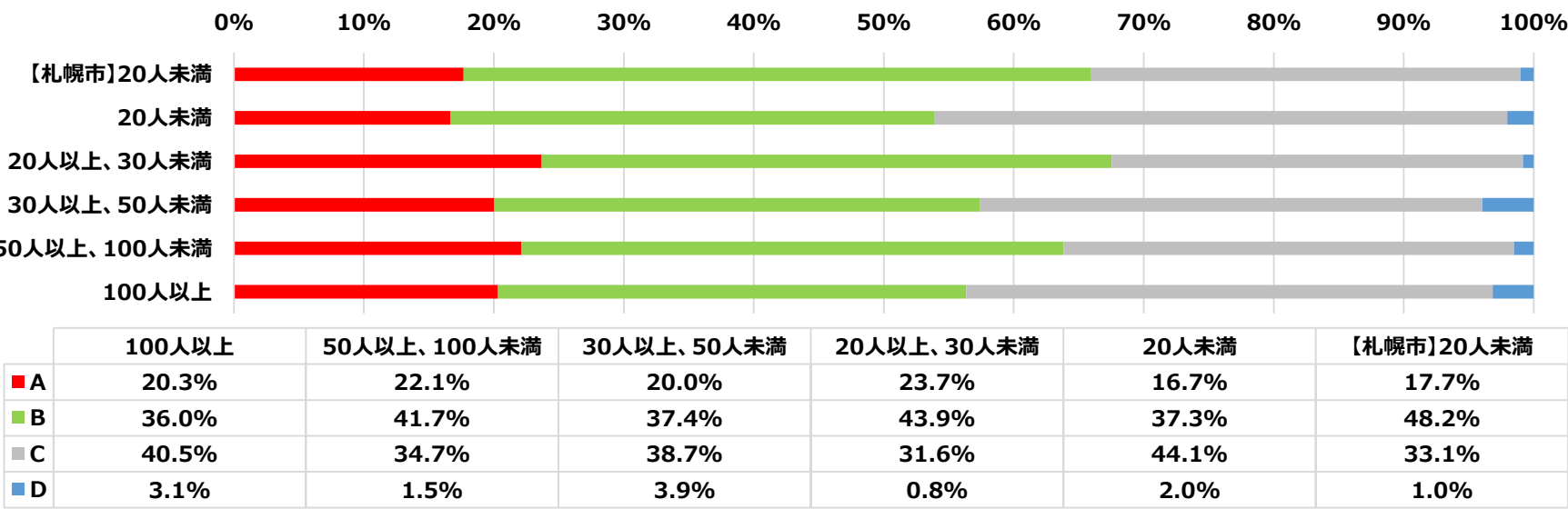
総合満足度と住民1人当たり観光客入込総数の間に明確な比例関係はみられない。

居住地満足度についても、1人当たり観光客入込総数との間に明確な比例関係はない。「札幌市」が最も高い一方で、「100人以上」「50人以上、100人未満」の市町村のAランク・Bランク合計割合もある程度高くなっている。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

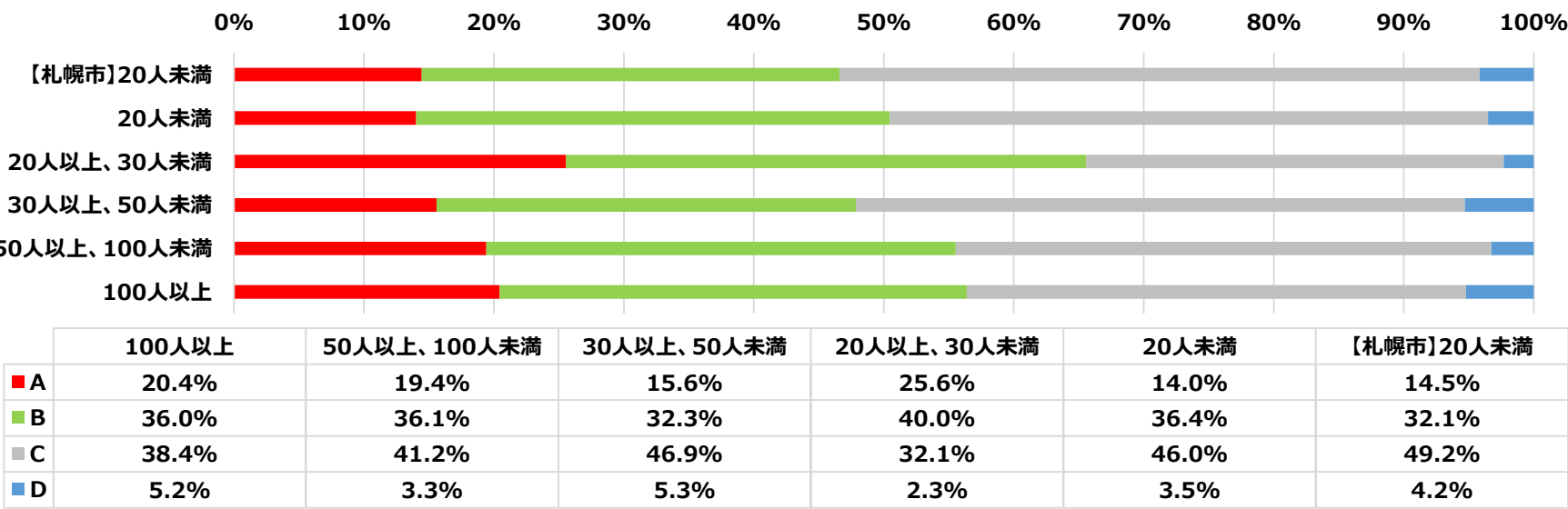
4-7 住民1人あたり観光入込客数での比較 2/3

住民1人当たり観光客入込総数×社会的満足度



前ページ同様、社会的満足度・経済的満足度についても1人当たり観光客入込総数との間の比例関係はみられない。

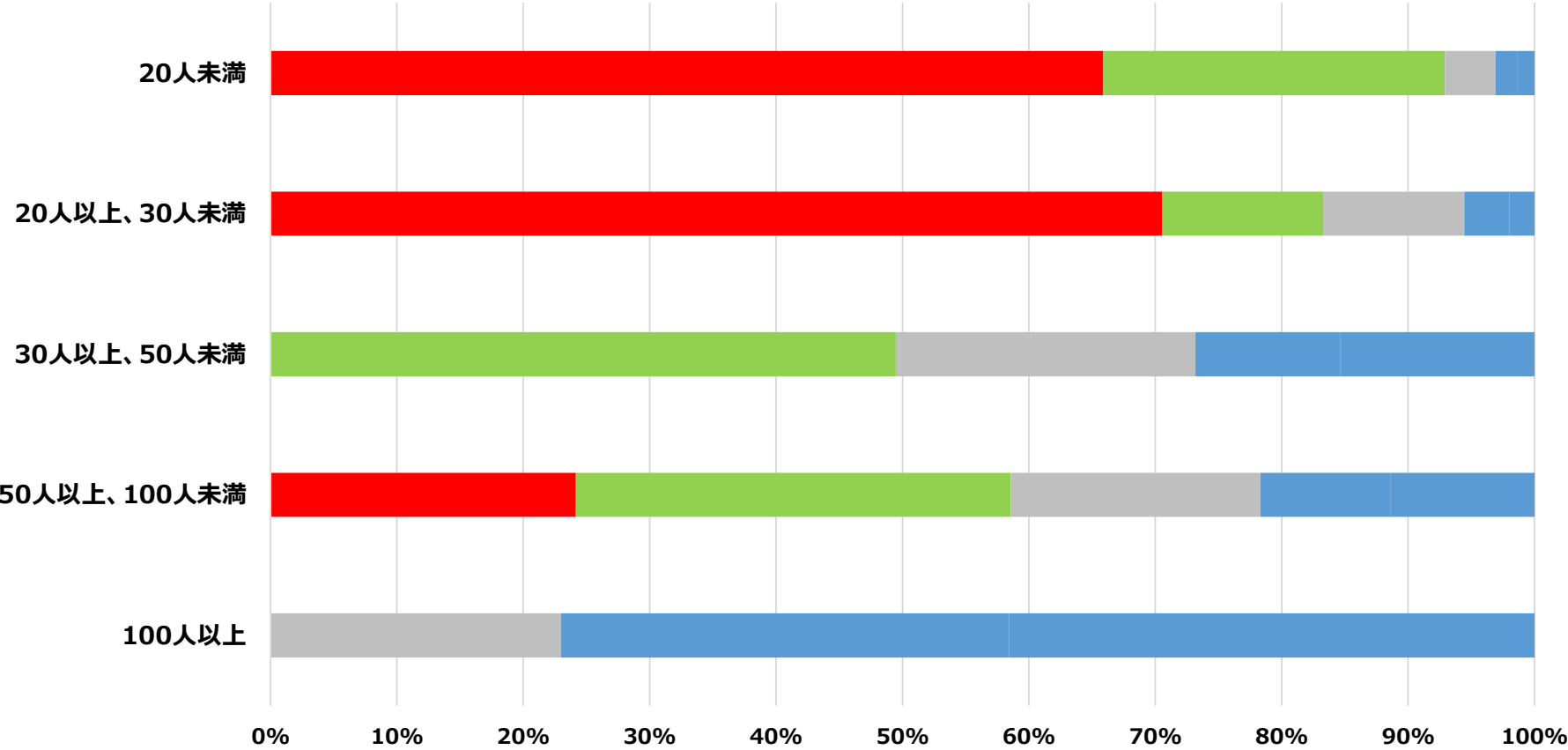
住民1人当たり観光客入込総数×経済的満足度



観光入込客数はR6年度（R6年4月～R7年3月）の入込総数（日帰客＋宿泊客、日本人＋外国人の合計）

4-7 住民1人あたり観光入込客数での比較 3/3

住民1人当たり観光客入込総数と居住地人口の関係



居住地の「住民1人あたり観光入込客数」と自治体人口規模の関係を見た。
（表中の％は本調査における回答者の割合。また、札幌市は本集計から除外している）

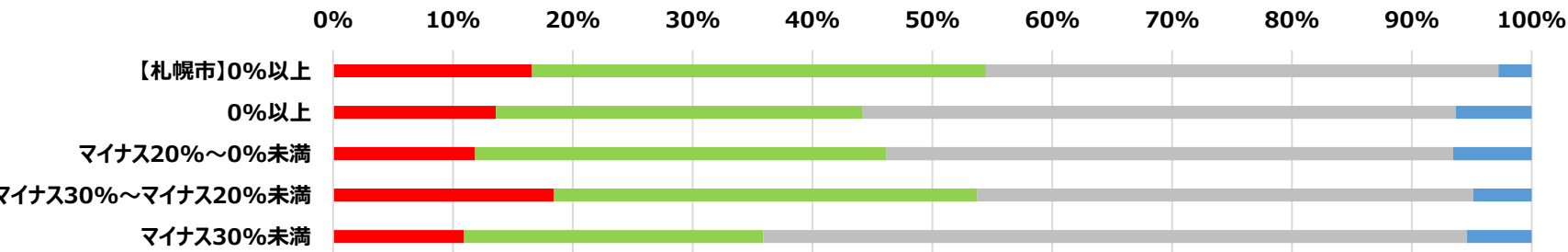
住民1人当たり観光客入込総数は居住地人口規模に反比例しており、小規模な自治体ほど1人当たり観光客入込総数が大きくなる傾向がみられる。

1人当たり観光入込客数が100人以上の市町村は、すべて2万人未満の小規模市町村である。

	100人以上	50人以上、100人未満	30人以上、50人未満	20人以上、30人未満	20人未満
10万人以上	0.0%	24.2%	0.0%	70.5%	65.9%
2万人～10万人未満	0.0%	34.4%	49.5%	12.7%	27.0%
1万人～2万人未満	23.0%	19.8%	23.7%	11.2%	4.0%
5000人～1万人未満	35.5%	10.3%	11.4%	3.6%	1.7%
5000人未満	41.6%	11.4%	15.4%	2.0%	1.3%

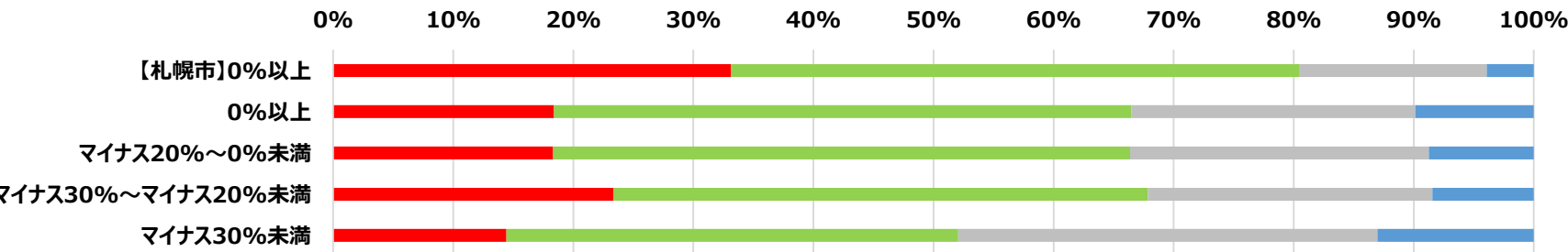
4-8 過疎化進行度での比較 1/2

人口増減率×総合満足度



	マイナス30%未満	マイナス30%～マイナス20%未満	マイナス20%～0%未満	0%以上	【札幌市】0%以上
■ A	10.9%	18.4%	11.8%	13.6%	16.6%
■ B	25.0%	35.4%	34.4%	30.6%	37.9%
■ C	58.7%	41.4%	47.3%	49.5%	42.8%
■ D	5.4%	4.9%	6.5%	6.3%	2.8%

人口増減率×居住地満足度



	マイナス30%未満	マイナス30%～マイナス20%未満	マイナス20%～0%未満	0%以上	【札幌市】0%以上
■ A	14.4%	23.4%	18.3%	18.4%	33.1%
■ B	37.6%	44.5%	48.0%	48.1%	47.3%
■ C	34.9%	23.7%	24.9%	23.7%	15.6%
■ D	13.0%	8.4%	8.7%	9.9%	3.9%

「過疎化進行度」の影響を見るため、「人口増減率」ごとに自治体を分類し、居住者毎の意識の違いを見た。以降の分析におけるn数（分母）は下記のとおり。
※人口増減率は令和2年度国勢調査に対して過去25年間の増減で算出。

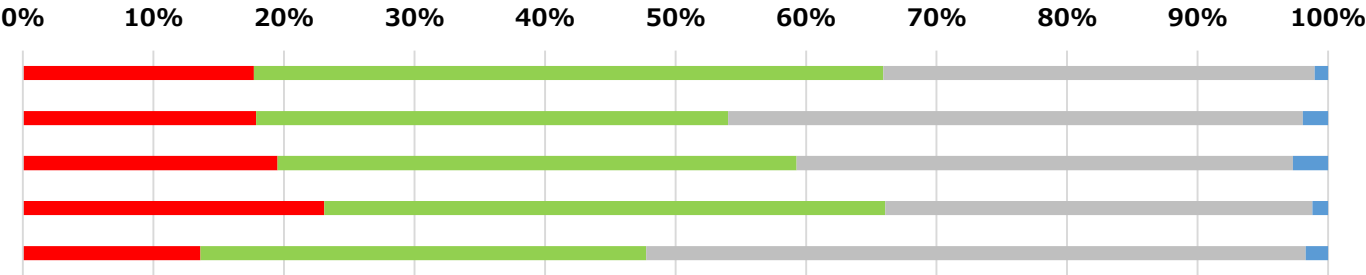
人口増減率	人数	構成比
【札幌市】0%以上	1,210	40.3%
0%以上	392	13.1%
マイナス20%～0%未満	613	20.4%
マイナス30%～マイナス20%未満	582	19.4%
マイナス30%未満	203	6.8%
総計	3,000	100.0%

総合満足度、居住地満足度ともに前年度調査と同じ傾向がみられる。
人口増減率マイナス30%未満の市町村でAランク・Bランクの合計割合が最も低くなっている。一方で、マイナス30%～マイナス20%未満の市町村ではAランク・Bランクの合計割合が札幌市と同程度に高い。
居住地満足度では、Aランク・Bランクの合計割合は札幌市が最も高く、マイナス30%未満の市町村で最も低くなっている。居住地満足度は人口増減率に比例する傾向がある。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

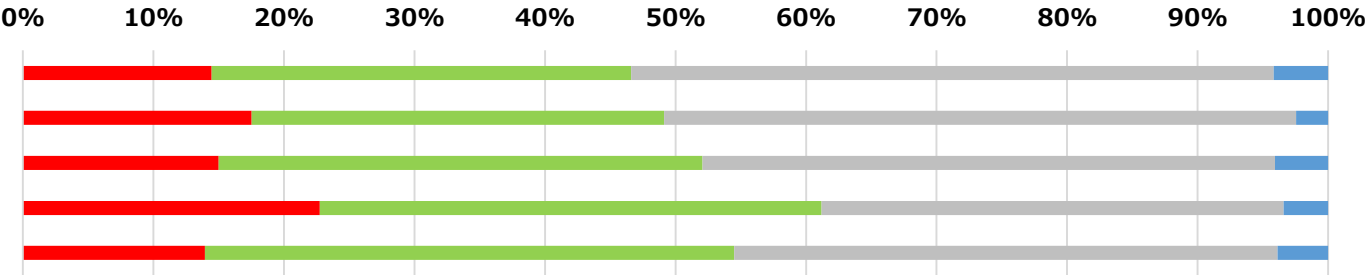
4-8 過疎化進行度での比較 2/2

人口増減率×社会的満足度



	マイナス30%未満	マイナス30%～マイナス20%未満	マイナス20%～0%未満	0%以上	【札幌市】0%以上
A	13.6%	23.1%	19.5%	17.9%	17.7%
B	34.2%	43.0%	39.8%	36.2%	48.2%
C	50.5%	32.8%	38.0%	44.1%	33.1%
D	1.7%	1.2%	2.7%	1.9%	1.0%

人口増減率×経済的満足度



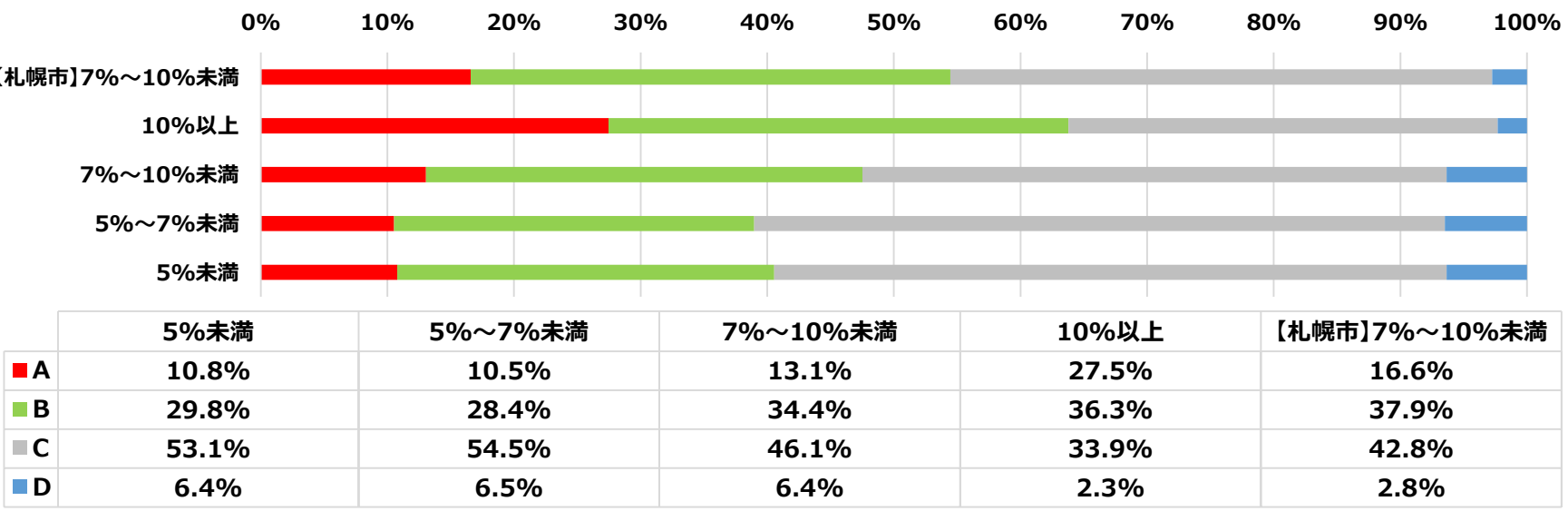
	マイナス30%未満	マイナス30%～マイナス20%未満	マイナス20%～0%未満	0%以上	【札幌市】0%以上
A	13.9%	22.7%	15.0%	17.5%	14.5%
B	40.5%	38.5%	37.1%	31.6%	32.1%
C	41.6%	35.4%	43.9%	48.4%	49.2%
D	3.9%	3.4%	4.1%	2.4%	4.2%

前年度と異なり、社会的満足度では人口増減率との間の比例関係が明確にはうかがえない。

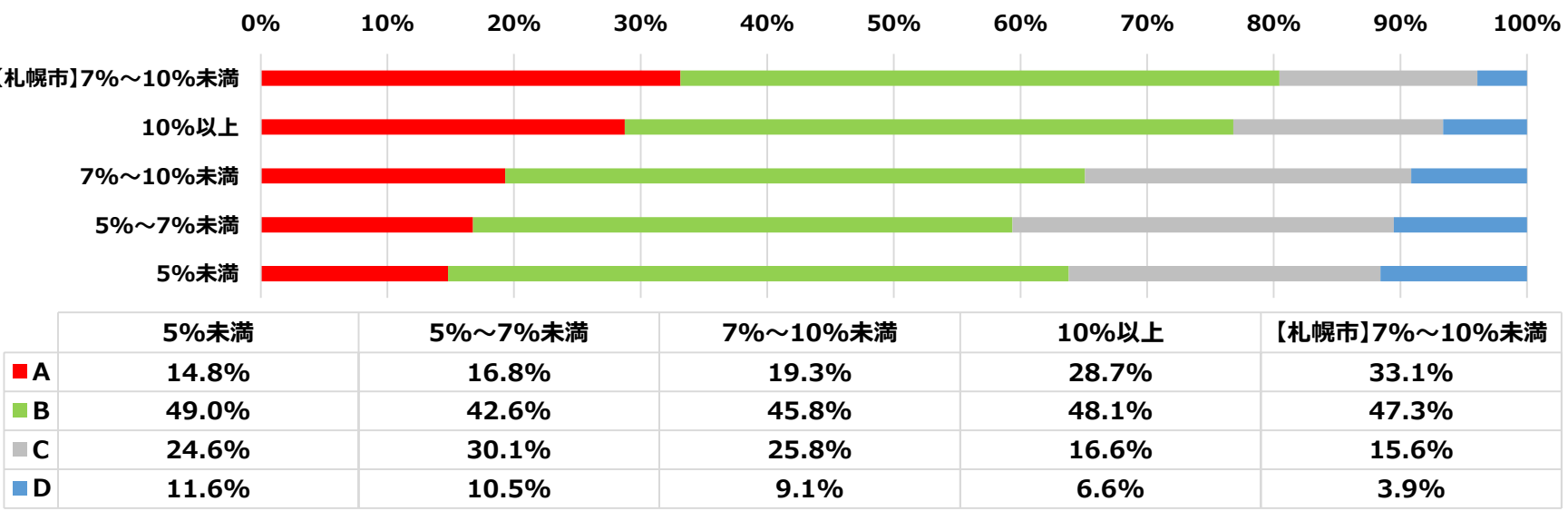
経済的満足度については、「マイナス30%未満」を除き、人口増減率が低いほど経済的満足度が高くなる傾向がみられる。こちらは前年度と同じ傾向である。

4-9 観光産業の比重による比較 1/2

「宿泊・飲食サービス業」従業者比率×総合満足度



「宿泊・飲食サービス業」従業者比率×居住地満足度



「観光産業従事者数」の影響を見るため、「宿泊・飲食サービス業従業者の人口比率」を自治体毎に算出・分類し、居住者毎の意識の違いを見た。
宿泊・飲食サービス業の従業者数は「当該自治体に拠点を置く事業社の従業員数」のため、正確な数値とは言えないが、観光産業の比重を知る指標としては十分と考える。以降の分析におけるn数（母数）は以下のとおり。

宿泊・飲食従業者比率	人数	構成比
【札幌市】7%～10%未満	1,210	40.3%
10%以上	250	8.3%
7%～10%未満	928	30.9%
5%～7%未満	417	13.9%
5%未満	195	6.5%
総計	3,000	100.0%

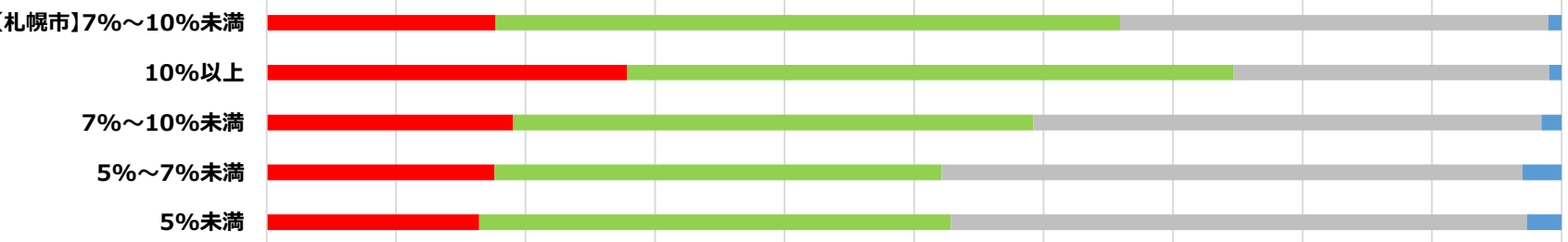
昨年度の調査同様、総合満足度、居住地満足度ともに「10%以上」の市町村がAランク・Bランクの合計割合が最も高く、観光産業の従業員比率がそれぞれの満足度と比例していることがわかる。
一方、これも昨年度と同じく、「5%未満」の市町村のほうが5%～7%の市町村よりも満足度が高くなっている。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

4-9 観光産業の比重による比較 2/2

「宿泊・飲食サービス業」従業者比率×社会的満足度

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



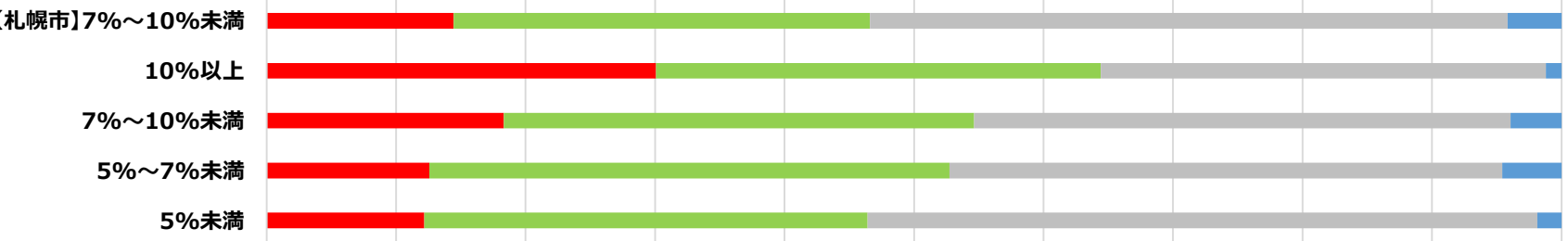
	5%未満	5%~7%未満	7%~10%未満	10%以上	【札幌市】7%~10%未満
A	16.4%	17.6%	19.0%	27.9%	17.7%
B	36.4%	34.5%	40.2%	46.8%	48.2%
C	44.5%	44.9%	39.2%	24.4%	33.1%
D	2.7%	3.0%	1.5%	0.9%	1.0%

社会的満足度、経済的満足度に関しても10%以上の市町村が最もAランク・Bランクの合計割合が高く、観光産業従業者比率が下がるほどその割合が下がる。

こちらも概ね昨年度調査と同じ傾向である。

「宿泊・飲食サービス業」従業者比率×経済的満足度

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

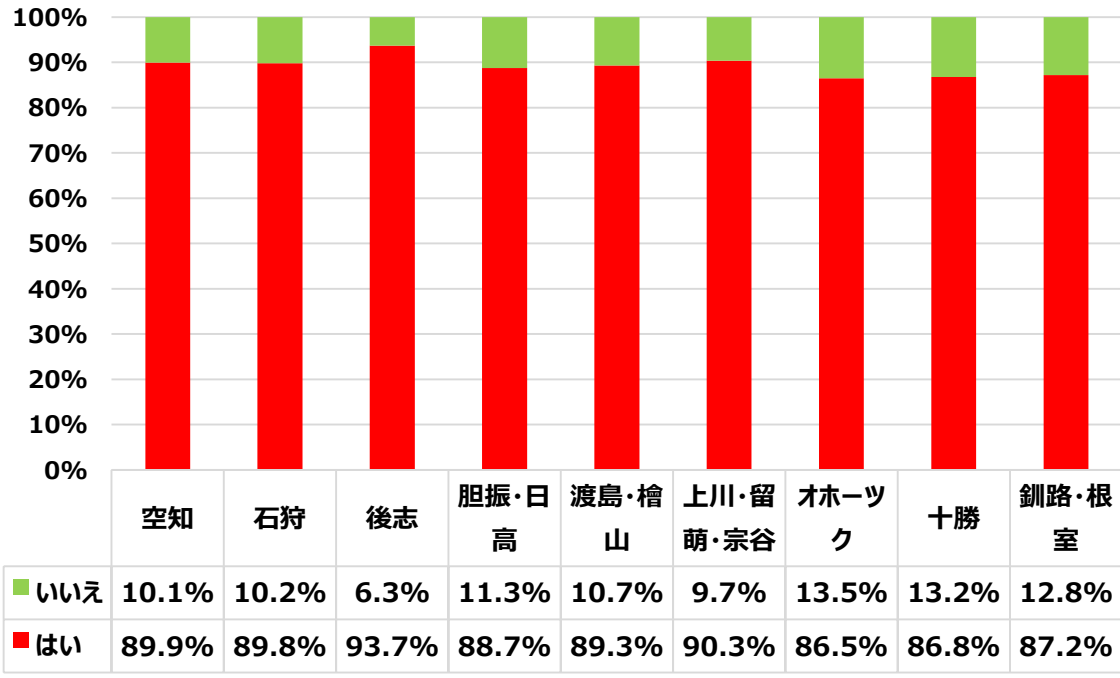


	5%未満	5%~7%未満	7%~10%未満	10%以上	【札幌市】7%~10%未満
A	12.2%	12.6%	18.3%	30.1%	14.5%
B	34.2%	40.2%	36.3%	34.3%	32.1%
C	51.7%	42.7%	41.4%	34.4%	49.2%
D	1.9%	4.6%	3.9%	1.2%	4.2%

4-10 オーバーツーリズムへの認知度

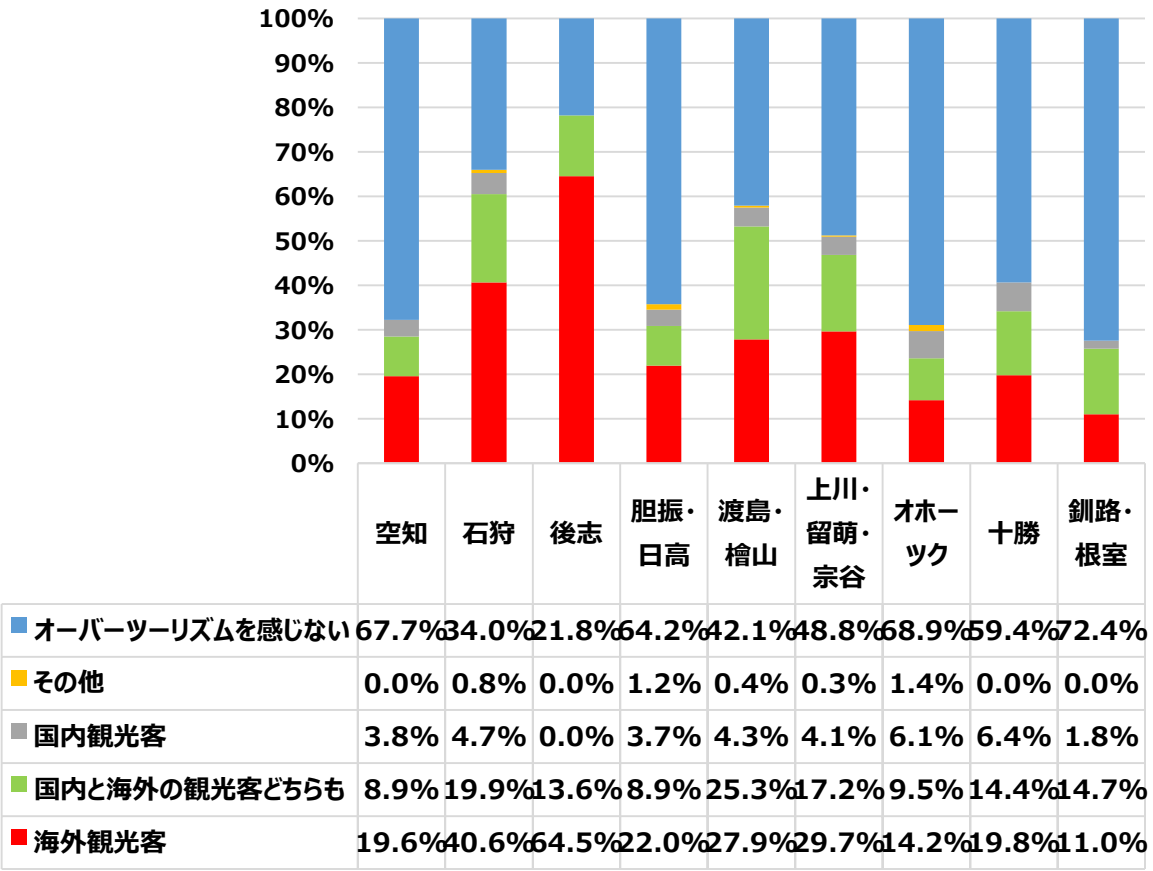
「オーバーツーリズム」への認知度

n=3,000



「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ

n=3,000

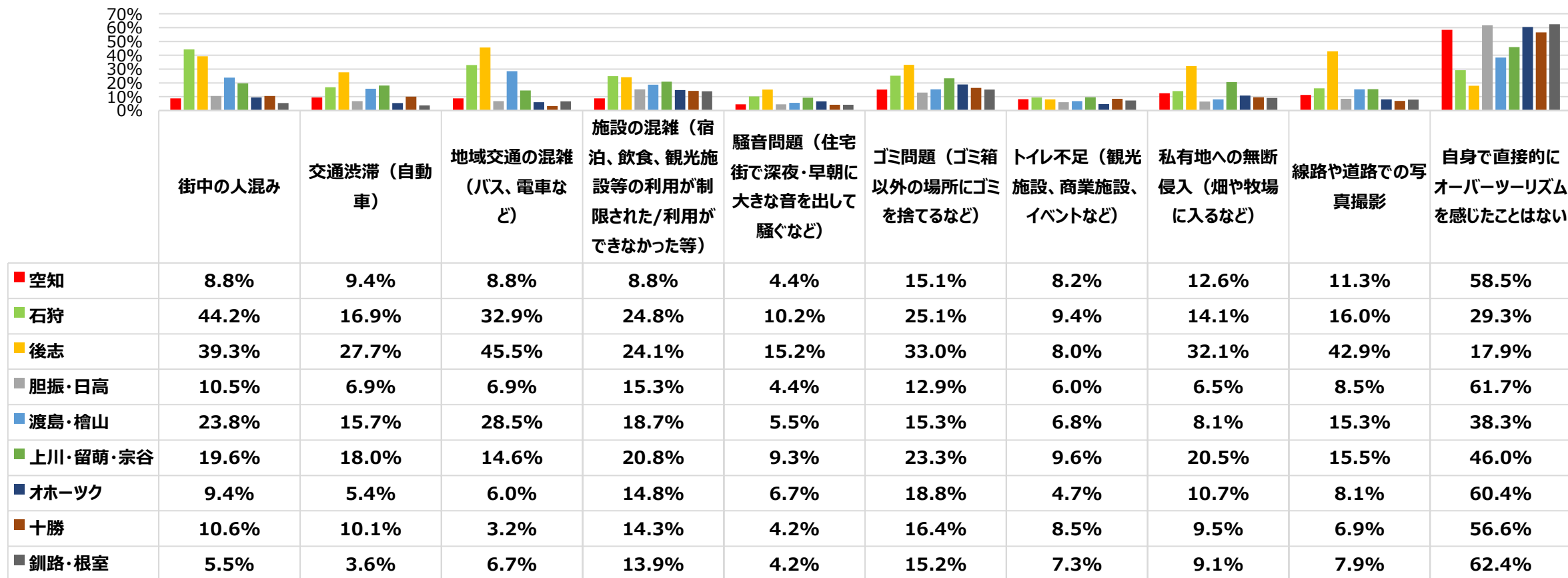


「オーバーツーリズム」という言葉の認知度はどの地域でも9割前後となっている。
一方、「オーバーツーリズムを感じない」とする回答には地域差が大きく、「釧路・根室」「オホーツク」「空知」「胆振・日高」では60%を超えているが、「後志」（21.8%）「石狩」（34.0%）では顕著に低い。
「後志」では「海外観光客」がオーバーツーリズムに繋がっているという回答が他地域より顕著に高い。

4-11 見聞きたオーバーツーリズム

見聞きた「オーバーツーリズム」

n=3,000



「石狩」「後志」では「町中の人混み」「地域交通の混雑」「ゴミ問題」と答えた回答者の割合が特に高い。
 また、特に「後志」では、「私有地への無断侵入」「線路や道路での写真撮影」と答えた回答者の割合が他地域より高い。
 「自身で直接的にオーバーツーリズムを感じたことはない」という回答は、「釧路・根室」で最も高く、「胆振・日高」「オホーツク」が次ぐ。

5 他の調査データとの比較検証

5-1 京都府調査の概要 1/2

本道との比較データ取得を目的に京都府を対象に同様の調査を行った。

実査期間：令和7年11月14日（金）～11月18日（火）

取得サンプル数：550

分析対象サンプル：550

調査インフラ：楽天インサイト

サンプル属性：下記に示す

性別	人数	構成比
女性	277	50.4%
男性	273	49.6%
総計	550	100.0%

年代	人数	構成比
20代	110	20.0%
30代	110	20.0%
40代	110	20.0%
50代	110	20.0%
60代	110	20.0%
総計	550	100.0%

職業	人数	構成比
会社員	190	34.5%
契約社員・派遣社員・アルバイトなど	100	18.2%
無職（定年退職を含む）	55	10.0%
自営業・フリーランス	42	7.6%
専業主婦（夫）	41	7.5%
学生	33	6.0%
医療関係者	29	5.3%
公務員（教職員を除く）	26	4.7%
団体職員	10	1.8%
教職員・講師	8	1.5%
会社役員・経営者	7	1.3%
その他有職	9	1.6%
総計	550	100.0%

業種	人数	構成比
医療・福祉業	76	13.8%
製造業	73	13.3%
卸売業・小売業	32	5.8%
教育・学習支援業	30	5.5%
宿泊業・飲食サービス業	27	4.9%
公務	27	4.9%
学術研究・専門技術サービス業	16	2.9%
建設業（土木・工事業を含む）	16	2.9%
金融業・保険業	13	2.4%
不動産業・物品賃貸業	11	2.0%
運輸業・郵便業	9	1.6%
複合サービス事業	7	1.3%
情報通信業	6	1.1%
農業・林業	3	0.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.4%
その他のサービス業	52	9.5%
その他	21	3.8%
無回答	129	23.5%
総計	550	100.0%

※京都府データでは、サンプル数が比較的小さいことからウェイトバック集計は実施しない。

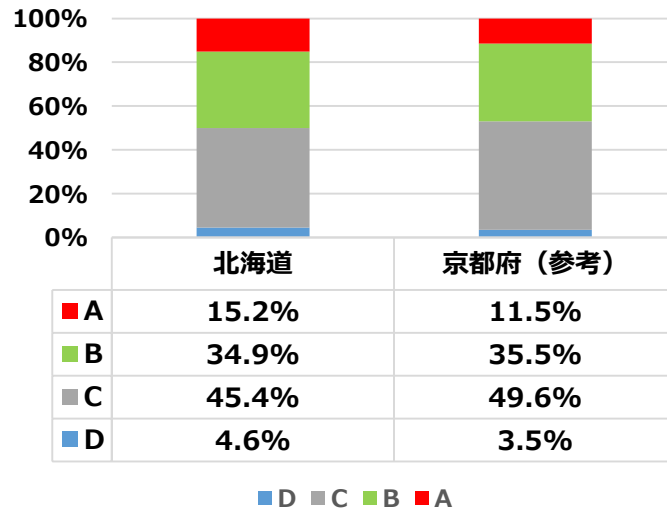
居住自治体

市町村名	人数	構成比
京都市伏見区	78	14.2%
京都市左京区	47	8.5%
京都市右京区	46	8.4%
宇治市	36	6.5%
京都市中京区	33	6.0%
京都市下京区	26	4.7%
福知山市	23	4.2%
京都市北区	22	4.0%
長岡京市	20	3.6%
京都市南区	20	3.6%
京田辺市	19	3.5%
城陽市	18	3.3%
亀岡市	18	3.3%
京都市上京区	18	3.3%
京都市山科区	18	3.3%
京都市西京区	17	3.1%

市町村名	人数	構成比
八幡市	15	2.7%
舞鶴市	11	2.0%
木津川市	11	2.0%
京丹後市	10	1.8%
精華町	9	1.6%
京都市東山区	9	1.6%
与謝野町	6	1.1%
向日市	6	1.1%
南丹市	5	0.9%
大山崎町	3	0.5%
綾部市	3	0.5%
久御山町	2	0.4%
宇治田原町	1	0.2%
総計	550	100.0%

5-2 京都府と北海道の満足度比較

総合満足度



京都府データの満足度分布を北海道と比較すると、以下の点で違いがみられる。

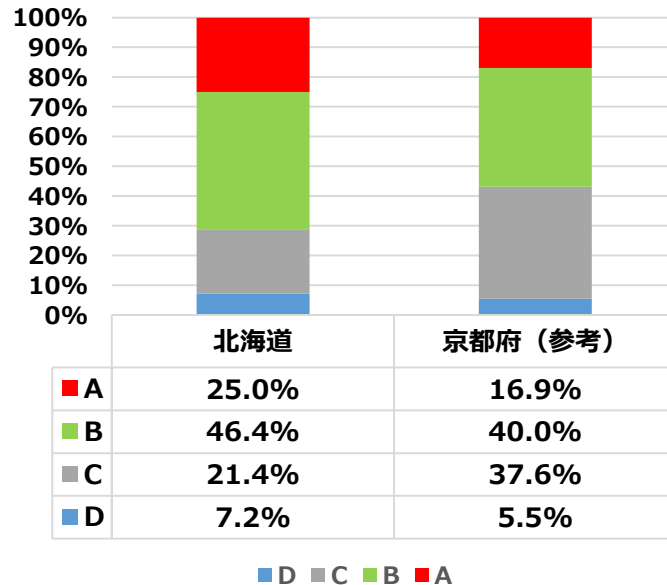
- ・どの満足度でも、Aランクの割合は北海道が京都を上回る。特に、「居住地満足度」では京都16.9%に対して北海道25.0%となり、最も差が大きい。
- ・Aランク＋Bランクの合計でも概ね北海道が京都を上回っているが、「経済的満足度」のみ、京都府（64.5%）が北海道（51.4%）を大きく上回っている。

京都府と比較して、北海道では居住地満足度（地域への誇り、愛着）が高い一方、経済的満足度（観光が自身・地域に与える影響、および地域の経済発展に対する観光の役割）が低いことがわかる。

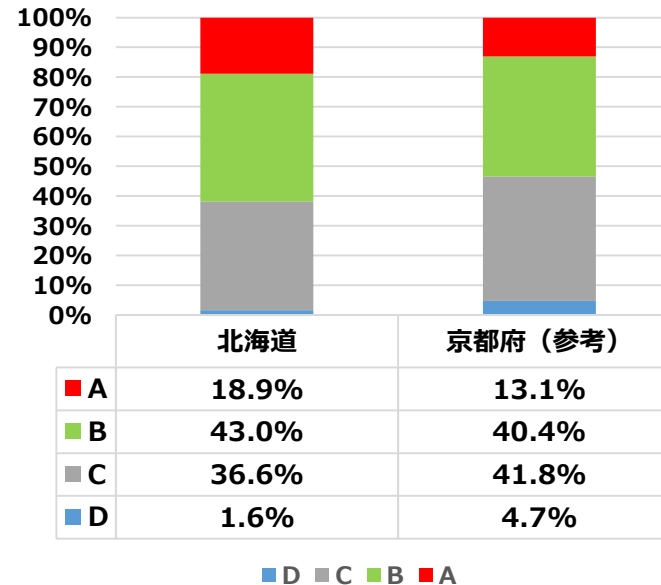
※n=北海道3000人、京都府550人

※京都府データでは、「経済的満足度」がDランク（偏差値30未満）のサンプルは存在しなかった。

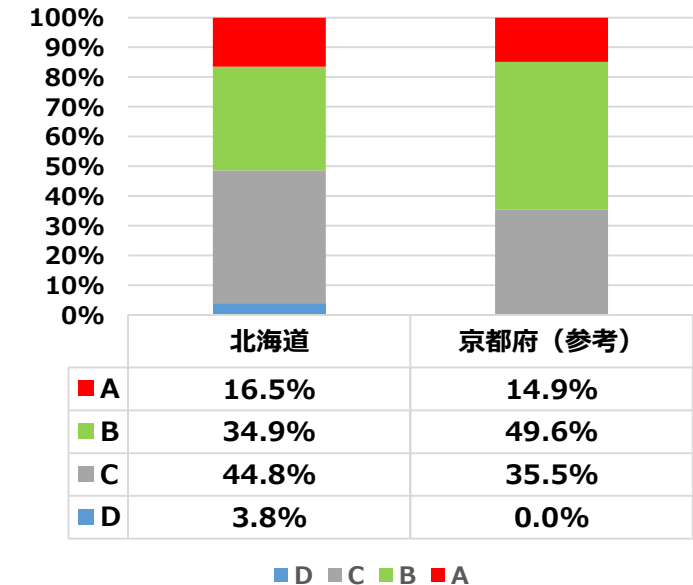
居住地満足度



社会的満足度



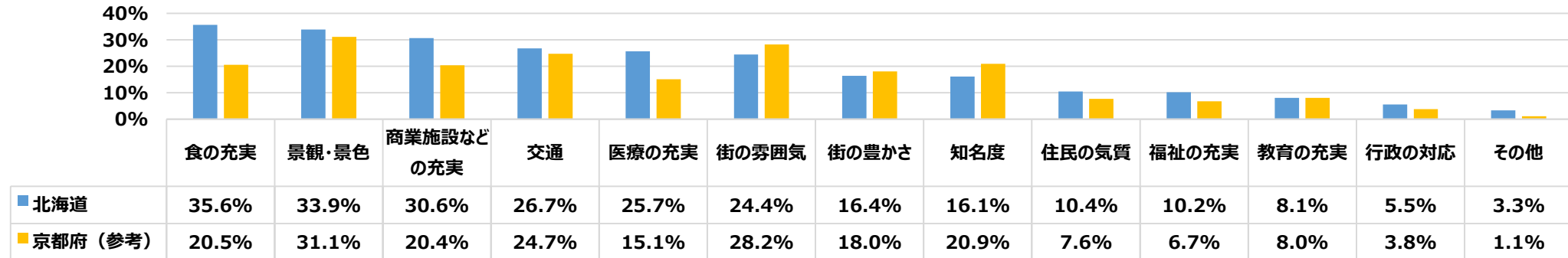
経済的満足度



5-3 居住地満足度の要因比較

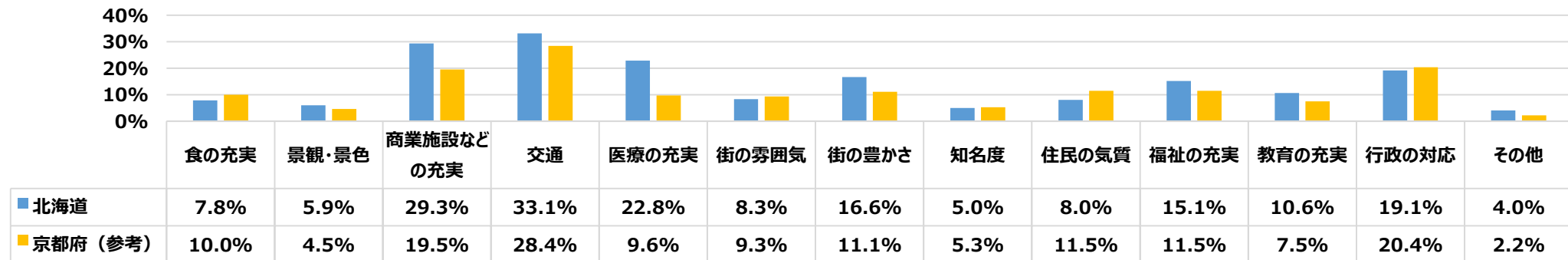
居住地満足度比較（お住いの地域に対する満足ポイント）

n = 北海道3,000人、京都府550人



居住地不満度比較（お住いの地域に対する不満ポイント）

n = 北海道3,000人、京都府550人

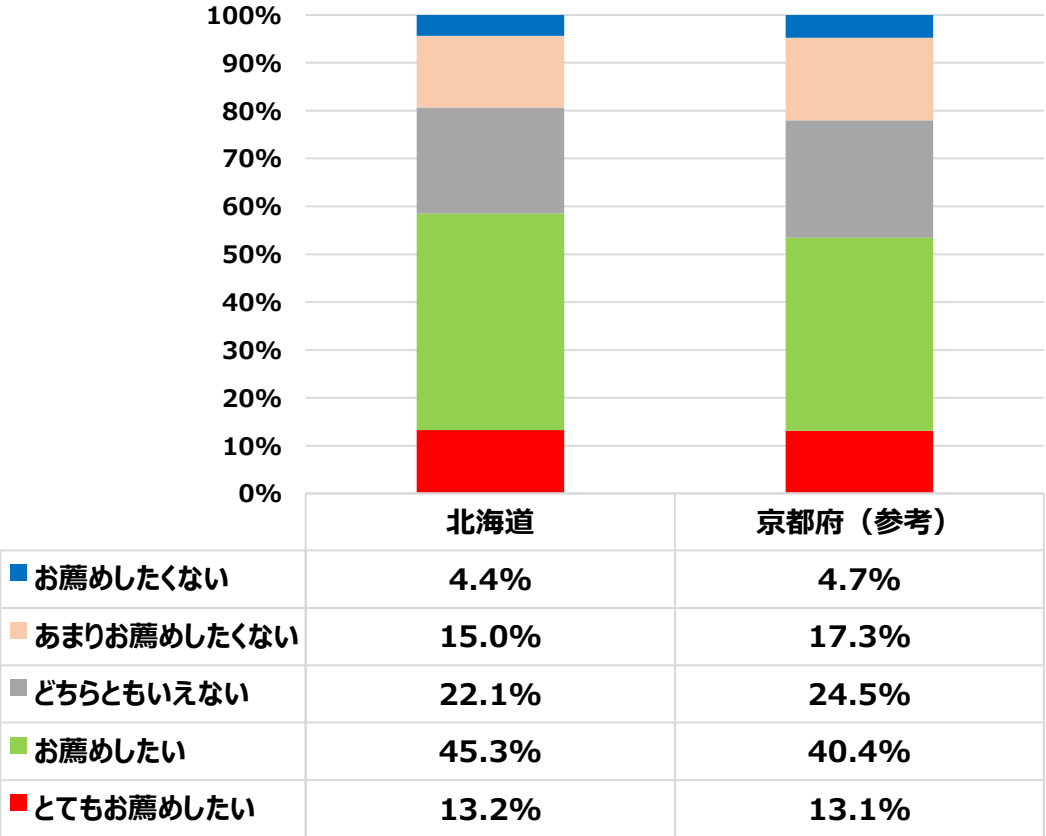


居住地満足度の形成要因として、お住まいの地域に対する「満足ポイント」「不満ポイント」の比較を行った。
満足ポイントでは「食の充実」で北海道が京都府を大きく上回る一方、「街の雰囲気」「知名度」では北海道が京都府を下回っている。
不満ポイントでは、「商業施設などの充実」「医療の充実」で北海道が京都府を大きく上回っている。

5-4 社会的満足度の要因比較

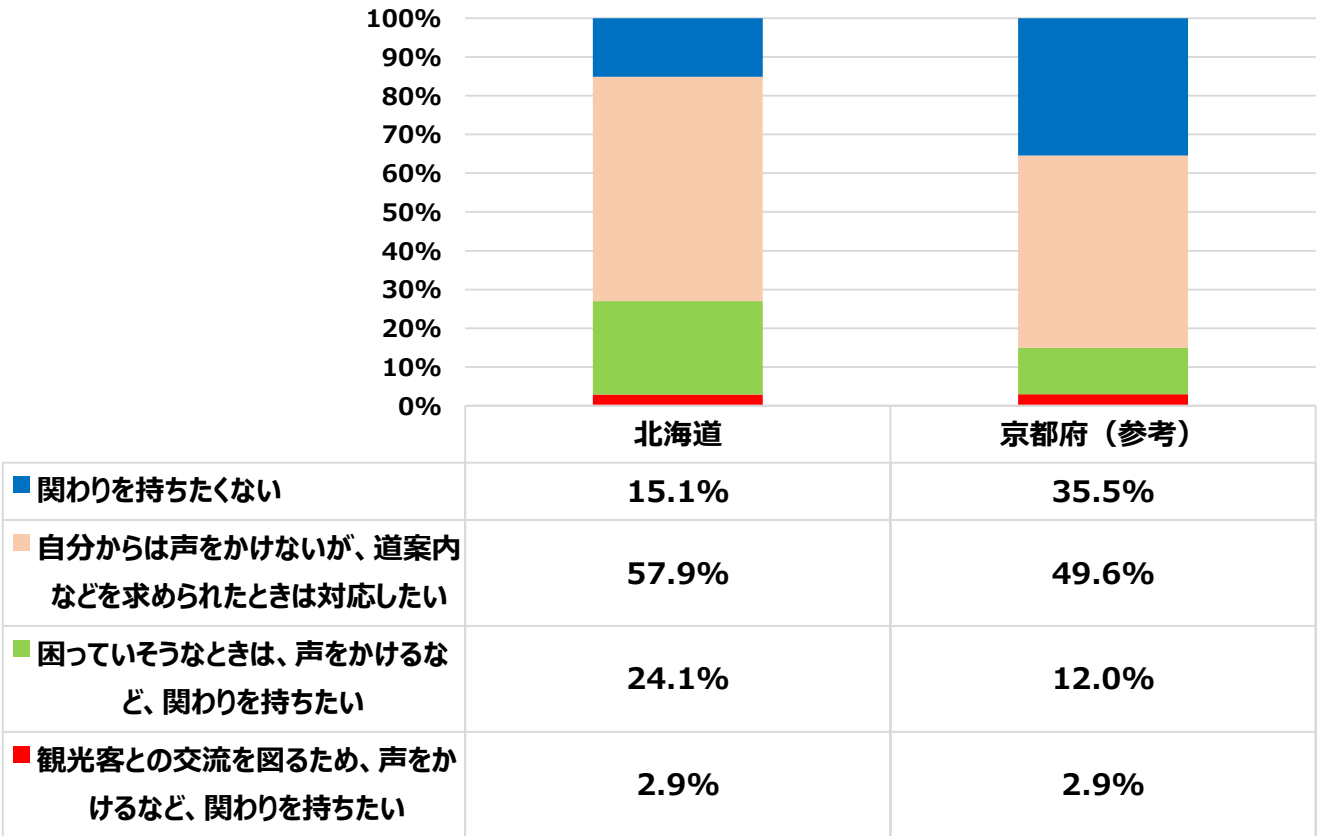
知人・友人に地域の観光をお薦めしたいか

n=北海道3,000人、京都府550人



観光客と関わりを持ちたいか

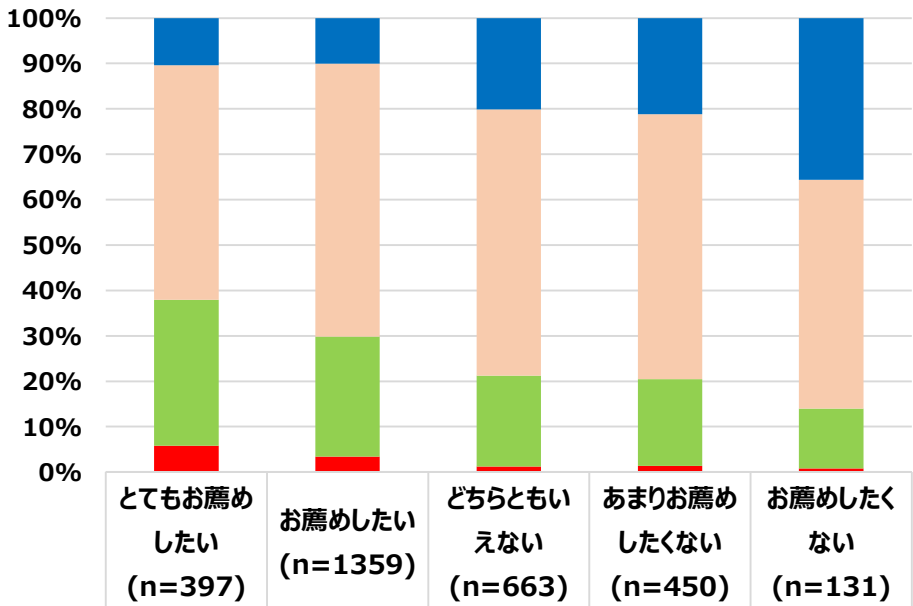
n=北海道3,000人、京都府550人



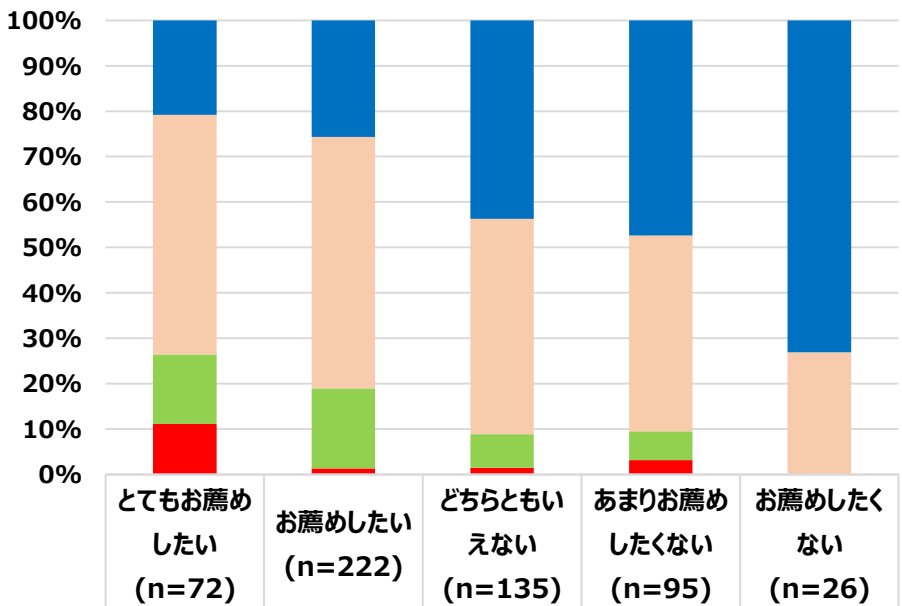
社会的満足度算出の基準設問である「知人・友人に地域の観光をお薦めしたいか」と「観光客と関わりを持ちたいか」についてそれぞれ比較した。「とてもお薦めしたい」「お薦めしたい」の合計は北海道で58.5%であり、京都府の53.5%をやや上回る。観光客との関わり意向では、「関わりを持ちたい」の合計が北海道の27.0%が京都府の14.9%を大きく上回っている。一方、「関わりを持ちたくない」でも北海道15.1%は京都府の35.5%を大きく下回っている。

5-5 社会的満足度の要因比較

北海道



京都府（参考）



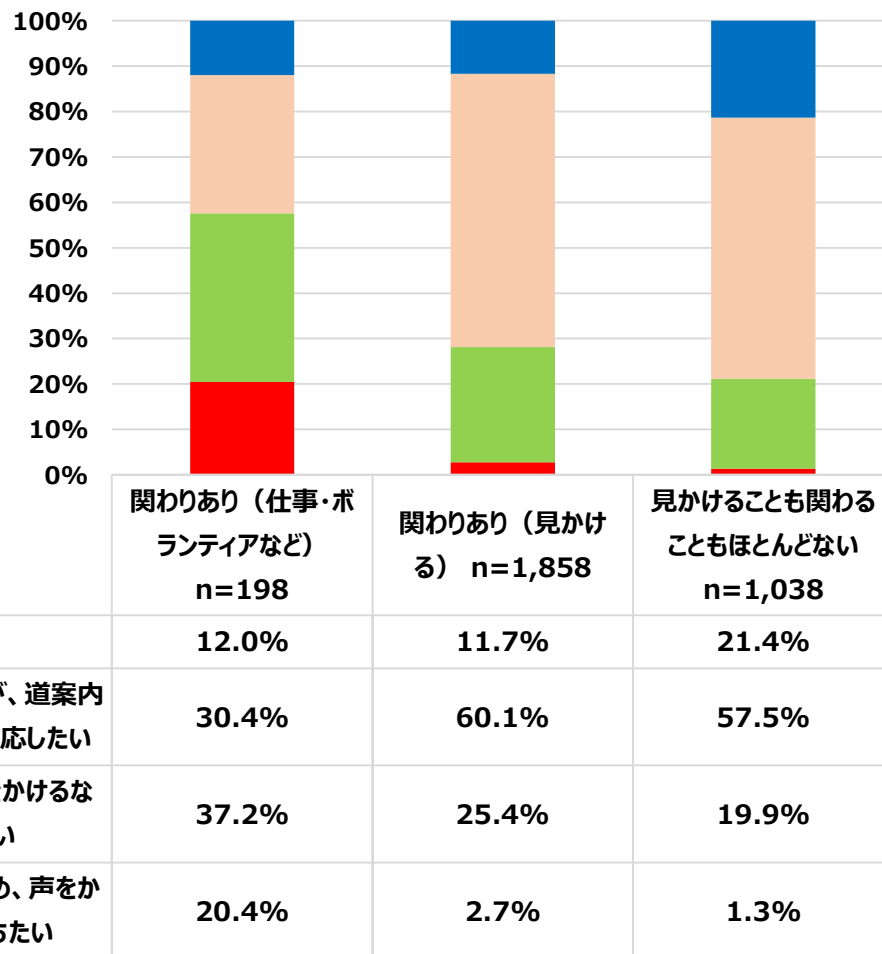
■ 関わりを持ちたくない	10.4%	10.0%	20.2%	21.2%	35.7%	■ 関わりを持ちたくない	20.8%	25.7%	43.7%	47.4%	73.1%
■ 自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい	51.6%	60.1%	58.6%	58.4%	50.4%	■ 自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい	52.8%	55.4%	47.4%	43.2%	26.9%
■ 困っていそうなときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい	32.2%	26.5%	20.0%	19.2%	13.2%	■ 困っていそうなときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい	15.3%	17.6%	7.4%	6.3%	0.0%
■ 観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい	5.8%	3.4%	1.2%	1.3%	0.8%	■ 観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい	11.1%	1.4%	1.5%	3.2%	0.0%

より差異の発生ポイントをハッキリさせるために、基準設問2問でクロス集計を行い比較した。
北海道では、知人・友人に地域の観光を「お薦めしたい」「とてもお薦めしたい」と回答した層が観光客と「関わりを持ちたくない」と回答する割合は10%程度だが、京都府では「お薦めしたい」「とてもお薦めしたい」と答えた層でも20%程度と高くなっている。

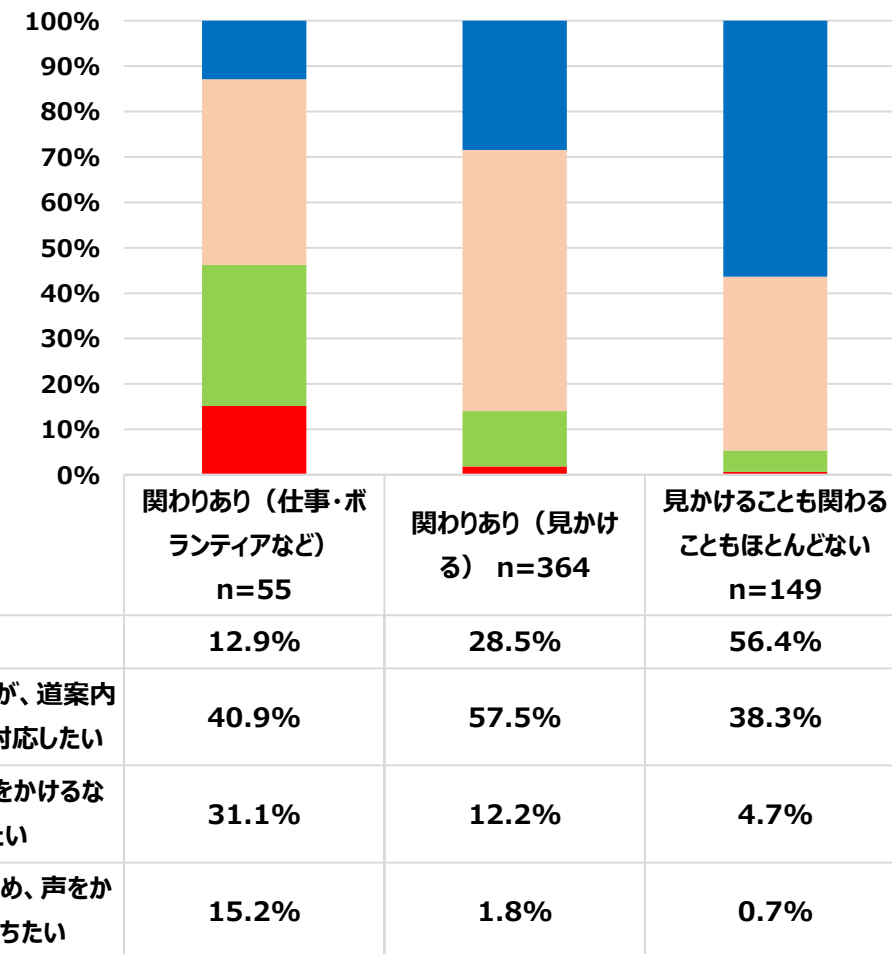
※北海道データの「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

5-6 社会的満足度の差異要因① 観光客との関わり

北海道 MA



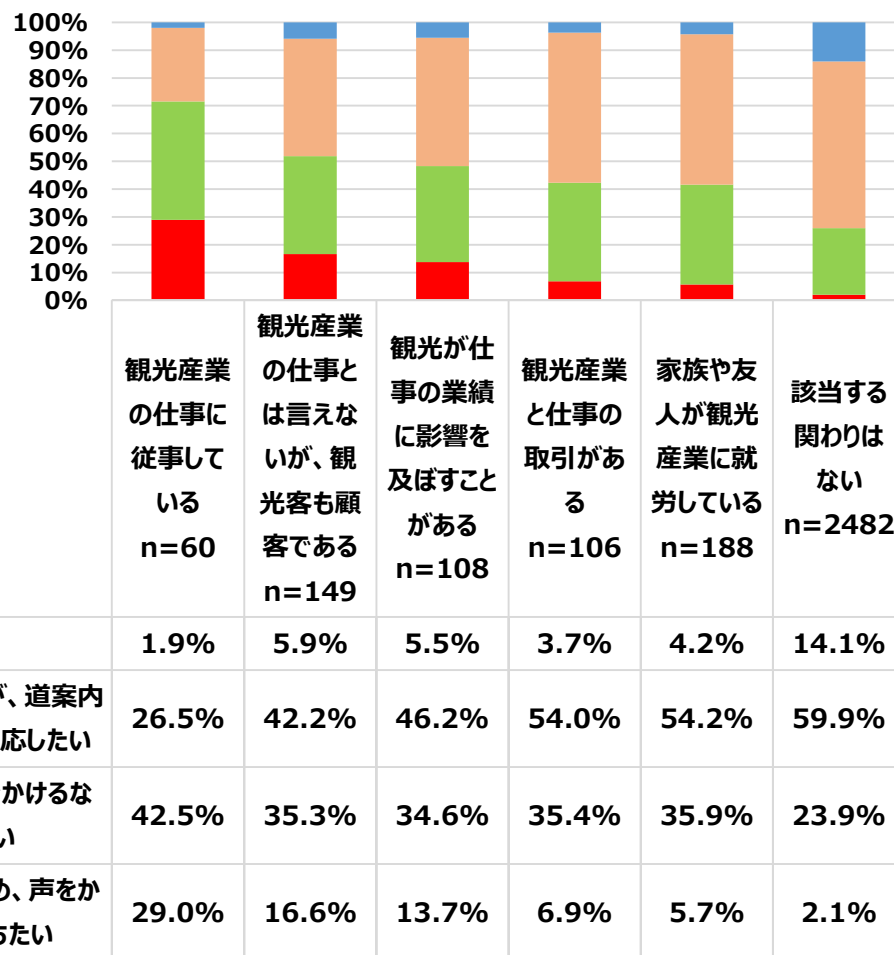
京都府 MA



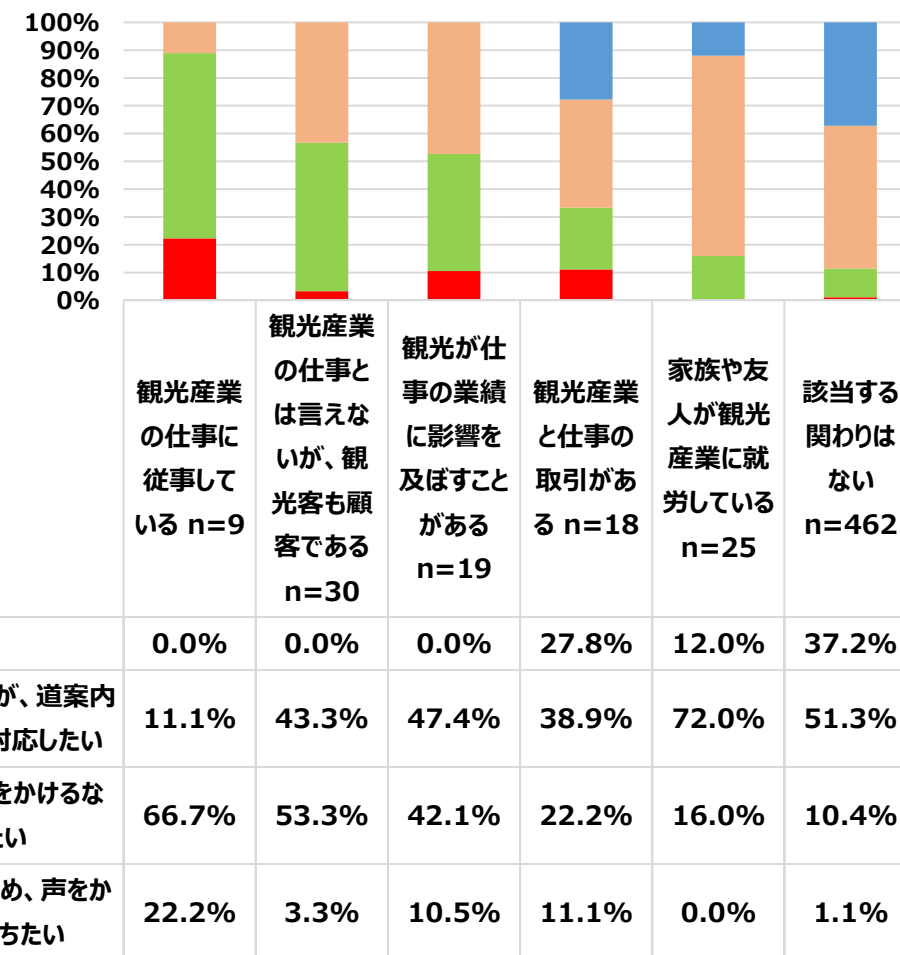
「観光客との関わり」濃度で回答者を3分類し比較を行った。北海道、京都府ともに「関わりあり（仕事・ボランティアなど）」の層で「関わりを持ちたい」と回答した割合が明確に高い一方、「見かけることも関わることもほとんどない」と回答した層では「関わりを持ちたい」と回答した割合は低い。

5-7 社会的満足度の差異要因② 観光産業との関わり

北海道 MA

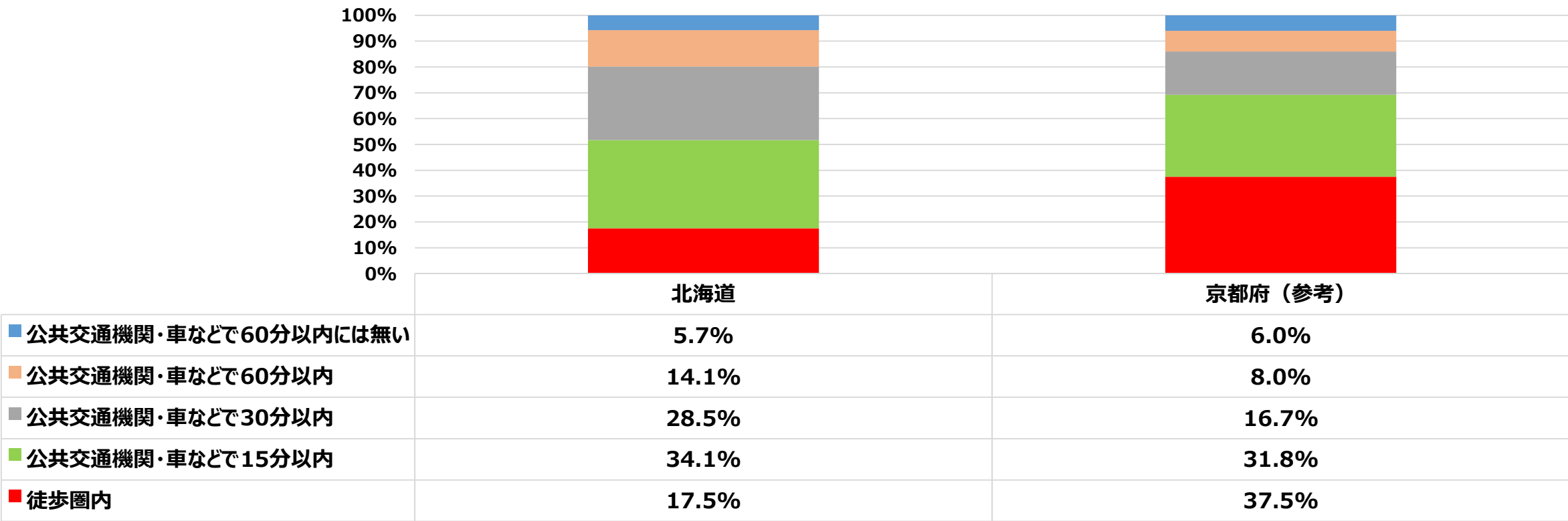


京都府（参考）MA



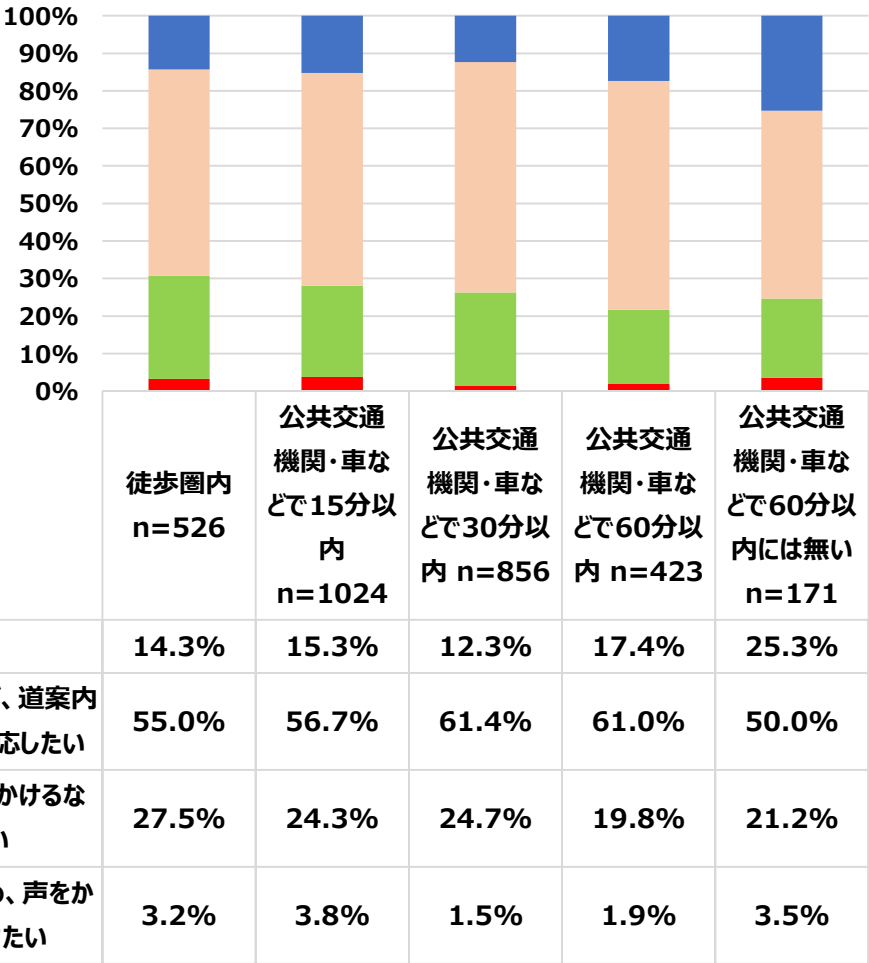
「観光産業の仕事に従事している」「観光客も顧客である」「観光が仕事の業績に影響する」と回答した層では、「関わりを持ちたい」と回答した割合が北海道より京都府でやや高い結果となっている。

観光地・施設までの距離
n=北海道3,000人、京都府550人

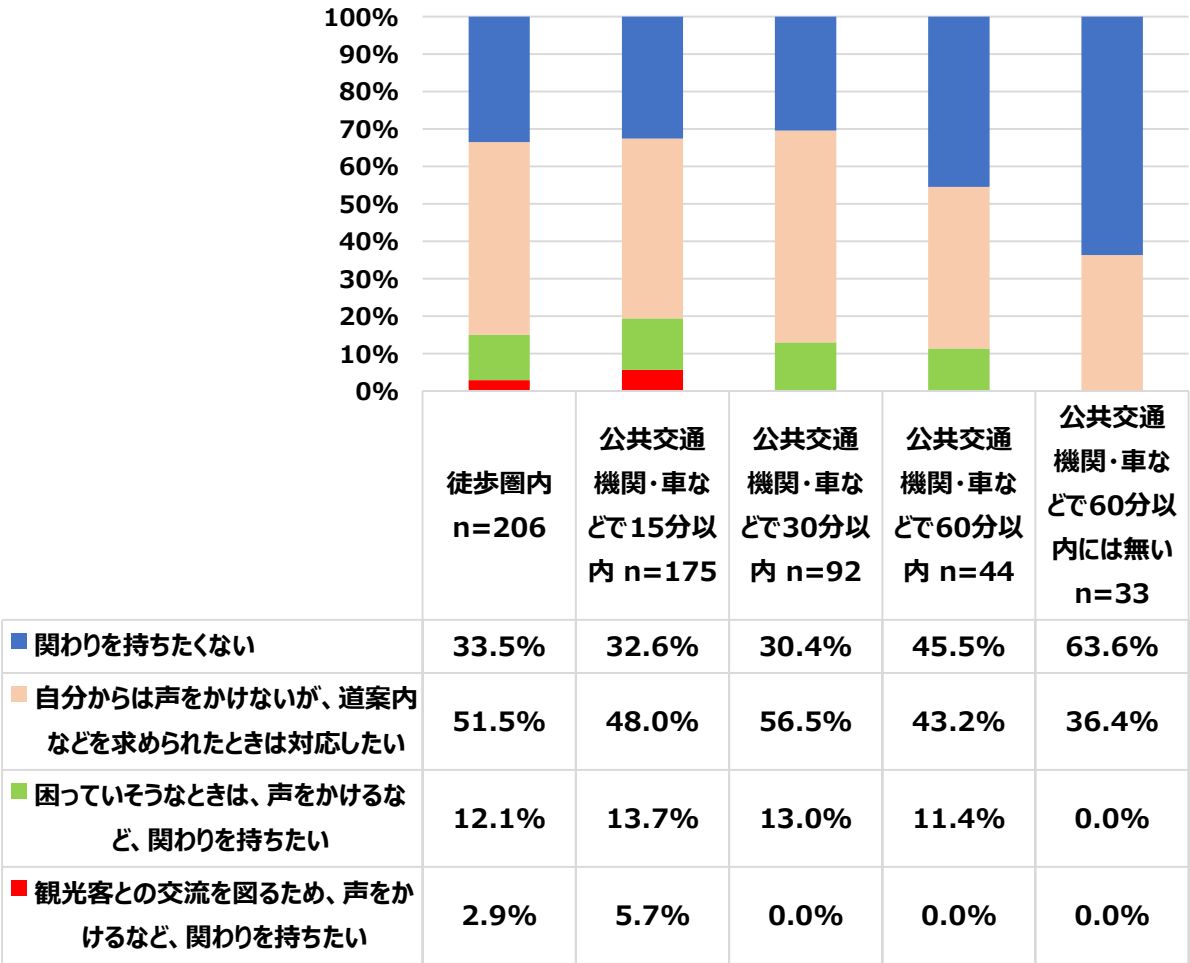


「徒歩圏内」と回答した割合は京都府で37.5%となっており、約3人に1人が観光地の近隣に居住している。
観光地が生活圏により近いことによる正負それぞれの影響が北海道と京都府の満足度の違いに反映されていると考えられる。

北海道



京都府（参考）

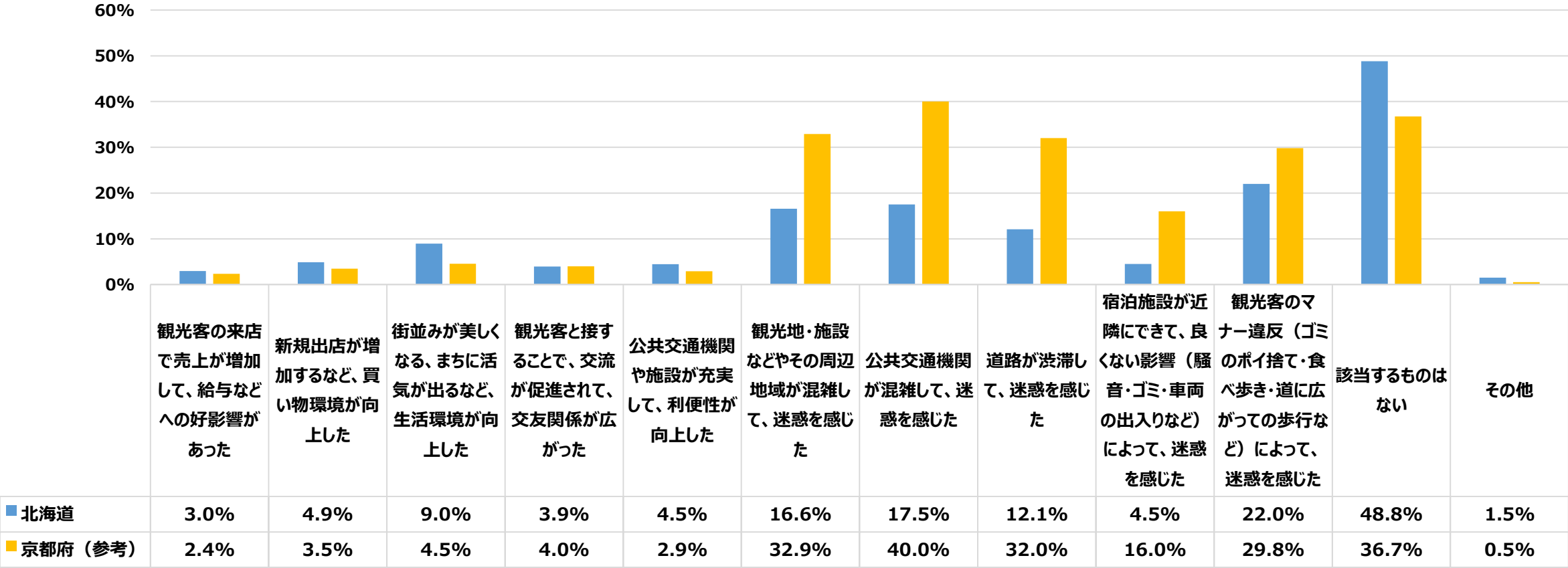


北海道、京都府のいずれも「公共交通機関・車などで60分以内には無い」と回答した層で「関わりを持ちたくない」と回答した割合が最も高くなっており、観光地から居住地が離れるほど観光客への関心が薄くなる傾向が表れている。

※北海道データの「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

経済的満足度比較（観光の自身への影響MA）

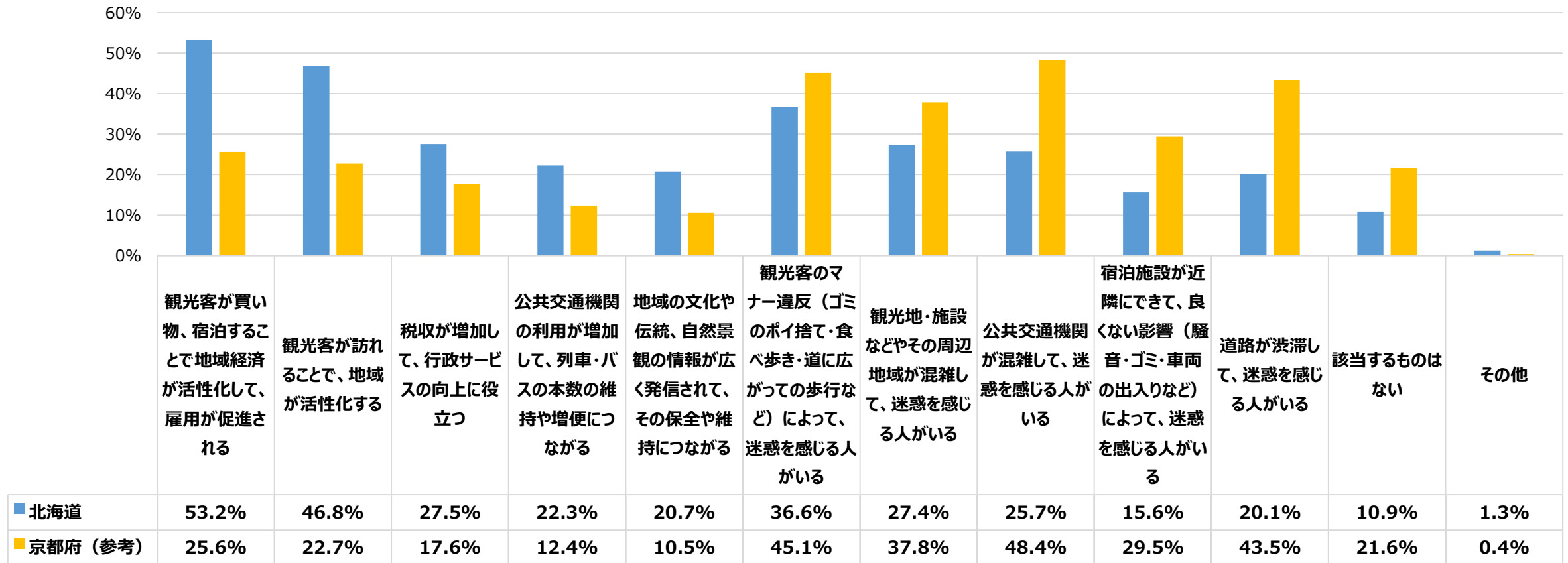
n=北海道3,000人、京都府550人



北海道、京都府のいずれも、「観光の自身への影響」に関しては正の影響（左から1～5番目の項目）よりも負の影響（左から6～10番目の項目）の回答割合が明確に高い。負の影響については、特に「観光地・施設やその周辺の混雑」「公共交通機関の混雑」「道路渋滞」などで京都府での回答割合が北海道より顕著に高い。

経済的満足度比較（観光の地域への影響MA）

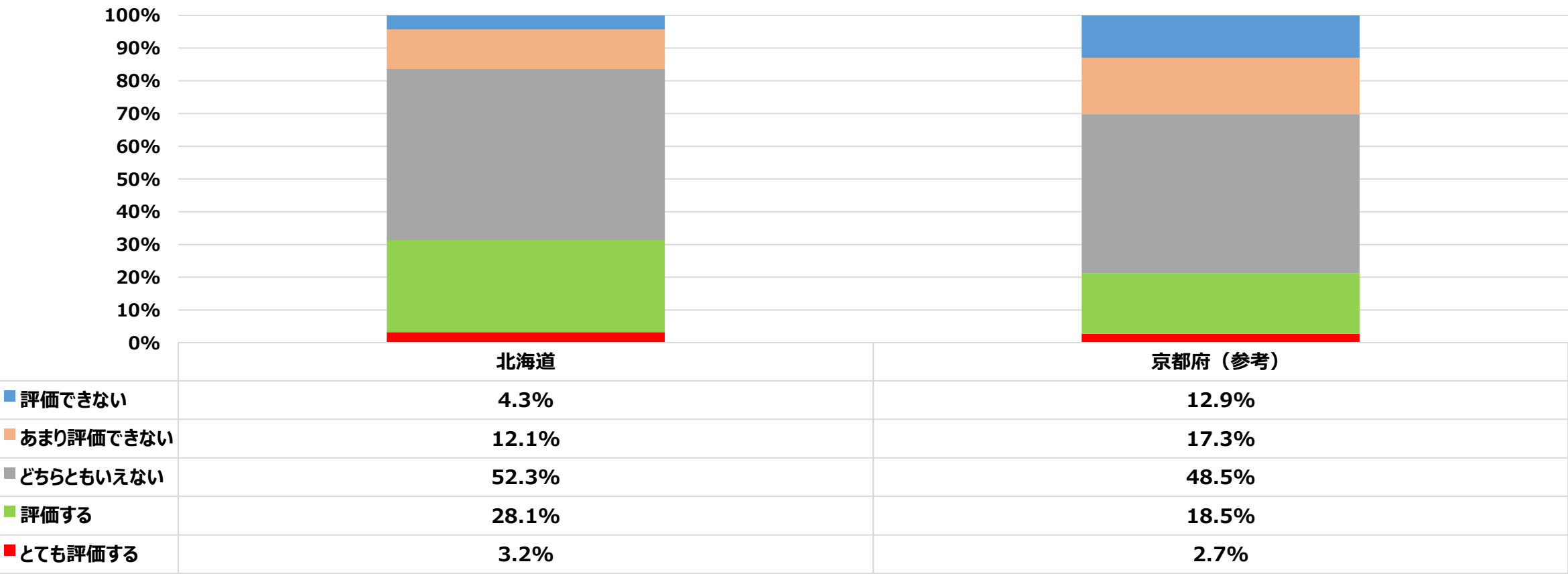
n=北海道3,000人、京都府550人



「観光の自身への影響」とは異なり、「観光の地域への影響」に関しては、正の影響（左から1～5番目の項目）の回答割合が北海道で高い。特に、「観光客が買い物、宿泊することで地域経済が活性化して、雇用が促進される」「観光客が訪れることで、地域が活性化する」と回答した割合は、それぞれ負の影響（左から6～10番目の項目）のいずれの回答割合よりも高くなっている。

5-9 経済的満足度の要因比較 3/3

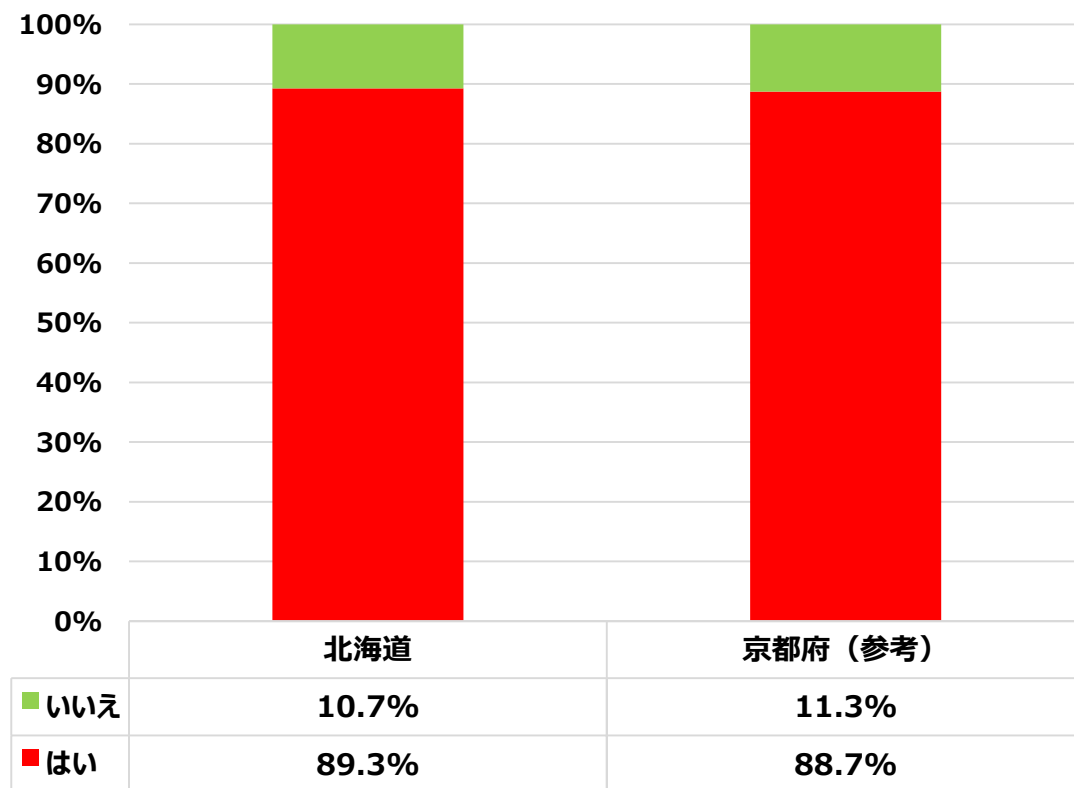
観光に関する、地域の行政や観光協会、経済界の取り組みに関する評価
n=北海道3,000人、京都府550人



「とても評価する」「評価する」と回答した割合の合計は、北海道（31.3%）は京都府（21.2%）より明確に高い。

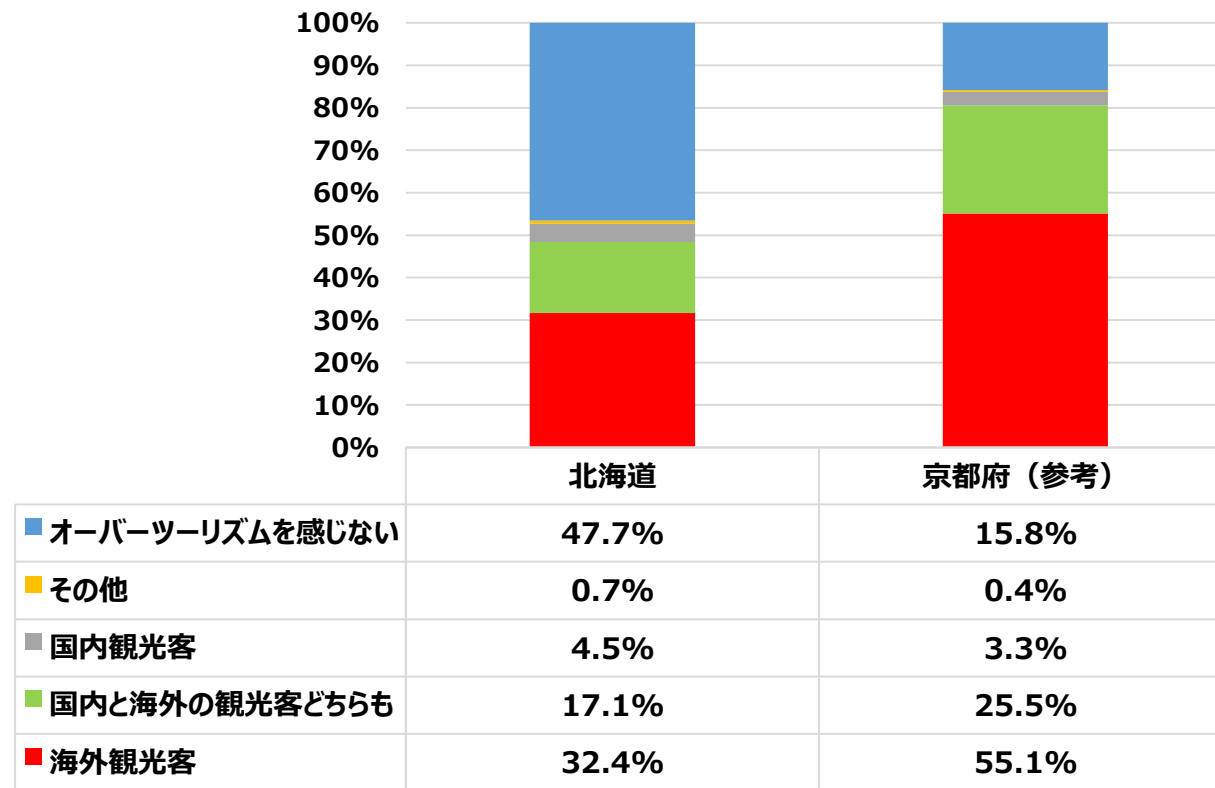
「オーバーツーリズム」への認知

n=北海道3,000人、京都府550人



「オーバーツーリズム」観光客の種別

n=北海道3,000人、京都府550人

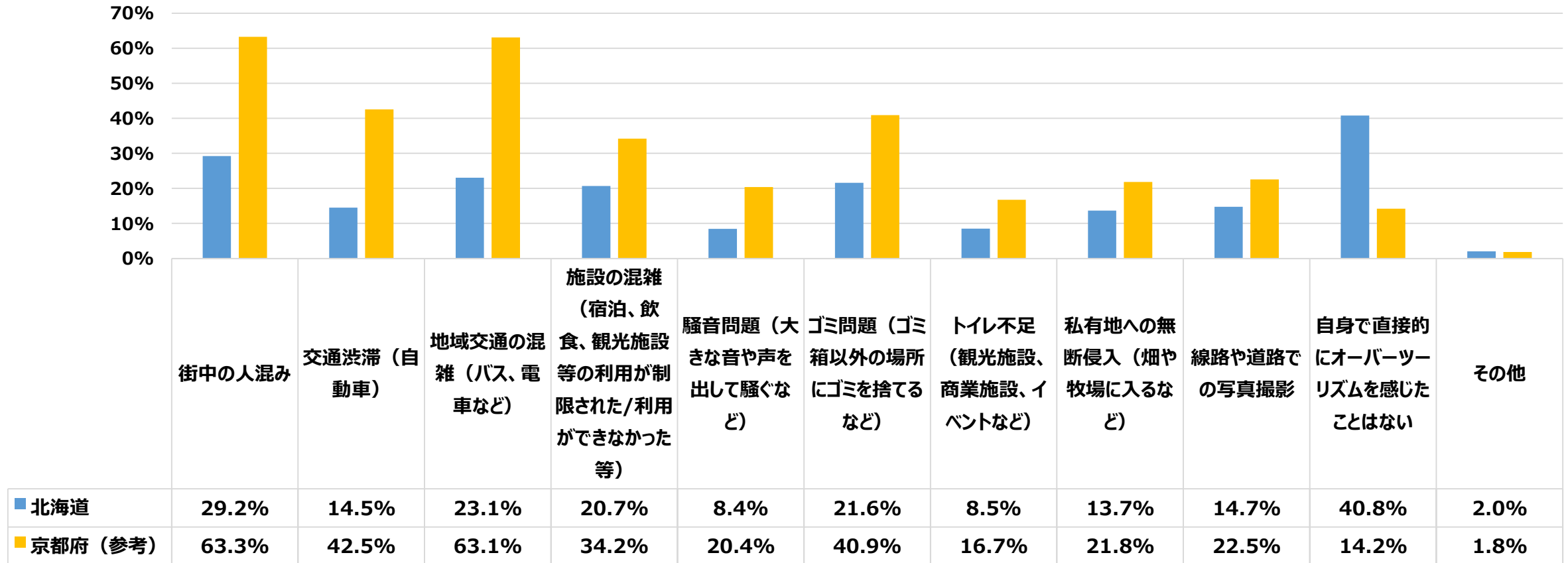


「オーバーツーリズム」という言葉への認知度は北海道、京都府のいずれも9割弱である。
 その一方、北海道では「オーバーツーリズムを感じない」と回答した割合が47.7%であり、京都府の15.8%と比べて明確に高い。

5-10 「オーバーツーリズム」への認識 2/2

お住まいの地域で、あなたが体験した「オーバーツーリズム」

n=北海道3,000人、京都府550人



「その他」以外の項目で北海道の回答割合が京都府より低い。
特に「町中の人混み」「交通渋滞」「地域交通の混雑」「ゴミ問題」で北海道の回答割合は京都府より明確に低い。

5-11 事前仮説の検証 1/2

「住民1人あたりの観光入込客数が観光に関する住民意識に影響を与える」との仮説の下、京都市の公表データ（京都市産業観光局「令和6年京都観光に関する市民意識調査」）を基準として各振興局のデータと比較を行った。

昨年同様「観光推薦度（自地域の観光を薦めたい）」「観光関わり関係度（観光客と関わりがある）」「観光重要度（観光の地域経済への重要度）」「観光影響（売上の向上、給与への影響）」「観光影響（地域やまちが活性化）」の5項目を意識指標として選択した。

		人口1人当たりの 観光入込客数 (右記①÷②)	①観光入込客数 (R6年1～12月)	②住民基本台帳人口 (日本人、 R7年1月1日現在)	1人当たり入込客数： 京都市との差分
北海道	後志総合振興局	128.07	23,413,014	182,817	85.36
	空知総合振興局	51.20	13,239,200	258,588	8.49
	檜山振興局	48.43	1,461,200	30,169	5.72
	留萌振興局	48.03	1,834,400	38,191	5.32
	胆振総合振興局	47.10	16,881,300	358,396	4.39
	上川総合振興局	41.63	18,920,300	454,508	-1.08
	十勝総合振興局	36.51	11,583,634	317,247	-6.20
	宗谷総合振興局	35.51	1,956,500	55,095	-7.20
	渡島総合振興局	35.06	12,448,710	355,096	-7.65
	オホーツク総合振興局	34.81	8,768,700	251,891	-7.90
	釧路総合振興局	34.19	7,058,200	206,412	-8.52
	全道	30.42	151,463,658	4,979,204	-12.29
	日高振興局	30.40	1,754,300	57,716	-12.32
	根室振興局	28.75	1,895,100	65,921	-13.96
	石狩振興局	12.89	30,249,100	2,347,157	-29.82
京都府	京都市	42.71	56,061,000	1,312,560	0.00

5-11 事前仮説の検証 2/2

結果は以下の通り。1人当たり入込客数が京都市より85人超と大きい後志では各意識指標が全体的に高いが、観光の経済的影響については京都市より低い。また、1人当たり入込客数が京都市より多い空知、胆振では観光重要度が京都市より低くなっており、観光推薦度も全体的に低い。さらに、1人当たり入込客数が京都市より多い檜山、留萌では観光推薦度が全道より顕著に低く、1人当たり入込客数と観光推薦度は必ずしも連動していないことがわかる。

一方で、「観光影響」で「地域やまちが活性化すると思う」と回答した層は檜山、留萌、オホーツク、釧路などの地域で高い。全体的な結論として、現状の1人当たり入込客数が観光に対する住民意識に決定的に影響している傾向はみられなかった。各振興局（各観光地）においてそれぞれ異なる環境や課題を通して住民意識がつけられていると考えられる。

		1人当たり入込客数：京都市との差分	観光推薦度 (自地域の観光を「お薦めしたい」+「とてもお薦めしたい」の合計)		観光客関わり度 (観光客と「仕事で関わりがある」+「仕事以外に関わりがある」の合計)		観光重要度 (観光が地域経済に重要だと「とても思う」+「思う」の合計)		観光影響 (売上の増加や企業への好影響があると思う※)		観光影響 (地域やまちが活性化すると思う※)	
			回答率	京都市との差	回答率	京都市との差	回答率	京都市との差	回答率	京都市との差	回答率	京都市との差
北海道	後志総合振興局	85.4	61.17%	6.17%	21.33%	5.43%	74.95%	4.35%	57.52%	-0.08%	51.11%	7.31%
	空知総合振興局	8.5	38.19%	-16.81%	14.40%	-1.50%	64.87%	-5.73%	51.86%	-5.74%	52.40%	8.60%
	檜山振興局	5.7	28.50%	-26.50%	11.64%	-4.26%	74.57%	3.97%	47.20%	-10.40%	68.49%	24.69%
	留萌振興局	5.3	14.12%	-40.88%	9.20%	-6.70%	75.44%	4.84%	72.89%	15.29%	69.43%	25.63%
	胆振総合振興局	4.4	46.85%	-8.15%	6.93%	-8.97%	69.48%	-1.12%	55.83%	-1.77%	52.34%	8.54%
	上川総合振興局	-1.1	58.02%	3.02%	17.43%	1.53%	71.05%	0.45%	53.36%	-4.24%	47.84%	4.04%
	十勝総合振興局	-6.2	56.78%	1.78%	7.37%	-8.53%	66.43%	-4.17%	54.16%	-3.44%	47.51%	3.71%
	宗谷総合振興局	-7.2	46.41%	-8.59%	11.82%	-4.08%	69.01%	-1.59%	61.26%	3.66%	49.69%	5.89%
	渡島総合振興局	-7.7	72.20%	17.20%	13.75%	-2.15%	81.74%	11.14%	56.04%	-1.56%	51.53%	7.73%
	オホーツク総合振興局	-7.9	42.80%	-12.20%	15.02%	-0.88%	68.42%	-2.18%	57.27%	-0.33%	53.80%	10.00%
	釧路総合振興局	-8.5	66.03%	11.03%	16.69%	0.79%	79.91%	9.31%	60.72%	3.12%	60.30%	16.50%
	全道	-12.3	58.50%	3.50%	15.20%	-0.70%	72.67%	2.07%	53.20%	-4.40%	46.77%	2.97%
	日高振興局	-12.3	25.83%	-29.17%	15.04%	-0.86%	69.53%	-1.07%	53.18%	-4.42%	38.38%	-5.42%
	根室振興局	-14.0	35.24%	-19.76%	15.23%	-0.67%	71.46%	0.86%	56.22%	-1.38%	52.26%	8.46%
	石狩振興局	-29.8	64.31%	9.31%	17.00%	1.10%	73.54%	2.94%	50.44%	-7.16%	41.31%	-2.49%
京都府	京都市	0	55.00%	0	15.90%	0	70.60%	0	57.60%	0	43.80%	0

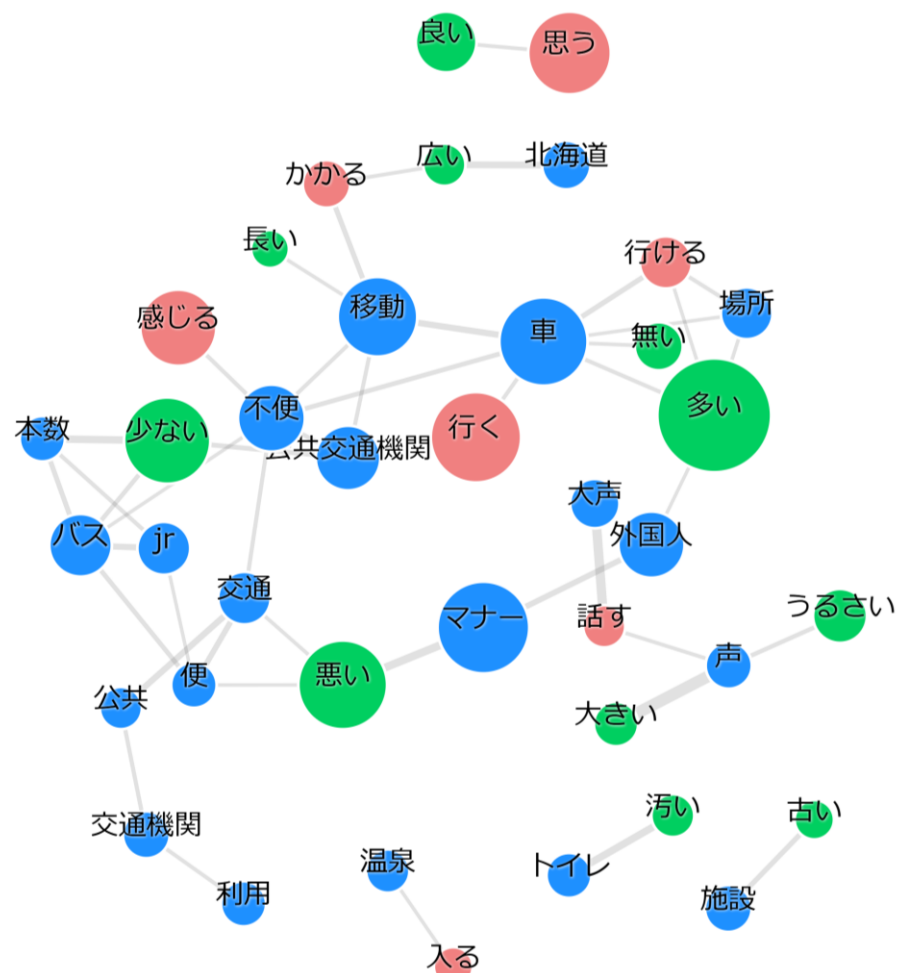
※京都市は「とてもそう思う」+「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計

6 自由筆記の共通性 (共起ネットワーク)

6-1 北海道観光で不満を感じた理由（自由記述）

自由記述の、北海道民が「北海道観光で不満を感じた理由」について、頻出語句の抽出と語句間の関係性から「共起ネットワーク化」を行った。

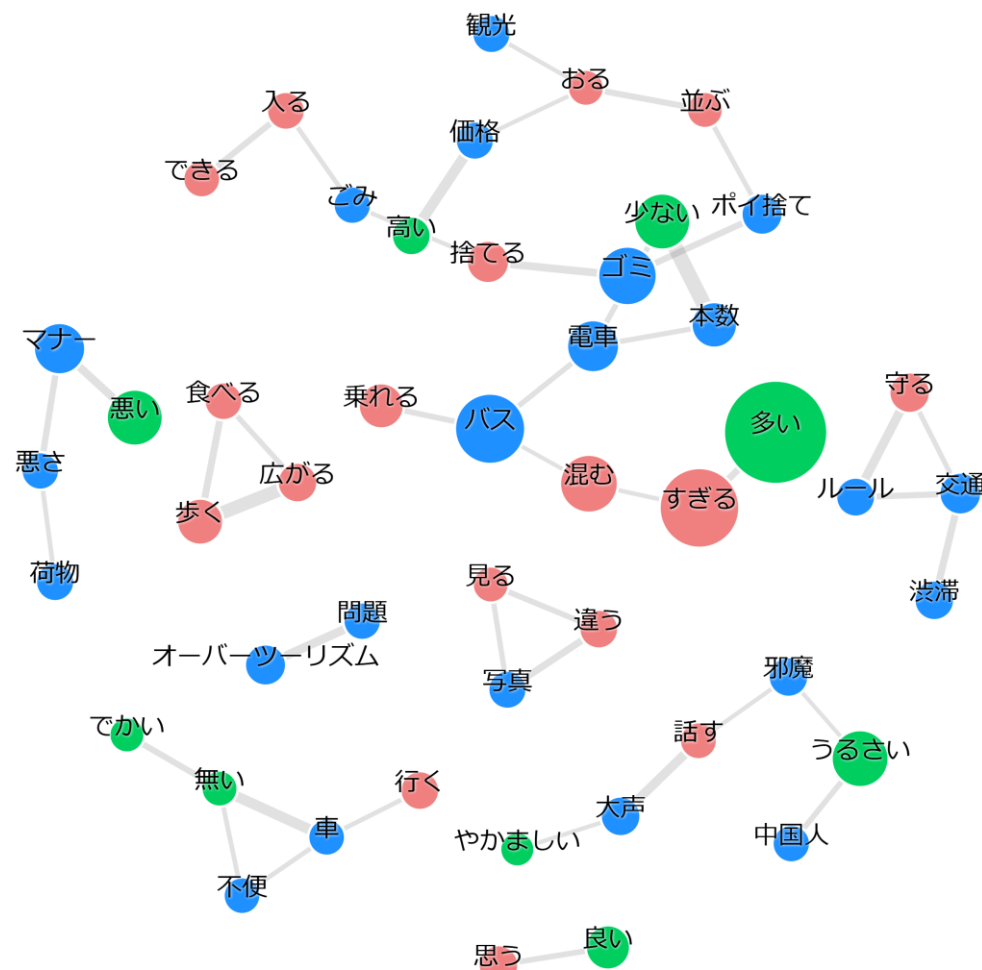
- 交通の不便さ：多くの回答者が「車がないと行けないところが多い」と感じており、公共交通機関の本数が少なく、接続が悪いことが不満として挙げられている。
- 外国人観光客のマナー：外国人観光客のマナーの悪さが挙げられており、「大声で話す」など、周囲への配慮が欠けている行動が不快に感じられている。
- 施設の老朽化と清掃の不備：宿泊施設や観光地の老朽化や、「トイレが汚かった」など、清掃が行き届いていないことに対する不満が多く見られる。
- 観光地の魅力の欠如：期待していた景観や体験が得られなかったという不満も見られる。



6-2 京都府調査 周辺観光で不満を感じた理由（自由記述）

京都府在住者についても、「周辺観光で不満を感じた理由」について、頻出語句の抽出と語句間の関係性から「共起ネットワーク化」を行った。

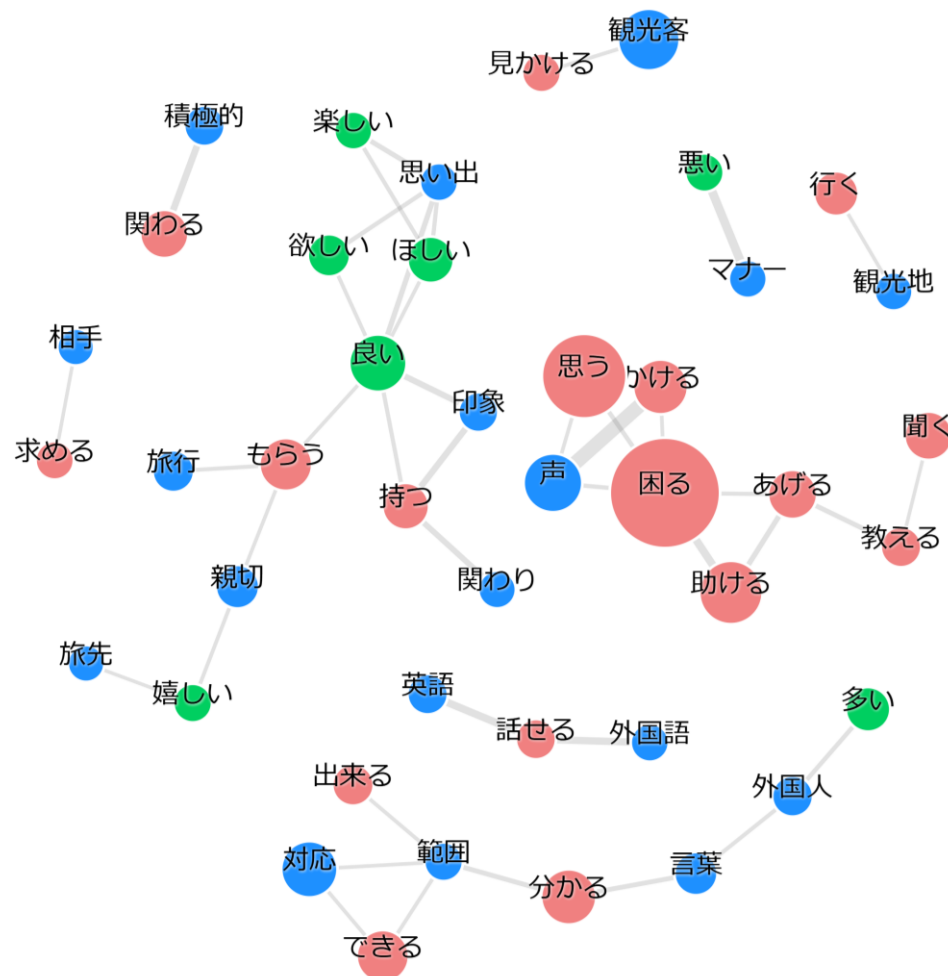
- ・ オーバーツーリズム：「外国人観光客が多すぎる」「住みにくい」「オーバーツーリズム問題」など、過度に混雑しており、不便であることが挙げられている。
- ・ 外国人観光客のマナー：「ゴミのポイ捨て」「大声で話す」「交通ルールを守らない」など、外国人観光客のマナーが悪さが、不快に感じられている。
- ・ 清潔感の欠如：「トイレが汚い」「掃除が行き届いてないところがある」など、観光施設の清潔さが保たれていないことが、不満として挙げられている。
- ・ 価格とサービスの質：「全体的に価格が高い」「値段が高い割に肉が固く少なすぎた」など、価格が高いにも関わらず、質が伴っていないという不満も見られる。



6-3 観光客と関わりを持ちたいかどうかの理由（自由記述）

自由記述の、北海道民が「観光客と関わりを持ちたいかどうかの理由」について、頻出語句の抽出と語句間の関係性から「共起ネットワーク化」を行った。

- 助け合いの精神：「自分も旅先で困ったときに声をかけてもらえたら嬉しい」からとして、観光客が困っている場合には助けたいとの声が挙がっている。
- 地域の印象を良くしたい：「良い思い出として残ってほしいから」として、観光客には北海道に良い印象を持って帰ってほしいという声も挙がっている。
- 観光客への悪印象：「マナーの悪さが目立つ」「横柄な観光客が多い」など、観光客へのネガティブな印象が、関わりを持ちたくない理由の一つとなっている。
- 言語の壁：「言葉が通じるかの問題や、トラブルに巻き込まれないため積極的には声かけはしない」など、英語を含む外国語に自信がないことも挙がっている。



7 多变量解析

7-1 要因分析

■総合満足度要因分析（正の要因）

総合満足度Aランク・Bランク・Cランクで母集団を形成。
目的変数を「A・Bを正解」として、満足度の算出項目以外の
設問を対象に「A・B」と「C」との差の要因を可視化した。
最も強く表れる30の差異要因（正の要因）を抽出。右記の
要因が総合満足度に強い影響を及ぼしている「正の要因」だと
考える。

1. 地域における観光施策への評価が高いこと
2. インバウンドに肯定的で、経済効果に実感・期待を抱いていること
3. 観光産業・観光客と何らかの関わりがあること
4. 観光において「ふれあい」や「住人の気質」を重視していること
5. 北海道観光に魅力を多く感じており、「サステナブルな観光」も重視していること
6. 業種は主に教育・学習支援業で、多趣味であること
7. 観光施設が住まいの徒歩圏内など間近にあり、振興局エリアは主に渡島総合振興局であること

順番	属性	カテゴリ	効果指標
1	観光に関する地域の行政や観光協会、経済界の取り組みについてのあなたの評価	[評価する]	97.73
2	観光産業との関わり【観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である】	[1]	69.27
3	旅先で重要視する要素【旅先の人とのふれあい】	[1]	67.18
4	観光産業との関わり【該当する関わりはない】	[0]	56.19
5	業種	[教育・学習支援業]	54.38
6	北海道観光の魅力【北海道民の気質】	[1]	54.10
7	観光産業との関わり【家族や友人が観光産業に就労している】	[1]	50.65
8	振興局	[渡島総合振興局]	48.85
9	宿泊・飲食従業員比率	[10%以上]	48.29
10	訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じているか	[地域経済のためには良いことだ]	45.67
11	観光客との関わり【普段の生活（通勤・通学や買い物に行くときなど）で、観光客をよく見かける】	[1]	45.47
12	北海道観光の魅力【歴史的建造物や文化財】	[1]	39.76
13	お住まいから一番近い、観光地・文化観光施設・宿泊施設までの距離	[徒歩圏内]	39.26
14	北海道観光の魅力【豊富な体験観光】	[1]	38.78
15	趣味【美術鑑賞】	[1]	38.13
16	趣味の合計数	[8個]	37.43
17	情報収集ツール【Facebook】	[1]	32.04
18	趣味【街歩き】	[1]	31.95
19	情報収集ツール【インターネットラジオ（ポッドキャスト・Voicy・StandFMなど）】	[1]	31.17
20	北海道観光の魅力【街の景観】	[1]	30.54
21	趣味【ゴルフ】	[1]	30.19
22	趣味【スキー・スノーボード】	[1]	29.85
23	訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じているか	[異文化の交流が生まれることは良いことだ]	29.10
24	観光客との関わり【観光客を見かけることがほとんどなく、関わることはない】	[0]	27.51
25	旅先で重要視する要素【サステナブルな観光（現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光）】	[1]	26.66
26	1人当たり入込総数	[20人以上、30人未満]	24.46
27	お住まいの地域であなたが体験したオーバーツーリズム【施設の混雑（宿泊、飲食、観光施設等の利用が制限された / 利用ができなかった等）】	[1]	23.01
28	趣味の合計数	[7個]	23.00
29	趣味【スポーツ（観戦も含む）】	[1]	22.96
30	情報収集ツール【書籍】	[1]	21.49

※カテゴリの「1」は該当の属性に「当てはまる」、「0」は「当てはまらない」を示す。

※効果指標の値は -100～100 の間の数値をとり、絶対値が大きいほど、強い要因を示す。

※上位抜粋

7-2 要因分析

■総合満足度要因分析（負の要因）

総合満足度Aランク・Bランク・Cランクで母集団を形成。
目的変数を「A・Bを正解」として、満足度の算出項目以外の
設問を対象に「A・B」と「C」との差の要因を可視化した。
最も強く表れる30の差異要因（負の要因）を抽出。右記の
要因が総合満足度に強い影響を及ぼしている「負の要因」だと
考える。

1. インバウンドに消極的で、観光施設が住まいの間近にはなく、観光客との関わりも少ないこと
2. 地域における観光施策への評価が高くないこと
3. 道内を含め、宿泊旅行する習慣を持たないこと
4. 「食」「自然景観」「温泉」など、一般的な北海道観光の要素に魅力を感じていないこと
5. 人口規模は「1万～10万人未満」、人口増減率は「－30%未満」「－20%～0%未満」または「5%未満～7%未満」の自治体在住者。振興局エリアは主に上川総合振興局であること
6. 業種は主に公務で、年代は30代、趣味の数は少ないこと

順番	属性	カテゴリ	効果指標
1	訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じているか	「関わりを感じていない」	-100.00
2	訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じているか	「あまり来てほしくない」	-94.86
3	観光に関する地域の行政や観光協会、経済界の取り組みについてのあなたの評価	「あまり評価できない」	-80.22
4	観光客との関わり【観光客を見かけることがほとんどなく、関わることはない】	「1」	-60.62
5	趣味の合計数	「1個」	-58.65
6	お住まいから一番近い、観光地・文化観光施設・宿泊施設までの距離	「公共交通機関・車などで60分以内」	-54.57
7	人口増減率	「マイナス30%未満」	-50.97
8	年代	「30代」	-49.49
9	道内で宿泊旅行する頻度	「北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない」	-48.81
10	訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じているか	「とまどいを感じている」	-45.57
11	人口規模	「1万人～2万人未満」	-45.52
12	北海道観光の魅力【豊富な食の魅力】	「0」	-41.87
13	宿泊・飲食従業員比率	「5%～7%未満」	-41.22
14	北海道観光の魅力【絶景などの自然景観】	「0」	-40.43
15	情報収集ツール【新聞（電子版を含む）】	「0」	-39.21
16	趣味の合計数	「2個」	-32.13
17	観光に関する地域の行政や観光協会、経済界の取り組みについてのあなたの評価	「どちらともいえない」	-31.89
18	1人当たり入込総数	「20人未満」	-28.41
19	振興局	「上川総合振興局」	-28.36
20	宿泊・飲食従業員比率	「5%未満」	-27.97
21	業種	「公務」	-23.10
22	情報収集ツール【テレビ】	「0」	-22.98
23	観光客との関わり【普段の生活（通勤・通学や買い物に行くときなど）で、観光客をよく見かける】	「0」	-22.06
24	趣味【旅行】	「0」	-21.10
25	北海道観光の魅力【多様な温泉地】	「0」	-21.03
26	お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は国内または海外どちらの観光客によるものか	「オーバーツーリズムを感じない」	-20.81
27	お住まいの地域であなたが体験したオーバーツーリズム【自身で直接的にオーバーツーリズムを感じたことはない】	「1」	-20.35
28	趣味の合計数	「3個」	-18.92
29	人口規模	「2万人～10万人未満」	-17.58
30	人口増減率	「マイナス20%～0%未満」	-16.93

※カテゴリの「1」は該当の属性に「当てはまる」、「0」は「当てはまらない」を示す。

※効果指標の値は -100～100 の間の数値をとり、絶対値が大きいほど、強い要因を示す。

※上位抜粋

7-3 クラスター分析

■総合満足度A：分析結果

総合満足度Aの回答者を対象に、AIを使用した多変量解析を実施。満足度算出の基準設問以外の回答データをもとに、似ている回答傾向を持つグループを形成し、グループごとに「特徴的な要因」の抽出を行なった。（分析結果であり、傾向値の可視化となることから、必ずしもすべてのサンプルが厳密に該当するわけではない）

モデル評価値 		0.778				
クラスター		1位属性	2位属性	3位属性	4位属性	5位属性
CL1 観光や地域課題への関心が薄く、特段の不満も抱いていない学生を中心とした「無関心」層 		1. 年代を教えてください（単一回答）※必須[20代以下]	3. 職業について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[学生]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[無回答]	2 8. お住まいの地域で、あなたが体験した「オーバーツーリズム」をすべて選んでください（複数回答）※必須[自身で直接的にオーバーツーリズムを感じたことはない][1]	2 9. お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は、国内または海外どちらの観光客によるものですか（単一回答）※必須[オーバーツーリズムを感じない]
		4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[情報通信業]	5. 現在、お住まいの市町村（自治体）での居住期間を教えてください（単一回答）※必須[転居して来て4年以上、5年未満]	3. 職業について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士）]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[金融業・保険業]	2 9. お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は、国内または海外どちらの観光客によるものですか（単一回答）※必須[海外観光客]
CL2 札幌圏に住むIT・専門職で、インバウンドの混雑やマナー違反に強いストレスを感じているハイソサエティ層 		2 9. お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は、国内または海外どちらの観光客によるものですか（単一回答）※必須[その他]	7. 普段、興味関心のあるもの・趣味をお選びください（複数回答可）※必須[ゲーム][1]	8. 日常生活で使用している、情報収集のツールは何ですか（複数回答可）※必須[TikTok][1]	3. 職業について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[その他]	2 1. 観光産業（宿泊業、旅行代理業、観光客の来訪する飲食店・物販店、観光協会など）との関わりはありますか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可）※必須[観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である][1]
		7. 普段、興味関心のあるもの・趣味をお選びください（複数回答可）※必須[美術鑑賞][1]	2. 性別を教えてください（単一回答）※必須[回答しない]	1 1. 北海道内を観光して、不満を感じたことはありますか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可）※必須[景観・景色が期待したほどではなかった][1]	7. 普段、興味関心のあるもの・趣味をお選びください（複数回答可）※必須[街歩き][1]	3. 職業について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[医療関係者]
CL3 デジタルネイティブでゲームやSNSを好むが、リアルな観光・交流には消極的な若年非正規層 		お住まいの振興局（市町村）をお選びください[渡島総合振興局]	宿泊・飲食従事員比率[10%以上]	1人当たり入込総数[20人以上、30人未満]	人口増減率[マイナス30%～マイナス20%未満]	人口規模[10万人以上]
		4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[漁業（水産養殖業を含む）]	2 1. 観光産業（宿泊業、旅行代理業、観光客の来訪する飲食店・物販店、観光協会など）との関わりはありますか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可）※必須[観光産業の仕事に従事している][1]	3. 職業について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[公務員（教職員を除く）]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答）※必須[宿泊業・飲食サービス業]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[日高振興局]
CL4 医療・福祉に従事し丁寧な暮らしを好むが、地域の騒音やマナー悪化を懸念するシニア女性層 		1 6. お住まいから一番近い、観光地・文化観光施設（美術館や博物館、体験施設など）・宿泊施設までの、距離を教えてください（単一回答）※必須[公共交通機関・車などで60分以内には無い]	2 5. 訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じていますか（単一回答）※必須[関わりを感じていない]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[根室振興局]	1 9. 普段、観光客との関わりはありますか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可）※必須[普段の生活（通勤・通学や買い物に行くときなど）で、観光客をとまどき見かける][1]	2 6. 観光に関する、地域の行政や観光協会、経済界の取り組みについて、あなたの評価を教えてください（単一回答）※必須[評価できない]
CL5 地方に長く居住し、オーバーツーリズムの実感はなく経済効果を期待する地域肯定層 						
CL6 観光産業や製造業の現場で働き、実利を得ながらも急増する外国人に戸惑いと拒否感を持つ中高年男性層 						
CL7 教育・教養への関心が高く、インバウンドによる異文化交流や国際化を好意的に捉えるインテリシニア層 						

※カテゴリの「1」は該当の属性に「当てはまる」、「0」は「当てはまらない」を示す。
※上位抜粋

7-4 クラスター分析

■総合満足度A（ペルソナ仮説の設定）

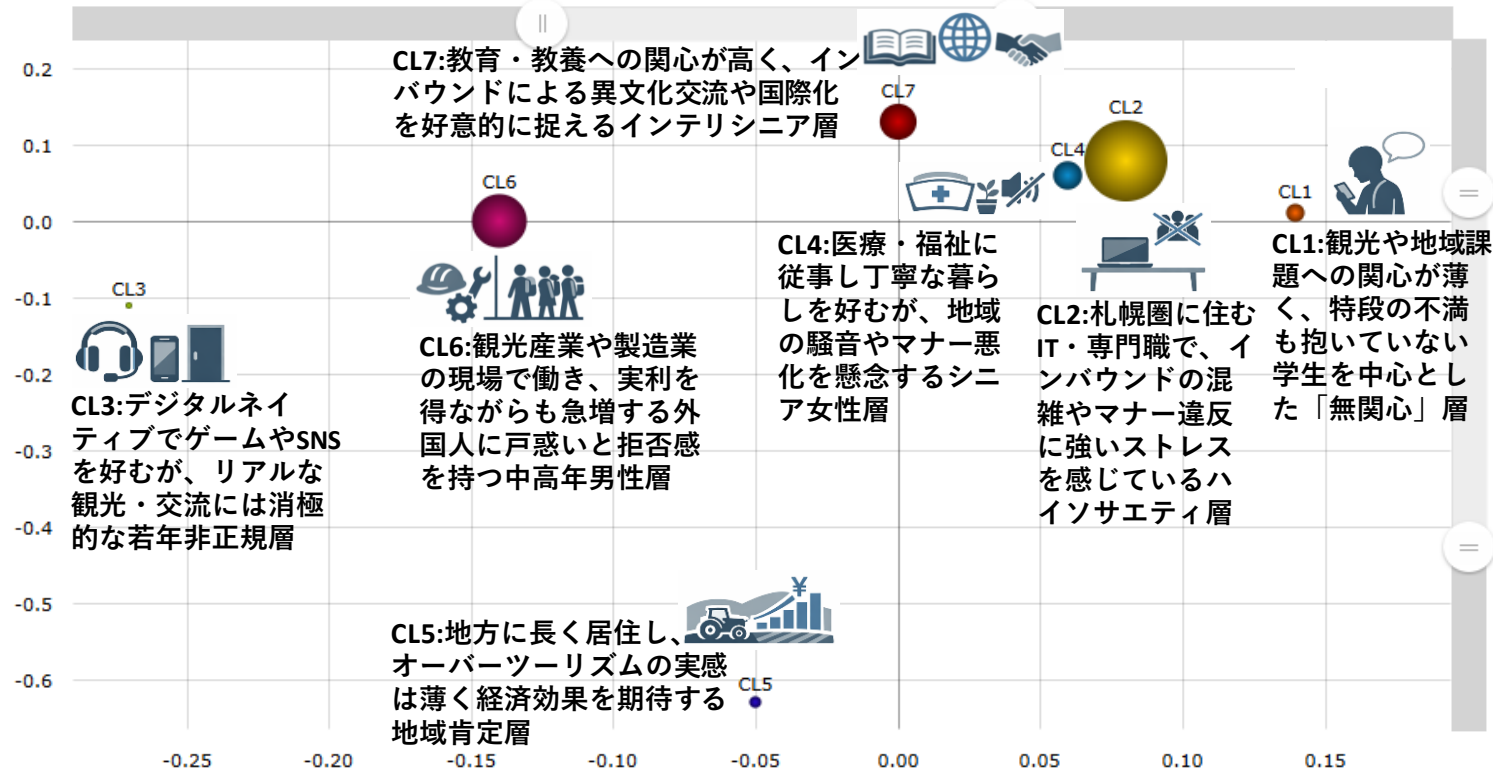
現出したクラスターごとの特徴から、そのクラスターを「代表するペルソナ」の仮説設定を行った。
※クラスターを構成する全ての回答者がペルソナと同様の特徴を全て有するわけではない。

総合満足度Aのクラスターからは、主に

- ・都市/ローカルに関わらず居住地への愛着が強いクラスター
- ・観光への取り組みに肯定的なクラスター

が現出した。
「オーバーツーリズムの影響」「インバウンドへの評価」などの要因でクラスターごとの差異が見られる。

CL1	9.7%	観光や地域課題への関心が薄く、特段の不満も抱いていない学生を中心とした「無関心」層
CL2	28.4%	札幌圏に住むIT・専門職で、インバウンドの混雑やマナー違反に強いストレスを感じているハイソサエティ層
CL3	6.2%	デジタルネイティブでゲームやSNSを好むが、リアルな観光・交流には消極的な若年非正規層
CL4	12.7%	医療・福祉に従事し丁寧な暮らしを好むが、地域の騒音やマナー悪化を懸念するシニア女性層
CL5	7.8%	地方に長く居住し、オーバーツーリズムの実感 は薄く経済効果を期待する地域肯定層
CL6	20.2%	観光産業や製造業の現場で働き、実利を得ながらも急増する外国人に戸惑いと拒否感を持つ中高年男性層
CL7	15.0%	教育・教養への関心が高く、インバウンドによる異文化交流や国際化を好意的に捉えるインテリシニア層



7-5 クラスター分析

■総合満足度B：分析結果

総合満足度Bの回答者を対象に、AIを使用した多変量解析を実施。満足度算出の基準設問以外の回答データをもとに、似ている回答傾向を持つグループを形成し、グループごとに「特徴的な要因」の抽出を行なった。（分析結果であり、傾向値の可視化となることから、必ずしもすべてのサンプルが厳密に該当するわけではない）

モデル評価値 

0.778

※モデル評価値は、作成したモデルをもとに予測分類を行った際に、より良い結果を出すことができるかを表した指標。評価値が1に近いほど「良い」分類ができているとみなすことができ、評価値0.7以上が「良いモデル」の目安となる。

クラス	1位属性	2位属性	3位属性	4位属性	5位属性
CL1 札幌圏で子育てと多趣味な生活を謳歌し、トレンドや消費活動に積極的な若年・中年女性層 	7. 普段、興味関心のあるもの・趣味をお選びください（複数回答可） ※必須 [ファッション][1]	7. 普段、興味関心のあるもの・趣味をお選びください（複数回答可） ※必須 [創作活動（手芸・DIYなど）] [1]	趣味の合計数[8≤x]	3. 職業について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[医療関係者]	6. 末子の年齢を教えてください（単一回答） ※必須[2歳以下]
CL2 道北・日高等の地方部で第一次産業に従事し、車やガーデニングなど実益的趣味を持つ層 	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[赤谷総合振興局]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[日高振興局]	8. 日常生活で使用している、情報収集のツールは何ですか（複数回答可） ※必須 [Facebook] [1]	8. 日常生活で使用している、情報収集のツールは何ですか（複数回答可） ※必須 [Threads（スレッド）] [1]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[漁業（水産養殖業を含む）]
CL3 属性開示に慎重だが士業・宿泊業等に従事し、個人的な趣味活動には関心が薄い専門職層 	2. 性別を教えてください（単一回答） ※必須[回答しない]	3. 職業について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士）]	2 8. お住まいの地域で、あなたが体験した「オーバーツーリズム」をすべて選んでください（複数回答） ※必須 [自身で直接的にオーバーツーリズムを感じたことはない][1]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[宿泊業・飲食サービス業]	2 9. お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は、国内または海外どちらの観光客によるものですか（単一回答） ※必須[オーバーツーリズムを感じない]
CL4 札幌圏に長く居住しIT・金融等のビジネスに従事する、ゴルフやスポーツを好むアクティブな男性層 	2 5. 訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じていますか（単一回答） ※必須[あまり来てほしくない]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[不動産業・物品賃貸業]	2 8. お住まいの地域で、あなたが体験した「オーバーツーリズム」をすべて選んでください（複数回答） ※必須 [街中の人混み][1]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[情報通信業]	1 9. 普段、観光客との関わりはありますか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可） ※必須 [普段の生活（通勤・通学や買い物に行くときなど）で、観光客ときどき見かける][0]
CL5 地方部（空知・根室等）に居住するが高齢で活動範囲が狭く、趣味や消費に消極的なシニア層 	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[檜山振興局]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[根室振興局]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[空知総合振興局]	人口増減率[マイナス30%未満]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[鉱業（採石業、砂利採取業を含む）]
CL6 後志・渡島などの主要観光エリアに生まれ育ち、公務や教育を通じて地域社会を支える地元定住層 	3. 職業について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[公務員（教職員を除く）]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[後志総合振興局]	宿泊・飲食従業員比率[10%以上]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[渡島総合振興局]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[公務]

※カテゴリの「1」は該当の属性に「当てはまる」、「0」は「当てはまらない」を示す。
※上位抜粋

7-6 クラスター分析

■ 総合満足度B（ペルソナ仮説の設定）

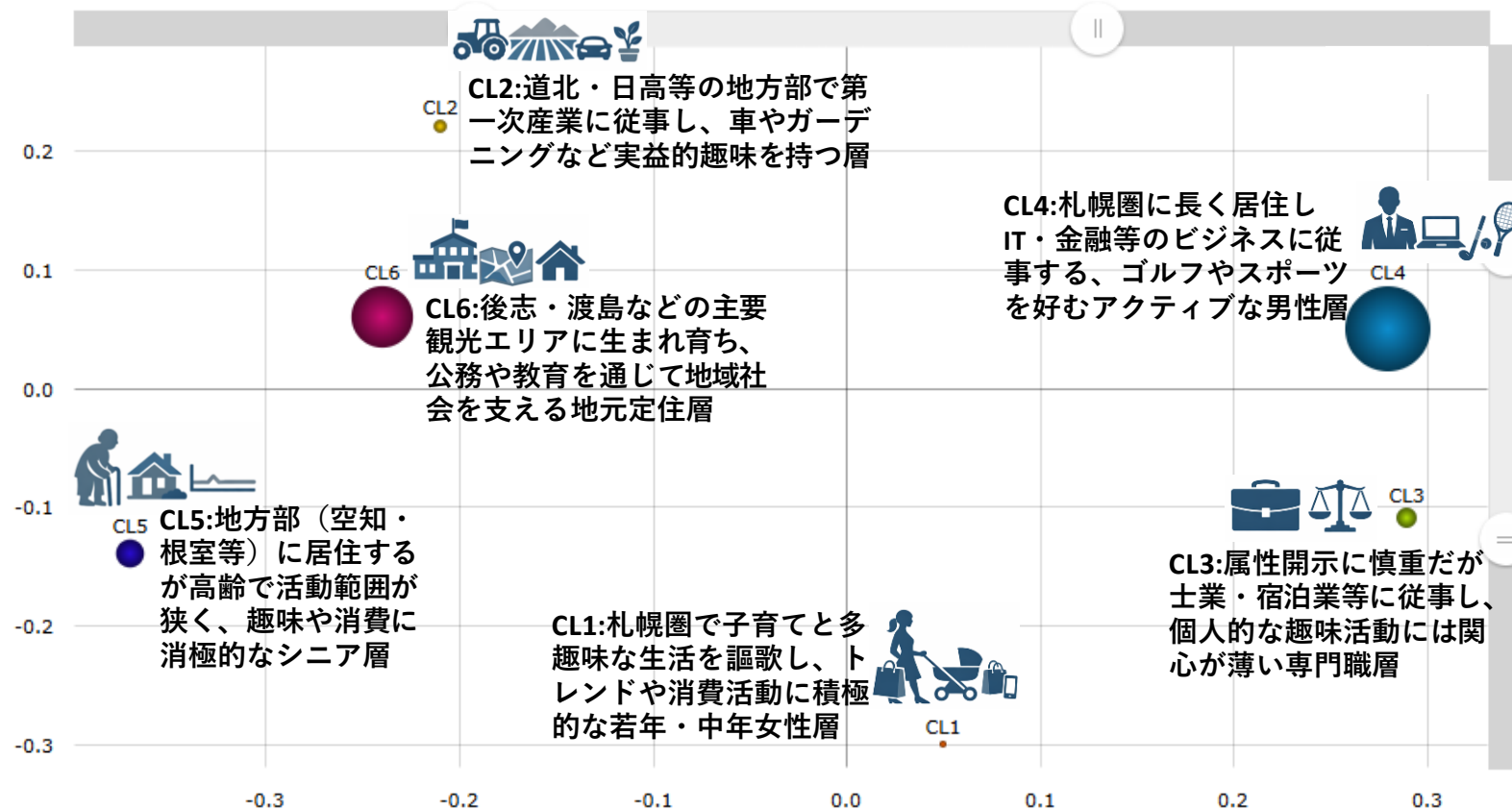
総合満足度Bについては

- ・観光客および観光産業との関わり
- ・インバウンド増加への期待と懸念

がクラスターを構成する要素となっていると推察する。

観光・インバウンドについて、CL6など、地域で体験したオーバーツーリズムが色々と挙がっているクラスターもあり、対策をより進めていくことが今後の課題と考える。

CL1	7.5%	札幌圏で子育てと多趣味な生活を謳歌し、トレンドや消費活動に積極的な若年・中年女性層
CL2	9.5%	道北・日高等の地方部で第一次産業に従事し、車やガーデニングなど実益的趣味を持つ層
CL3	11.8%	属性開示に慎重だが士業・宿泊業等に従事し、個人的な趣味活動には関心が薄い専門職層
CL4	32.2%	札幌圏に長く居住しIT・金融等のビジネスに従事する、ゴルフやスポーツを好むアクティブな男性層
CL5	14.2%	地方部（空知・根室等）に居住するが高齢で活動範囲が狭く、趣味や消費に消極的なシニア層
CL6	24.8%	後志・渡島などの主要観光エリアに生まれ育ち、公務や教育を通じて地域社会を支える地元定住層



7-7 クラスター分析

■総合満足度C：分析結果

総合満足度Cの回答者を対象に、AIを使用した多変量解析を実施。満足度算出の基準設問以外の回答データをもとに、似ている回答傾向を持つグループを形成し、グループごとに「特徴的な要因」の抽出を行なった。（分析結果であり、傾向値の可視化となることから、必ずしもすべてのサンプルが厳密に該当するわけではない）

モデル評価値	0.779	※モデル評価値は、作成したモデルをもとに予測分類を行った際に、より良い結果を出すことができるかを表した指標。評価値が1に近いほど「良い」分類ができているとみなすことができ、評価値0.7以上が「良いモデル」の目安となる。
--------	-------	---

クラスター	1位属性	2位属性	3位属性	4位属性	5位属性
CL1 地方部の第一次産業や医療に従事し、消費意欲も旺盛だが観光客のマナーに厳しいアクティブ層	8. 日常生活で使用している、情報収集のツールは何ですか（複数回答可） ※必須 [TikTok][1]	8. 日常生活で使用している、情報収集のツールは何ですか（複数回答可） ※必須 [インターネットラジオ（ポッドキャスト・Voicy・StandFMなど）][1]	8. 日常生活で使用している、情報収集のツールは何ですか（複数回答可） ※必須 [Facebook][1]	2 1. 観光産業（宿泊業、旅行代理業、観光客の来訪する飲食店・物販店、観光協会など）との関わりはありますか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可） ※必須 [家族や友人が観光産業に就労している][1]	8. 日常生活で使用している、情報収集のツールは何ですか（複数回答可） ※必須 [LINE][1]
CL2 札幌圏に居住する高齢層で、観光公害の実感はあるが地域への愛着と定住志向が強いシニア	1. 年代を教えてください（単一回答） ※必須[80代以上]	1 5. 次のうち、お住まいの地域に「不満」を感じているポイントを教えてください（複数回答可） ※必須 [特になし][1]	7. 普段、興味関心のあるもの・趣味をお選びください（複数回答可） ※必須 [ゴルフ][1]	1 6. お住まいから一番近い、観光地・文化観光施設（美術館や博物館、体験施設など）・宿泊施設までの、距離を教えてください（単一回答） ※必須[公共交通機関・車などで30分以内]	2 8. お住まいの地域で、あなたが体験した「オーバーツーリズム」をすべて選んでください（複数回答） ※必須 [自身で直接的にオーバーツーリズムを感じたことはない][1]
CL3 観光や地域活動への関心が極めて薄く、自身の生活圏とデジタルの世界に閉じた若年無関心層	1 0. あなたが考える「北海道観光の魅力」について、あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可） ※必須 [北海道観光に魅力は感じない][1]	6. 末子の年齢を教えてください（単一回答） ※必須[3歳～6歳]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[無回答]	8. 日常生活で使用している、情報収集のツールは何ですか（複数回答可） ※必須 [テレビ][0]	1 0. あなたが考える「北海道観光の魅力」について、あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可） ※必須 [絶景などの自然景観][0]
CL4 ニセコ・函館などの観光集積地に住み、インフラを支えながらオーバーツーリズムの弊害を実感する現役世代	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[後志総合振興局]	宿泊・飲食従業員比率[10%以上]	2 9. お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は、国内または海外どちらの観光客によるものですか（単一回答） ※必須 [国内観光客]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[運輸業・郵便業]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[渡島総合振興局]
CL5 道東・道北の地方に長く住み、観光とは距離を置きつつ静かな暮らしを守りたい第一次産業従事者	人口増減率[マイナス30%未満]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[日高振興局]	1 9. 普段、観光客との関わりはありますか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可） ※必須 [普段の生活（通勤・通学や買い物に行くときなど）で、観光客をよく見かける][0]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[釧路総合振興局]	お住まいの振興局（市町村）をお選びください[空知総合振興局]
CL6 札幌圏の建設・鉱業に従事し、ゴルフを嗜むが観光客の増加には冷ややかな視線を持つ男性層	2 9. お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は、国内または海外どちらの観光客によるものですか（単一回答） ※必須[その他]	1 6. お住まいから一番近い、観光地・文化観光施設（美術館や博物館、体験施設など）・宿泊施設までの、距離を教えてください（単一回答） ※必須[公共交通機関・車などで60分以内]	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[鉱業（採石業、砂利採取業を含む）]	1 1. 北海道内を観光して、不満を感じたことはありませんか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可） ※必須 [お土産品][1]	1 1. 北海道内を観光して、不満を感じたことはありませんか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可） ※必須 [宿泊施設・飲食店・交通機関などの従業員の対応][1]
CL7 札幌圏で情報通信業に就き、インバウンド消費やアクティビティを肯定的に享受するデジタルネイティブ	4. お仕事の業種について「最もあてはまるもの」を教えてください（単一回答） ※必須[情報通信業]	1. 年代を教えてください（単一回答） ※必須[20代以下]	7. 普段、興味関心のあるもの・趣味をお選びください（複数回答可） ※必須 [美術鑑賞][1]	7. 普段、興味関心のあるもの・趣味をお選びください（複数回答可） ※必須 [街歩き][1]	1 9. 普段、観光客との関わりはありますか。あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可） ※必須 [普段の生活（通勤・通学や買い物に行くときなど）で、観光客をよく見かける][1]

※カテゴリの「1」は該当の属性に「当てはまる」、「0」は「当てはまらない」を示す。
※上位抜粋

7-8 クラスター分析

■ 総合満足度C（ペルソナ仮説の設定）

総合満足度Cについても、観光客・観光産業との関わりやオーバーツーリズムがクラスター構成の要素となっていると推察する。

・外国人観光客への評価はクラスターによって異なるが、オーバーツーリズムの影響でマイナスの感情がさらに広がる可能性があり、注意が必要

・CL1およびCL4、CL6の、観光客のマナーを含めたオーバーツーリズムへの不満は今後の課題と考える

CL1	14.6%	地方部の第一次産業や医療に従事し、消費意欲も旺盛だが観光客のマナーに厳しいアクティブ層
CL2	11.7%	札幌圏に居住する高齢層で、観光公害の実感はあるが地域への愛着と定住志向が強いシニア
CL3	9.6%	観光や地域活動への関心が極めて薄く、自身の生活圏とデジタルの世界に閉じた若年無関心層
CL4	12.7%	ニセコ・函館などの観光集積地に住み、インフラを支えながらオーバーツーリズムの弊害を実感する現役世代
CL5	23.6%	道東・道北の地方に長く住み、観光とは距離を置きつつ静かな暮らしを守りたい第一次産業従事者
CL6	14.8%	札幌圏の建設・鉱業に従事し、ゴルフを嗜むが観光客の増加には冷ややかな視線を持つ男性層
CL7	13.0%	札幌圏で情報通信業に就き、インバウンド消費やアクティビティを肯定的に享受するデジタルネイティブ

